

【第2章】

エコシステムとの連携による受講者の裾野拡大： インキュベーション施設の活用方法調査

調査テーマを踏まえた調査項目

✓ エコシステムに関する論点と全国プログラムの試行を踏まえたプラットフォーム構築に関する論点に整理し、調査を実施した

調査・分析テーマを踏まえた項目

調査・分析テーマ		具体的実施事項	
1 全国プラットフォーム構築による裾野拡大	アントレ教育の受講機会拡大に関する調査・分析	全国規模プログラムの設計と試行	有識者と綿密連携した1,000名以上が実施可能なプログラム設計 全国の学生等を対象としたプログラムの試行的実施 プログラム実施時の課題抽出・最適実施方法に関する検討
		教育効果の評価方法検討	個々の受講者に対する教育効果の測定に関する検討 プログラムの設計・運営に関する評価に関する検討
		プラットフォーム機能・運用	参画者の属性、教育ステージ備えるべき機能、持続的運用検討 教職員間の意見交換・情報提供の場を設け、運用を検討
		アントレ醸成を加速させる広報方策の調査・分析	受講者確保のための広報活動実施（SNS等） プログラムの受講者確保に向けた広報、課題整理検討 情報発信、受講者募集ホームページ運営・運用の方策検討
2 エコシステムとの連携による受講者の裾野拡大	アントレ教育に関する調査・分析	インキュベーション施設の活用方法調査	国内外の大学が運用するインキュベーション施設を対象としてアントレ醸成に資するインキュベーション施設の活用に関して調査 インキュベーション施設の機能・運用方法のアンケート等による詳細調査
		民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査	大学と民間企業等が連携したアントレ教育プログラムに関する調査 民間企業等に対する大学アントレ教育への期待・課題に関する調査

昨年度調査を踏まえた本セクションにおける調査目的の整理

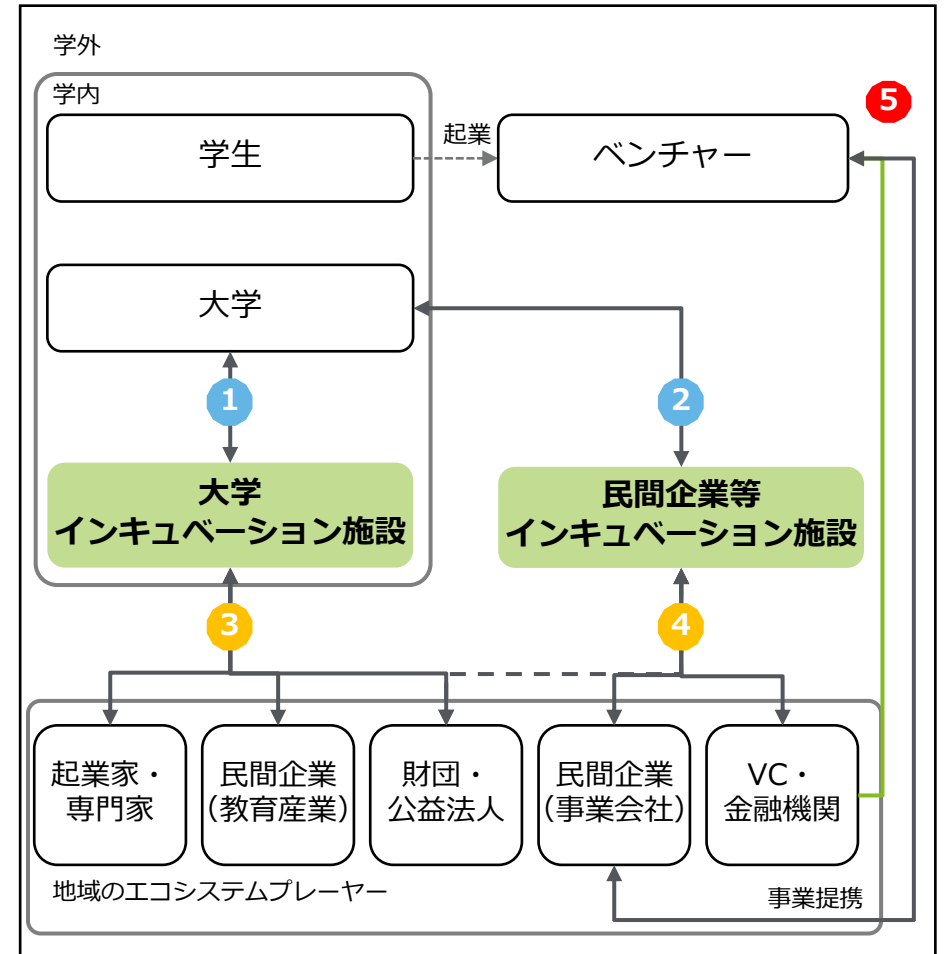
- ✓ 地域におけるインキュベーション施設の目指すべきハブ機能としての役割を検討するために、国内外のインキュベーション施設におけるアントレ教育、大学・地域エコシステムとの連携状況等を把握する

当セクションにおける調査目的の整理

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>地域におけるインキュベーション施設のハブ機能としての役割を明確にすること</u>
調査での確認事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ インキュベーション施設が保有している機能 ・ インキュベーション施設が実施しているアントレ教育 ・ インキュベーション施設の地域エコシステムとの連携

上記を踏まえた具体的な論点

論点1	<ul style="list-style-type: none"> ✓ インキュベーション施設の大学連携の在り方 	1 2
論点2	<ul style="list-style-type: none"> ✓ インキュベーション施設の地域エコシステムとの連携の在り方 	3 4
論点3	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域におけるインキュベーション施設の目指すべき役割・機能 	5



凡例 → 資金 → その他リソース ● 大学連携・アントレ教育 ● 地域エコシステム連携

インキュベーション施設の定義

- ✓ 本調査では、インキュベーション施設を「一定期間入居または利用者会員等登録による施設利用ができ、起業支援・スタートアップ支援を行い、コミュニティを束ねている施設」と定義づけている

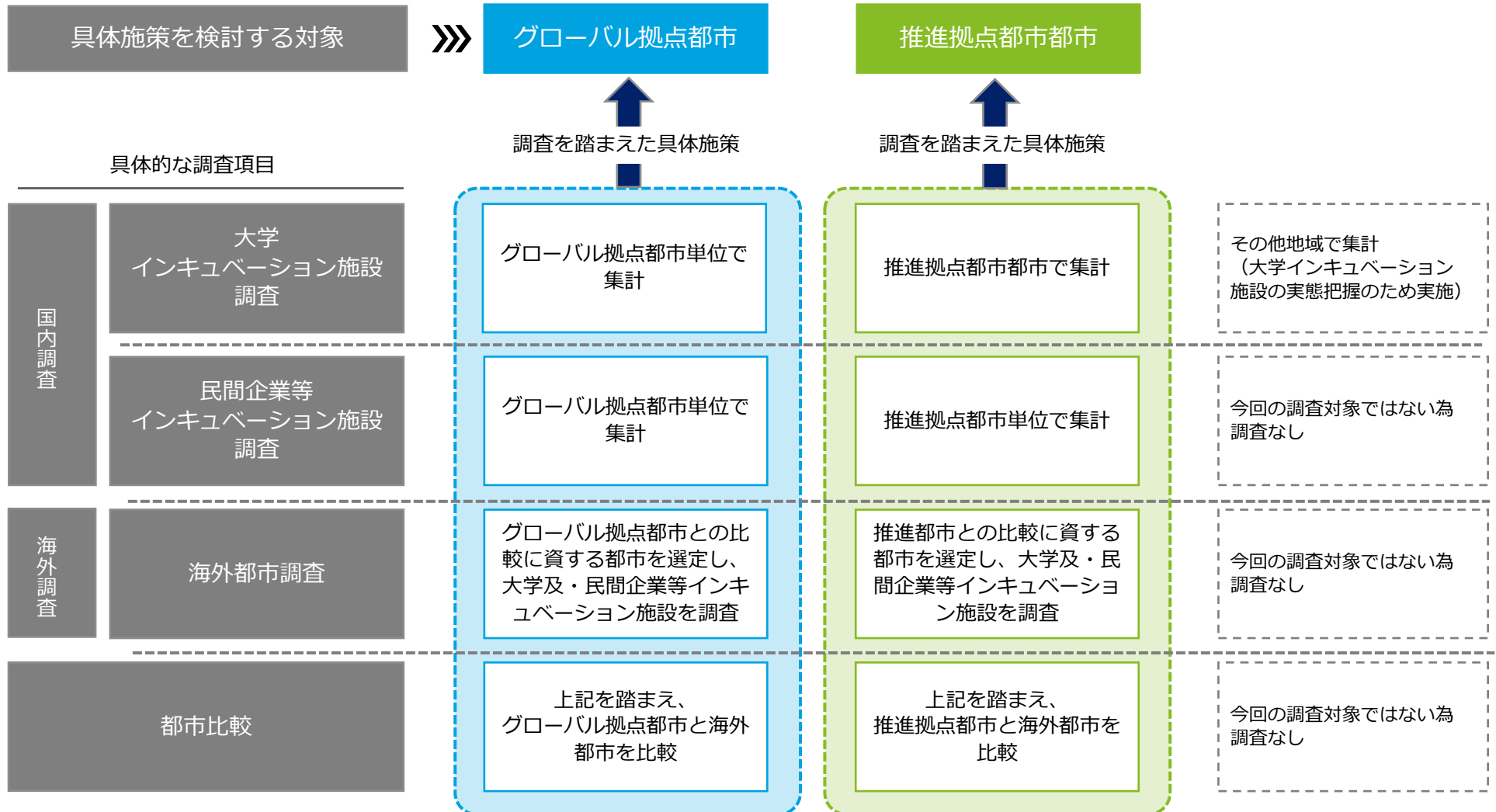
インキュベーション施設の定義

インキュベーション施設の定義	■ 一定期間入居または、施設利用者としての会員等の登録によって施設利用ができ、起業支援・スタートアップ支援を行い、コミュニティを束ねている施設	
施設の主な機能	ソフト機能	<ul style="list-style-type: none">■ セミナー・イベントの企画・運営■ アントレ教育の実施■ コミュニティ形成目的のネットワーキング支援■ ピッチイベントの実施■ 相談窓口の設置■ メンターの紹介やメンタリングの実施■ 起業家や学生等、施設に関わるコミュニティを束ねる仕組み 等
	ハード機能	<ul style="list-style-type: none">■ オフィススペースの提供■ コワーキングスペースの提供■ 会議室・ピッチスペース等のコミュニティスペースの提供■ ウェットラボの提供■ 試作機（3Dプリンター等）の提供 等 <div data-bbox="1419 1049 1958 1278" style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; margin-top: 10px;">ハードの提供のみ（場所貸し）はインキュベーション施設としない</div>

本調査における主な調査範囲の整理

- ✓ 本調査では、アントレ教育の推進にむけて、グローバル拠点都市及び推進拠点都市における具体施策を検討すべく、国内外の大学・民間企業等インキュベーション施設の調査を実施した

調査対象



【第1節】

大学インキュベーション施設調査

アンケート調査の目的と概要

- ✓ 現状の日本国内の大学インキュベーション施設の現状を把握し、問題点・課題を抽出することを目的として実施し、グローバル拠点都市、推進拠点都市、その他地域の3つに分けて集計を実施した

アンケート調査の目的と概要

アンケート調査の目的

- 大学インキュベーション施設の実態及び課題を抽出することを目的とし、下記テーマに沿って実施した

A	インキュベーション施設の目指す姿・運営体制
B	インキュベーション施設の運用（ヒト）
C	インキュベーション施設の運用（モノ）
D	インキュベーション施設の運用（カネ）
E	インキュベーション施設の機能（地域連携）
F	インキュベーション施設の成果・実績

アンケート調査の概要

- 実施期間：2021年12月から2022年1月まで
- 回答対象：インキュベーション施設がある
日本国内の国公私立大学・短期大学等 87校
- 回答件数：65校（回収率75%）
- 集計方法：下記3分類に分けて集計を実施

グローバル拠点都市	スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム	東京都、川崎市、横浜市、和光市、つくば市、茨城県等
	Central Japan Startup Ecosystem Consortium	愛知県、名古屋市、浜松市等
	大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム	大阪市、京都市、神戸市等
	福岡スタートアップ・コンソーシアム	福岡市等
推進拠点都市	札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会	札幌市等
	仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会	仙台市等
	広島地域イノベーション戦略推進会議	広島県等
	北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム	北九州市等
その他の地域		

※ 1大学に複数のインキュベーション施設がある場合には、施設ごとの回答を依頼し、86施設から回収した。アンケート集計では、施設数をN数とした

大学インキュベーション施設アンケート調査における用語の定義

用語の定義

■アントレプレナーシップ	アントレプレナーシップとは、起業に限らず、新事業創出や社会課題解決等、新たな価値を生み出す姿勢や発想・能力等（起業家精神）を意味する。
■起業・事業拡大支援イベント	起業・事業拡大支援イベントとは、「アクセラレーションプログラムやビジネスコンテスト、ピッチ、ネットワーキングイベントや起業に関する知識を提供するセミナーなど短期間で開催される企画」を意味する。
■起業・事業拡大支援	起業・事業拡大支援とは、「起業や事業拡大のための事業計画やビジネスモデルへのアドバイス、メンター相談機能や土業等の専門家相談機能など継続的に提供される起業家支援の取組」を意味する。
■入居者の外部連携	民間企業や自治体等を相手とした実証実験のための連携、共同研究、資本提携、業務提携、共同イベントを指す。
■インキュベーション施設としての外部連携	大学外の機関から、インキュベーション施設での起業・事業拡大支援プログラムやイベントへの協力、インキュベーション施設の運用・運営相談、インキュベーション施設利用者の相談等に応じてもらうことを指す。
■アントレ教育プログラム	アントレプレナーシップ教育とは、広く受講者（教職員、学生、社会人等）に対してアントレプレナーシップを醸成または発揮させることを目的とする教育プログラムを指す。
■アントレ教育プログラムの各段階	令和2年度科学技術人材養成等委託事業「持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析」にて定義（次頁詳細） https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00003.html
■インキュベーション施設の入居（在籍）件数	例えばシェアードオフィスといった、1部屋に机・椅子・電話だけが設置されている10のブースがあり、ブース毎にそれぞれ個別契約を締結している場合は、10と計上

大学インキュベーション施設の調査まとめ

- ✓ 大学インキュベーション施設では、特に事業拡大を目指すスタートアップの成長支援を重視しているが、特に施設運営においてヒトのリソースが不足している。それにより、起業・事業拡大に関する支援活動が発展途上になっている可能性がある

調査のまとめ

<p>目指す姿・運営体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設では、特に事業拡大を目指すスタートアップの成長支援を重要視しており、成果指標においては、アントレ教育後の事業創出に係るステージで指標を設定している ■ 施設運営は、8割以上が大学自身が担っており、人材確保が課題と考える施設が多い 	
<p>主な取組</p>	<p>ヒト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自大学から、施設の専属者を配置していない施設が全体の6割を超えており、兼務者1-6名で運用している施設が多い ■ 施設全体の9割程度が人材不足に課題を持っており、特にイベント企画・運営面における人材不足、及び施策機器等の管理運用における人材不足を抱えている
	<p>モノ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業・事業拡大に関するイベントを実施している施設は2割程度と低い ■ 利用者の事業創出・事業成長に寄与する設備（共用の会議・商談スペース、コミュニティスペース）、及び実験が可能な設備（実験系排水・排気設備）を保有する施設は、全体の半数を上回っている
	<p>カネ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設から利用者へ資金提供している施設は全施設の2割程度に留まり、その大部分が現物出資という形態がとられている ■ 施設の資金調達額は1億円以内の施設が8割程度であり、外部連携先からの資金獲得ができていない施設は1割程度にとどまる

大学インキュベーション施設の調査まとめ

- ✓ 地域区分によらず、施設全般的に産学官金との外部連携を実施している施設は極めて少ない
- ✓ グローバル拠点都市の施設では入居・利用者数が増加傾向、特に首都圏はIPO・M&Aとなったスタートアップが創出される

調査のまとめ

グローバル拠点都市

推進拠点都市

■ 外部連携（地域連携）

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域区分によらず、施設全般の産学官金との外部連携は1-2割程度であり、専門家や他大学等の機関との外部連携を実施している施設はより一層少ない | |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域区分で見ると、グローバル拠点都市の施設が最も産学官金連携が進んでいない ■ 産業界との外部連携は、実施している企業は極めて少なく、特に大企業との連携は乏しい | <ul style="list-style-type: none"> ■ 産業界との外部連携は、1割程度であり低い水準である。一部では連携が多い施設はあるが、限定的である ■ 自治体との連携は、グローバル拠点都市が約15%、その他地域が約19%に対し、推進拠点都市は25%となっており、連携数が多い傾向である |

■ インキュベーション施設の成果・実績

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 1施設当たりの入居・利用者数は増加傾向にある ■ 特に首都圏においては入居者・利用者による成果（IPO・M&A）も高い | <ul style="list-style-type: none"> ■ 施設当たりの利用者数は、直近3年でほぼ増減がない ■ 利用者による成果（IPO・M&A）は1件ずつにとどまる |
|--|---|

A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制

B インキュベーション施設の運用について（ヒト）

C インキュベーション施設の運用について（モノ）

D インキュベーション施設の運用について（カネ）

E インキュベーション施設の機能（地域連携）

F インキュベーション施設の成果・実績

A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制（まとめ）

- ✓ 施設では事業拡大を目指すスタートアップの成長支援を重要視、成果指標は教育後の事業創出に係るステージで指標を設定
- ✓ 施設運営は、8割以上が大学自身がになっており、人材確保が課題と考える施設は4割程度と多い

まとめ

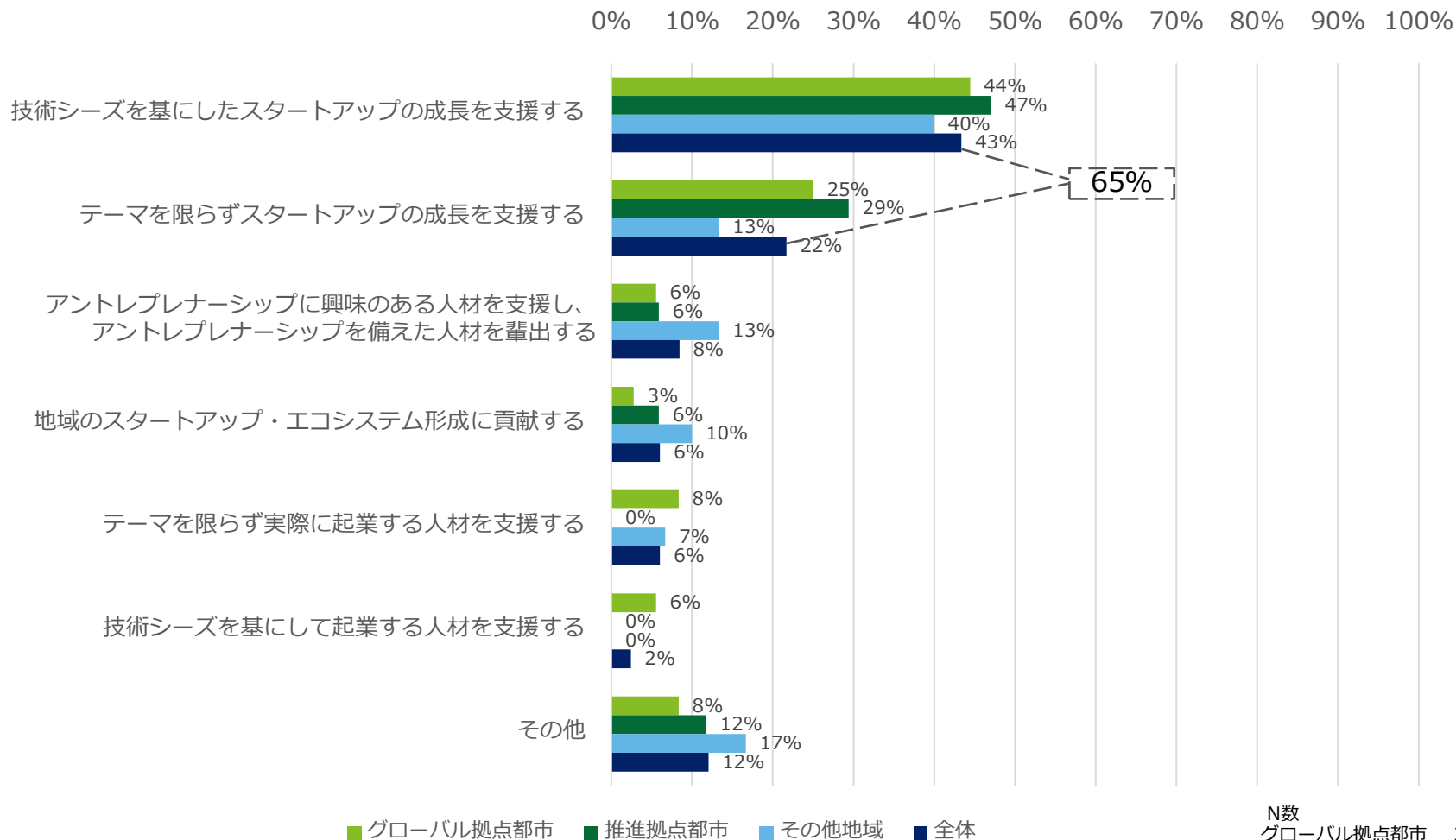
		グローバル拠点都市	推進拠点都市	その他地域
目指す姿 (A-1)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体の7割程度の施設では、スタートアップの成長支援（技術系・非技術系を含む）を重要視している 		
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 技術系に限らず、スタートアップ全体の成長支援を重要視している傾向がより一層高い 		<ul style="list-style-type: none"> ■アントレプレナーシップを備えた人材育成・輩出にも重きを置いている
成果指標 (A-2)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域区分を問わず、『入居・利用者数』・『スタートアップ創設数』・『事業化件数』を成果指標として重視している 		
運営体制・ 支援機能 (A-3~5)	運営	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設運営も大学が全て担う施設が8割以上を占める 		
	支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業・事業拡大支援機能は全体で7割程度が有しており、グローバル拠点都市の施設では特に多い ■ 施設全体として、起業・事業拡大支援イベントやアントレ教育プログラム機能をもつ施設は、2割程度と少ない 		
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 9割程度の施設で起業・事業拡大支援機能を保有する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育プログラム機能を保有する施設はない 	
	課題感	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全施設の4割程度が運営に関わる人材確保が課題であると認識している 		

A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制 (A-1)

- ✓ 全体の7割弱の大学インキュベーション施設では、スタートアップの成長支援（特に技術系）を重要視しており、地域区分では、グローバル拠点都市や推進拠点都市でその傾向が高い。その他地域ではアントレ人材育成・輩出にも重きを置いている

大学インキュベーション施設として、大学における期待役割や目指す姿 (単一回答)

アンケート番号
インキュベーション施設としての目指す姿
Q1

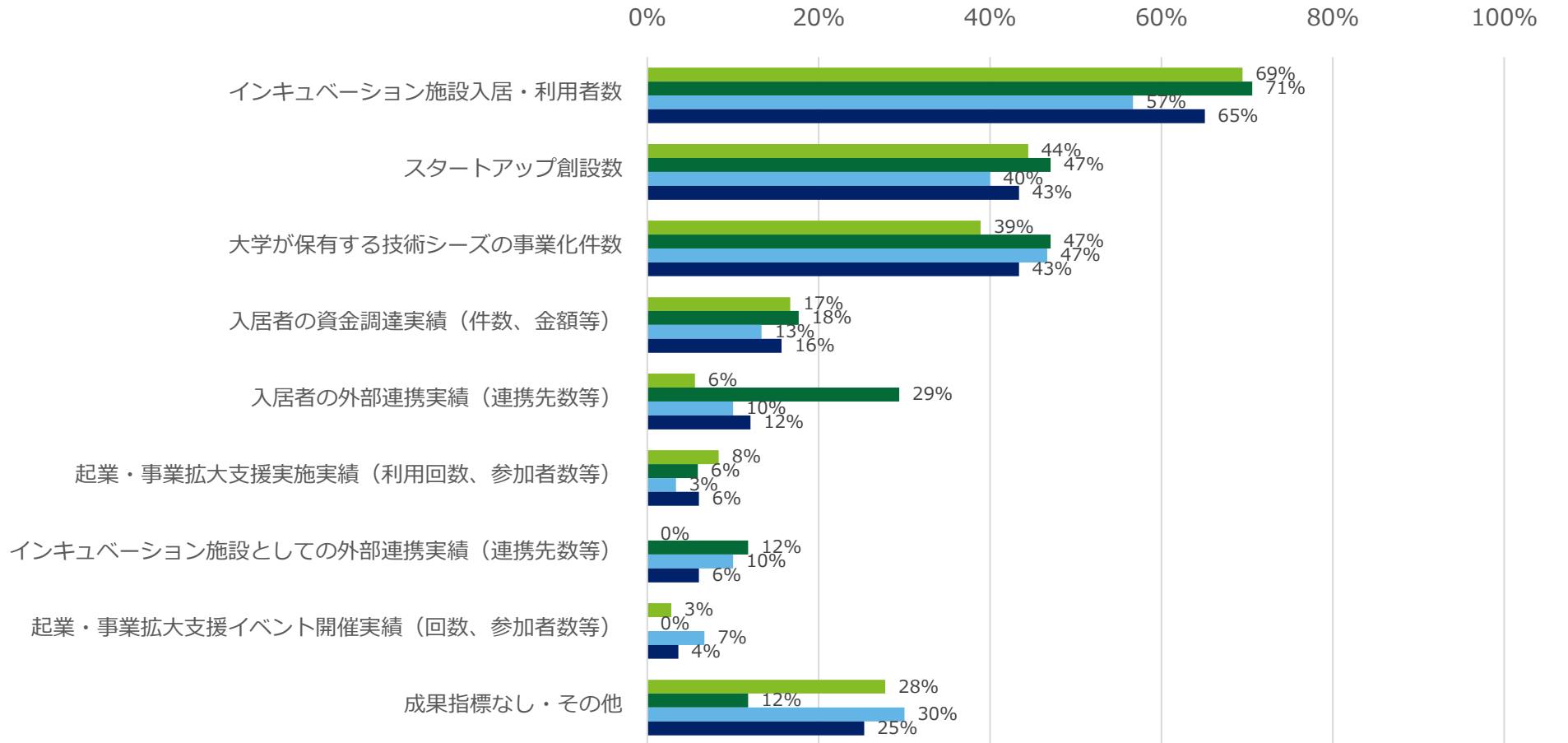


N数
グローバル拠点都市 36
推進拠点都市 17
その他地域 30
全体 83

A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制 (A-2)

✓ 大学インキュベーション施設の地域区分を問わず、『入居・利用者数』・『スタートアップ創設数』・『事業化件数』を成果指標として重視しており、事業拡大よりも、アントレ教育後の事業創出に関わるステージに注力している傾向にあった

大学インキュベーション施設として重視している成果指標（上位3つまで、複数選択可） アンケート番号
インキュベーション施設としての目指す姿
Q2



■ グローバル拠点都市 ■ 推進拠点都市 ■ その他地域 ■ 全体

N数
 グローバル拠点都市 36
 推進拠点都市 17
 その他地域 30
 全体 83

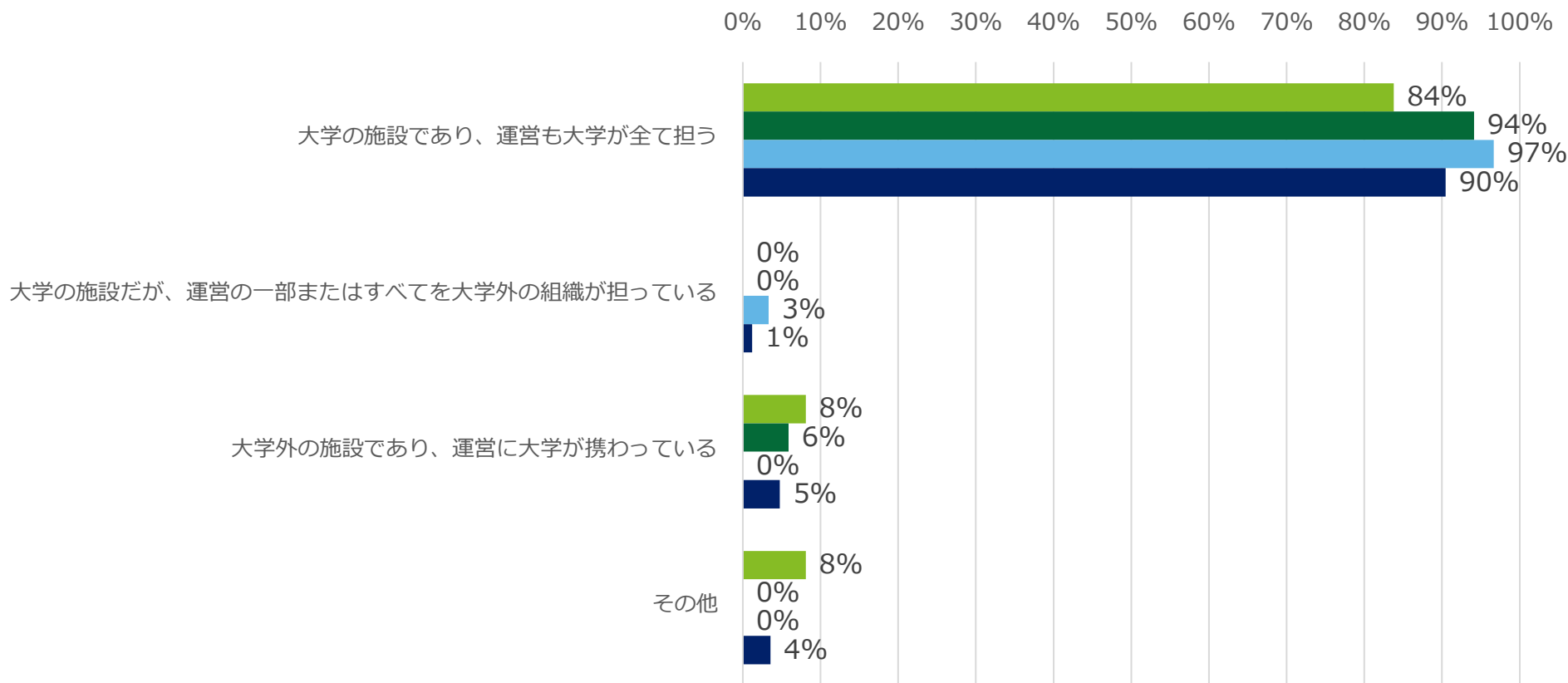
A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制 (A-3)

- ✓ 地域区分を問わず、大学の施設であり、運営も大学が全て担う運営体制が8割以上を占める
- ✓ その他地域が最多 (97%)であり、次いで推進拠点都市 (94%)、グローバル拠点都市 (84%) の順である

大学インキュベーション施設として、大学における期待役割や目指す姿 (単一回答)

アンケート番号
基本情報
Q2

大学インキュベーション施設の運営体制



■ グローバル拠点都市 ■ 推進拠点都市 ■ その他地域 ■ 全体

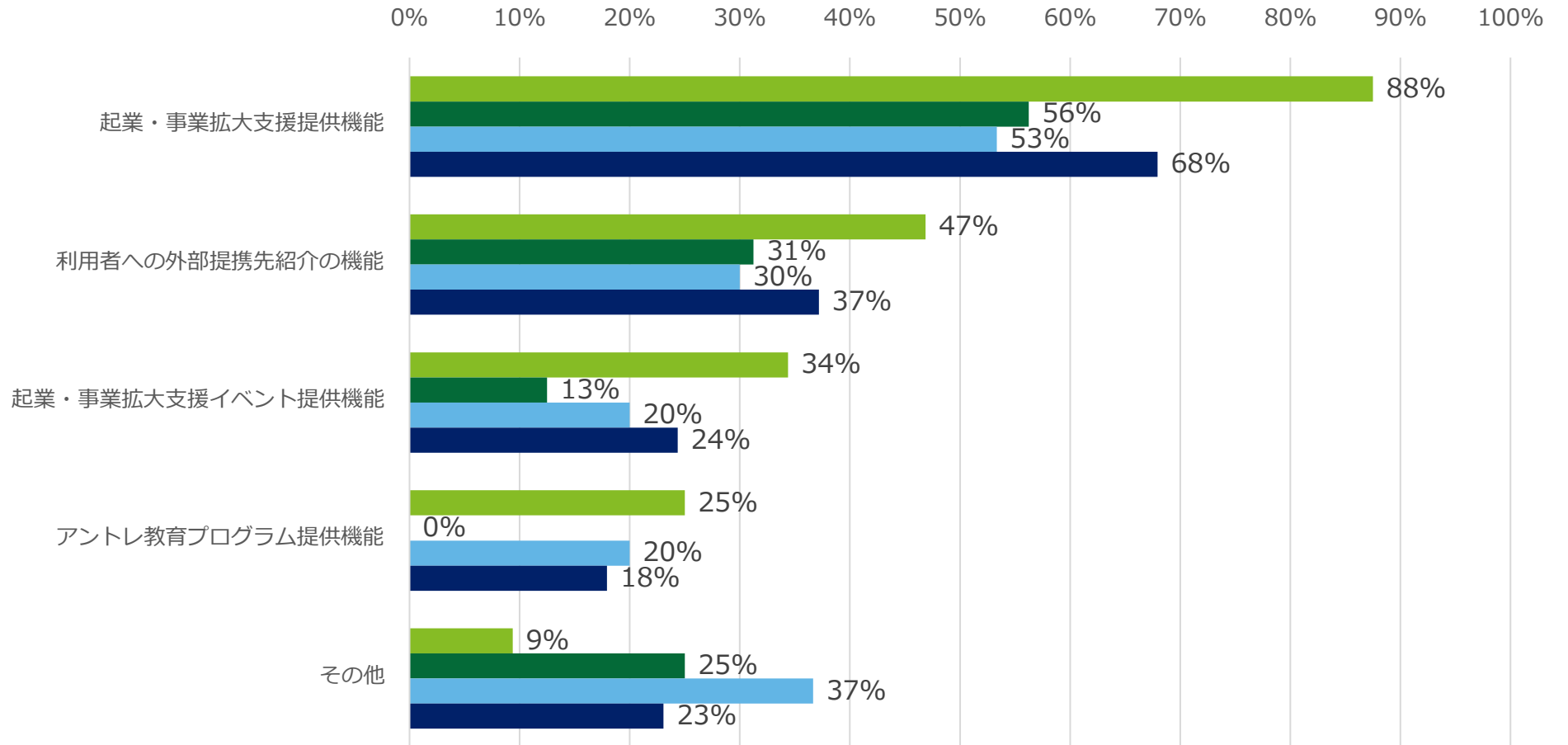
N数
グローバル拠点都市 37
推進拠点都市 17
その他地域 30
全体 84

A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制 (A-4)

- ✓ 地域区分を問わず、起業・事業拡大支援提供機能は全体で7割程度であり、グローバル拠点都市の施設では特に多い
- ✓ 一方、施設全体として、起業・事業拡大支援イベントやアントレ教育プログラム機能をもつ施設は、2割程度と少ない

大学インキュベーション施設の機能の状況 (複数選択可)

アンケート番号
機能面
Q3



■ グローバル拠点都市 ■ 推進拠点都市 ■ その他地域 ■ 全体

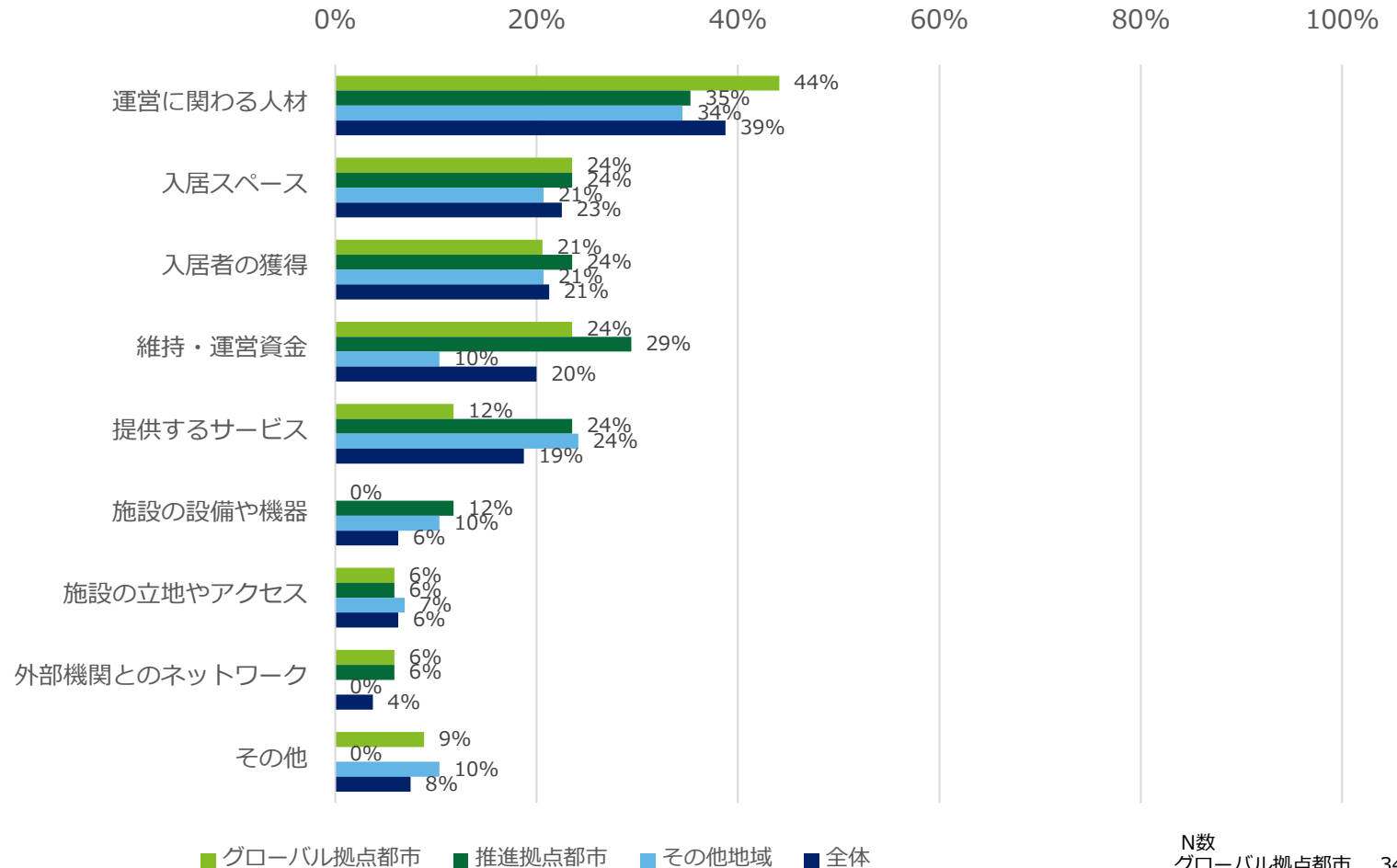
N数
グローバル拠点都市 32
推進拠点都市 16
その他地域 30
全体 78

A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制 (A-5)

- ✓ 施設の運用において、運営に関わる人材の必要性を全施設の4割程度が重要視しており、次いで、入居スペース・入居者獲得が続く。また、グローバル拠点都市および推進拠点都市では、維持・運営資金が重要な課題と捉えられている施設が多い

インキュベーション施設の設備や実際の運用について、最も重要な課題と考えるもの（複数選択可）

アンケート番号
機能面
Q6



N数
グローバル拠点都市 34
推進拠点都市 17
その他地域 29
全体 80

A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制

B インキュベーション施設の運用について（ヒト）

C インキュベーション施設の運用について（モノ）

D インキュベーション施設の運用について（カネ）

E インキュベーション施設の機能（地域連携）

F インキュベーション施設の成果・実績

B インキュベーション施設の運用について（ヒト）（まとめ）

- ✓ 自大学から、施設の専属者を配置していない施設が全体の6割を超えており、兼務者1-6名で運用している施設が多い
- ✓ また、多くの施設が人材不足という課題を抱えているが、自大学外から専属・兼任者を置いている事例は少ない

まとめ

		グローバル拠点都市	推進拠点都市	その他地域
自大学	人数 (B-1)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自大学から専属者を置いていない施設が全体の6割を超えており、兼務者が1～6名で運用している施設が全体の7割を超えている 		
	対応できる 事項※ (B-2)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外部リソースの紹介 ■ 資金調達・財務面の助言 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 法務関係の助言 ■ 資金調達・財務面の助言 ■ 技術面の助言 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業・ビジネスの助言
自大学以外	人数 (B-3)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設全体の8割以上が自大学以外の専属人材を配置しておらず、また、グローバル拠点都市の施設を除き、兼任人材としても大部分の施設は配置していない 		
	対応できる 事項 (B-4※)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外部リソースの紹介 ■ 法務関係の助言 ■ 事業・ビジネスの助言 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業・ビジネスの助言 ■ 外部リソースの紹介 ■ 資金調達・財務面の助言 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業・ビジネスの助言 ■ 技術面の助言
対応できていない事項 (B-5)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設全体の9割程度が何らかの業務において人材不足に課題を持っており、特にイベント企画・運営面における人材不足、及び施策機器等の管理運用における人材不足を抱えている 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 試作機器や実験機器の管理・運用 ■ 起業・事業拡大支援イベント企画・運営 	

※ 各地域区分で施設の50%以上が対応できる事項。4事項以上ある場合は、上位3事項を記載。

B インキュベーション施設の運用について（ヒト）（B-1）

✓ 地域区分を問わず、自大学から専属者を置いていない施設が全体の6割を超えており、また、兼務者が1～6名で運用している施設が全体の7割を超えている

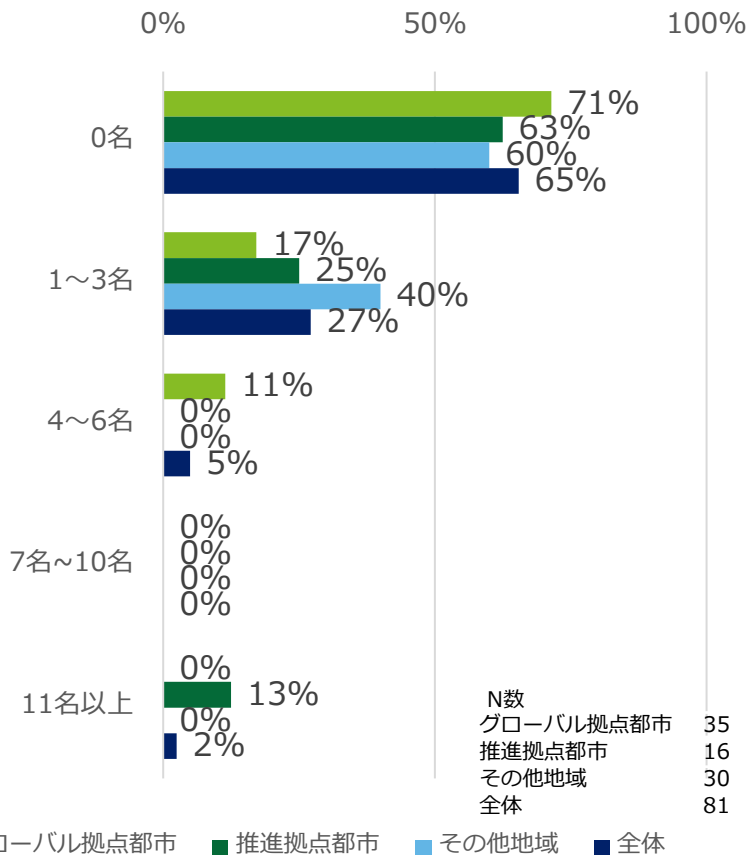
インキュベーション施設の運用・運営にかかわる人材の人数（専属&兼務）

アンケート番号
運用面_ヒト
Q1

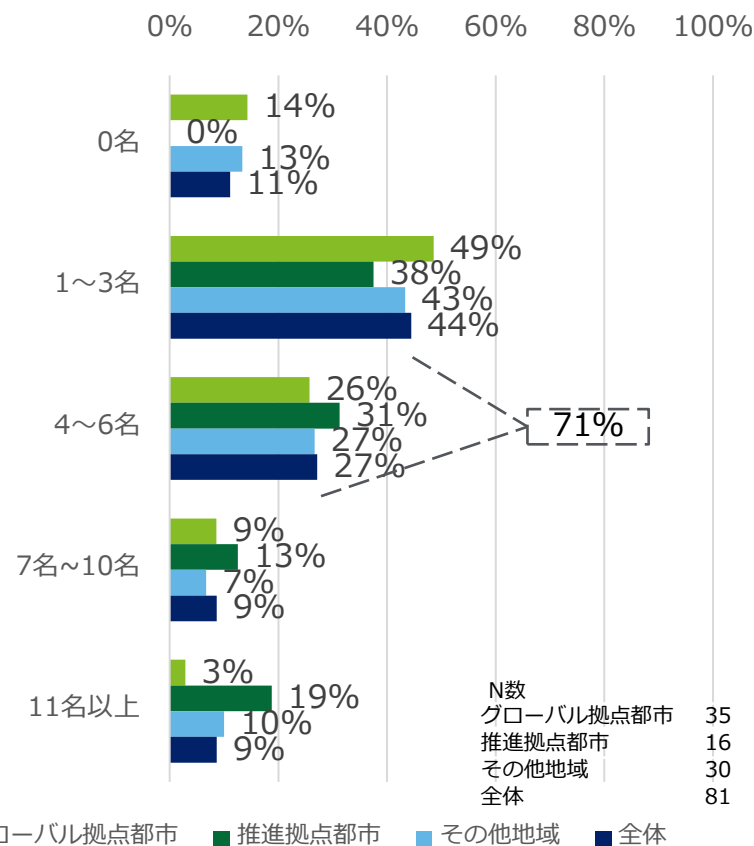
自大学

自大学以外

施設の運用・運営にかかわる人材の人数（専属）



施設の運用・運営にかかわる人材の人数（兼務）



B インキュベーション施設の運用について（ヒト）（B-2）

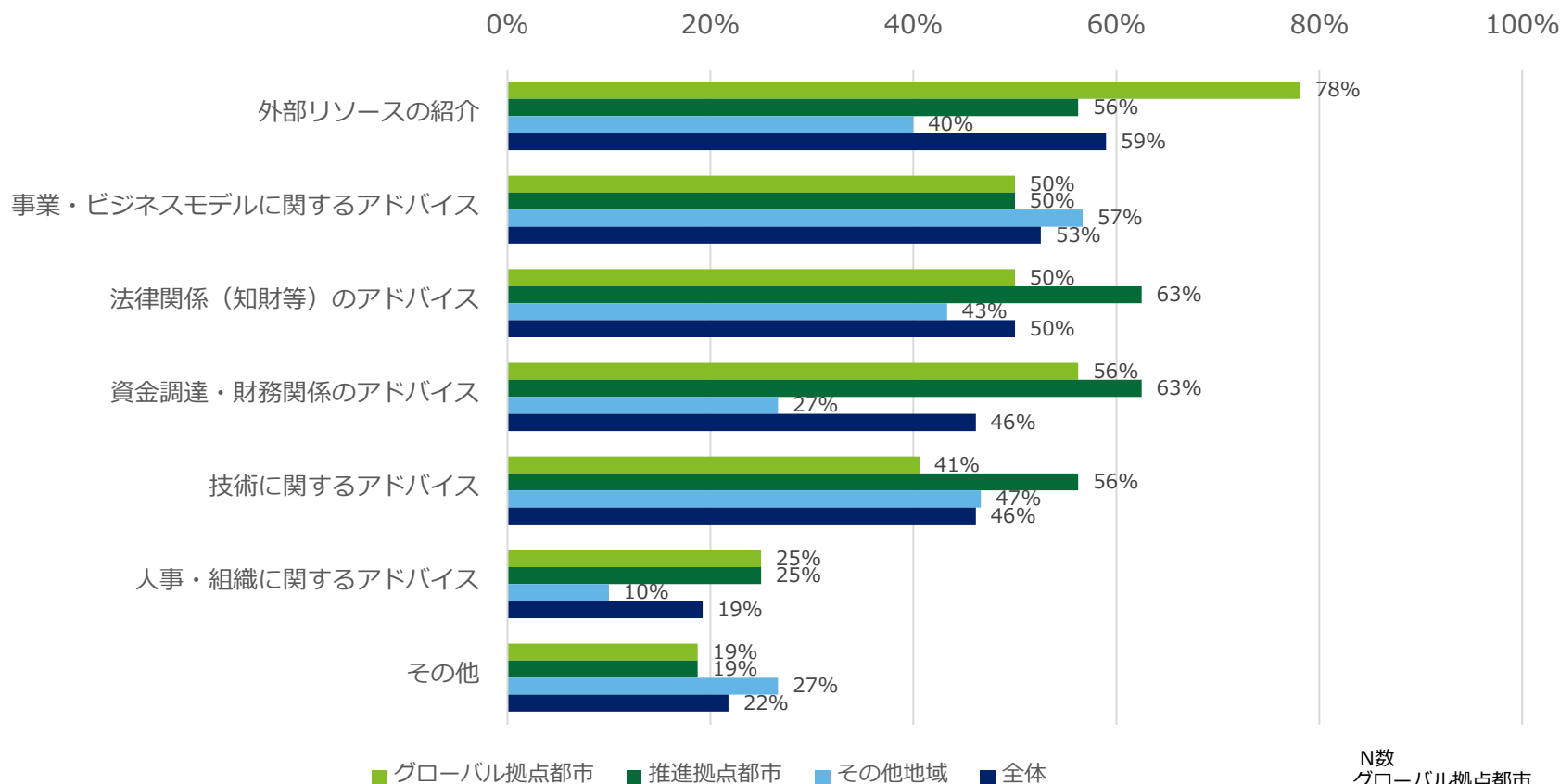
- ✓ 施設全体の約半分程度は、外部リソースの紹介、及び事業面・法律面・資金調達面・技術面のアドバイスができる
- ✓ 特に、グローバル拠点都市では、外部リソースの紹介に対応できる施設が80%近くと最多であり、他地域と大きく差をつけている

インキュベーション施設の運用・運営にかかわる人材が対応できる事項（複数選択可）

アンケート番号
運用面_ヒト
Q1

自大学

自大学以外



N数
グローバル拠点都市 32
推進拠点都市 16
その他地域 30
全体 78

B インキュベーション施設の運用について（ヒト）（B-3）

✓ 地域区分を問わず、全体の8割以上が自大学以外の専属人材を配置しておらず、また、グローバル拠点都市の施設を除き、兼任人材としても大部分の施設は配置していない

インキュベーション施設の運用・運営にかかわる人材の人数（専属&兼務）

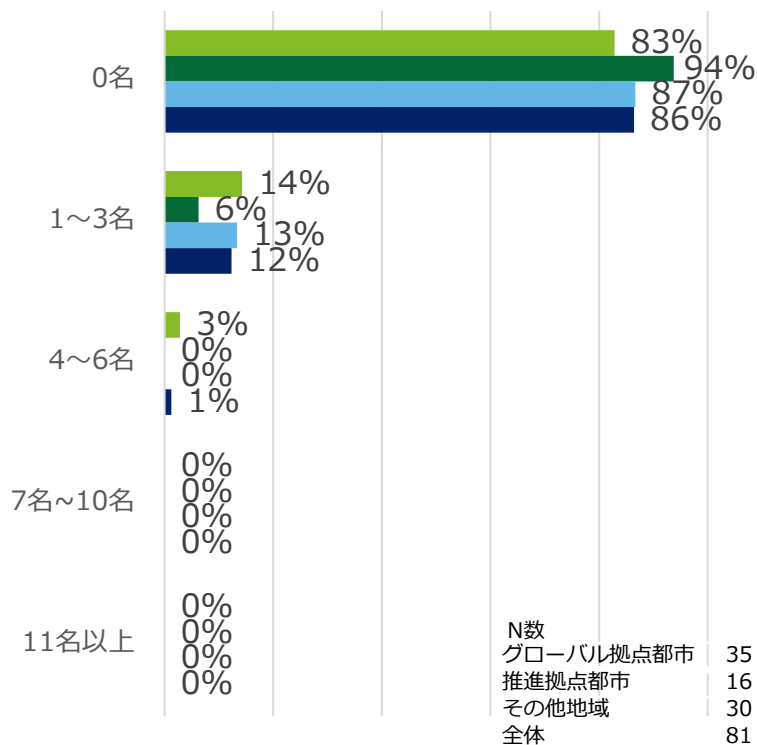
アンケート番号
運用面_ヒト
Q1

自大学

自大学以外

施設の運用・運営にかかわる人材の人数（専属）

0% 20% 40% 60% 80% 100%

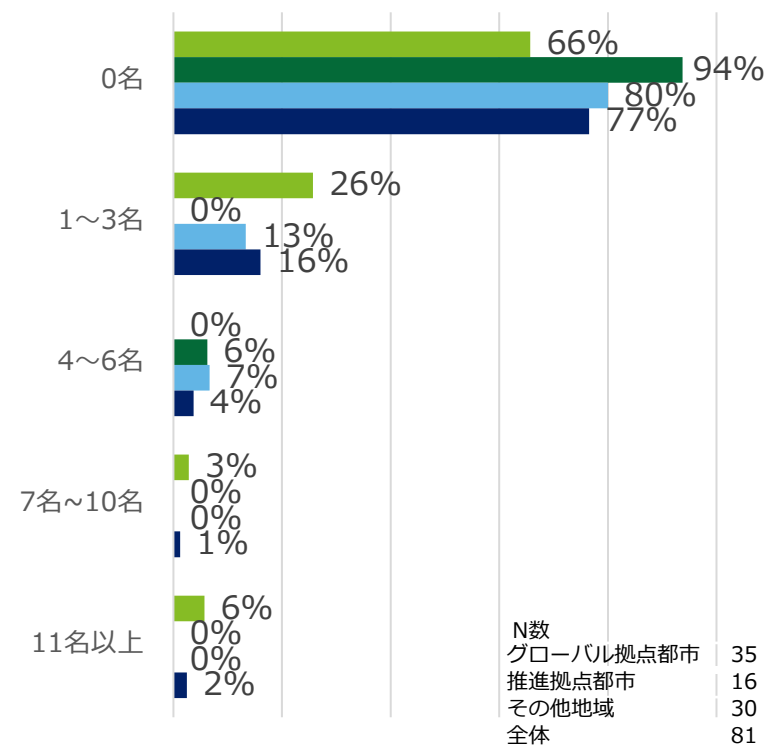


N数
グローバル拠点都市 35
推進拠点都市 16
その他地域 30
全体 81

■ グローバル拠点都市 ■ 推進拠点都市 ■ その他地域 ■ 全体

施設の運用・運営にかかわる人材の人数（兼務）

0% 20% 40% 60% 80% 100%



N数
グローバル拠点都市 35
推進拠点都市 16
その他地域 30
全体 81

■ グローバル拠点都市 ■ 推進拠点都市 ■ その他地域 ■ 全体

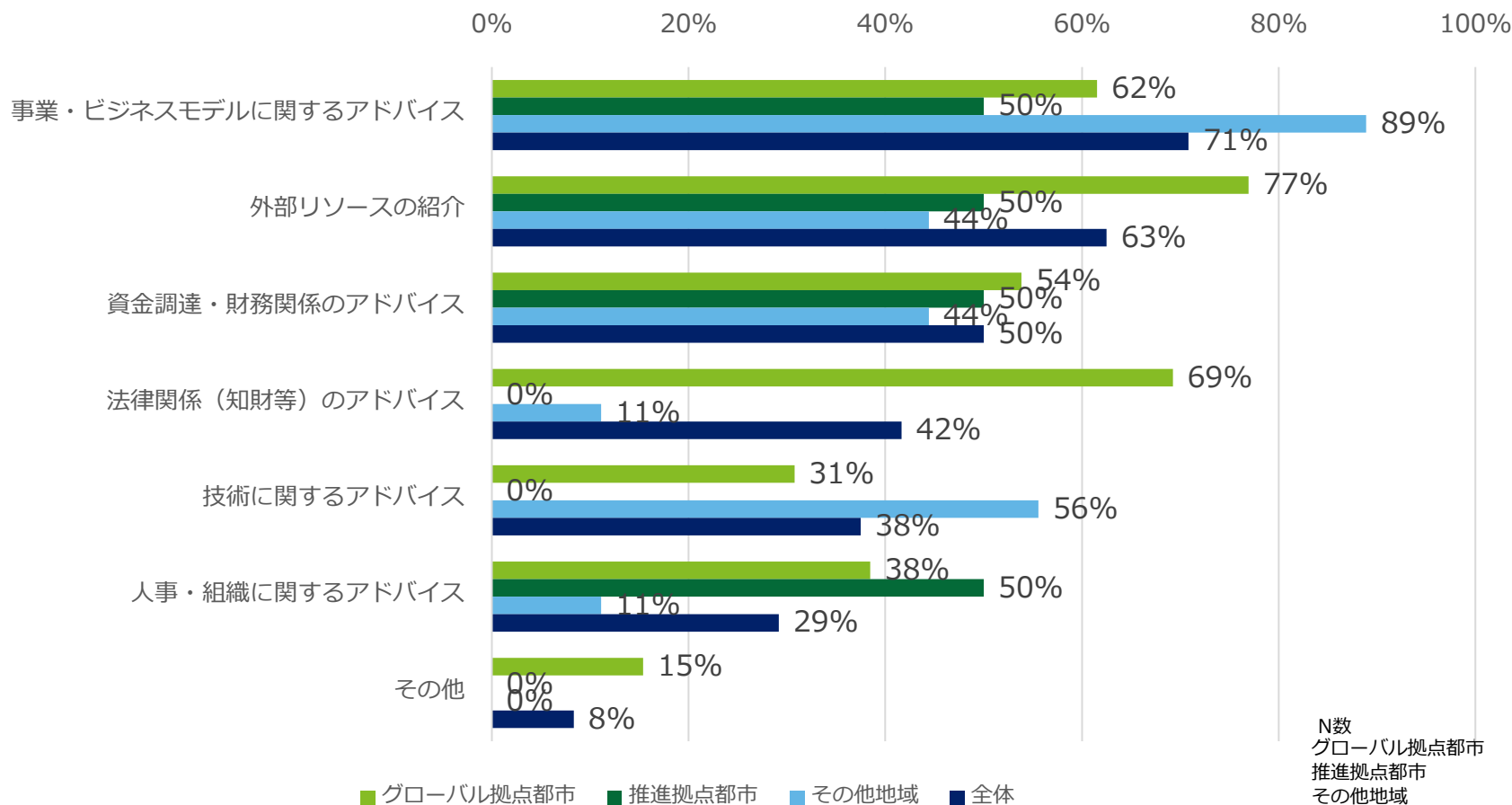
B インキュベーション施設の運用について（ヒト）（B-4）

- ✓ 施設全体において、事業面でのアドバイス、外部リソース紹介を自大学以外の人材も担当している。特にグローバル拠点都市の施設では法律面、推進拠点都市では人事面、その他地域では事業面での助言が相対的に多く、地域区分でバラツキが大きい

インキュベーション施設の運用・運営にかかわる人材が対応できる事項（複数選択可）

アンケート番号
運用面_ヒト
Q1

自大学 自大学以外



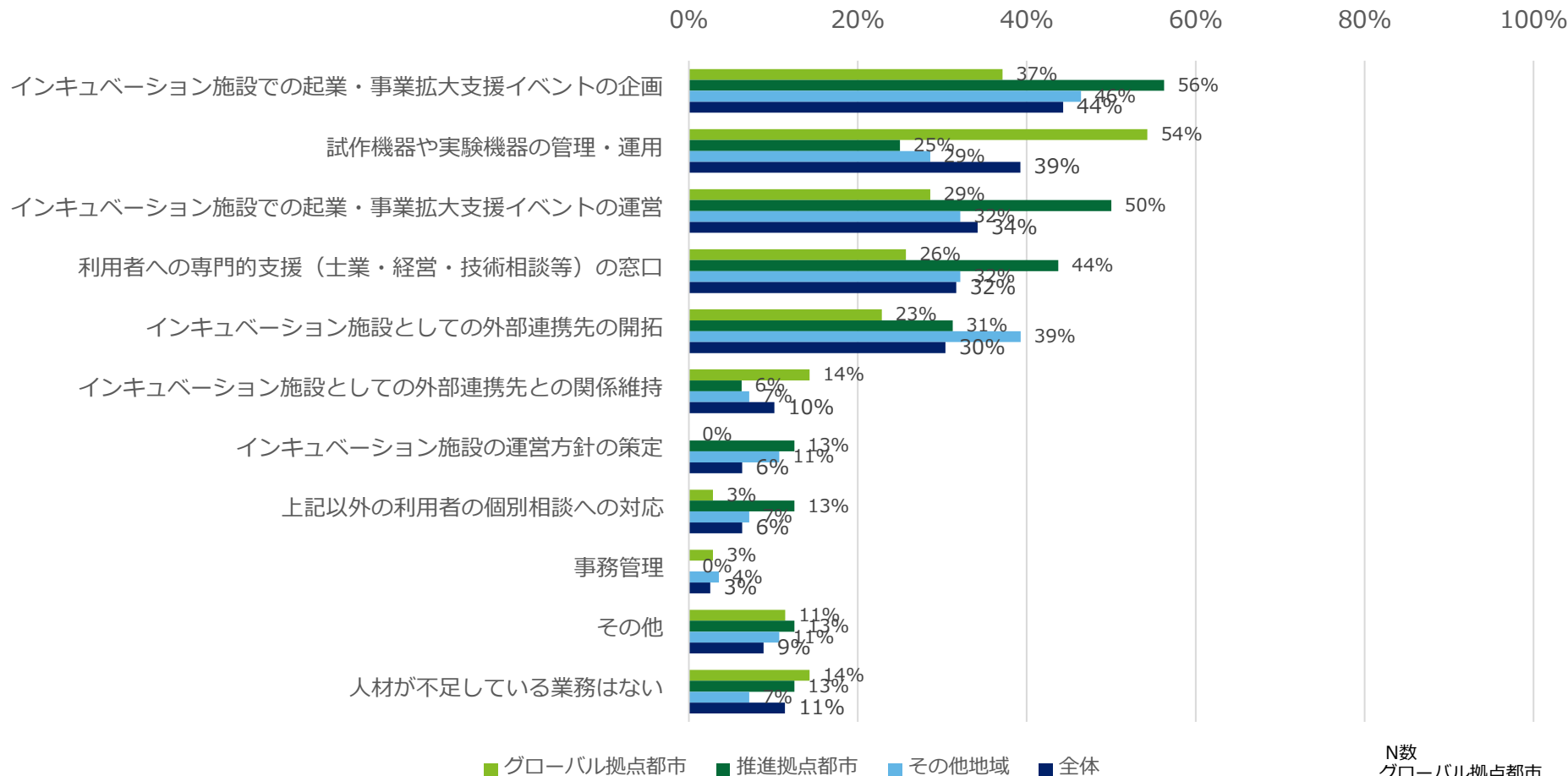
N数
グローバル拠点都市 13
推進拠点都市 2
その他地域 9
全体 24

B インキュベーション施設の運用について（ヒト）（B-5）

- ✓ 施設全体の9割程度が何らかの業務において人材不足に課題を持っており、特にイベント企画・運営面における人材不足、及び施策機器等の管理運用における人材不足を抱えている。人材不足の課題は、地域区分においてばらつきがある

インキュベーション施設で行う業務のうち、実施できていない業務（上位3つまでの回答）

アンケート番号
運用面_ヒト
Q2



N数
グローバル拠点都市 35
推進拠点都市 16
その他地域 28
全体 79

A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制

B インキュベーション施設の運用について（ヒト）

C インキュベーション施設の運用について（モノ）

D インキュベーション施設の運用について（カネ）

E インキュベーション施設の機能（地域連携）

F インキュベーション施設の成果・実績

C インキュベーション施設の運用について（モノ）（まとめ）

- ✓ 起業・事業拡大に関するイベントを実施している施設は2割程度と低い
- ✓ 施設でアントレ教育を受ける受講者は、施設外のアントレ教育受講者と比べ、2%程度であり極めて少ない

まとめ※

		グローバル拠点都市	推進拠点都市	その他地域
ソフト	起業・事業拡大支援イベントの実施状況 (C-1~2)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業・事業拡大に関するイベントを実施している施設は、施設全体では2割程度である 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業に関するイベントを実施している施設では、ネットワーキングイベントや起業に関する知識提供セミナーが多い 	
	アントレ教育の実施状況 (C-3~4)	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育プログラムを実施している施設では、動機付け・意識醸成段階という初期段階の教育を実施している施設が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設が実施するアントレ教育プログラムには、過去3年度の平均で600名以上の参加者が受講している ■ 施設が実施するプログラムの参加者は大学が実施するプログラムの受講生（R2年度：約3万名）と比べ、約2%にとどまる 	
ハード	アントレ教育の実施状況 (C-3~4)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者の事業創出・事業成長に寄与する設備（共用の会議・商談スペース、コミュニティスペース）、及び実験が可能な設備（実験系排水・排気設備）を保有する施設は、全体の半数を上回っている 		

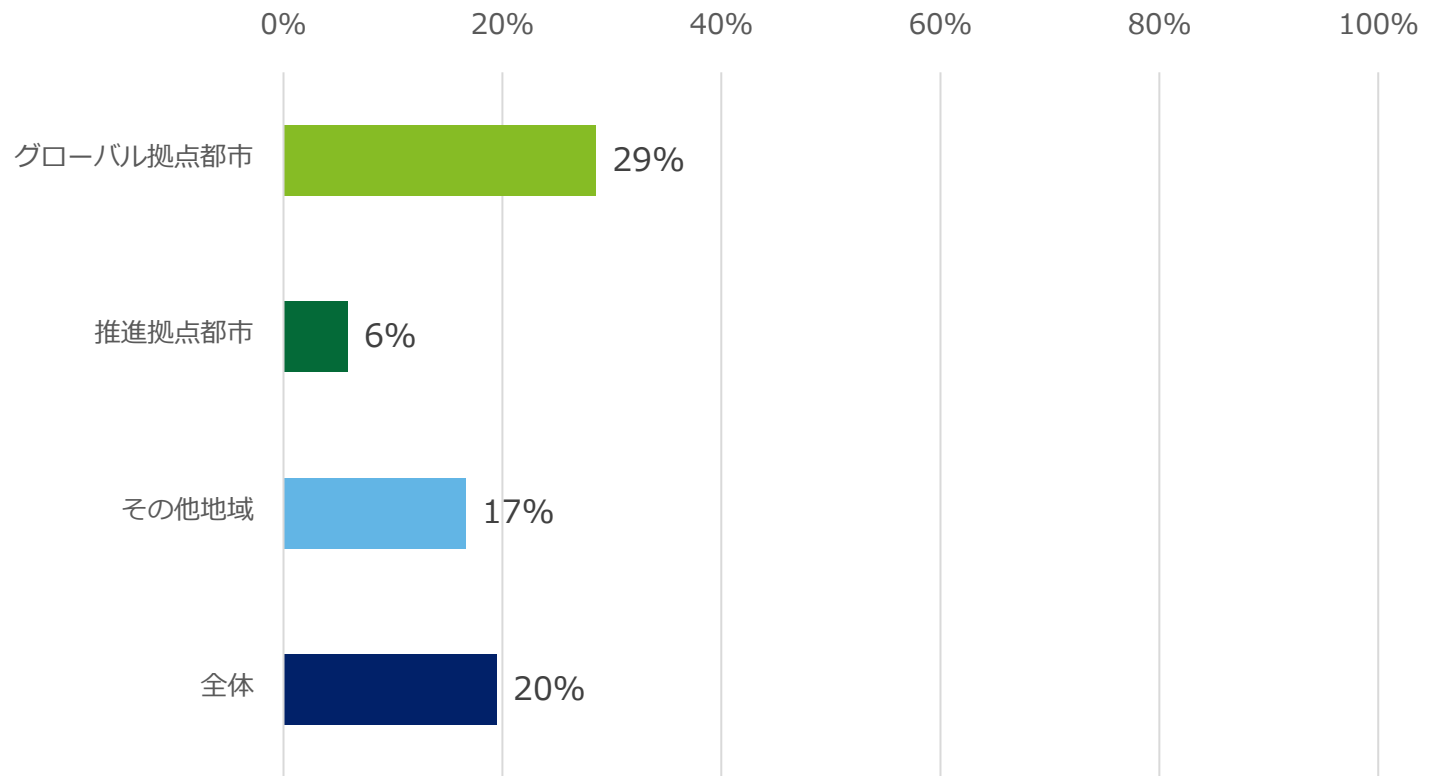
※ 昨年度当省による調査（持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析）では、大学でのアントレ教育の取組は確認をしている。https://www.mext.go.jp/content/20211115-mxt_sanchi01-000018853_02.pdf
本調査は大学インキュベーション施設を対象にした調査であり、結果として大学インキュベーション施設でのイベントやアントレ教育を実施している件数は少なく、一部N数が少なくなっていることに留意。

C インキュベーション施設の運用について (モノ) (C-1)

- ✓ 起業・事業拡大に関するイベントを実施している施設は、グローバル拠点都市でも3割弱であり、施設全体では2割程度しか実施していない

インキュベーション施設としての起業・事業拡大支援イベント実施実績

アンケート番号
運用面_ソフト
Q1



■ グローバル拠点都市 ■ 推進拠点都市 ■ その他地域 ■ 全体

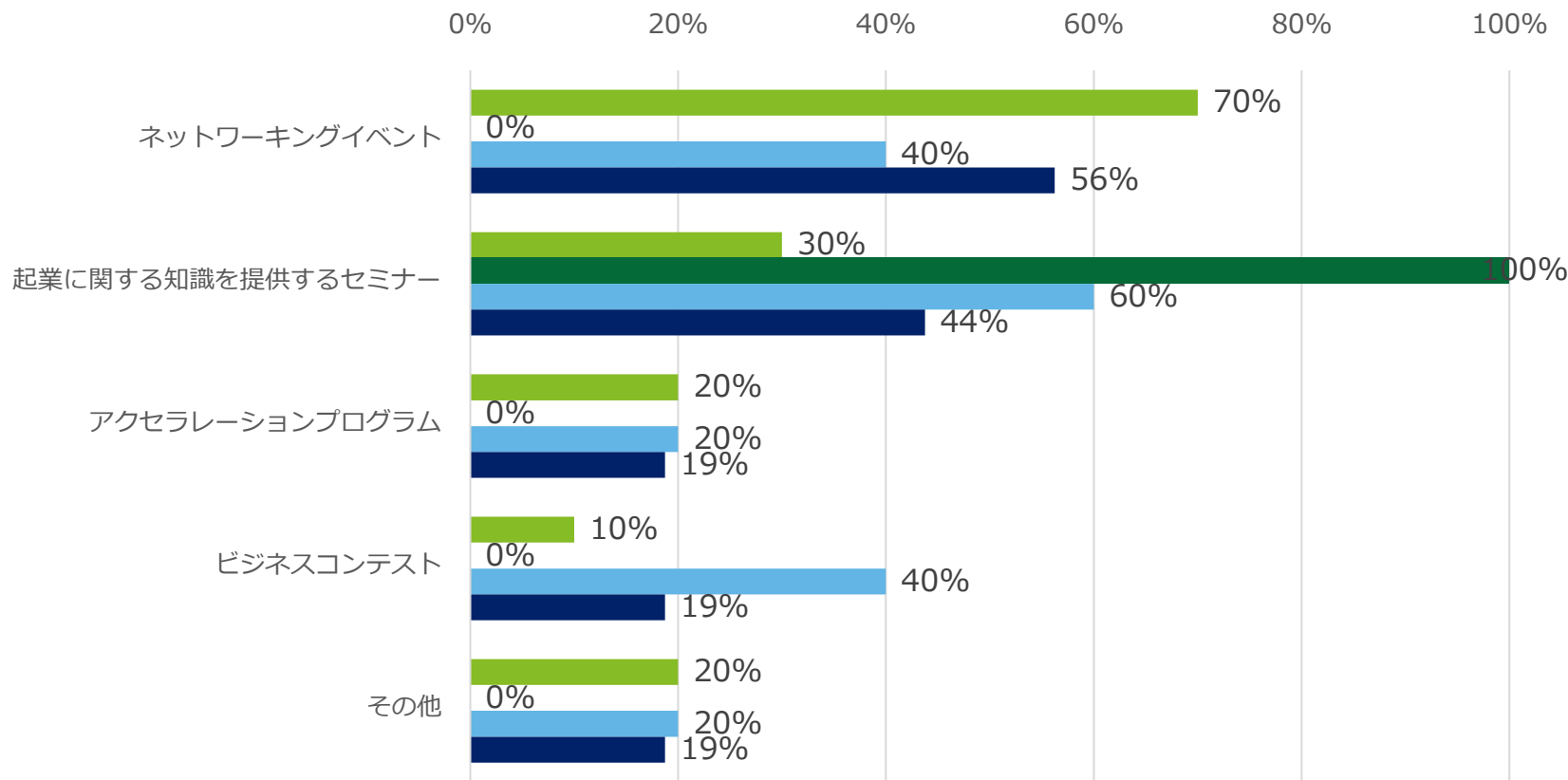
N数
グローバル拠点都市 35
推進拠点都市 17
その他地域 30
全体 82

C インキュベーション施設の運用について（モノ）（C-2）

✓ 起業に関するイベントを実施している施設では、ネットワーキングイベントや起業に関する知識提供セミナーが多い

実施イベントの内容（複数選択可）

※起業・事業拡大支援イベント実施実績は全体で20%であり、その中からの回答であるため、N数が少数であることに留意
 アンケート番号
 運用面_ソフト
 Q1



■ グローバル拠点都市 ■ 推進拠点都市 ■ その他地域 ■ 全体

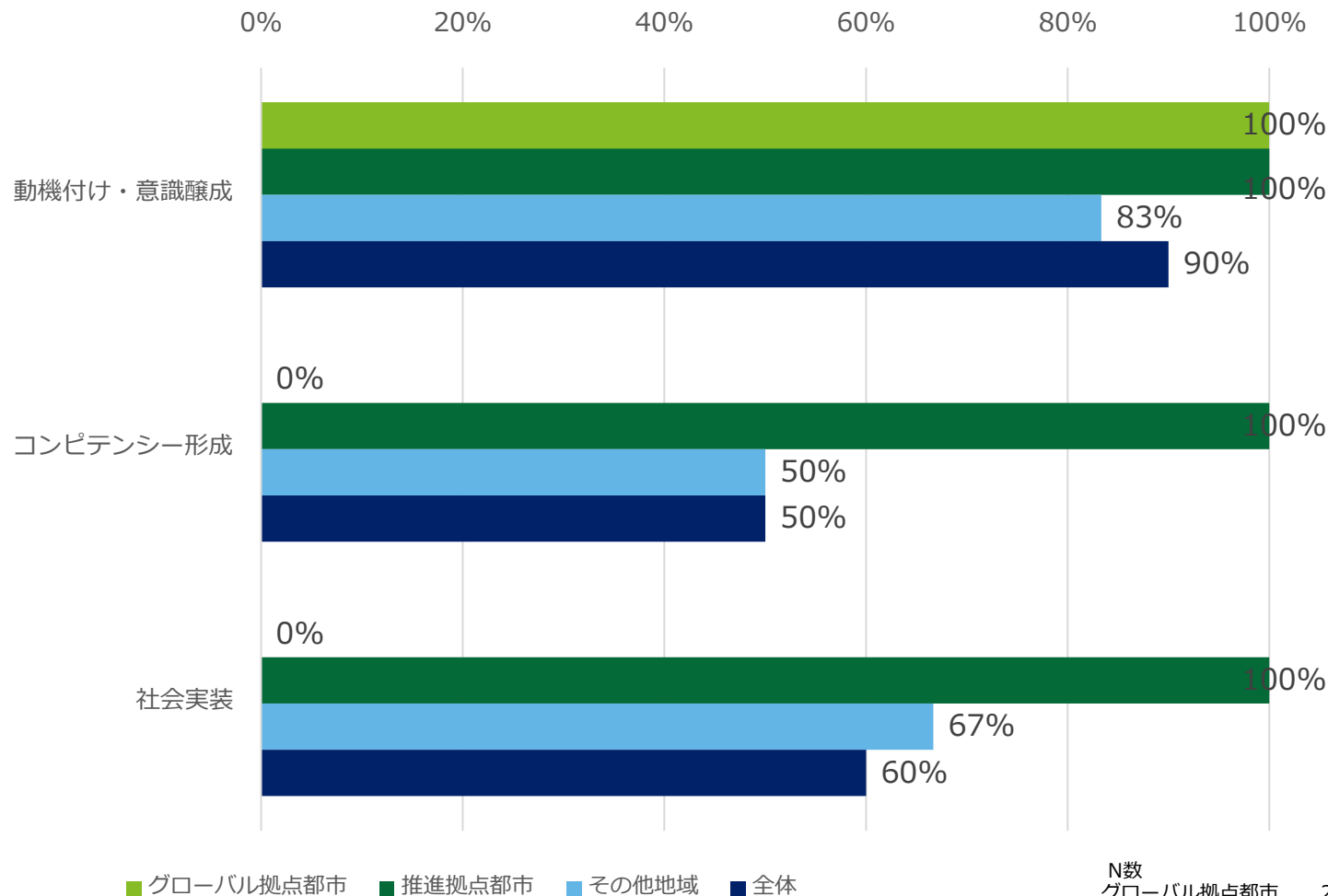
N数
 グローバル拠点都市 10
 推進拠点都市 1
 その他地域 5
 全体 16

C インキュベーション施設の運用について（モノ）（C-3）

✓ アントレ教育プログラムを実施している施設では、動機付け・意識醸成段階の教育を実施している割合が一番高い

実施しているアントレ教育プログラムの段階（複数選択可）

アンケート番号
運用面_ソフト
Q2



N数
グローバル拠点都市 2
推進拠点都市 2
その他地域 6
全体 10

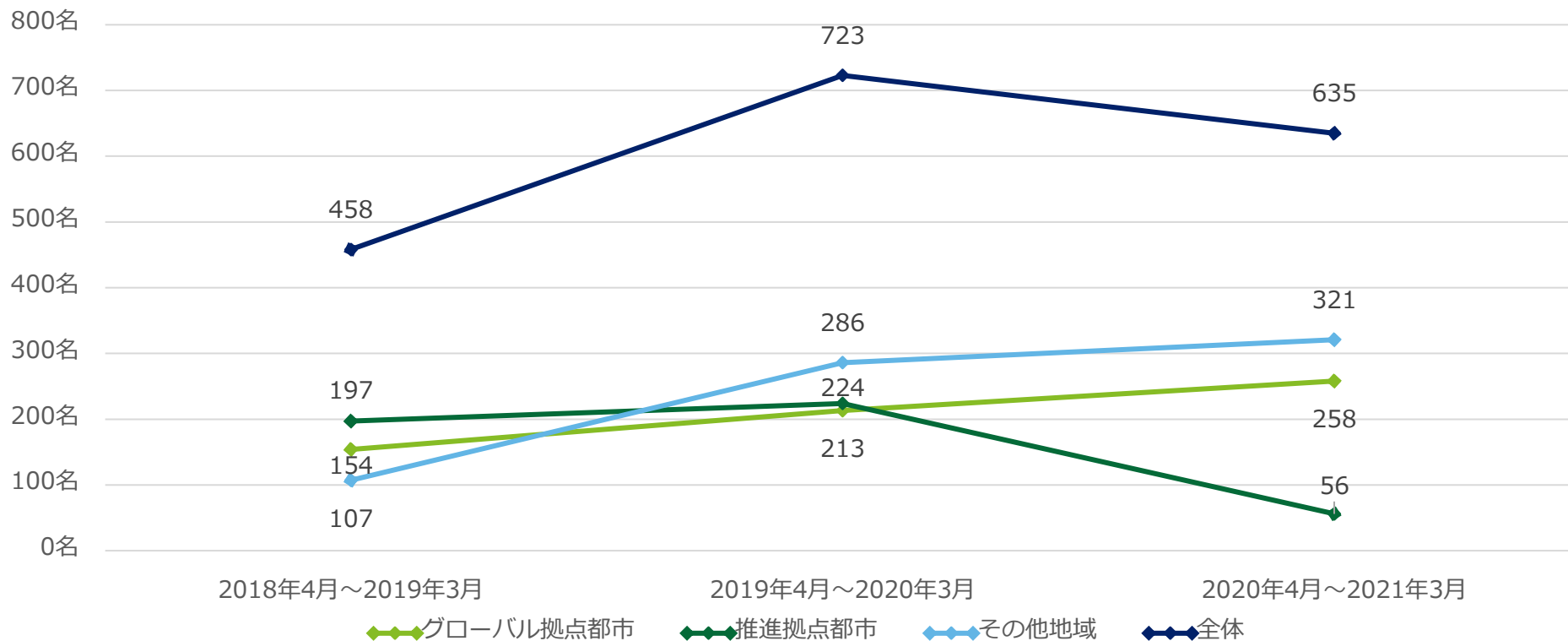
※ 起業・事業拡大支援イベント実施実績は全体で20%でありその中からの回答であるため、N数が少数であることに留意

C インキュベーション施設の運用について (モノ) (C-4)

- ✓ 施設が実施するアントレ教育プログラムには、過去3年度の平均で600名以上の参加者が受講している
- ✓ 施設が実施するプログラムの参加者は大学が実施するプログラムの受講生（R2年度：約3万名）と比べ、約2%にとどまる

インキュベーション施設でのアントレ教育プログラム参加者数

アンケート番号
運用面_ソフト
Q2



N数	2018年4月～2019年3月	2019年4月～2020年3月	2020年4月～2021年3月
グローバル拠点都市	2	2	2
推進拠点都市	2	2	2
その他地域	5	7	6
全体	9	11	10

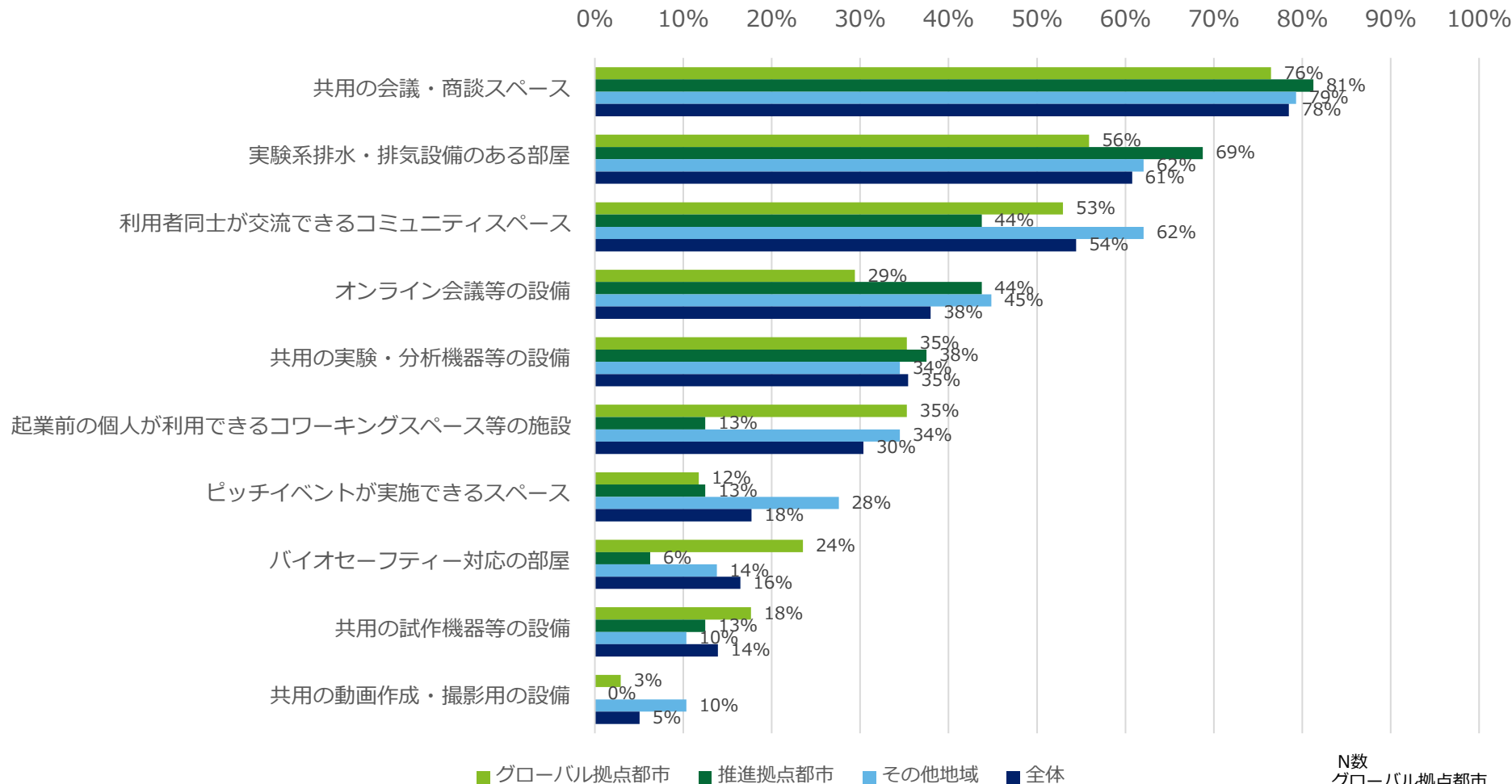
※ 起業・事業拡大支援イベント実施実績は全体で20%でありその中からの回答であるため、N数が少数であることに留意

C インキュベーション施設の運用について (モノ) (C-5)

- ✓ 利用者の事業創出・事業成長に寄与する設備（共用の会議・商談スペース、コミュニティスペース）、及び実験が可能な設備（実験系排水・排気設備）を保有する施設は全体の半数を上回っている

大学インキュベーション施設の設備状況（複数選択可）

アンケート番号
機能面
Q2



N数
グローバル拠点都市 34
推進拠点都市 16
その他地域 29
全体 79

- A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制
- B インキュベーション施設の運用について（ヒト）
- C インキュベーション施設の運用について（モノ）
- D インキュベーション施設の運用について（カネ）**
- E インキュベーション施設の機能（地域連携）
- F インキュベーション施設の成果・実績

D インキュベーション施設の運用について（カネ）（まとめ）

- ✓ 施設から利用者へ資金提供している施設は全施設の2割程度に留まり、その大部分が現物出資という形態がとられている
- ✓ 施設の資金調達額は1億円以内の施設が8割程度であり、外部連携先からの資金獲得ができていない施設は1割程度にとどまる

まとめ

		グローバル拠点都市	推進拠点都市	その他地域
資金提供	インキュベーション施設から利用者への資金提供 (D-1~3)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設から利用者へ資金提供している施設は、全施設の2割程度である ■ 利用者へ資金提供を実施する施設では、入居費の減免等の現物提供による形態が全施設の9割程度である ■ 約5割の施設が利用者への資金提供面において課題はないと考えている 		
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 資金提供の種類として、出資や補助金も一定あり 		
資金調達	施設の収入 (D-4~6)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の収入総額は、1億円以内が全施設の8割程度を占める ■ 収入がない施設も10%以上存在する 		
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設の収入源は、利用者からの入居料が大半を占める ■ 入居者からストックオプション・株式を取得している施設も一部存在する 		
	外部連携先からの資金獲得 (D-7~8)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全施設で見ても13%程度と外部連携先からの資金獲得は低い ■ 外部連携先からの資金獲得について、全施設の6割程度が課題はないと考えている 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 外部提携先はいるが、十分な資金が得られていない

D インキュベーション施設の運用について（カネ）（D-1）

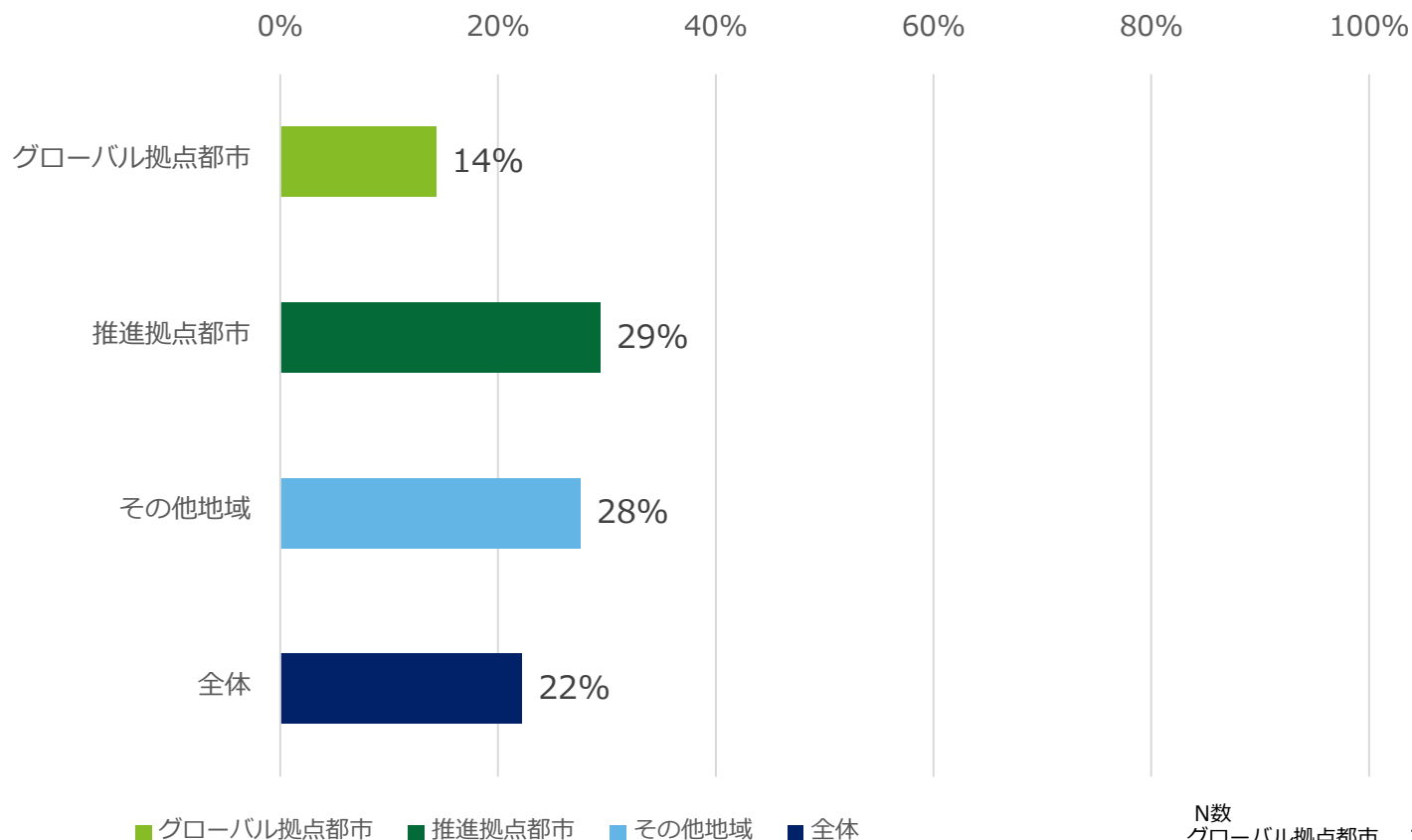
- ✓ 施設から利用者へ資金提供している実績は、全施設の2割程度であり、グローバル拠点都市の施設は、推進拠点都市、その他の地域と比べ実績が少ない傾向にある

インキュベーション施設から利用者への資金提供実績有無（対象期間：2020年4月～2021年3月）

アンケート番号
運用面_カネ
Q1

資金提供

資金獲得



N数
グローバル拠点都市 35
推進拠点都市 17
その他地域 29
全体 81

D インキュベーション施設の運用について（カネ）（D-2）

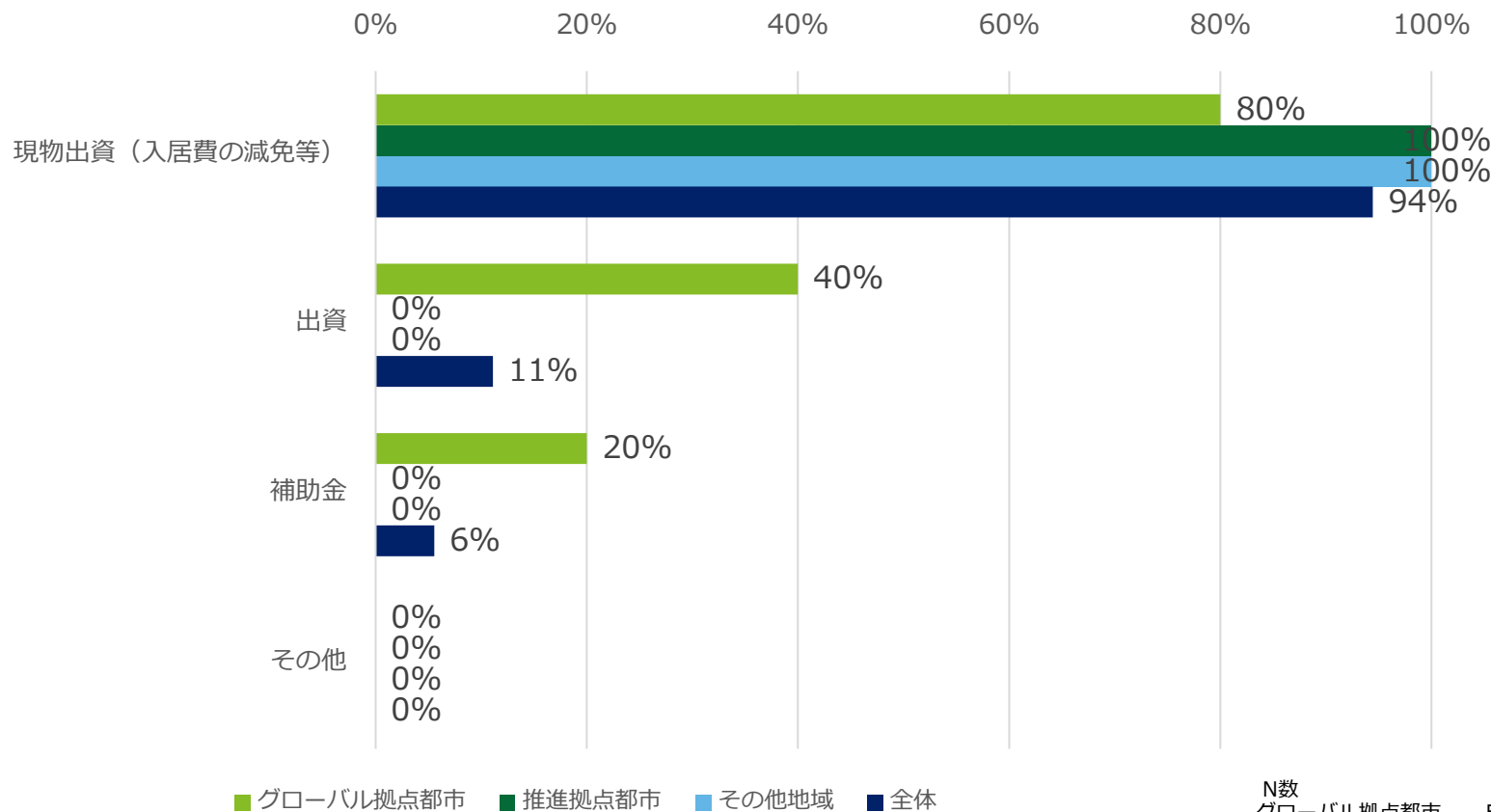
- ✓ 利用者へ資金提供を実施する施設では、地域区分を問わず入居費の減免等の現物提供による形態が圧倒的に多い
- ✓ グローバル拠点都市の施設においては、補助金や出資といった形式も一定数存在する

インキュベーション施設から利用者への資金提供の種類(複数選択可) (対象期間：2020年4月～2021年3月)

アンケート番号
運用面_カネ
Q1

資金提供

資金獲得



N数
グローバル拠点都市 5
推進拠点都市 5
その他地域 8
全体 18

※ N数が少数であることに留意。

D インキュベーション施設の運用について（カネ）（D-3）

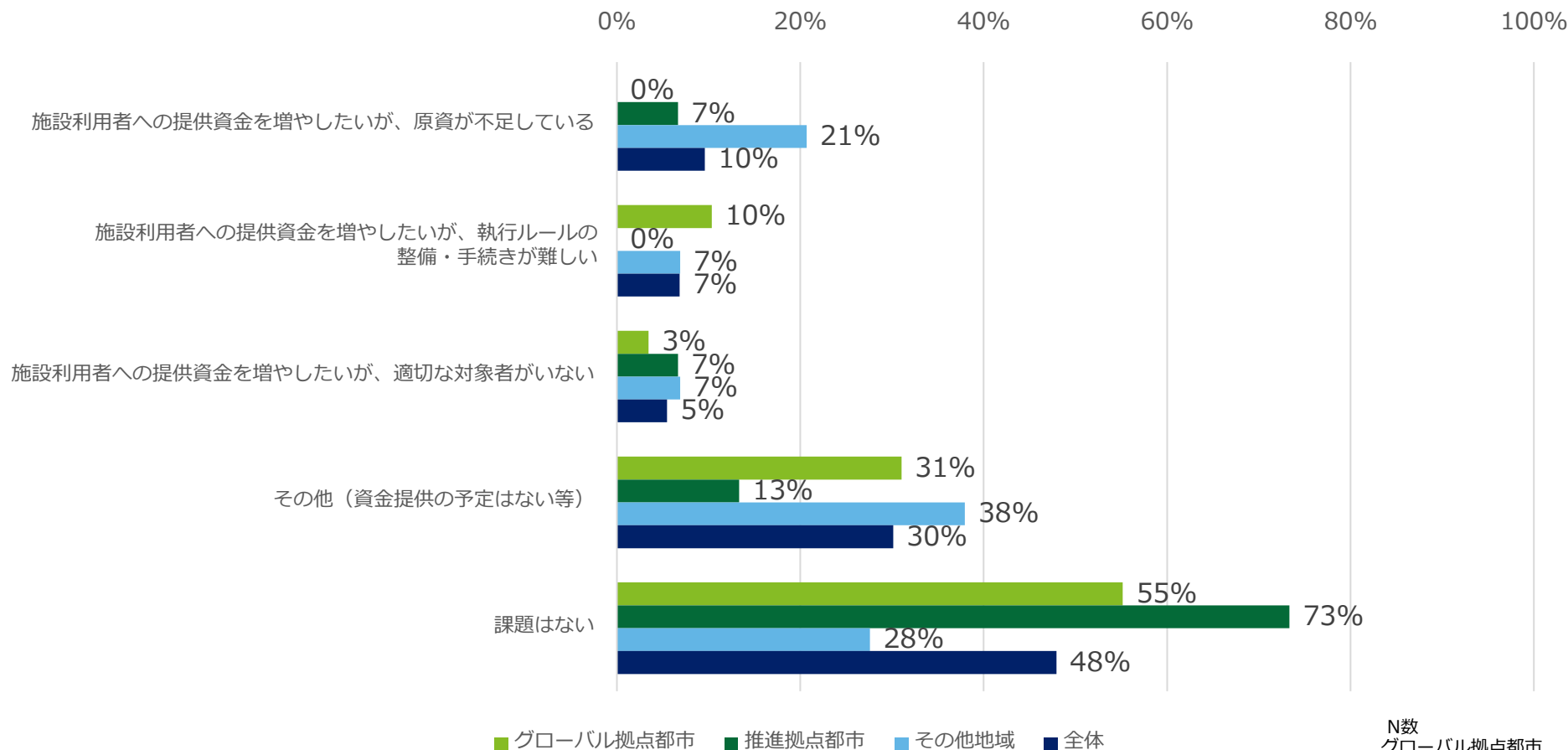
- ✓ 利用者に対する資金提供を予定していない（その他）と回答した施設が多数存在する
- ✓ 半数程度の施設は資金提供に課題を感じていない

インキュベーション施設から利用者への資金提供の課題

アンケート番号
運用面_カネ
Q2

資金提供

資金獲得



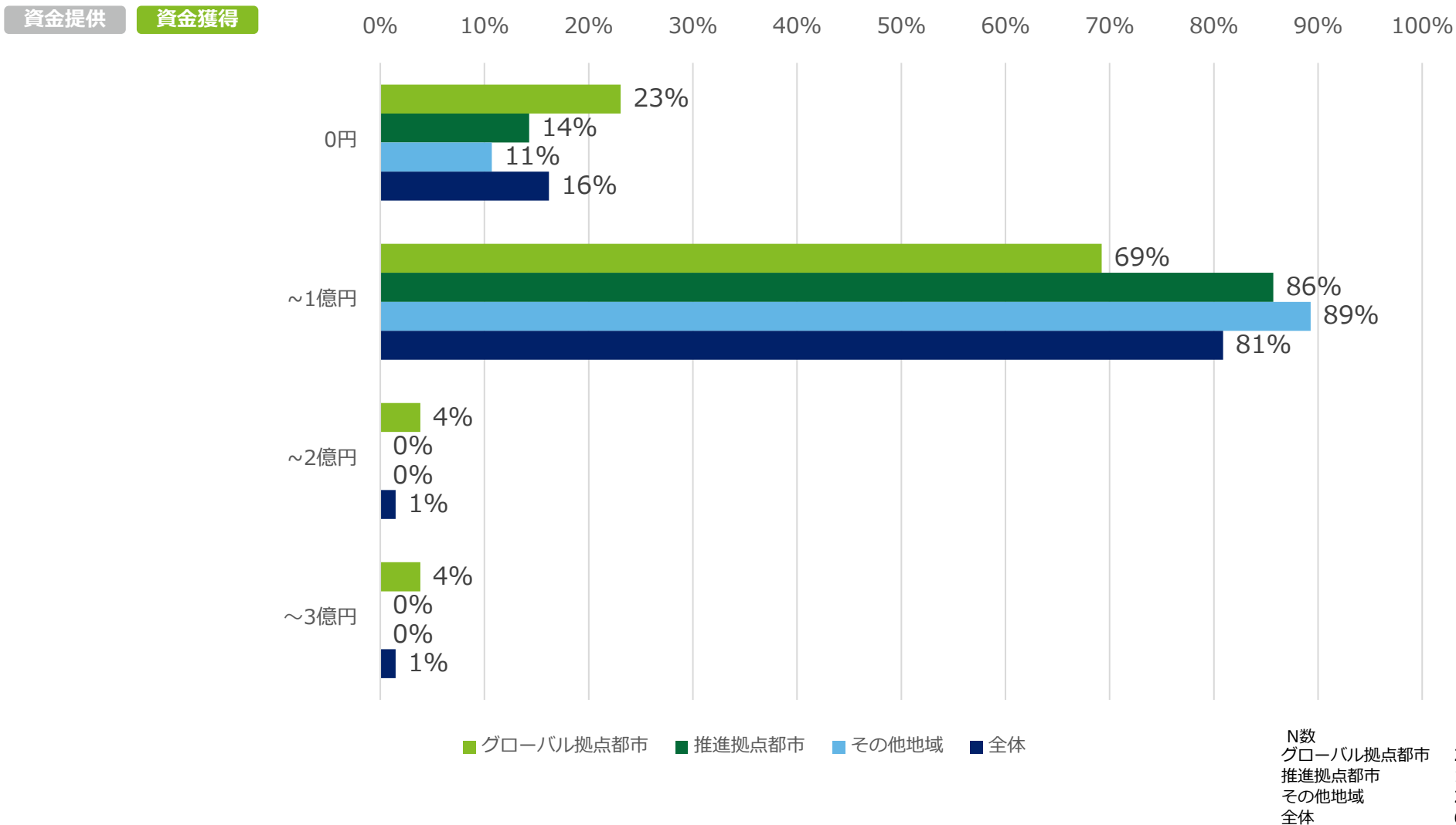
N数
グローバル拠点都市 29
推進拠点都市 15
その他地域 29
全体 73

D インキュベーション施設の運用について（カネ）（D-4）

- ✓ 施設の収入総額は、地域区分を問わず、1億円以内が最多である
- ✓ 収入がない施設も10%以上存在し、特にグローバル拠点都市は23%に上る

インキュベーション施設の収入総額

アンケート番号
運用面_カネ
Q7

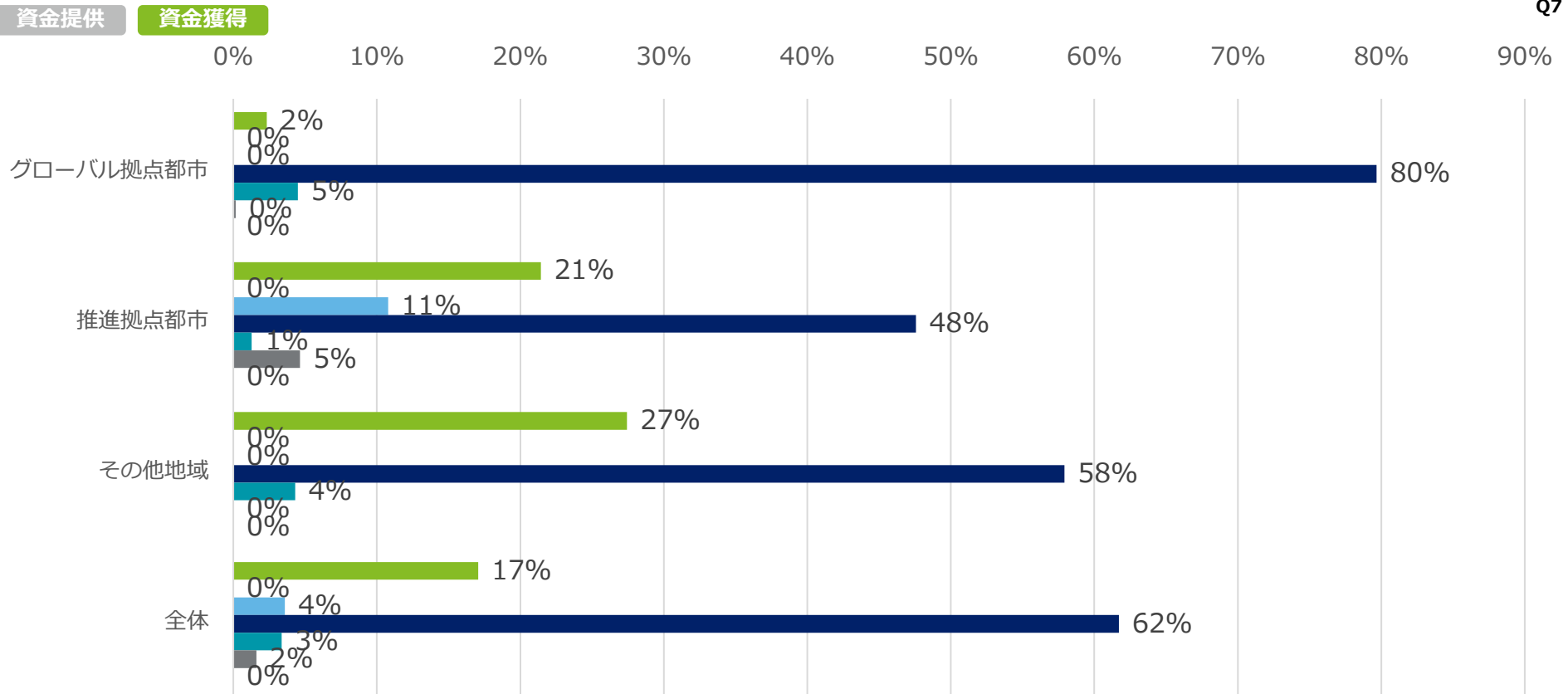


D インキュベーション施設の運用について（カネ）（D-5）

- ✓ 施設の収入源は、地域区分を問わず、利用者からの入居料が大半を占め、グローバル拠点都市はその傾向が強い
- ✓ 推進拠点都市とその他地域にある施設では、学内資金の割合も一定数存在する

インキュベーション施設の収入源の割合

アンケート番号
運用面_カネ
Q7



※チャートは、平均値を入力

- 学内資金
- 国からの補助金等
- 自治体からの補助金等
- 利用者からの入居料収入
- 利用者からの入居料以外の収入
- 国・自治体以外の外部提携先からの資金提供
- その他

N数	
30	グローバル拠点都市
14	推進拠点都市
29	その他地域
73	全体

D インキュベーション施設の運用について（カネ）（D-6）

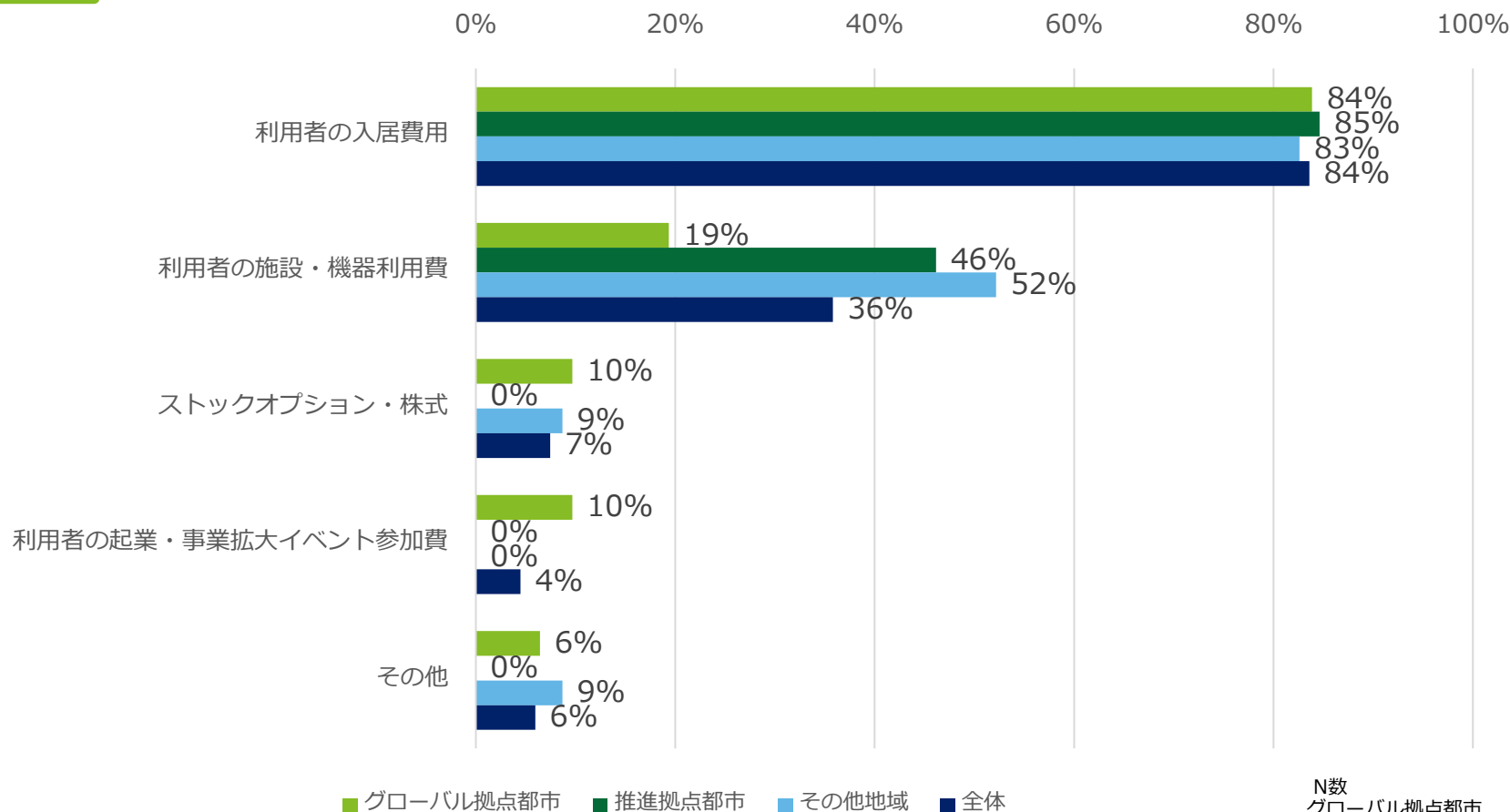
- ✓ 施設が利用者から資金を得る方法は、地域区分を問わず入居費用が最多（80%以上）であり、次いで施設・機器利用費である
- ✓ ストックオプション・株式の獲得も一部存在する

インキュベーション施設が利用者から受け取った資金の種類（複数選択可） （対象期間：2020年4月～2021年3月）

アンケート番号
運用面_カネ
Q3

資金提供

資金獲得



N数
グローバル拠点都市 31
推進拠点都市 13
その他地域 23
全体 67

D インキュベーション施設の運用について（カネ）（D-7）

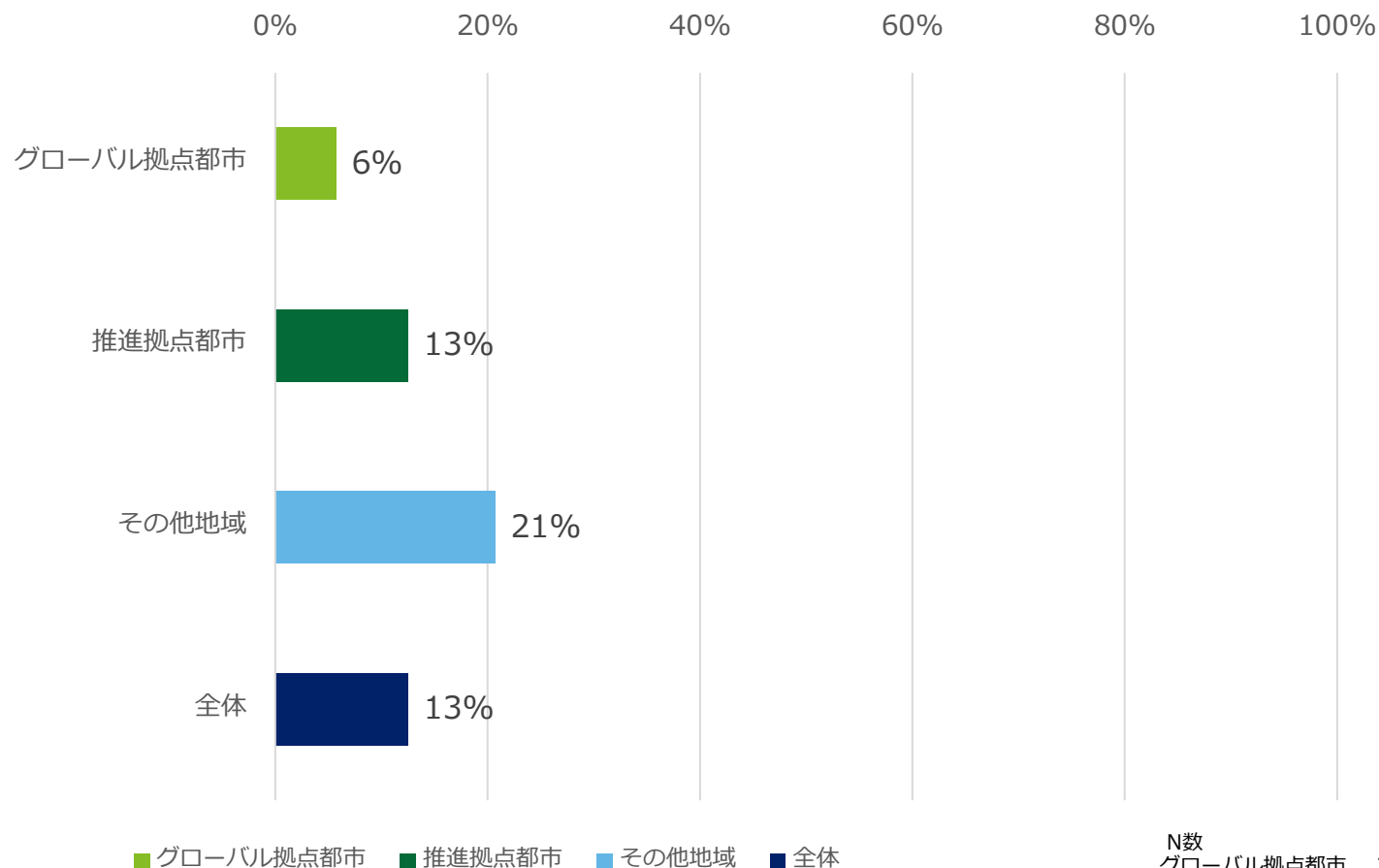
✓ 施設が外部提携先から資金を得る方法は、全施設で13%程度である

インキュベーション施設の外部提携先（民間企業、自治体等）からの資金獲得実績の有無 （対象期間：2020年4月～2021年3月）

アンケート番号
運用面_カネ
Q5

資金提供

資金獲得



N数
グローバル拠点都市 35
推進拠点都市 16
その他地域 29
全体 80

D インキュベーション施設の運用について（カネ）（D-8）

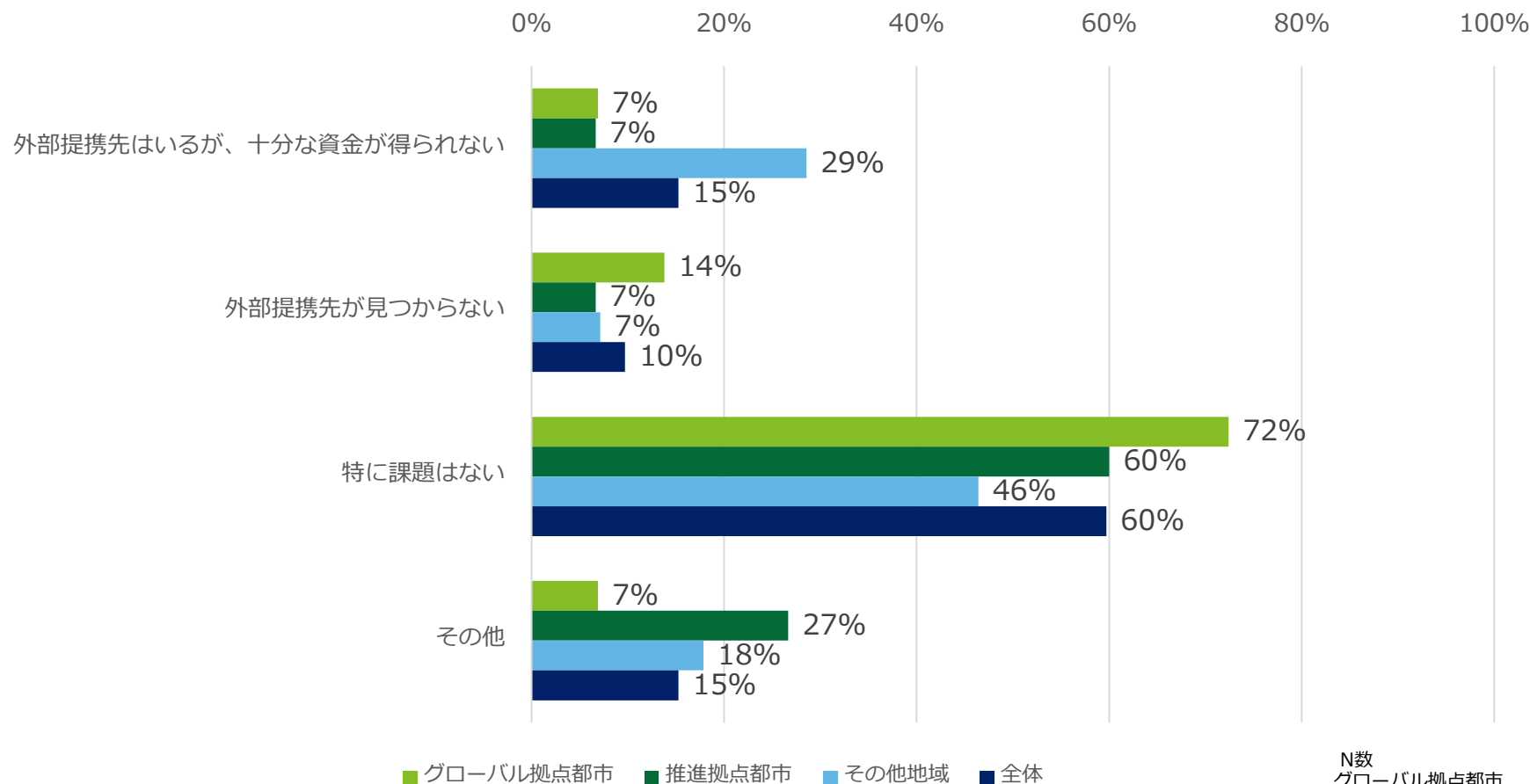
- ✓ 地域区分を問わず、課題はないという回答が最多であり、特に、グローバル拠点都市は70%を超える
- ✓ グローバル拠点都市では外部提携先が見つからない、その他地域では外部提携先はあるが資金不足と回答が多く状況が異なる

インキュベーション施設の外部提携先からの資金獲得の課題

アンケート番号
運用面_カネ
Q6

資金提供

資金獲得



N数
グローバル拠点都市 29
推進拠点都市 15
その他地域 28
全体 72

- A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制
- B インキュベーション施設の運用について（ヒト）
- C インキュベーション施設の運用について（モノ）
- D インキュベーション施設の運用について（カネ）
- E インキュベーション施設の機能（地域連携）**
- F インキュベーション施設の成果・実績

E インキュベーション施設の機能（地域連携）（まとめ）

- ✓ 地域区分や連携機関によらず、施設は全体的に産学官金との外部連携が1-2割程度であり、浸透していない
- ✓ グローバル拠点都市よりも、推進拠点都市・その他地域の方が外部連携が比較的進んでいる傾向にある

まとめ

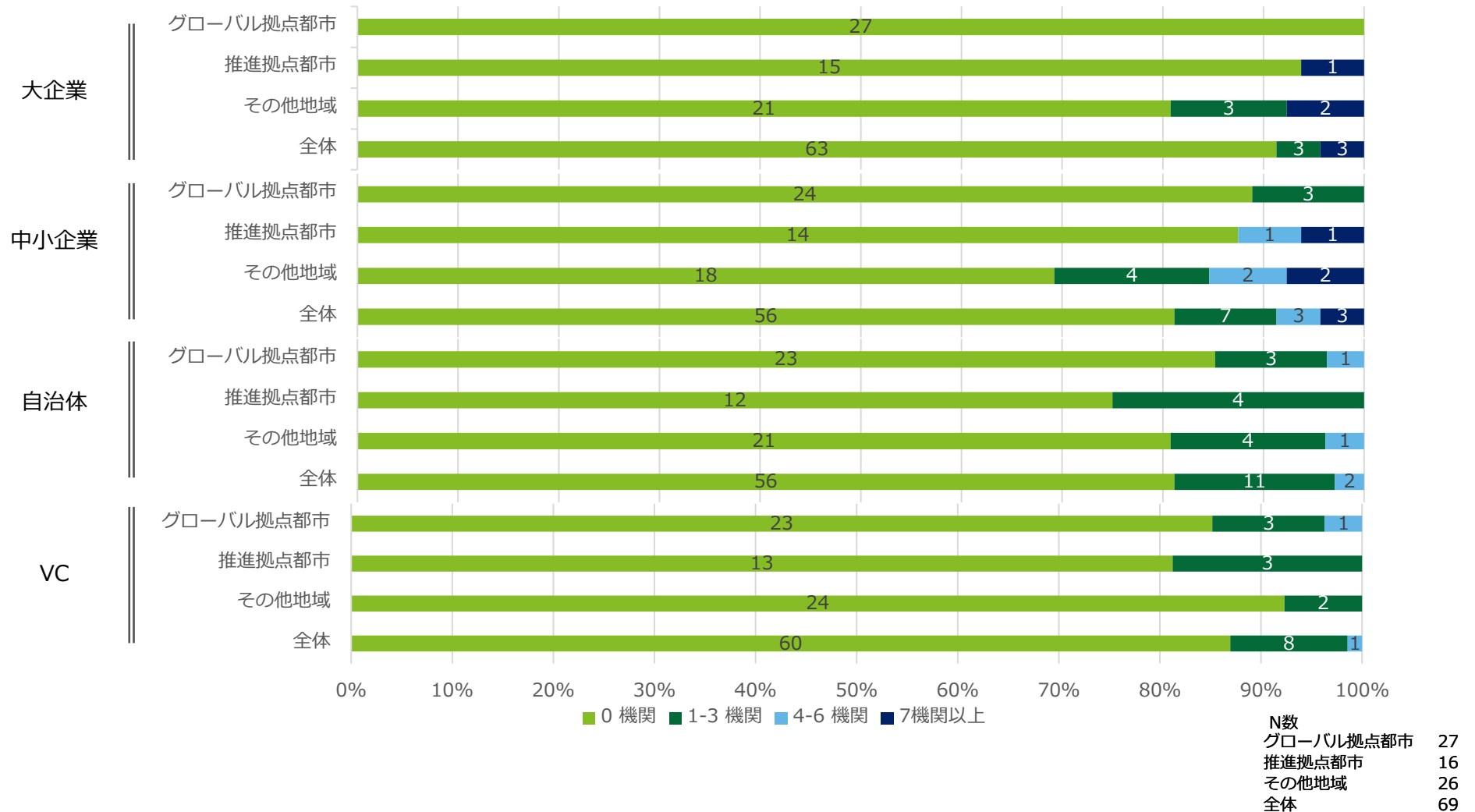
	グローバル拠点都市	推進拠点都市	その他地域
産業界 (大企業・中小企業)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産業界との外部連携は、大企業より中小企業との連携が比較的多いが、施設全体で2割以下と低い水準である 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産業界との連携数が多い施設はあるが限定的である 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他の地域区分と比べ、産業界との連携が多い
自治体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自治体との外部連携は、施設全体で2割以下と低い水準であるが、産官金の中では最も連携が進んでいる ■ 地域区分で大きな差はないが、比較的推進拠点都市で連携が多い傾向にある 		
VC	<ul style="list-style-type: none"> ■ VCとの外部連携は、施設全体で1割程度であり、低い水準である 	<ul style="list-style-type: none"> ■ その他地域と比べ、比較的VC連携は多い傾向にある 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1割以下であり、VC連携は進んでいない
その他連携機関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門家・スタートアップ支援機関・大学・卒業生との外部連携は、施設全体で1割以下であり、極めて低い水準である 		

E インキュベーション施設の機能（地域連携）（E-1）

- ✓ 施設全体で、産業界、行政、金融機関との外部連携は、1-2割程度であり浸透していない
- ✓ 産業界との連携について、グローバル拠点も推進拠点・その他地域も促進させるための取組が必要である

外部連携先の属性および数（対象：2021年3月末時点）（1/2）

アンケート番号
インキュベーション施設の成果と課題
Q6

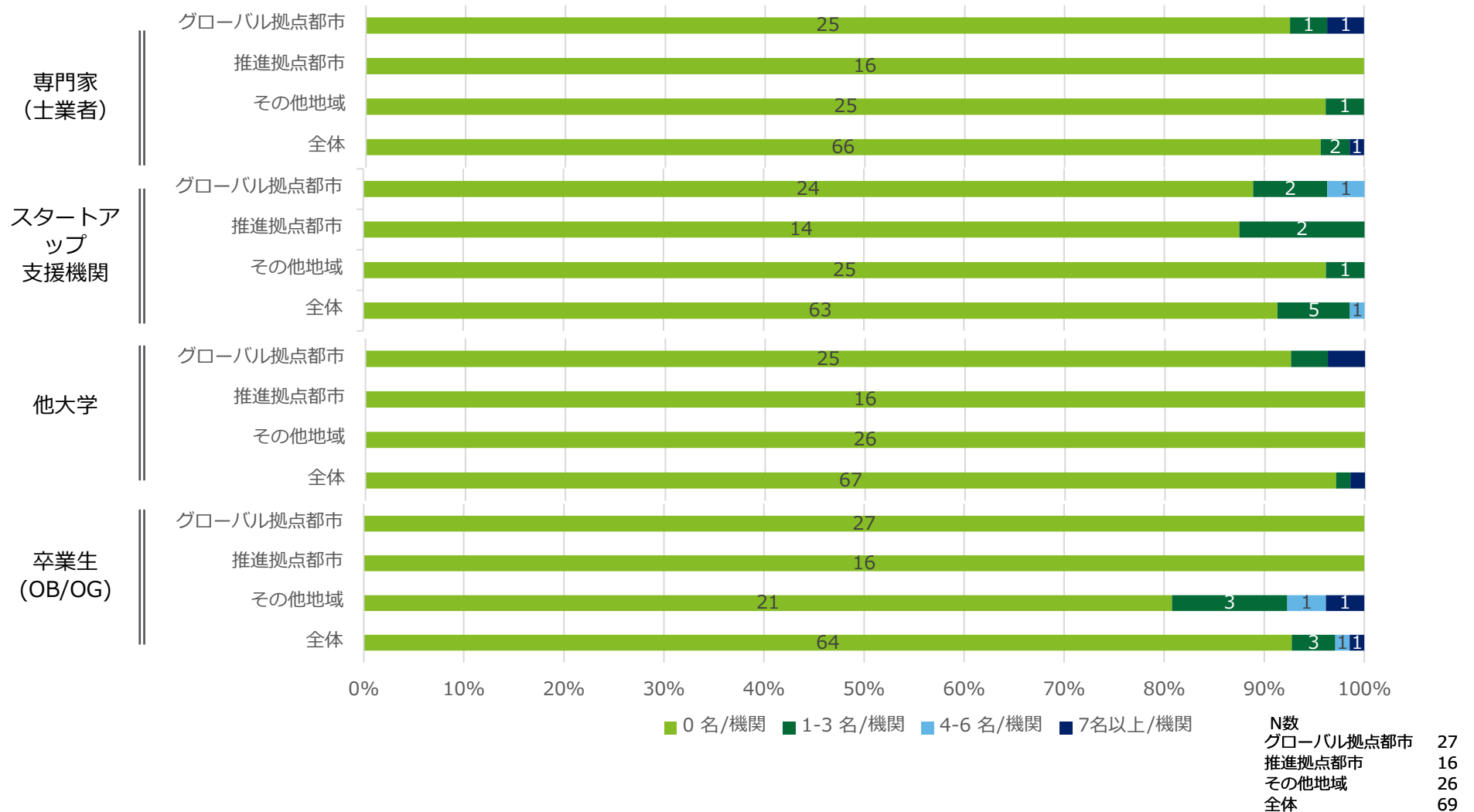


E インキュベーション施設の機能（地域連携）（E-2）

✓ 施設全体で、専門家・スタートアップ支援機関・大学・卒業生との外部連携は1割以下であり、ほとんど活用できていない

外部連携先の属性および数（対象：2021年3月末時点）（2/2）

アンケート番号
インキュベーション施設の成果と課題
Q6



- A インキュベーション施設の目指す姿・運営体制
- B インキュベーション施設の運用について（ヒト）
- C インキュベーション施設の運用について（モノ）
- D インキュベーション施設の運用について（カネ）
- E インキュベーション施設の機能（地域連携）
- F インキュベーション施設の成果・実績

F インキュベーション施設の成果・実績（まとめ）

- ✓ グローバル拠点都市では、入居件数が増えており、特に首都圏においては入居者・利用者による成果（IPO・M&A）の実績も数件存在する

まとめ

		グローバル拠点都市	推進拠点都市	その他地域
利用者獲得に向けた取組	入居件数 (F-1)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1施設当たりの利用者数は、増加傾向にある 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1施設当たりの利用者数は、直近3年でほぼ増減がない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1施設当たりの利用者数は、直近3年でほぼ増減がない
	現状施策 (F-2)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設利用者増加に向け、インターネット上での情報発信、大学教職員への周知が半数を超えているが、起業に関するイベント開催やアントレ教育プログラムの開催は施設全体で1割前後にとどまる 		
	今後必要な取組 (F-3)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設利用者増加に向けた課題感として、施設設備・機材の充実（ハード）、大学内の運営人材の充実（ヒト）という回答割合が高い 		
入居者・利用者の成果	昨年度の起業件数 (F-4)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1施設平均：0.18件 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1施設平均：0.24件（最多） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1施設平均：0.15件
	これまでのIPO件数 (F-5)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全9件のうち首都圏内が8件 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 三重大学の施設から1件創出 	<ul style="list-style-type: none"> ■ -
	これまでのM&A件数 (F-6)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全13件のうち首都圏内が12件 ■ 1施設平均：0.41件 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 岩手大学の施設から1件創出 ■ 1施設平均：0.07件 	<ul style="list-style-type: none"> ■ -

F インキュベーション施設の成果・実績 (F-1)

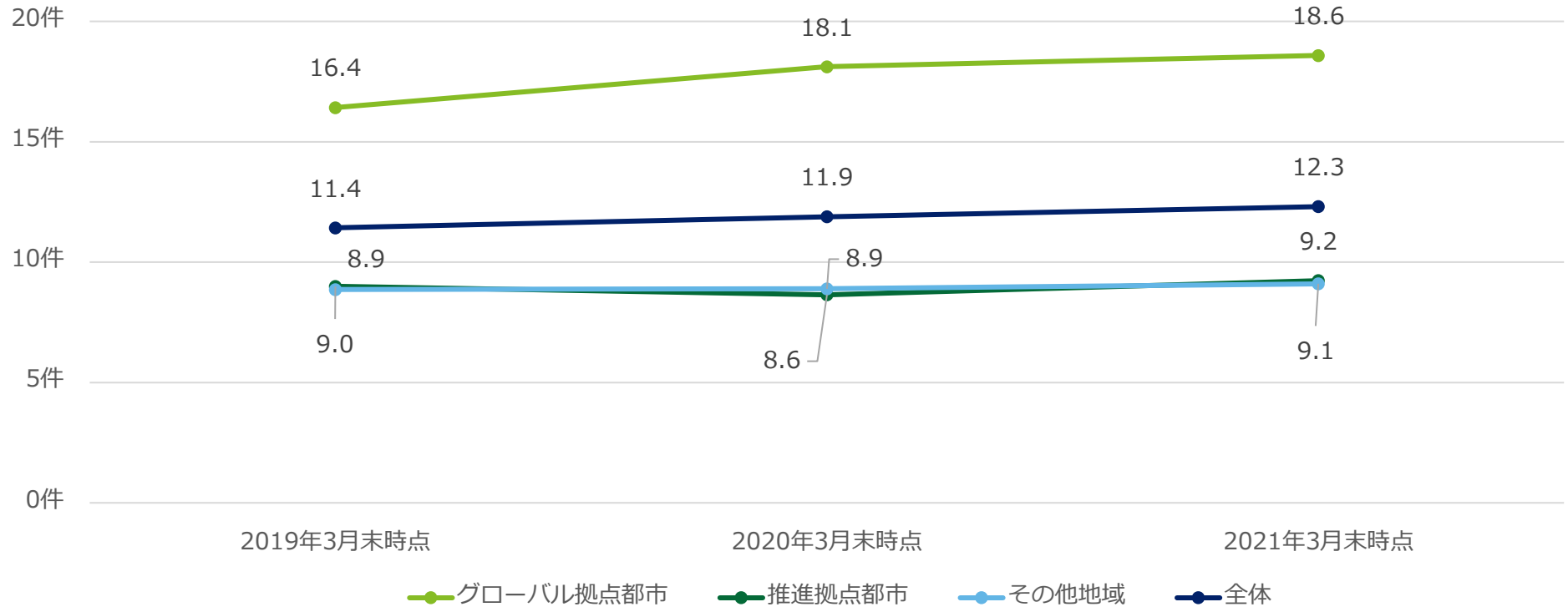
- ✓ グローバル拠点都市は微増しているが、推進拠点都市とその他地域は一定である
- ✓ グローバル拠点都市の件数が15件以上と最多である

インキュベーション施設の入居（在籍）件数（1施設の平均）

アンケート番号
インキュベーション施設の成果と課題
Q1

利用者獲得

支援成果



N数	2019年3月末時点	2020年3月末時点	2021年3月時点
グローバル拠点都市	33	33	34
推進拠点都市	17	17	17
その他地域	29	29	29
全体	79	79	80

※ 文部科学省 産学連携等実施状況調査（令和2年度実績）によると、大学等発ベンチャーに対するインキュベーション施設の利用部屋率は78%

F インキュベーション施設の成果・実績 (F-2)

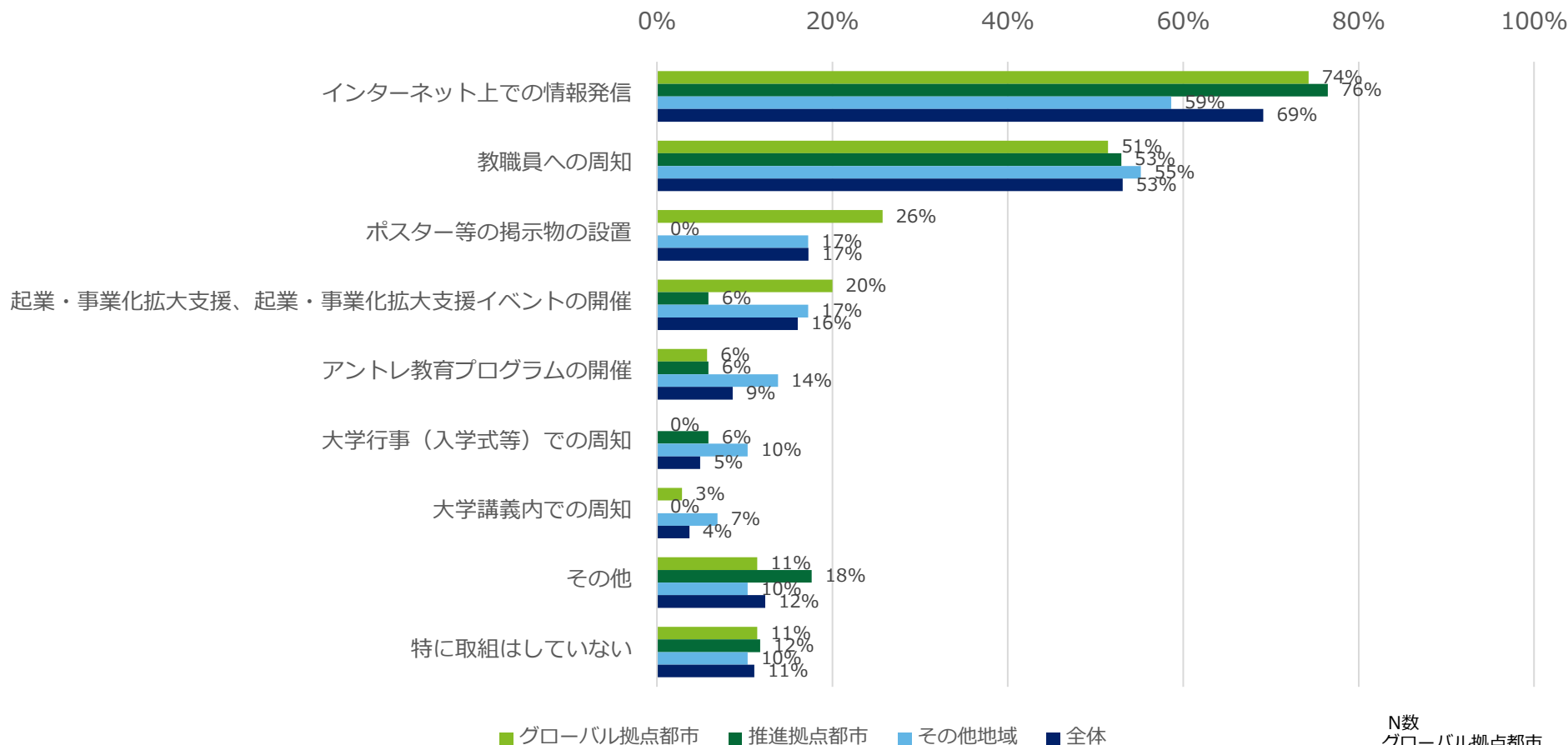
- ✓ 施設利用者増加に向け、インターネット上での情報発信、大学教職員への周知が半数を超えているが、起業に関するイベント開催やアントレ教育プログラムの開催は施設全体で1割前後にとどまる

インキュベーション施設利用者増加に向けた取組み (複数選択可)

アンケート番号
インキュベーション施設の成果と課題
Q3

利用者獲得

支援成果



N数
グローバル拠点都市 35
推進拠点都市 17
その他地域 29
全体 81

F インキュベーション施設の成果・実績 (F-3)

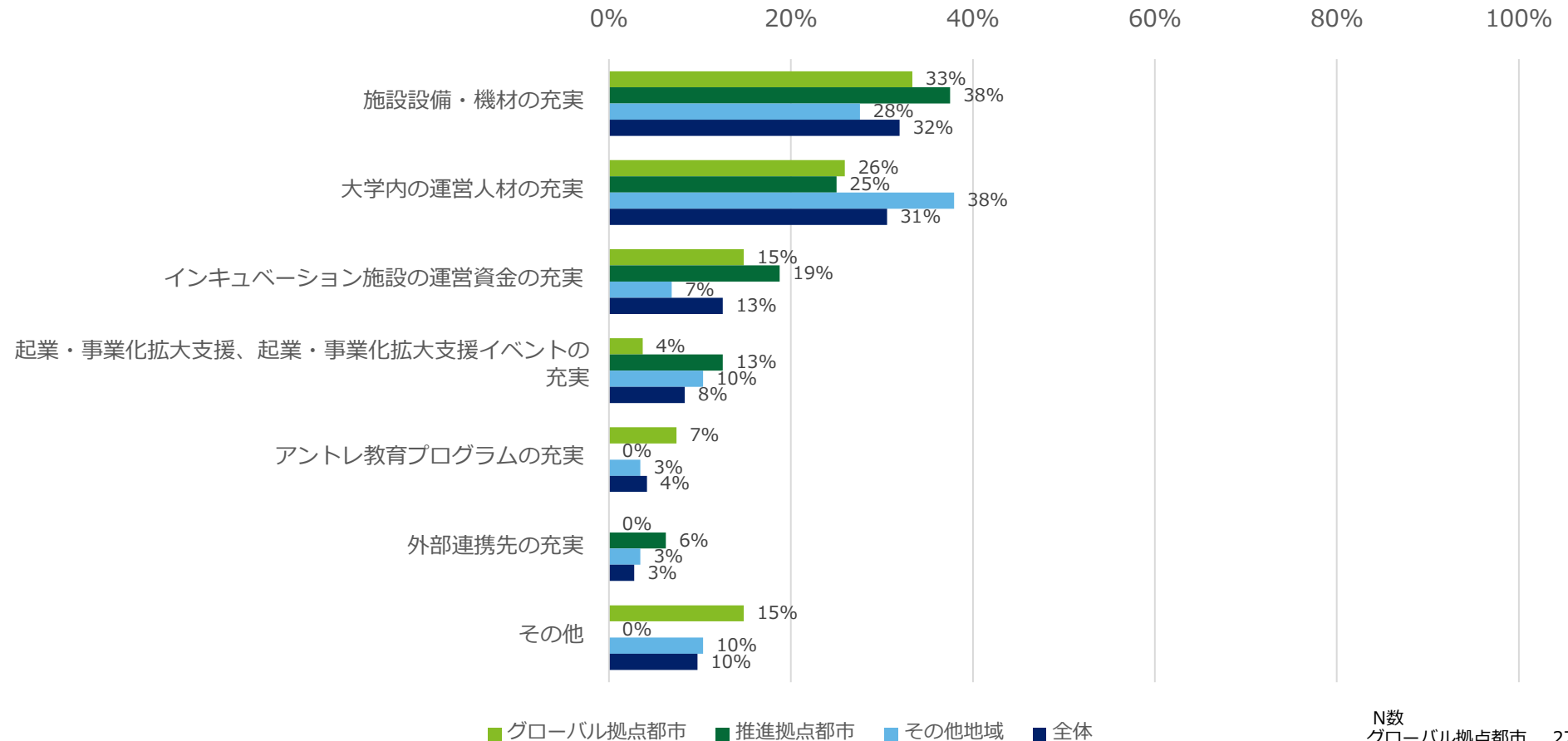
- ✓ 施設利用者増加に向けた課題として、施設設備・機材の充実（ハード）、大学内の運営人材の充実（ヒト）という回答割合が高い

インキュベーション施設利用者のさらなる増加に向けて必要な取組み (単一回答)

アンケート番号
インキュベーション施設の成果と課題
Q4

利用者獲得

支援成果



N数
グローバル拠点都市 27
推進拠点都市 16
その他地域 29
全体 72

F インキュベーション施設の成果・実績 (F-4)

✓ 起業件数は、グローバル拠点都市の施設で5件と最多であり、全体からみて1施設当たりの起業件数は0.2件前後である

起業前の入居者が入居期間中、もしくは退去後1年以内に起業した件数
(対象期間：2020年4月～2021年3月)

アンケート番号
インキュベーション施設の成果と課題
Q7

利用者獲得

支援成果

グローバル拠点都市		推進拠点都市		その他地域	
東京農工大学 先端産学連携研究推進センター インキュベーション施設	1件	弘前大学 レンタルラボ	1件	和歌山大学 産学連携イノベーションセンター 栄谷会館	2件
京都大学 ベンチャーインキュベーション センター (KUViC)	1件	東北大学 臨床研究推進センターオープンラ ボ	1件	群馬大学 研究・産学連携推進機構施設	1件
大阪市立大学 インキュベータ	1件	秋田大学 地方創生センター1号館	1件	信州大学 オープンベンチャー・イノベーシ ョンセンター	1件
同志社大学 連携型起業家育成施設(D-egg)	1件	熊本大学 インキュベーションラボラトリー	1件		
龍谷大学 創業支援ブース	1件				
1施設平均	0.18件	1施設平均	0.24件	1施設平均	0.15件

N数
グローバル拠点都市 28
推進拠点都市 17
その他地域 27
全体 72

F インキュベーション施設の成果・実績 (F-5)

✓ 施設を利用したスタートアップのIPO件数は、グローバル拠点都市の施設に限られる

これまでインキュベーション施設を利用したスタートアップのIPO件数
(対象期間：設立時～2021年3月)

アンケート番号
インキュベーション施設の成果と課題
Q8

利用者獲得

支援成果

※推進拠点都市およびその他地域は0件

グローバル拠点都市		
2007年 設立	東京大学 アントレプレナープラザ	4件
2006年 設立	慶應義塾大学 慶應藤沢イノベーションビレッジ	2件
2001年 設立	早稲田大学 アントレプレナーシップセンター	2件
2011年 設立	大阪大学 テクノアライアンス棟	1件
2004年 設立	三重大学 地域イノベーション推進機構キャンパス・インキュベータ	1件
1施設平均		0.35件

N数
グローバル拠点都市 34
推進拠点都市 15
その他地域 27
全体 76

F インキュベーション施設の成果・実績 (F-6)

✓ 施設を利用したスタートアップのM&A件数は、グローバル拠点都市の施設に集中している

インキュベーション施設を利用したスタートアップのM&A件数 (対象期間：設立時～2021年3月)

アンケート番号
インキュベーション施設の成果と課題
Q8

利用者獲得

支援成果

グローバル拠点都市

2007年 設立	東京大学 アントレプレナープラザ	8件
2001年 設立	早稲田大学 アントレプレナーシップセンター (19-3号館)	2件
2013年 設立	東京農工大学 先端産学連携研究推進センター インキュベーション施設	1件
2003年 設立	静岡大学	1件
2006年 設立	慶應義塾大学 慶應藤沢イノベーションビレッジ	1件

1施設平均

0.41件

推進拠点都市

2007年 設立	岩手大学 盛岡市産学官連携研究センター (コラボMIU)	1件
-------------	------------------------------------	----

1施設平均

0.07件

※ その他地域は0件

N数
グローバル拠点都市 34
推進拠点都市 15
その他地域 27
全体 76

大学インキュベーション施設 取組事例の紹介

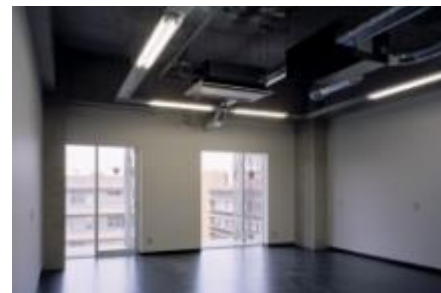
✓ 東京大学は学内VCと連携し有望な技術スタートアップを入居者として選定し、起業に向けて必要となる支援を提供している

施設の概要

施設名	東京大学アントレプレナープラザ
大学名	東京大学
運営形態	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 株式会社成信が所有し建物を管理 ✓ 入居者の選定、起業支援は大学および学内VCが実施
提供機能	ヒト ✓ 資金調達や事業計画策定を支援可能な兼任の支援者を複数名配置
	モノ ✓ 知財活用支援、事業相談等を実施 ✓ 入居者同士の交流促進のためのイベントを開催
	カネ ✓ 東京大学エッジキャピタルパートナーズと連携した資金調達支援
施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者の選考を産学協創推進本部と東京大学協創プラットフォーム開発(株)ならびに(株)東京大学エッジキャピタルパートナーズが実施し有望な技術シーズを選定する ■ 学内外の機関と連携し、東京大学における面のエコシステムを形成する
HP	https://www.ducr-u-tokyo.ac.jp/activity/venture/incubation/eplaza.html



▲アントレプレナープラザ外観
 東京都文京区本郷7丁目3番1号
 東京大学本郷キャンパス内・産学連携プラザ隣地



▲居室の様子
 30室(2階~7階まで各階5室)
 各室57.98~58.72㎡



▲会議室の様子
 1階に3室(各室約20㎡)

※ 出所：大学HP等

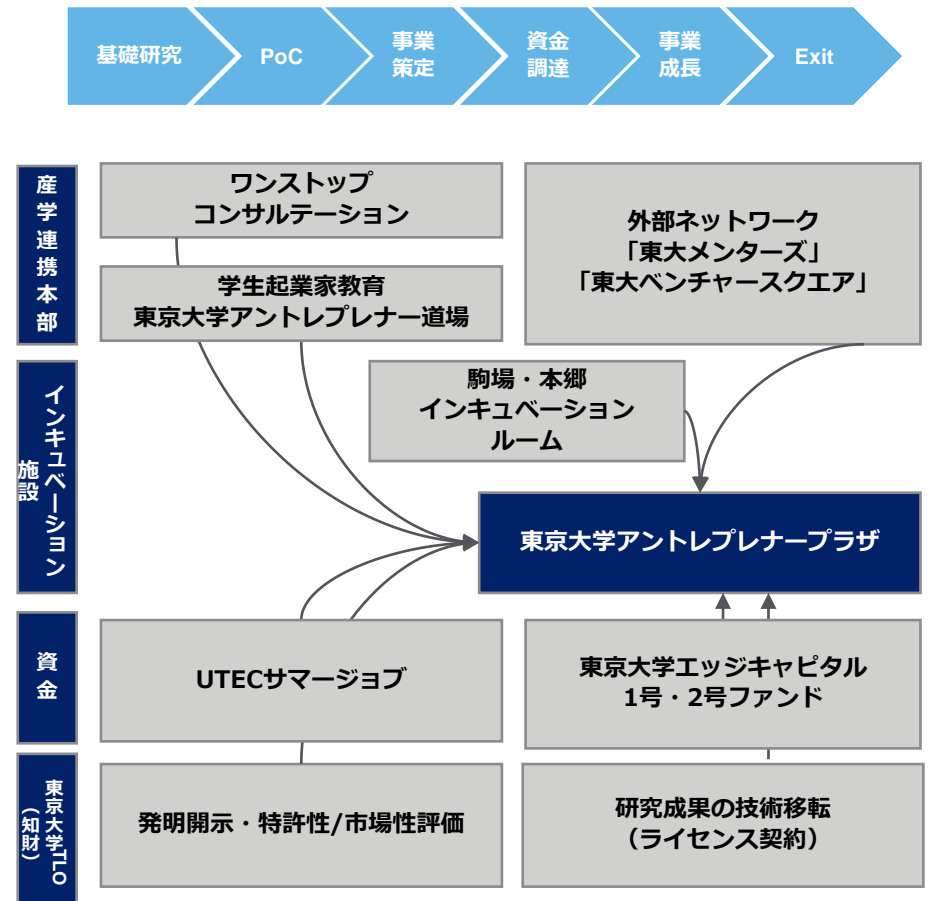
✓ 東京大学が構成する「面のエコシステム」の一部として、各機関と連携したイノベーション創出を図っている

特徴的な取組の紹介

特徴的な取組

- 事業化に向けた学内各機関の連携による面のエコシステムの形成
- 概要
 - ✓ ベンチャー創出に向けて大企業や経団連、VCとの連携に加えインキュベーション施設同士も相互に連携しエコシステムを形成している
- 連携内容
 - ✓ 入居企業はExitに向けて東京大学における下記の各機関から支援を受けることが可能
 - 東京大学のVCである東京大学エッジキャピタルによる資金提供支援
 - 東京大学TLOからの技術移転等を含む知財支援
 - 外部の専門家やOBからの事業相談

取組のイメージ※



※ 東京大学産学連携本部「大学発ベンチャー支援の今-これまでの成果と今後の取り組み課題」をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

- ✓ 慶應藤沢イノベーションビルでは自治体、地域の産業振興機関と連携することにより包括的に起業からExitに至るまでの支援を実現している

施設の概要

施設名	慶應藤沢イノベーションビル
大学名	慶應義塾大学
運営形態	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中小企業基盤整備機構が運営 ✓ 慶應義塾大学・神奈川県・藤沢市も運営に携わり支援を行っている
提供機能	<p>ヒト ✓ 事業計画策定、資金調達支援が可能な常駐の支援人材および事務員</p> <p>モノ ✓ 卒業生組織「メンター三田会」による事業相談</p> <p>✓ 学内外の企業や個人の方が大学、研究者との共同研究や技術相談を受けることが可能</p> <p>カネ ✓ 学内のSFCフォーラムファンド等と連携した調達支援を実施</p>
施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 慶應大学、中小機構、神奈川県、藤沢市及び地域の産業支援機関が一体となった施設運営を実施 ■ IPOや知財活用等の知見を有する専門家も施設内に在籍 ■ ヒト、モノ、カネ、情報等、入居者がビジネス展開する上で必要な支援を包括的に提供する
HP	https://www.smrj.go.jp/incubation/sfc-iv/



▲慶應藤沢イノベーションビル外観
神奈川県藤沢市遠藤4489-105



▲居室の様子
20室（2階）
各室 約20～45㎡



▲リフレッシュラウンジ&相談室

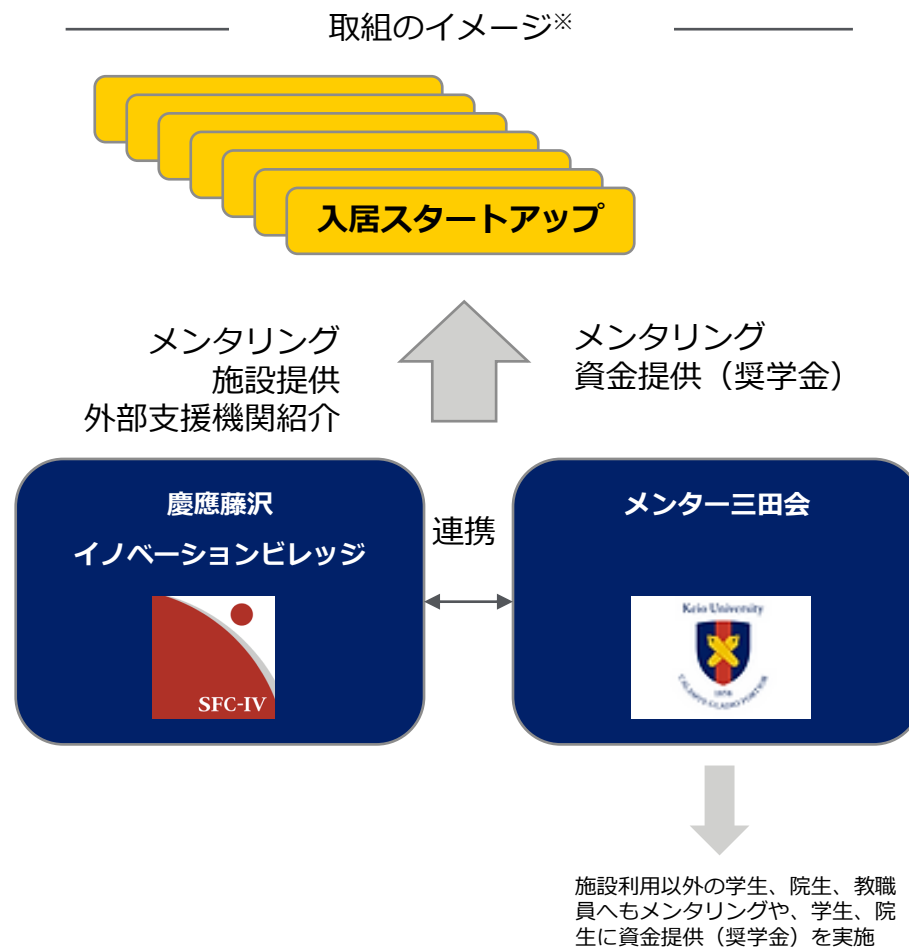
※ 出所：大学HP等

✓ 慶應藤沢イノベーションビレッジでは卒業生ネットワークを活用し、奨学金の提供・メンタリング等の支援を展開している

特徴的な取組の紹介

特徴的な取組

- 名称：卒業生による事業相談支援（メンター三田会）
- 概要
 - ✓ 大学卒業生により結成された団体で、起業を志す学生・院生に対して奨学金の提供や、学生・院生・教職員に対し、具体的事業アイデアについて、事業計画のブラッシュアップと実施段階でのアドバイスを行う
 - ✓ 商社・製造会社・金融会社・ソフトウェア会社・会計事務所など、多くの業界で実績を上げた卒業生が参加
- 特徴
 - ✓ 奨学金制度（エンジェル制度）
 - ・ 学生に対して起業のための資金を提供する
 - ・ 会員から数十万円の出資を募り組成
 - ・ 学生の返済義務は無し
 - ・ IT系やサービス系のベンチャー企業の創業は数百万で可能なため大きな効果をもたらしている



※ 各種公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

- ✓ 三重大学は、行政（津市のビジネスサポートセンター）やTLOと連携し、入居企業に対してヒト・モノ・カネの包括的な支援を実施している

施設の概要

施設名	地域イノベーション推進機構 キャンパス・インキュベータ
大学名	三重大学
運営形態	✓ 大学の施設であり、地域イノベーション推進機構直下の組織として大学が運営を担っている
提供機能	ヒト ✓ 法務、事業計画策定、技術支援が可能な支援人材を配置
	モノ ✓ 相談窓口、セミナー等のイベント ✓ 地域内産業支援機関、地域との連携、入居者への紹介
	カネ ✓ 外部ベンチャー投資家の紹介と資金調達支援
施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 津市ビジネスサポートセンター、株式会社三重ティールオーと連携した技術の権利化、経営、財務、法務、産学官連携等に関する助言等のサポート ■ インキュベーターを巣立った企業に対してもポスト・インキュベータ(次頁参照)という施設にて継続して成長支援を実施
HP	https://www.crc.mie-u.ac.jp/incu/indexi.html

※ 出所：大学HP等



▲三重大学
地域イノベーション推進機構キャンパス・インキュベータ外観
三重県津市栗真町屋町1577



▲居室の様子
2室 約48m²



▲居室の様子
2室 約31m²

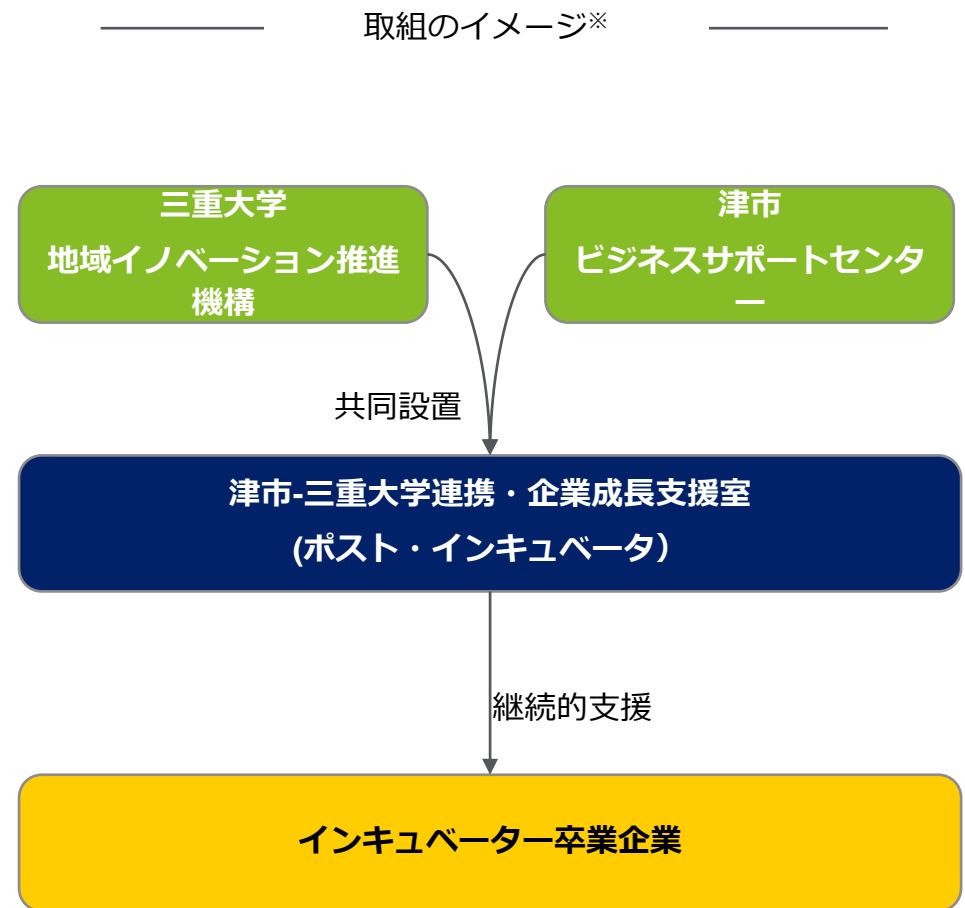
- ✓ 地域の自治体と連携し、インキュベーション施設の利用期間を終えた企業に対しても継続的に成長支援を実施することにより大学発スタートアップの成長を押し進めている

特徴的な取組の紹介

特徴的な取組

- 名称：津市-三重大学連携・企業成長支援室 (ポスト・インキュベータ)
- 概要
 - ✓ インキュベータの利用期間（原則1年以内、特に必要と認められた場合には、1年毎の審査で最長5年間の延長が可能）を終えた企業の支援策として津市-三重大学連携・企業成長支援室(ポスト・インキュベータ)をキャンパス・インキュベーター内に設立
 - ✓ 地域内企業と大学の交流の場としても機能
- 利用対象企業
 - ✓ 三重大学の教員や産学連携従事者との連携が継続している、もしくは必要な企業等
 - ✓ 「津市-三重大学連携・企業成長支援室」が適当と認められた企業
- 主な支援内容
 - ✓ 技術の権利化・経営・財務・法務・産学官連携等に関する助言等のサポート
 - ✓ 三重大学教職員等による技術についての助言等
 - ✓ 外部のベンチャー支援機関の紹介斡旋 等

取組のイメージ*



* 津市-三重大学連携・企業成長支援室ホームページをもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

【第2節】

国内民間企業等インキュベーション施設調査

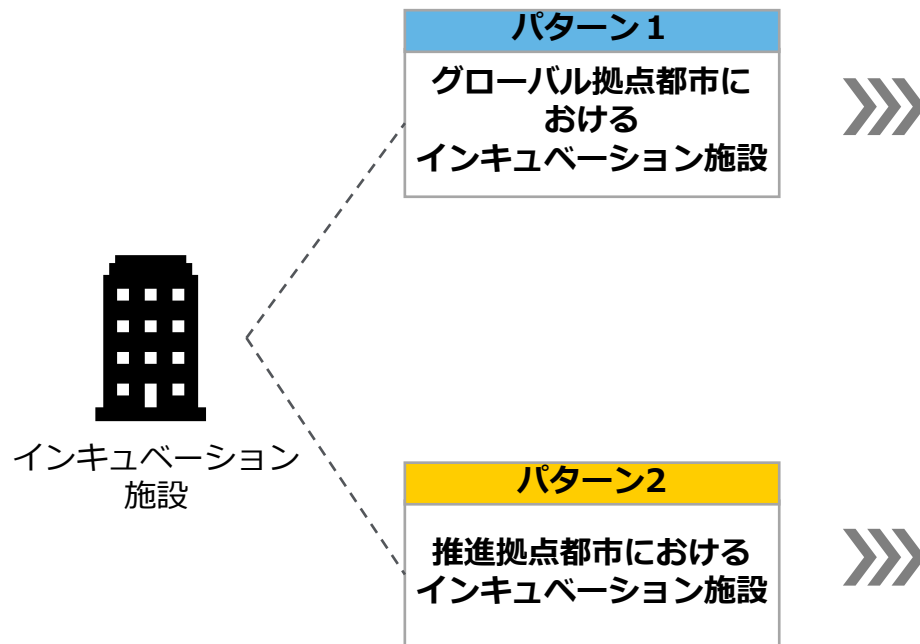
国内調査 民間企業等インキュベーション施設調査内容と目的

- ✓ インキュベーション施設がハブとなりスタートアップ・エコシステムに対して果たすべき役割を検討するために民間企業等インキュベーション施設を調査した

調査の目的・内容

調査の目的と内容

- インキュベーション施設がハブとなりスタートアップ・エコシステムに対して果たすべき役割を検討するために、現状のインキュベーション施設の実態を中心に調査をした
- エリアで取り巻く環境が異なることから、大きくグローバル拠点都市、推進拠点都市に分けて調査を実施した
- 調査はデスク調査及びオンラインインタビューで実施した



調査対象とした具体的な施設※

グローバル拠点都市の中心的な施設

施設名	エリア
CIC Tokyo	東京
ライフイノベーションセンター	神奈川
大阪イノベーションハブ (OIH)	大阪
クリエイティブラボ神戸	兵庫
ナゴヤイノベーターズガレージ	愛知
FUSE	浜松
FUKUOKA GROWTH NEXT	福岡

推進拠点都市における中心的な施設

施設名	エリア
SAPPORO Incubation Hub DRIVE	北海道
INTILAQ東北イノベーションセンター	宮城
イノベーション・ハブ・ひろしまCamps	広島
COMPASS小倉	北九州

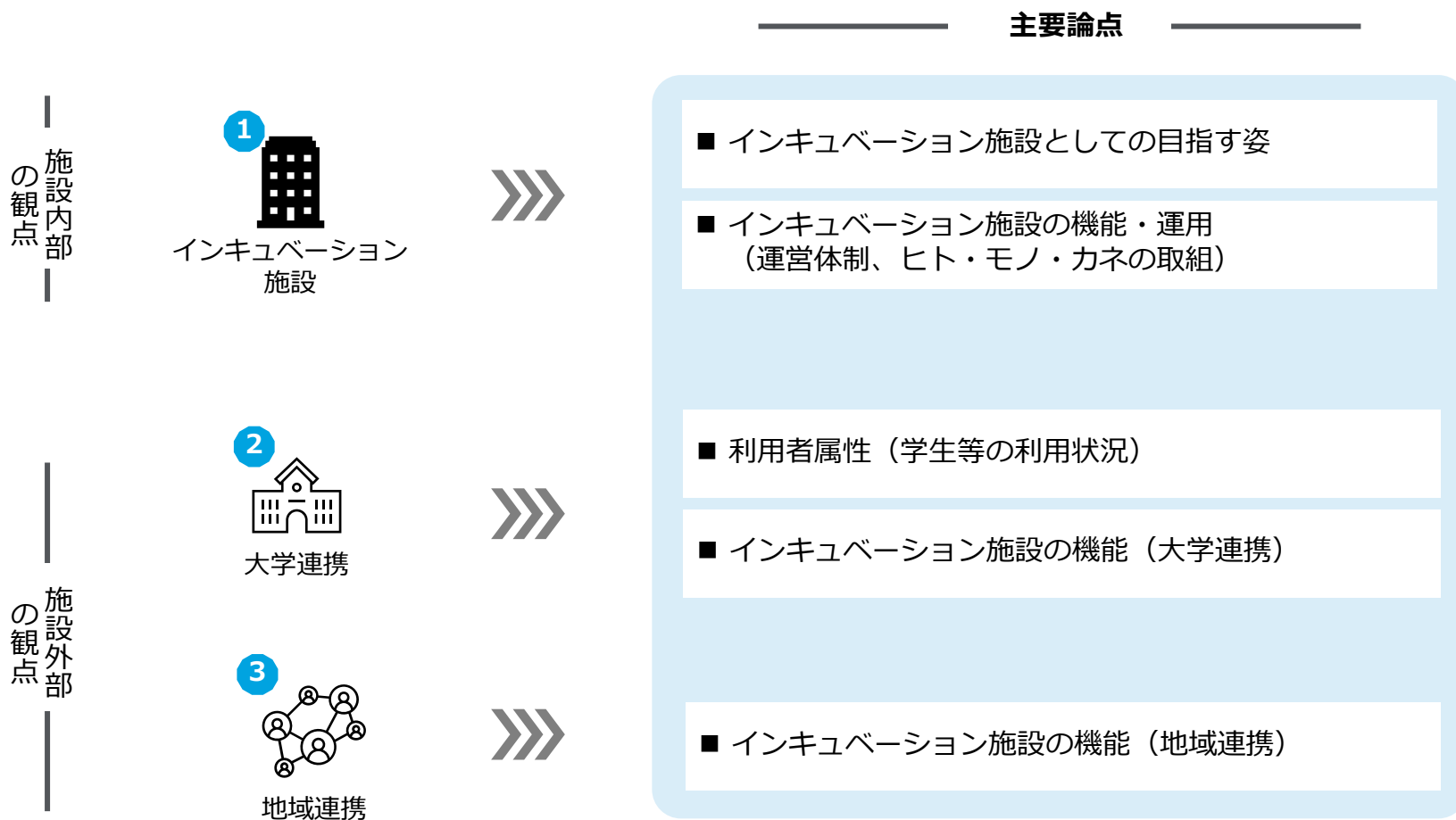
※ 文部科学省と有限責任監査法人トーマツとの協議の上選定

※ 以降の調査資料では、選定した施設の範囲内の調査結果に対する考察を示している

民間企業等インキュベーション施設の調査

✓ 施設の現状把握に向けては、施設自体（内部）の観点と、大学との連携、地域との連携等外部の観点で調査を行った

本調査での主要論点の整理



民間企業等インキュベーション施設の調査

- ✓ 民間企業等インキュベーション施設では学生も施設対象者としつつも、アントレ教育は展開されていない。大学インキュベーション施設と比較すると、実態はスタートアップの創出よりも成長支援が主になっている。大学インキュベーション施設で対応していない部分を民間企業等インキュベーション施設が補う傾向にある可能性が高い

調査のまとめ（施設内部の観点）

目指す姿・
運営体制

- スタートアップ創出・育成支援に特化している先とスタートアップだけに特化せずに、広く地域経済の活性化に向けた支援を目指している先に大きく分別される
- 民間企業等インキュベーション施設は行政が所有している事例が多く、実務の運営は民間事業会社等が関与している傾向にある。また民間企業等が所有している場合は、偏りが無い支援者を巻き込めるような地域の金融機関やメディア等が担っている

インキュベーション施設の
機能・運用

ヒト

- 民間企業からの出向者や外部専門家等の担当者等がスタートアップや起業予定者に対応している
- 一方で、支援人材の確保や属人的体制に課題を感じている

モノ

- 大学生へのアントレ教育はほとんど実施されていない
- 入居者以外に支援者にも入居機会を提供している施設は限られている
- 他地域や他施設との連携強化、大学インキュベーション施設との棲み分け等に課題を感じている

カネ

- 一部の施設では、独自ファンドや連携ファンドによる出資もあるが、全体の傾向としては、VC・補助金案内等の取組が主であり、ファンド機能の強化・VC等との連携強化に課題を感じている
- また、施設として安定収益の確保にも感じている

※ 支援者：資金調達や事業計画策定、創業に関する支援、地域や金融機関との連携等を支援可能な人材

民間企業等インキュベーション施設の調査

- ✓ グローバル拠点都市では大学や海外機関との連携事例が多いが、推進拠点都市はこれらの取組が一部確認できる程度である
- ✓ 全体の傾向として民間企業等インキュベーション施設における学生等の利用は少ない

調査のまとめ（施設外部の観点）

グローバル拠点都市

推進拠点都市

利用者属性

- 学生・研究者等の利用は見られるものの全体の傾向としては1割前後である
- 利用者の多くは既に起業をしたスタートアップやフリーランス、企業に所属した人であり、年齢層も30, 40代が中心層になっている

大学連携

- 大学シーズの紹介イベントや施設運営者の大学への出向、学生のインターンシップ受入、キャリアイベント等の取組が行われている

- 一部の施設では、大学へのハード提供等があるが、**グローバル拠点都市と比べると途上段階にある**

インキュベーション施設の機能

地域連携

- **海外機関との連携**は推進拠点都市よりも多い

- その他の支援者との連携は両都市においてあるものの、地方地域の特性上、**大企業やVC等は都市部に多い傾向にあり、推進拠点都市の方が少ない**

民間企業等インキュベーション施設の調査

- ✓ 施設の目指す姿から、支援施設の傾向として、スタートアップ創出育成支援に特化している施設と、スタートアップだけに特化せず、広く地域経済の活性化に向けた支援を目指している施設に大きく分別される

インキュベーション施設としての目指す姿※

施設名・(エリア)	主な活動目的	詳細まとめ	
グローバル拠点都市	CIC Tokyo・(東京)	スタートアップ創出・育成支援	■ 世界に繋がるイノベーションの発進基地として、スタートアップのグローバルでの成長を支援し、世界中のイノベーター・投資家・企業が集う場の創出を目指す
	ライフイノベーションセンター・(神奈川)	ライフサイエンス分野のスタートアップ支援	■ ライフサイエンス分野を中心としたスタートアップを支援するための場として、研究に集中できる環境や資金調達・人材確保等の支援を通じ、地域の発展に貢献することを目指す
	大阪イノベーションハブ・(大阪)	スタートアップ創出・育成支援	■ 「大阪から世界へ」をテーマに新たな事業の創出や成長を目指し、コミュニティの形成やビジネスプランの事業化をサポート。大阪・関西において起業家の創出・成長を支援する
	クリエイティブラボ神戸・(神戸)	ライフサイエンス分野のスタートアップ支援	■ ライフサイエンス分野に特化した研究開発型スタートアップのための場として、研究に集中できる環境や資金調達・人材確保等の支援を通じ、最終的に地域発展に貢献する
	ナゴヤイノベーターズガレージ・(名古屋)	地域の活性化(新ビジネス・新産業創出支援)	■ 地域全体の経済活性化に向けたきっかけの提供・支援拠点となることを目指す
	FUSE・(浜松)	地域の活性化(新ビジネス・新産業創出支援)	■ スタートアップに限らず、第二創業者、大企業、投資家など地域におけるプレイヤーが出会う場となることを目指す
	FUKUOKA GROWTH NEXT・(福岡)	スタートアップ創出・育成支援	■ スタートアップの聖地として、様々な界限の人が集まる場所となることを目指す
推進拠点都市	SAPPORO Incubation Hub DRIVE・(札幌)	地域の活性化(新ビジネス・新産業創出支援)	■ 地域の発展のために、偶発的な出会いを生み出す場所、ここに来れば必要なモノ・ヒトに出会えるという場を目指す
	INTILAQ東北イノベーションセンター・(仙台)	地域の活性化(新ビジネス・新産業創出支援)	■ 地域の発展に向けて起業家人材を生み出すことを目指す(またそれに向けては若年層からのアプローチが重要だと考え、この層へのアプローチを進めている)
	イノベーション・ハブ・ひろしまCamps・(広島)	地域の活性化(新ビジネス・新産業創出支援)	■ 地域のイノベーションを促進すべく、ハブとなることを目指す
	COMPASS小倉・(小倉)	スタートアップ創出・育成支援	■ 日本一起業家にやさしいまちをコンセプトに、創業支援窓口として適切な支援者とのネットワーク支援やアクセラ支援等を通じイノベーションのハブとして機能することを目指す

※ 施設インタビュー及びデスク調査等を踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

民間企業等インキュベーション施設の調査

- ✓ 民間企業等インキュベーション施設は行政がオーナーの事例が多く、実務の運営は民間事業会社等が関与している傾向にある
- ✓ 民間企業等がオーナーの場合は、偏りがない支援者を巻き込めるような地域の金融機関やメディア等が担っている

インキュベーション施設の運営体制

施設名・(エリア)	オーナー	実務 運営者	主な運営者							詳細まとめ
			不動産系	金融系	メディア・ 通信系	コンサル系	メーカー系	商社系	その他	
CIC Tokyo・(東京)	民間	民間	○	-	-	-	-	○	○	■ 米国CICの日本拠点としてCIC Japanと森ビルによる運営
ライフノベーションセンター・(神奈川)	行政	行政・ 民間	-	-	-	-	-	○	○	■ 神奈川県、ケイエスピー、バイオテックラボ等による運営
大阪イノベーションハブ・(大阪)	行政	行政・ 民間	-	-	-	○	-	-	-	■ 公益財団法人大阪産業局と支援プログラムの一部をトーマツが運営
クリエイティブラボ神戸・(神戸)	行政	民間	○	○	-	○	○	-	○	■ 神戸都市振興サービス(神戸市・中小企業基盤整備機構・医薬品メーカー・金融機関等で構成)及びリバネスによる運営
ナゴヤイノベーターズガレージ・(名古屋)	行政	民間	○	-	○	-	○	-	○	■ 名古屋市及び中部経済連合会及び同組織に所属する民間企業等から出向者等による運営
FUSE・(浜松)	民間	民間	-	○	-	-	-	-	-	■ 浜松いわた信用金庫による運営
FUKUOKA GROWTH NEXT・(福岡)	行政	民間	○	○	○	-	-	-	○	■ 福岡市支援施設運営委員会(福岡市、福岡地所、さくらインターネット、GMOペパボ等)による運営
SAPPORO Incubation Hub DRIVE・(札幌)	民間	民間	-	-	○	-	-	-	○	■ D2Garage(北海道新聞社と㈱デジタルガレージの合併会社)による運営(一部行政含む)
INTILAQ東北イノベーションセンター・(仙台)	民間	民間	-	-	-	-	-	-	○	■ 一般社団法人IMPACT Foundation Japanによる運営(一部仙台市のプログラムと連携)
イノベーション・ハブ・ひろしまCamps・(広島)	行政	民間	-	-	-	○	-	-	○	■ 広島県、トーマツ、クロスク、Hint、port.inc、ハートウォーミング・カンパニー等による運営
COMPASS小倉・(小倉)	行政	行政・ 民間	○	-	○	-	-	-	○	■ 北九州市、アバマンショップホールディングス、ABBALab、安川情報九州、Houyou、システムソフト、fabbit、あるあるcity)による運営

グローバル拠点都市

推進拠点都市

民間企業等インキュベーション施設の調査

- ✓ インキュベーション施設でのアクセラやメンタリング、ネットワーク支援等は多くの施設で確認できる。また支援者が入居する施設や、ファブ機能・ウェット機能、ファンドを保有する施設も存在する

インキュベーション施設の機能・運用（ソフト・ハード・カネの取組※1）

施設名・（エリア）	ソフト				ハード				カネ	
	アントレ教育	アクセラ	メンタリング	ネットワーキング	ファブ機能	ウェット機能	支援者入居	交流スペース	ファンド	VC紹介
CIC Tokyo・（東京）	△※3	○	○	○	-	-	○	○	-	○
ライフイノベーションセンター・（神奈川）	-	○	○	○	-	○	○	○	○	○
大阪イノベーションハブ・（大阪）	○	○	○	○	-	-	-	○	-	○
クリエイティブラボ神戸・（神戸）	-	○	○	○	-	○	-	○	-	○
ナゴヤイノベーターズガレージ・（名古屋）	-※2	○	○	○	-	-	-	○	-	○
FUSE・（浜松）	-	○	○	○	○	-	-	○	○	○
FUKUOKA GROWTH NEXT・（福岡）	-※2	○	○	○	-	-	○	○	○	○
SAPPORO Incubation Hub DRIVE・（札幌）	○	○	○	○	-	-	○	○	○	○
INTILAQ東北イノベーションセンター・（仙台）	-	○	○	○	-	-	-	○	-	○
イノベーション・ハブ・ひろしまCamps・（広島）	-	○	○	○	○	-	-	○	-	○
COMPASS小倉・（小倉）	-	○	○	○	-	-	○	○	-	○

グローバル拠点都市

推進拠点都市

ものづくりや研究活動を支援できる施設は限られる

施設入居支援者の入居は限られる

ファンドを持っている施設は限られる

※1 デスク調査等を踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理
 ※2 高校生以下の若年層へは実施
 ※3 アントレ教育のシンポジウム、アントレ教育に関する発信を実施

民間企業等インキュベーション施設の調査

- ✓ 学生の利用は確認できるものの、全体の傾向としては少ない傾向にある
- ✓ 一部の施設では大企業や土業者等の支援者の入居・利用が確認できる

施設の主な入居者（利用者）の有無※

施設名・（エリア）	施設の主な活動目的	学生等	スタートアップ	大企業等	アクセラレーター	VC	土業者	金融機関	行政機関	海外機関	補足（ヒアリングより）	
グローバル拠点都市	CIC Tokyo・（東京）	スタートアップ創出・育成支援	○	○	○	○	○	○	○	○	■ 学生、スタートアップ、大企業、投資家や土業者が入居	
	ライフイノベーションセンター・（神奈川）	ライフサイエンス分野のスタートアップ支援	○	○	-	○	-	-	-	-	■ 学生等の利用は少なく、スタートアップが大半	
	大阪イノベーションハブ・（大阪）	スタートアップ創出・育成支援	学生等の利用はあるものの、割合としては少ない	○	○	-	-	-	-	-	-	■ 入居スペースはない。スタートアップが中心で学生等は少ない
	クリエイティブラボ神戸・（神戸）	ライフサイエンス分野のスタートアップ支援		○	-	-	-	-	-	-	-	■ 学生等の利用は少なく、スタートアップが大半
	ナゴヤイノベーターズガレージ・（名古屋）	地域の活性化（新ビジネス・新産業創出支援）		○	-	-	-	-	-	-	-	■ 学生等に限らずスタートアップ、中小企業の経営者等様々で学生等は少ない
	FUSE・（浜松）	地域の活性化（新ビジネス・新産業創出支援）		○	-	-	-	-	-	-	-	■ 学生等の大学関係者の利用者は全体の2割程度。学生には特別料金での提供
	FUKUOKA GROWTH NEXT・（福岡）	スタートアップ創出・育成支援		○	○	-	-	○	○	-	-	■ 学生等の利用は全体の1割未満
推進拠点都市	SAPPORO Incubation Hub DRIVE・（札幌）	地域の活性化（新ビジネス・新産業創出支援）		○	○	-	-	○	-	○	-	■ 学生等の利用は全体の3割程度、全体の6割がスタートアップ
	INTILAQ東北イノベーションセンター・（仙台）	地域の活性化（新ビジネス・新産業創出支援）		○	○	-	-	-	○	-	-	■ 学生等の利用はほとんどなく、社会人の利用が大半である
	イノベーション・ハブ・ひろしまCamps・（広島）	地域の活性化（新ビジネス・新産業創出支援）	○	○	○	-	-	-	-	-	■ 学生等の利用は全体の1割程度である年代で見ると40代の利用が多い	
	COMPASS小倉・（小倉）	スタートアップ創出・育成支援	○	○	○	-	-	○	-	-	■ 学生等の利用は全体の1割程度 ■ スタートアップだけでなく支援者も入居対象	

※ 施設インタビュー及びデスク調査等を踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

民間企業等インキュベーション施設の調査

- ✓ グローバル拠点都市の方が推進拠点都市よりも大学との連携事例が確認できる。主な連携内容は、イベントのほか、シーズ共有やインターン受け入れ、視察受け入れ、人事交流等があるが、全施設で実施されてはならず大学との連携は途上段階である

大学との連携状況・内容※

施設名・(エリア)	イベント	アントレ教育	シーズ共有	インターン等	人事交流	詳細まとめ	
グローバル拠点都市	CIC Tokyo・(東京)	○	-	○	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学と共同のトークシリーズやオンラインセミナーの開催 ■ 大学研究シーズを紹介するイベントの実施、大学との交流 等
	ライフイノベーションセンター・(神奈川)	-	-	○	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクト単位での大学やビジネススクールとの連携
	大阪イノベーションハブ・(大阪)	○	-	○	-	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業家との交流機会の提供(域内大学からそれぞれ数名ずつ推薦) ■ 大学研究シーズの把握と産業界への紹介
	クリエイティブラボ神戸・(神戸)	○	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 修士～ポスドクを対象にキャリアイベントを実施し施設入居企業との交流等を通じ、起業という選択肢を検討する機会を提供
	ナゴヤイノベーターズガレージ・(名古屋)	○	若年層へは実施	○	○	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学シーズ紹介イベントの実施 ■ 大学からの授業としての視察の受け入れ 等
	FUSE・(浜松)	-	-	-	-	○	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学との協定締結による大学への出向(帰還後はインキュベーション業務に従事)
	FUKUOKA GROWTH NEXT・(福岡)	-	若年層へは実施	-	○	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学生インターン生の受入 ■ 市内小中学校へのアントレ教育の実施 等
推進拠点都市	SAPPORO Incubation Hub DRIVE・(札幌)	-	○	-	○	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施設が保有しているコンテンツを大学に組み込み、単位化できるよう進めている 等
	INTILAQ東北イノベーションセンター・(仙台)	-	若年層へは実施	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若年層を対象にしたアントレ教育を実施
	イノベーション・ハブ・ひろしまCamps・(広島)	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学の不足を補完できればと考えてはいるが、実質的な連携は現時点ではなく、途上段階である
	COMPASS小倉・(小倉)	-	-	-	○	-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北九州市立大学からの要望で当施設をハードとして学生に提供

※ デスク調査等を踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

民間企業等インキュベーション施設の調査

施設外部の観点

- ✓ 海外機関との連携は、グローバル拠点都市では進んでいる傾向にあるが、推進拠点については途上段階である
- ✓ 一方、その他については、都市関係なく連携が来ている

地域との連携状況※

施設名・(エリア)	大企業	アクセラレーター	VC	士業者	金融機関	起業家	海外機関
グローバル拠点都市	CIC Tokyo・(東京)	○	○	○	○	○	○
	ライフイノベーションセンター・(神奈川)	○	○	○	○	○	-
	大阪イノベーションハブ・(大阪)	○	○	○	○	○	○
	クリエイティブラボ神戸・(神戸)	○	○	○	○	○	-
	ナゴヤイノベーターズガレージ・(名古屋)	○	○	○	○	○	-
	FUSE・(浜松)	○	○	○	○	○	-
	FUKUOKA GROWTH NEXT・(福岡)	○	○	○	○	○	○
推進拠点都市	SAPPORO Incubation Hub DRIVE・(札幌)	○	○	○	○	○	-
	INTILAQ東北イノベーションセンター・(仙台)	○	○	○	○	○	-
	イノベーション・ハブ・ひろしまCamps・(広島)	○	○	○	○	○	-
	COMPASS小倉・(小倉)	○	○	○	○	○	○

グローバル拠点都市・推進拠点都市問わず、支援者との連携は確認できる

※ 施設インタビュー及びデスク調査等を踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

民間企業等インキュベーション施設の調査

- ✓ 両都市の施設においてファンド機能やVC等との連携等の資金支援の面と、施設として安定収益の確保が課題と認識されている。モノについては、他地域や他施設との連携が課題と認識されている一方、大学との連携については一部では課題認識があるものの全体としてはあまり課題認識されていない

各施設が課題として認識している主な内容※

施設名・(エリア)	ヒト		モノ	カネ		
	機能面	事務面		施設の運営資金関連	支援資金関連	
グローバル拠点都市	ライフイノベーションセンター・(神奈川)	■ -	■ -	■ 他施設・他地域との連携強化 ■ 高入居率の回避(新規入居機会の提供)	■ -	■ ファンド機能の強化
	大阪イノベーションハブ・(大阪)	■ -	■ -	■ 他コワーキングスペース等関連施設との連携強化	■ 施設としての安定収益の確保	■ VCとの連携強化(投資機能強化)
	クリエイティブラボ神戸・(神戸)	■ 支援人材の幅と数の確保	■ -	■ -	■ 施設としての安定収益の確保	■ -
	ナゴヤイノベーターズガレージ・(名古屋)	■ -	■ 属人的ネットワークの解消	■ スタートアップの活動拠点の拡充	■ -	■ VCや地銀との更なる連携
	FUSE・(浜松)	■ -	■ -	■ -	■ 施設としての安定収益の確保	■ -
	FUKUOKA GROWTH NEXT・(福岡)	■ 支援人材の巻き込み	■ -	■ 大学インキュベーション施設との棲み分け	■ 施設としての安定収益の確保	■ ミドル以降のステージに投資できる地場VCの確保
推進拠点都市	SAPPORO Incubation Hub DRIVE・(札幌)	■ -	■ 属人的ネットワークの解消	■ 他コワーキングスペース等関連施設との連携強化	■ 施設としての安定収益の確保	■ VC等の外部連携先の拡大
	INTILAQ東北イノベーションセンター・(仙台)	■ 起業家の更なる増加	■ -	■ -	■ 施設としての安定収益の確保	■ -
	イノベーション・ハブ・ひろしまCamps・(広島)	■ シーズに対する目利力強化	■ -	■ 大学との連携強化	■ -	■ -
	COMPASS小倉・(小倉)	■ -	■ -	■ -	■ 施設としての安定収益の確保	■ -VCや地銀との更なる関係構築

※ 施設インタビュー及びデスク調査等を踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

民間企業等インキュベーション施設 取組事例の紹介

- ✓ 小学校の跡地に設置された半官半民のインキュベーション施設
- ✓ メンタリング・育成プログラムに加え、独自のファンドを持ち、入居企業を中心に資金面でも支援を展開している

Fukuoka Growth Next 概要

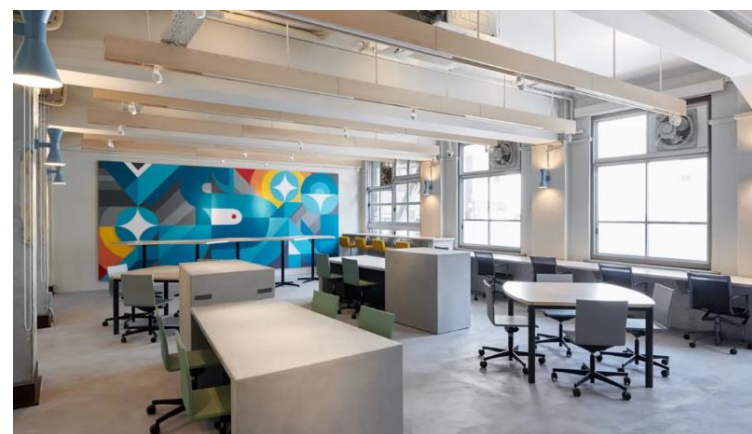
施設名	Fukuoka Growth Next
運営者	福岡市スタートアップ支援施設運営委員会 (福岡市、福岡地所(株)、さくらインターネット(株)、GMOペパボ(株))
運営形態	半官半民
提供機能	ヒト ✓ 事業経験者、各分野の専門家等のメンターの配置
	モノ ✓ 成長ステージに合わせた教育・アクセラプログラム ✓ 周辺コワーキング施設との連携 ✓ 相談会、セミナー等のイベント
	カネ ✓ ファンド (FGN ABBA Lab) 組成による出資
施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ FGN ABBA Labによる出資やアクセラレーションプログラムを通じたVCへの紹介等、資金面での支援が充実 ■ 市の中心部に位置し、周辺エリアに点在している学生やスタートアップ、支援者が集まりやすい環境
HP	https://growth-next.com/

※ 出所：FGNサイト、各種2次サイト

▼外観



▼コワーキングスペース

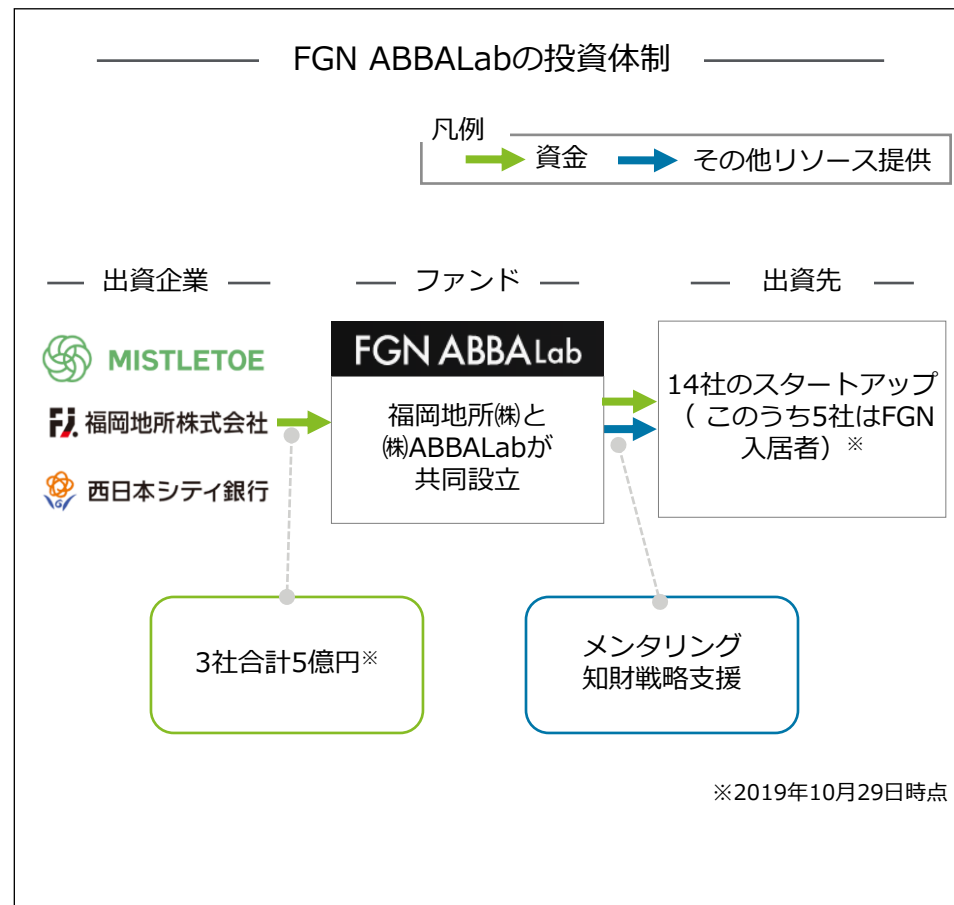


- ✓ 施設内にファンド担当者が常駐し、必要な時に相談できる体制を整備。VCの多くは東京に立地しており、福岡まで目が届きにくいという状況を払しょくしている

Fukuoka Growth Nextの取組事例 (独自ファンドによるスタートアップへの出資)

独自ファンドによる主な取組

- 名称：FGN ABBA Labファンド
 - ✓ FGN運営事業者である福岡地所(株)と(株)ABBA Labが共同で設立したVC「FGN ABBA Lab」によるもの
- 投資対象
 - ✓ 主にプレシード～シリーズAのアーリーステージ
 - ✓ 投資領域は限定せず、世の中を変革をもたらすようなアイデアを持ったスタートアップへ投資
- 提供サービス
 - ✓ 資金の提供：スタートアップそれぞれの成長段階に応じ、300万円～最大2億円の投資
 - ✓ 支援・メンタリング：FGN内にスタッフが常駐し、いつでも必要な時に支援・メンタリングを提供
 - ✓ 知財戦略：支援先全体の知財戦略を考える専門組織が、CIPO（知的財産最高責任者）の育成を支援



※ 出所：FGN ABBA Labサイト

- ✓ 公営のインキュベーション施設であるOIHでは、主にソフト面でのスタートアップ支援を担い、コワーキングスペース等のハード面は周囲の民間事業者に取り次ぐことで、地域のエコシステム形成を促している

OSAKA INNOVATION HUB 概要

施設名	OSAKA INNOVATION HUB
運営者	公益財団法人大阪産業局
運営形態	公営
提供機能	<p>ヒト ✓ 大学・大企業・VC等パートナーは350社以上 (2013年からの累積実績)</p> <p>モノ ✓ 新たな事業の創出やスケールアップにつながるイベント・プログラム(年間約250回) - 起業前から海外展開までスタートアップの成長段階に応じて設計</p> <p>✓ 無料法律相談</p> <p>カネ ✓ VC・CVCとの連携</p>
施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主にソフト面(イベント開催・プログラム実施)の支援を担い、コワーキングスペース等のハード面は周囲の民間事業者に取り次ぐ ■ 大学の技術シーズの社会実装・事業化に関するプログラムも手掛ける
HP	https://www.innovation-osaka.jp/ja/

※ 出所：OIHサイト

スタートアップは会員になるとソフト・ハード双方の特典を利用できる

ソフト



- ピッチ登壇の機会
 - 投資家や大企業に出会えるピッチイベントに登壇可能



- 限定イベントの参加
 - OIH会員向け限定イベント(ピッチや各種セミナー、イベントなど)に参加可能



- イベントの実施
 - イノベーション創出を目的としたイベントを主催可能(OIHと共催が条件)

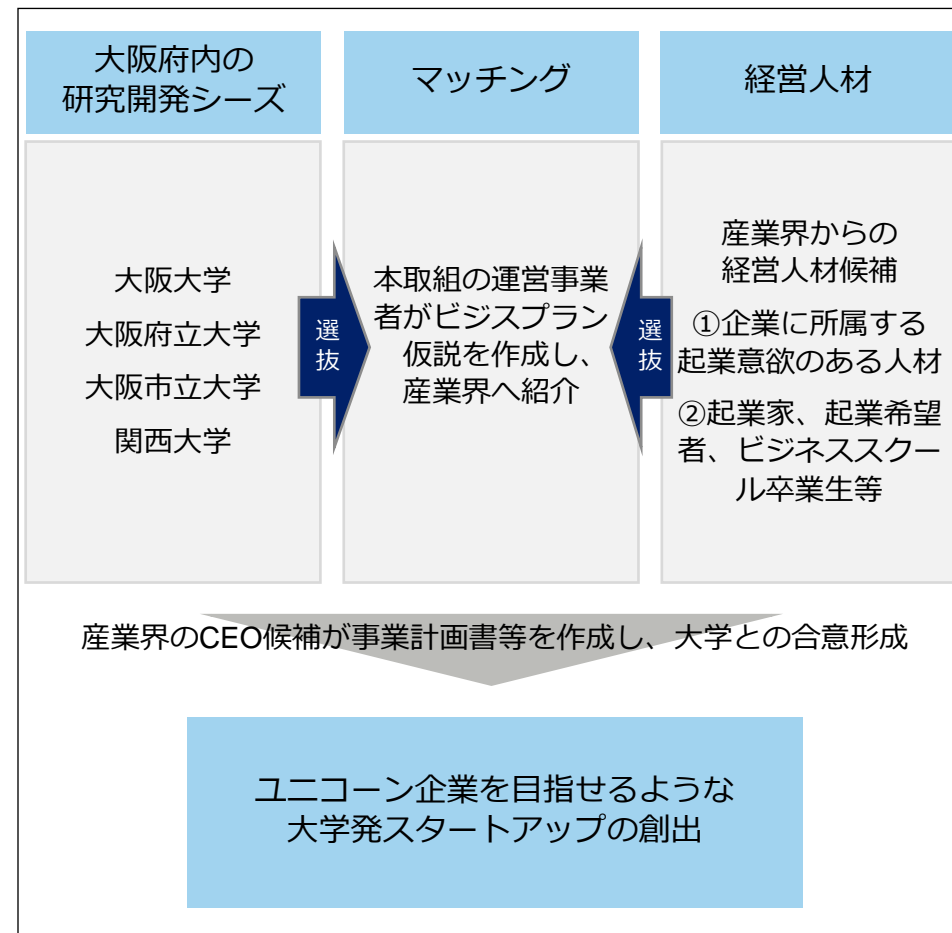
ハード

- OIHスペースの利用
 - 打ち合わせや作業にイノベーションベースが利用可能
- 事業PRのできる場の提供
 - 国際カンファレンスHack Osaka等PRの場を提供

- ✓ 日本でも有数の大学の集積地である特色を活かし、産業界とも連携して、大学発スタートアップ創出をめざす取組を推進している

OSAKA INNOVATION HUBの取組事例 (大学の技術シーズと産業界の経営人材のマッチング)

名称	OIH大学発スタートアップ創出プロジェクト https://www.innovation-osaka.jp/ja/oih/su/sangaku-university/
参画大学	大阪大学、大阪府立大学、大阪市立大学、関西大学
概要	大阪府内の研究開発シーズと産業界からの経営人材候補のマッチングにより、大学発スタートアップの創出をめざす
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本取組は、大学発スタートアップの課題（CEOに資する人材が不足、研究活動の利益相反、外部とのネットワーク不足等）の課題を解決し、かつ産業界とアカデミアをつなぐ日本初の取組である ■ 本取組に参画するシーズは、起業に対して前向きである応用研究以降のもののみを収集 ■ 収集したシーズは、本取組の運営事業者がビジネスプラン仮説を作成し、その内容を産業界に共有（議論の呼び水となるものを作成） ■ 産業界は事業シナジー、経営人材育成、財務リターン等のメリットを検討し、自社社員を出向という形で、スタートアップの設立、成長にCEOとして参画させる



- ✓ 民営のインキュベーション施設であるCIC Tokyoは、世界9都市に拠点を持つ特徴を活かし、グローバルなコミュニティ構築を促進している

CIC Tokyo 概要

施設名	CIC Tokyo
運営者	CIC Japan合同会社
運営形態	民営
提供機能	ヒト ✓ 行政機関、専門家（弁理士、弁護士、会計士、マーケティング等）との連携
	モノ ✓ CICの世界9都市の拠点と連携 ✓ オフィス・コワーキング施設の提供 ✓ 相談窓口、セミナー等のイベント
	カネ ✓ VC・CVCとの連携
施設の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界9都市に国内外のスタートアップ起業、VC、アクセラ、大企業、学術研究機関、政府・自治体、土業を含む専門家が集積するエコシステムを形成 ■ 全世界のCIC入居スタートアップによる資金調達は2020年に24億ドルを達成
HP	https://jp.cic.com/

※ 出所：CIC Tokyoサイト

▼CIC Tokyoが入居する
虎ノ門ヒルズビジネス
タワー



▼キッチンスペース兼
イベントスペース
(300人収容可)



▼コワーキングスペース



✓ 日本最大級のイノベーションコミュニティを目指し、イベントの開催や連携先の拡大・関係強化を進めている

CIC Tokyoの取組事例

CIC Tokyoでの代表的なイベント等

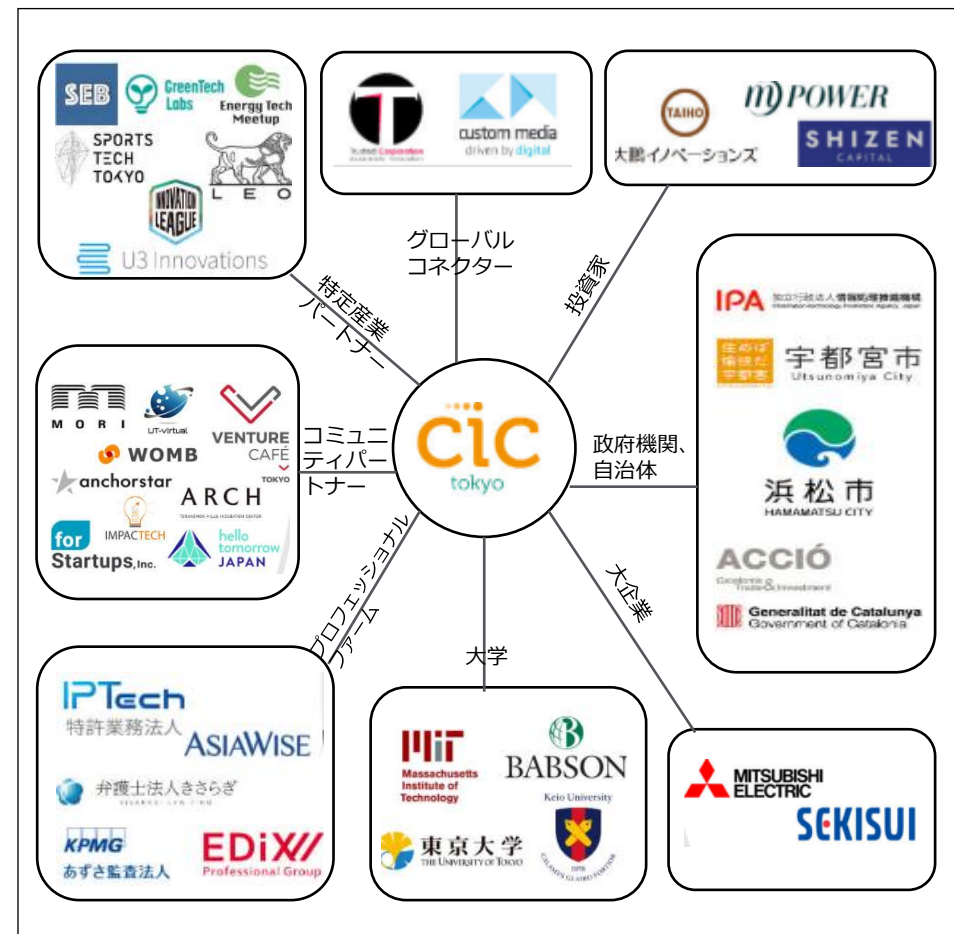
ピッチイベント

- ROCKET PITCH NIGHT
 - ✓ バブソン大学の「3分3スライド」というピッチ形式をもとにした名物イベント
 - ✓ 登壇者100人、参加者1,000人を目指す(2021年11月開催分)
- 分野別ピッチ
 - ✓ 姉妹団体Venture Café Tokyoと連携し、ライフサイエンス、環境エネルギー分野等のピッチイベントを開催

ネットワーク

- Venture Café Tokyo
 - ✓ 姉妹団体Venture Café Tokyoがネットワーキングイベント「Thursday Gathering」を毎週開催
 - ✓ つくば、名古屋等にも展開。2020年には累計で年間1万5千人以上の参加が見込まれる
- グローバルネットワーク
 - ✓ CICの世界9都市の拠点とネットワークを形成し、国際展開をサポート

CIC Tokyo連携先一覧



※ 出所：CIC Tokyoサイト

【第3節】 海外都市調査

- ✓ グローバル拠点都市、推進拠点都市の参考になる海外大都市及び地方都市は、人口規模、スタートアップ創出、アントレ教育の実績や、インキュベーション施設がハブとなった取組が展開されている都市を条件に検討した

調査対象とする海外都市の選定方法について

➤ モデルとして選定する都市の条件①

都市の人口規模がグローバル拠点・推進拠点都市に相当し、スタートアップ創出の実績、アントレ教育、インキュベーション施設の活動が確認できること

グローバル拠点都市の参考にする海外都市の主な条件

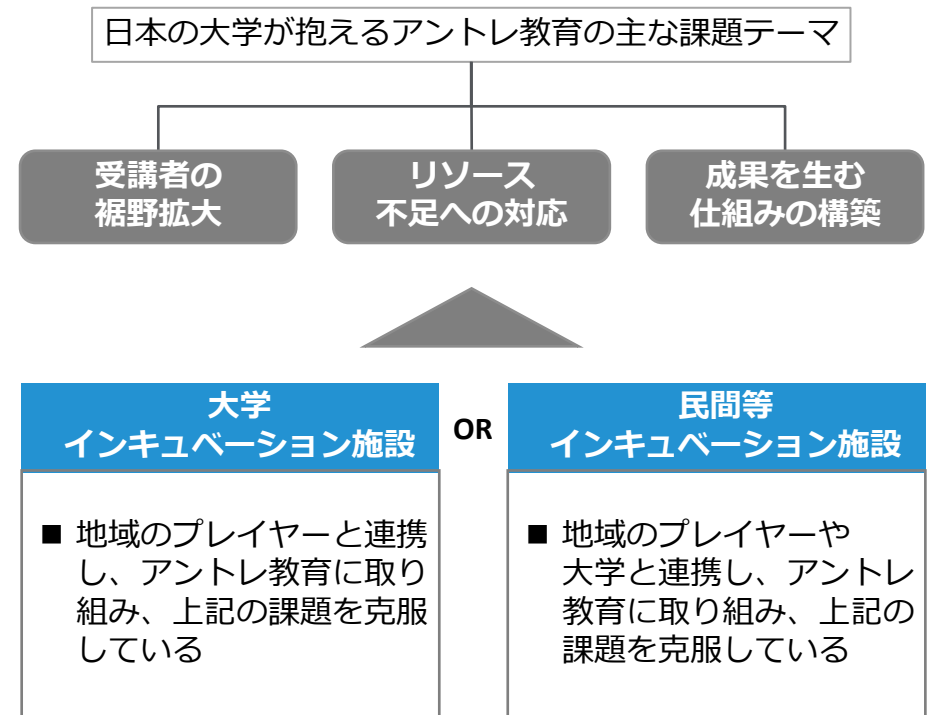
- 人口規模
500万人程度の都市
- スタートアップ創出の実績がある
- アントレ教育の取組やインキュベーション施設での特徴的取組がある
- 海外機関との連携がある 等

推進拠点都市の参考にする海外都市の条件

- 人口規模
100万人以下の都市
- スタートアップ創出の実績がある
- アントレ教育の取組やインキュベーション施設での特徴的取組がある
- 地域産業との連携がある 等

➤ モデルとして選定する都市の条件②

現状の日本の大学におけるアントレ教育の課題に対し、大学インキュベーション施設・民間等インキュベーション施設がハブとなり取り組みが確認できる都市



✓ 簡易調査から、世界的にも認められており、ハブ機能を発揮しているインキュベーション施設が存在する都市を選定した

調査対象都市の選定_都市

都市候補	都市の主な特徴	主なインキュベーション施設の概要	調査目的として妥当な都市か
ロンドン (英国)	<ul style="list-style-type: none"> ■ Fintech系の学生等による起業が盛ん。政府が後押し ■ 学生同士がビジネスについて考え始め試行錯誤できる環境・機会を提供 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ White City Incubator (インペリアル・カレッジ・ロンドン) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生等に対し、知識向上、専門家とのマッチングを含む6週間のプログラムを提供 等 	事前簡易調査にて、他都市との取組内容を鑑み、本都市は今回の詳細調査対象から除外
ボストン (米国)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハーバード大学・MIT等世界有数の大学が集積 ■ バイオ領域でのアカデミアからの起業実績が多数 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Harvard Innovation Labs (ハーバード大学) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生のアイデアをベンチャーに育てるための基礎的なワークショップを提供し、学生コミュニティの形成を促進 等 	大学インキュベーション施設で醸成から事業化まで一連の取組が実施されており、民間インキュベーション施設への海外機関等の入居も進んでいることから、詳細調査対象とする
北京 (中国)	<ul style="list-style-type: none"> ■ AIやFintech領域に強み ■ 毎年20万人の大学卒業生が輩出され、人的リソースが豊富 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ TUS STAR (清華大学) <ul style="list-style-type: none"> ➢ TUS STARが清華大学に限らず中国全土に150以上のインキュベーション拠点を設立し、地域エコシステムを結ぶ全国ネットワークを構築。2017年まで、5000以上のスタートアップを創出 等 	事前簡易調査にて、他都市との取組内容を鑑み、本都市は今回の詳細調査対象から除外
シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ■ グローバル企業、vcが多く集積 ■ シンガポール国立大学等の大学、学生との協業関係を積極的に形成 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ NUS Enterprise @ Singapore Science Park (NUS) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 施設の卒業生組織を組成しアドバイザー契約を締結し、メンタリングを提供 等 	大学インキュベーション施設が、大学でのアントレ教育後の受け皿として設立されており、国策により民間インキュベーション施設との集積も進んでいることから、詳細調査対象とする

⋮

✓ 簡易調査から、世界的にも認められており、ハブ機能を発揮しているインキュベーション施設が存在する都市を選定した

調査対象都市の選定_都市

都市候補	都市の主な特徴	主なインキュベーション施設の概要	調査目的として妥当な都市か
オースティン (米国)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハイテク産業が集積し、豊富なテック系人材プールをもつ ■ 世界的なスタートアップイベントSXSWの開催地 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Austin Technology Incubator (テキサス大学オースティン校) <ul style="list-style-type: none"> - 全米で最も歴史があるインキュベーション施設。約100名のメンターを擁する 等 	<p>大学インキュベーション施設で醸成から事業化まで一連の取組が実施されており、民間インキュベーションとの連携も見られることから、詳細調査対象とする</p>
リヨン (フランス)	<ul style="list-style-type: none"> ■ バイオ、モビリティに強み ■ 政府施策フレンチテックにおいて、13の拠点都市の1つに選出 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ La Fabrique de l'Innovation (リヨン大学) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生や研究者による学際的なチームを組成し、企業の課題に関与するプログラムを提供 等 	<p>事前簡易調査にて、他都市との取組内容を鑑み、本都市は今回の詳細調査対象から除外</p>
オウル (フィンランド)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ノキアの城下町であり無線通信技術に強み ■ 産学官連携アライアンスも存在 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Tellus (オウル大学) <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生コミュニティ、学生と企業が協働して課題解決策を作るプログラムを提供する組織の活動拠点でもある 等 	<p>大学インキュベーション施設が大学内外の組織の活動拠点となっており、民間インキュベーションにおいて地域産業に資する取組も実施されていることから、詳細調査対象とする</p>

⋮

- ✓ 前頁の条件をもとに、今回の調査では、大都市としてボストン・シンガポール、地方都市としてオースティン・オウルを対象とした

調査対象とした都市※1

	都市の概要	アントレ教育	地域エコシステムとの連携
グローバル拠点都市の参考にする海外都市	ボストン（米国） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 人口：約488万人※2 ※2 大ボストン都市圏として ➢ 有数のスタートアップを輩出するほか、ハーバード大学、バブソン大学等、地域に100以上の教育機関が密集 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 醸成からアントレ教育後の事業化段階まで一連のプログラムを実施 等 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">大学インキュベーション施設</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">民間インキュベーション施設</div> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 大企業やvcとのネットワーキング支援、資金提供の機会を提供 等 ➢ スタートアップの他に海外機関、大企業、vc、土業者、アクセラレーター等が入居 等
	シンガポール <ul style="list-style-type: none"> ➢ 人口：約550万人 ➢ グローバル企業・vcが多く集積しシンガポール国立大学等の大学、学生と積極的に協業関係を形成し、アジアのスタートアップ拠点としても注目されている 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外スタートアップでのインターンを終えた学生の受け皿として機能する他、事業化段階でもサポート ➢ 民間企業とプログラムの共同開発や資金提供等を実施 等 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 民間インキュベーション施設が大学インキュベーション施設近くに設置され、プログラムの共同開発や資金提供等を実施 等
推進拠点都市の参考にする海外都市	オースティン（米国） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 人口：約96万人 ➢ 全米で最も歴史あるインキュベーション施設が存在。ハイテク産業の集積素地として、クリーンテック、AI等の分野で注目されている 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 大手金融機関やトップアクセラレーターと連携し教育やアクセラ、資金提供を実施 等 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 外部と連携し様々なテーマに対応できるメンター陣を整備 等 ➢ リバースピッチを通じ、学生へのプロモーション活動（施設入居）やネットワーキングの機会を提供 等
	オウル（フィンランド） <ul style="list-style-type: none"> ➢ 人口：約20万人 ➢ オウル市による起業促進策により、エンジニアによるスタートアップが次々と誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 大学生未満を対象にしたアントレ教育プログラムを実施 等 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 他大学学生や社会人も利用可能であり、企業と学生の協働プログラムも提供 等 ➢ 実証実験のフィールドを用意 ➢ 大学、行政、民間企業等によるアライアンスにより産学連携を促進 等

※1 条件に該当する都市は下記記載都市以外にもあり得るが、今回の調査目的は、現状の国内のアントレ教育の課題に対し、示唆を得られるような取組事例を海外都市から得ることであり、世界の都市を網羅的に調査することが目的ではない

今回調査した大学・民間企業等 インキュベーション施設の動き（都市型）

✓ 大学インキュベーション施設では、アントレ教育や起業アイデア段階での資金支援、コミュニティ形成や支援者への入居機会等を提供。一方民間企業等インキュベーション施設でも同様の支援に加え、事業化に向けたより実践的な支援を行っている

大学・民間等インキュベーション施設の主な動き（都市型）

	アントレプレナーシップの醸成	アントレプレナーシップの発揮	事業化
	動機付け・意識醸成段階 コンピテンシーの形成段階	社会実践段階	アントレ教育後
学生等※1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎知識・スキルの習得 ■ 志を同じくする仲間の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践スキルの習得 ■ 専門家との人脈構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各専門家、メンターとの相談機会の獲得
入居者	<既に起業した先輩起業家や企業や士業者等のメンター等にとって> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有望なスタートアップ候補への早期接触 <学生にとって> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動拠点の確保、相談先・ネットワーク機会の獲得、資金調達機会の獲得 		<起業した学生にとって> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要リソースへのアクセスが可能 ・ 活動拠点の確保 ・ 資金調達機会の獲得
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ アントレ教育プログラムの実施 ・ スタートアップ支援者への入居機会提供 ・ コミュニティ形成 		リソース別で次頁に整理
民間企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部とのネットワーキング機会の提供 ・ メンターによるメンタリングの実施 ・ 起業アイデアに対する投資 		
支援者※2	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント・セミナーの開催 ・ スタートアップだけでなく支援者への入居機会の提供 		<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセラプログラム、実証実験施設・機会の提供、エンジニアリングラボ ・ アクセラプログラムの提供・資金提供 ・ ネットワーク（海外含む）支援
外部連携先	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターとしての関与 ・ 講師としての関与 ・ 保有するネットワーキングの提供 ・ インキュベーション施設への入居 ・ 寄附活動 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保有設備や機材等のハードの提供 ・ 実証フィールドの提供 ・ 資金の提供

※1 研究者等の起業を志す人

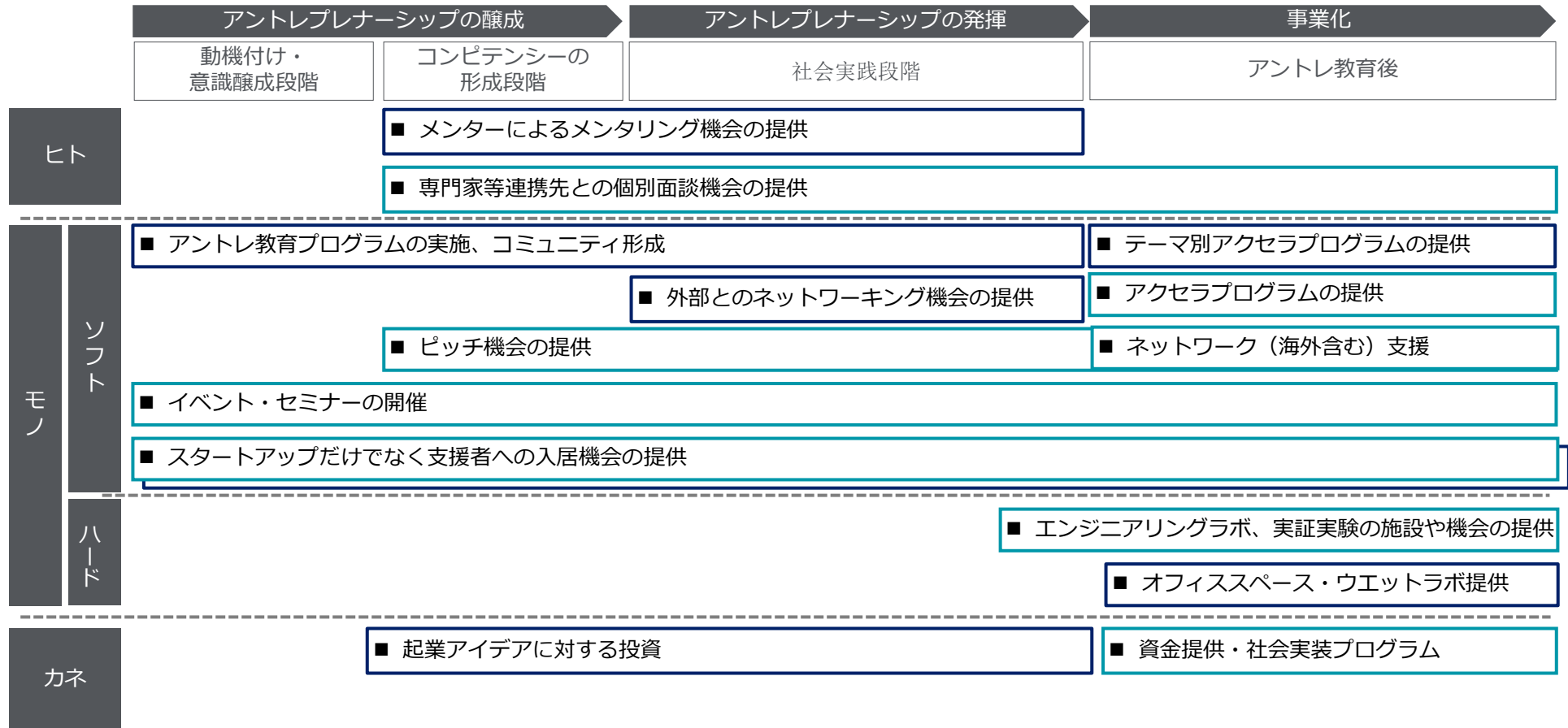
※2 大企業、投資家、金融機関、スタートアップ、アクセラレーター、士業者、起業家、行政機関等

今回調査した大学・民間企業等 インキュベーション施設の動き（都市型）

✓ 全体の大きな傾向として、大学インキュベーション施設では、アントレプレナーシップの醸成～発揮段階、民間企業等インキュベーション施設では、アントレプレナーシップの発揮～事業化のフェーズでの支援が多い

リソース別の支援状況 主な事例の整理

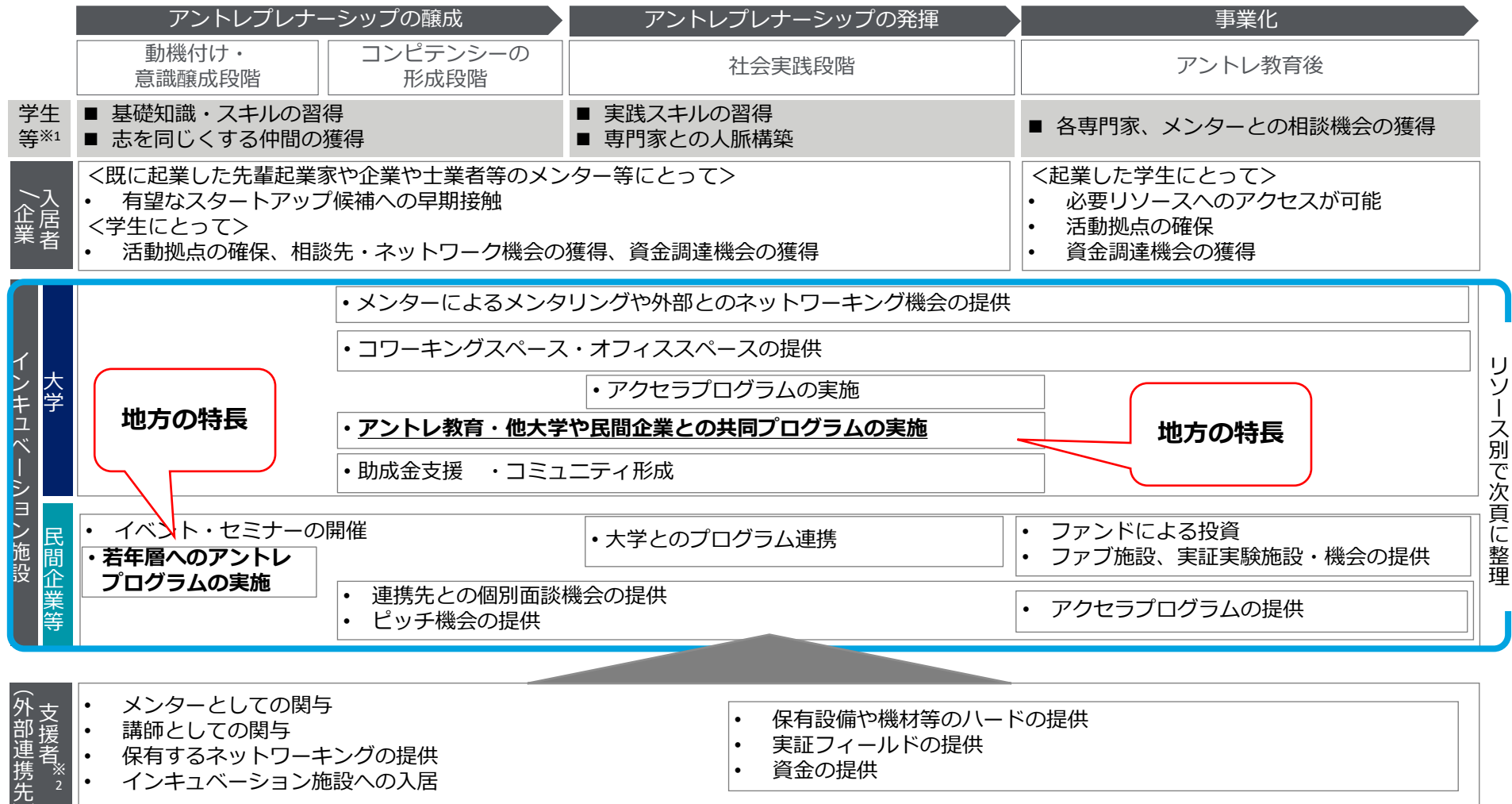
- 大学インキュベーション施設の取組
- 民間企業等インキュベーション施設の取組



今回調査した大学・民間企業等 インキュベーション施設の動き（地方型）

- ✓ 都市型と比較し、相対的にリソースや人口が少ないため、他大学や民間企業との共同プログラムの取組、大学とのプログラム連携、若年層へのアントレ教育活動による裾野拡大等を推進している

大学・民間等インキュベーション施設の主な動き（地方型）



リソース別で次頁に整理

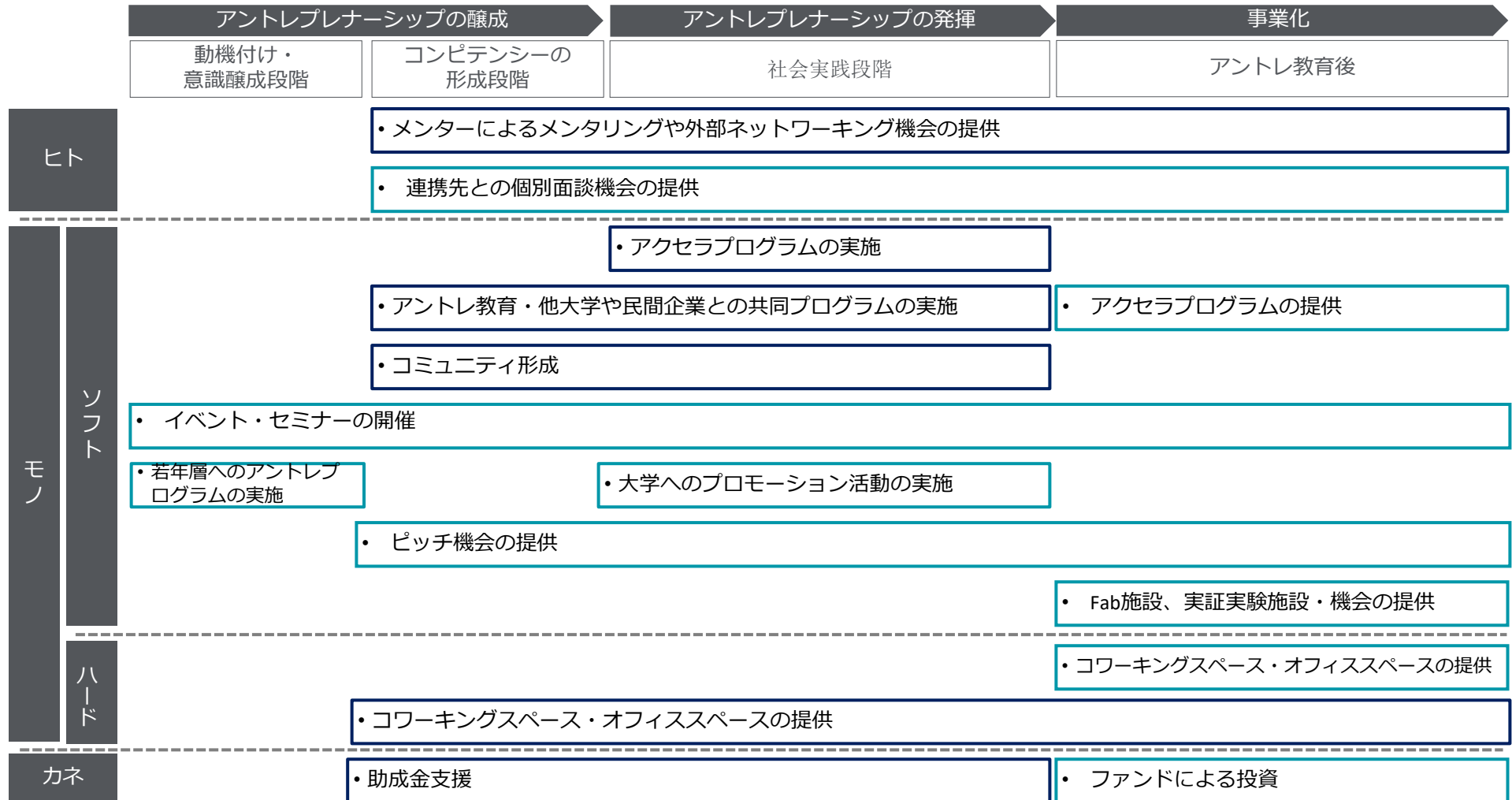
※1 研究者等の起業を志す人
 ※2 大企業、投資家、金融機関、スタートアップ、アクセラレーター、士業者、起業家、行政機関等

今回調査した大学・民間企業等 インキュベーション施設の動き（地方型）

✓ 都市型と同様、大学インキュベーション施設ではアントレプレナーシップの醸成～発揮段階、民間企業等インキュベーション施設ではアントレプレナーシップの発揮～事業化のフェーズの支援が多い。地方型は若年層へのアントレ教育や大学へのプロモーション活動による学生の巻き込み等、裾野拡大や大学連携面でのソフト面の取組が特徴

リソース別の支援状況 主な事例整理

- 大学インキュベーション施設の取組
- 民間企業等インキュベーション施設の取組



ボストン・シンガポール・オースティン・オウル

➤ 都市の概要

- ・人口、GDP、スタートアップ数等の定量情報、エコシステムの主たるプレイヤーの概要
- ・物理的地理的に見た都市の全体地図
- ・インキュ施設を軸にしたアントレ教育エコシステム全体像

➤ 都市の詳細情報

- ・代表的なインキュ施設の概要と各フェーズでの主な活動
- ・具体的なインキュ施設の各フェーズでの主な活動及び特徴的な取組

- ✓ 世界トップクラスの学術・研究機関が集積しており、アカデミア発のスタートアップ数は、カリフォルニア州に次ぐものとなっている

ボストン 都市※の概要

都市の特徴

人口※1	488万人 (2020年)
名目GDP※2,3	66兆円 (2019年)
スタートアップ業界での主力産業	ライフサイエンス

スタートアップ数（新規開業数）※2	2,620 (2017年)
アカデミア発スタートアップ数※2	97 (2017年)
IPO数※2	15 (2019年)

主要大学※4の学生数	68,663人 (2020年)
主要大学※4の教員数	7,430人 (2020年)

インキュベーション施設数※2	99 (2015年)
----------------	---------------

アーリー段階の資金調達総額※3	7,040億円 (2020年)
-----------------	--------------------

エコシステムの主たる顔ぶれ

大学 (学生・教職員)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界トップクラスの学術・研究機関が集積し、バイオ・ライフサイエンス分野に加え、クリーンテック、ロボティクス分野で圧倒的な技術力・専門性がある - ハーバード大学、MIT、バブソン大学
スタートアップ (インキュベーション施設入居企業)	<ul style="list-style-type: none"> ■ BtoB向けかつ技術系のスタートアップが多数 ■ イフサイエンス・バイオの年間資金調達額・件数は全米トップ(1,100億円・175件) (2015年実績) - Editas Medicine (ハーバード大学発。遺伝子編集技術の開発) - Momenta Pharmaceuticals (MIT発。医薬品開発)
インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界最大規模のインキュベーション施設・アクセラレーターが同一地区に集積 - Cambridge Innovation Center(CIC) - Mass Challenge
支援者 (外部連携先)	<ul style="list-style-type: none"> ■ MITがあるKendall Squareに、世界的大企業が、バイオ・ライフサイエンス分野に関連する最先端の研究開発拠点を設置 ■ CIC全体（ボストン以外も含む）では、7,000億円の投資規模となるVCやエンジェル投資家が協力

※ 行政区画の「ボストン市」「ケンブリッジ市」双方を含む ※1 Boston-Cambridge-Newton metropolitan areaの値 ※2 マサチューセッツ州（人口689万人）の値

※3 The Global StartupEcosystem Report GSER 2021をもとに1ドル=110円換算で作成 ※4 ハーバード大学、MIT、ボストン大学の値

179 出所：Statista、アメリカ商務省センサス局、MassTech報告書、大学サイト等

- ✓ MITやハーバード大学のあるケンブリッジ地域やボストン中心街を中心に約3,000社のスタートアップが半径約2.5kmのエリアに集積している

ボストンのエコシステムマップ



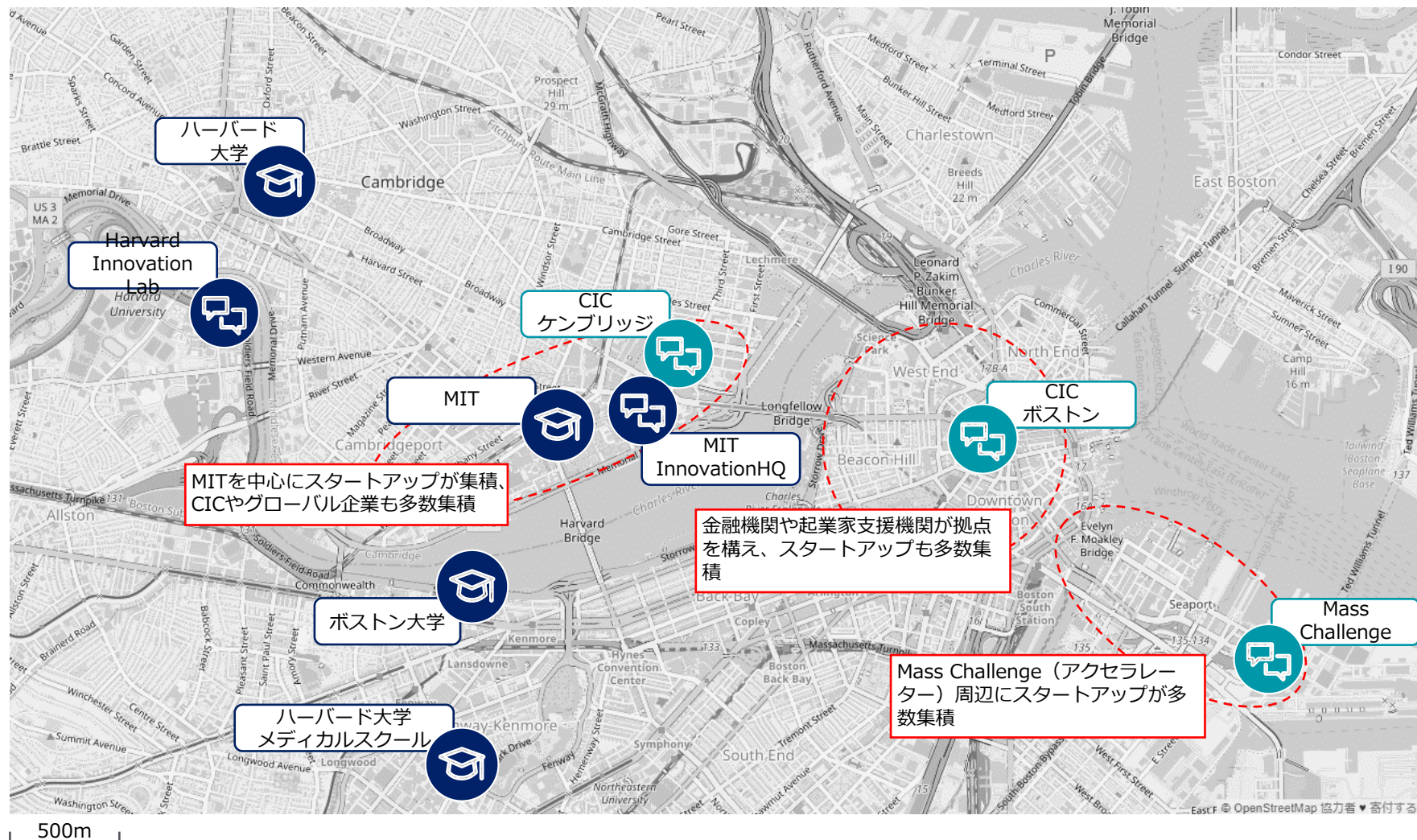
大学



大学インキュベーション施設

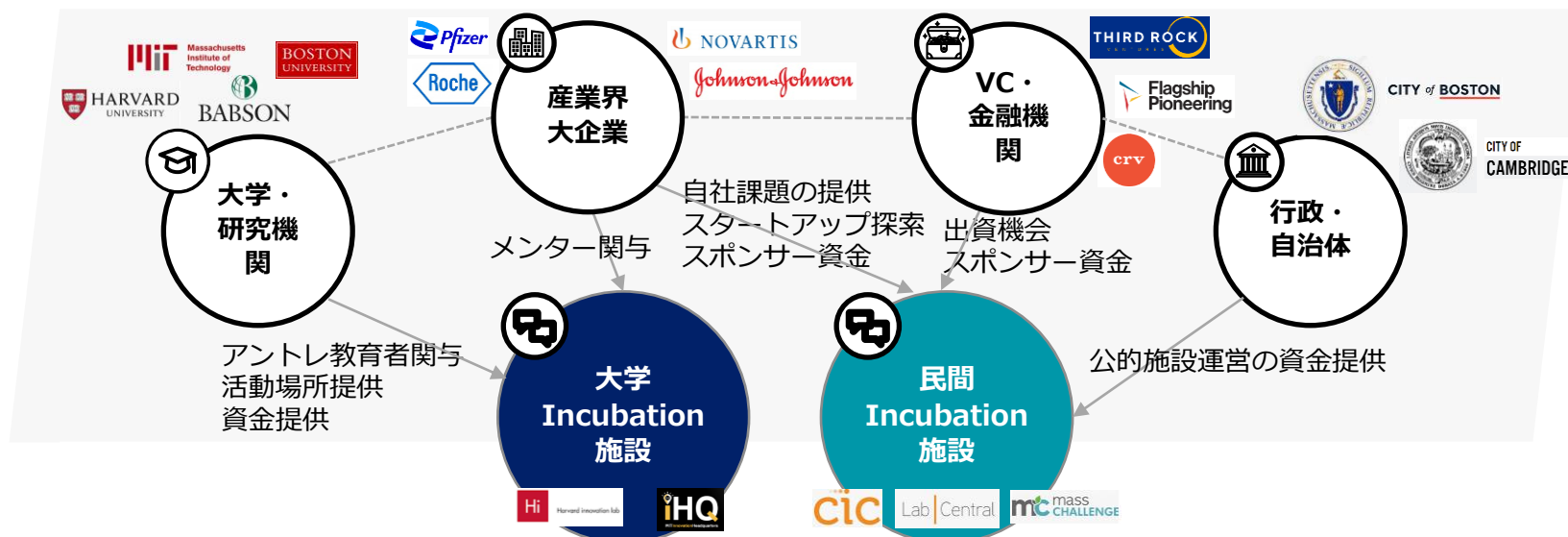


民間インキュベーション施設等



✓ ボストンでは、大学・研究機関が有望な研究シーズを事業化する風土が醸成されており、インキュベーション施設がハブ機能として大企業やVC等の外部連携機関とのネットワーク、資金提供の機会等を生むことでテック系スタートアップの成長を促すエコシステムが形成されている

ボストンのエコシステム



起業ワークショップ

- 自学生へのアントレ教育
- 他大学連携のポスドクの起業助言
- プロトタイプ開発支援

学生コミュニティ

- 起業に興味ある学生同士をつなぐイベント開催
- 起業家(学生・OB)とのネットワーク

資金提供

- 起業アイデアに対する投資

オフィス提供

- シェア型研究室(ウェットラボ)による事業立ち上げ後の研究開発環境の提供
- 世界有数の企業が集まるインキュベーション施設の提供

産業界マッチング

- 多様な外部機関を集め、イノベーターの交流促進
- スタートアップへのサービス・アプリ開発支援



✓ ボストンでは、大学・研究機関が有望な研究シーズを事業化する風土が醸成されており、インキュベーション施設がハブ機能として大企業やVC等の外部連携機関とのネットワーキング、資金提供の機会等を生むことでテック系スタートアップの成長を促すエコシステムが形成されている

ボストンのエコシステム

大学 Incubation 施設

	Harvard Innovation Labs (i-Lab)
	MIT Innovation Initiative
	マサチューセッツ工科大学
	ハーバード大学
	ボストン大学
	バブソン大学
	ファイザー
	ロシュ・ダイアグノスティクス
	ジョンソン・エンド・ジョンソン
	ノバルティス

大学 研究 機関

産 業 界 大 企 業

民間 Incubation 施設

	CIC
	Lab Central
	MassChallenge
	サードロックベンチャーズ
	フラッグシップ・パイオニアリング
	crv
	ボストン市
	ケンブリッジ市

VC・ 金融 機関

行政 ・ 自治 体

起業ワークショップ

- 自学生へのアントレ教育
- 他大学連携のポスドクの起業助言
- プロトタイプ開発支援

学生コミュニティ

- 起業に興味ある学生同士をつなぐイベント開催
- 起業家（学生・OB）とのネットワーキング

資金提供

- 起業アイデアに対する投資

オフィス提供

- シェア型研究室（ウェットラボ）による事業立ち上げ後の研究開発環境の提供
- 世界有数の企業が集まるインキュベーション施設の提供

産業界マッチング

- 多様な外部機関を集め、イノベーターの交流促進
- スタートアップへのサービス・アプリ開発支援

学生

起業

スタート
アップ

アントレプレナーシップの醸成

アントレプレナーシップの発揮

事業化

ボストン・シンガポール・オースティン・オウル

➤ 都市の概要

- ・人口、GDP、スタートアップ数等の定量情報、エコシステムの主たるプレイヤーの概要
- ・物理的地理的に見た都市の全体地図
- ・インキュ施設を軸にしたアントレ教育エコシステム全体像

➤ 都市の詳細情報

- ・代表的なインキュ施設の概要と各フェーズでの主な活動
- ・具体的なインキュ施設の各フェーズでの主な活動及び特徴的な取組

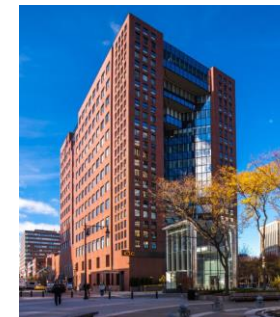
- ✓ 大学インキュベーション施設はアントレ教育プログラムを提供すると共に、ネットワーキングの機会を提供。民間インキュベーション施設もネットワーキング、コミュニティ形成を重視している

ボストン 代表的な施設の総括

大学インキュベーション施設 Harvard Innovation Lab	
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> ハーバード大学の13の学部・大学院が連携し、2011年設立 ハーバード大学の学部生・大学院生・卒業生を支援対象とする 過去10年間で、本施設から4,700人以上の創業者が誕生。40億ドル以上の資金を調達
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 学生に対し、Venture Programというアントレプレナーシップの醸成・発揮段階に該当するプログラムを提供 プレシード期のスタートアップを経営する卒業生に対しても、起業家による講演やワークショップ、ネットワーキングの機会を提供



民間インキュベーション施設 Cambridge Innovation Center	
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> マサチューセッツ工科大学(MIT)ビジネススクール卒業生により1999年設立。MITから貸与された大学隣接のビルを使用し、近隣にも複数の拠点を持つ 現在では東京を含む世界 9都市で展開。約8,000のクライアントを支援し、137 億ドルの投資・調達に結び付けている
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 非営利組織Venture Café Foundationを立ち上げ、多数の起業家のネットワーク作りやアイデア共有のためのイベントを企画 施設にはスタートアップだけでなく、大企業、VC、専門家等が入居。別フロアの入居者とも知り合えるようハード面での仕掛けを講じ、コミュニティ形成の重要性を意識

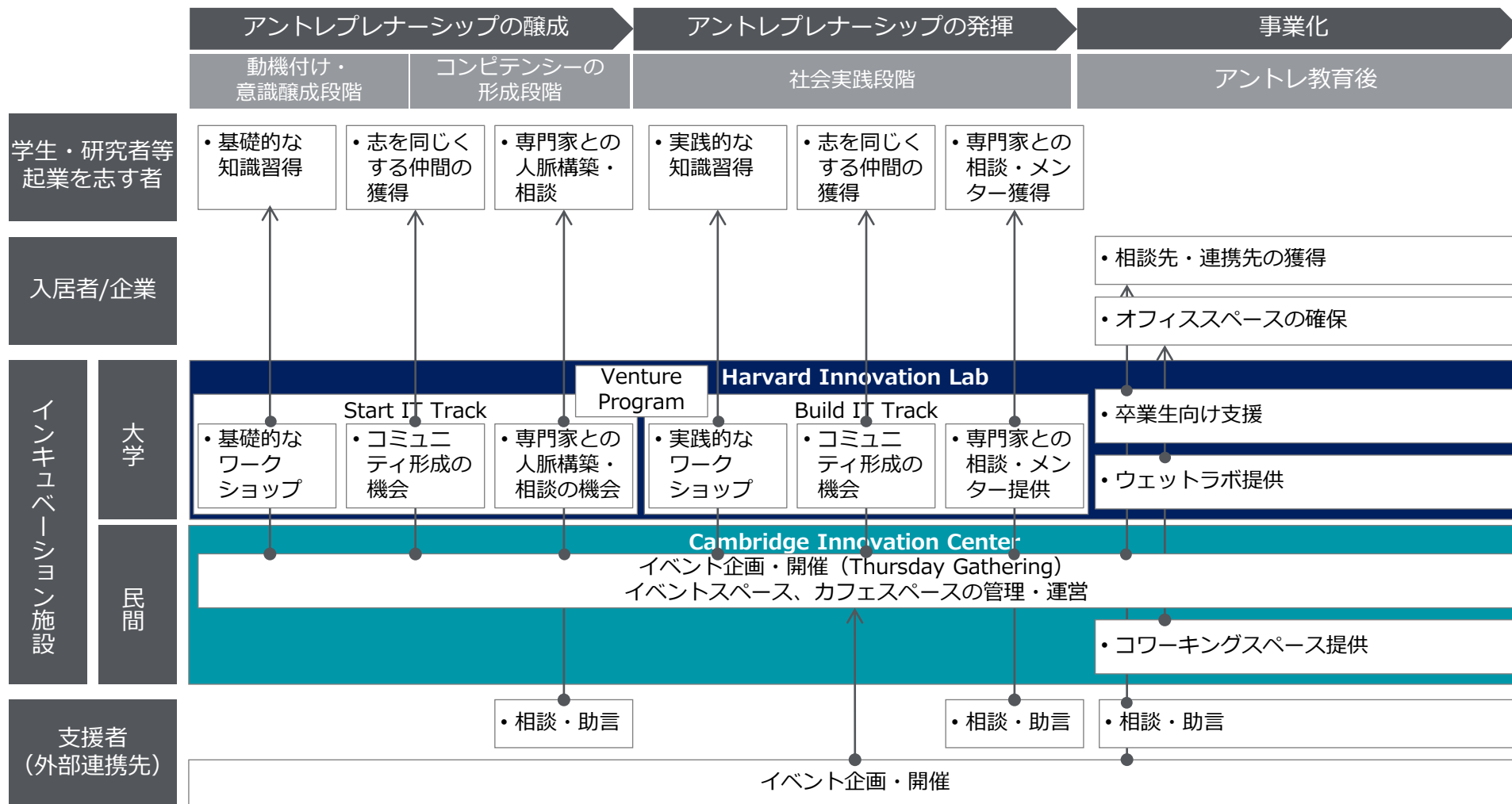


※ 出所：各施設サイト、各種2次サイト

✓ 大学インキュベーション施設が、醸成から事業化まで一貫して支援を行う他、民間インキュベーション施設も支援者（外部連携先）をとりまとめてコミュニティを形成している

ボストン 代表的な施設の総括

ボストン-6 ボストン-8 のページをもとに作成

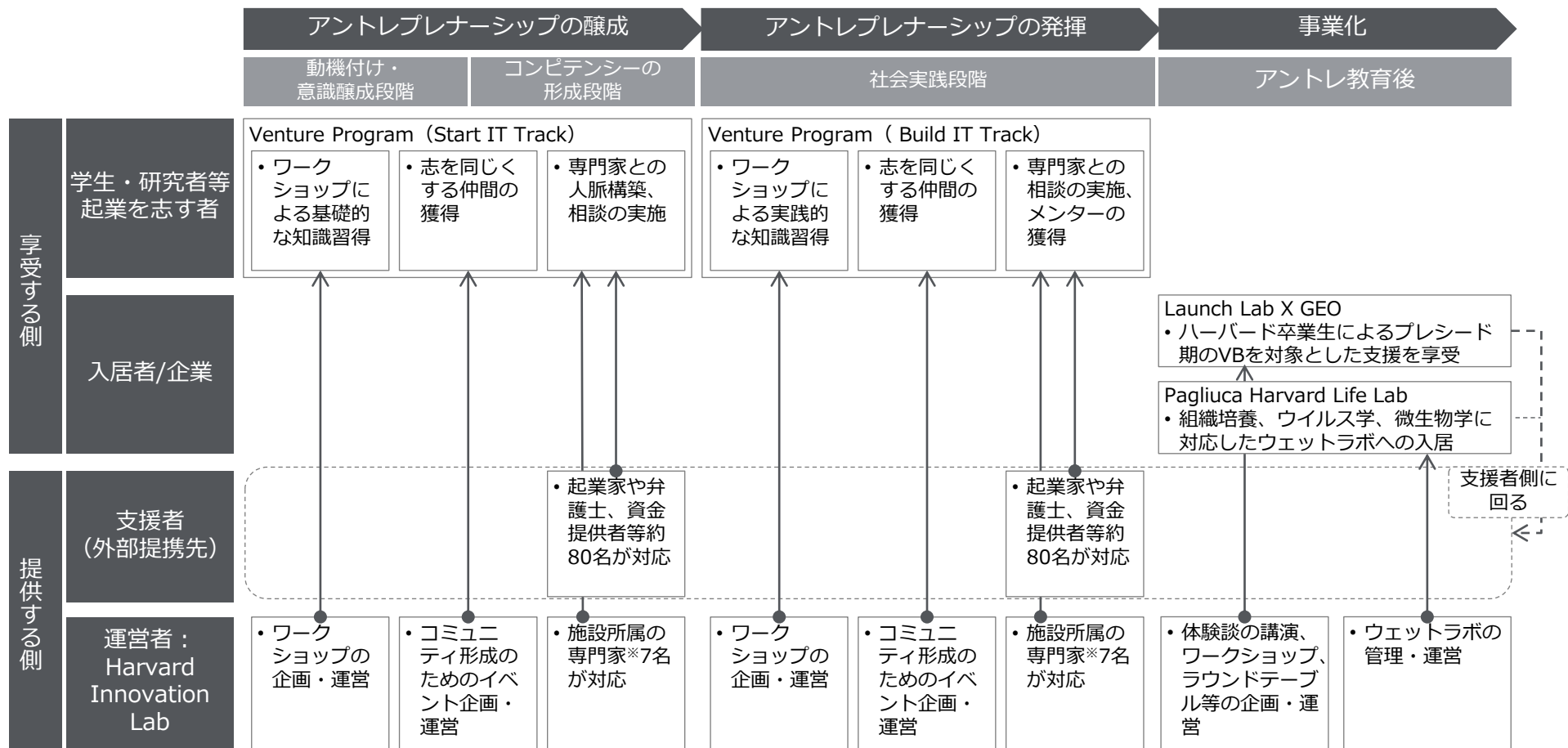


※ 出所：各施設サイト、各種2次サイト

✓ ハーバード大学のHarvard Innovation Labでは、外部提携先に加え、施設専属の専門家を配し、アントレプレナーシップの醸成から事業化について一連の支援を実施している

ハーバード大学 Harvard Innovation Lab 概要

Harvard Innovation Lab
Cambridge Innovation Center



インキュベーション施設外に、Harvard Business Schoolにアントレ教育コースが存在
1年目は必修、2年目は選択 (実際のベンチャー企業をプロジェクト対象としたり、外部アドバイザーから助言を受けたりするメニューを提供)

※ 専門家は、それぞれ社会的課題、ヘルスケア、ライフサイエンス、消費財・サービス、テクノロジー・B2Bの領域を受け持つ
出所：Harvard Innovation Labサイト、Harvard Business School サイト

- ✓ Venture Programとして2種類のコースを設け、「知識習得のためのワークショップの提供」「学生間のコミュニティ形成の促進」「専門家リソースの提供」を行っている

ハーバード大学 Harvard Innovation Lab 取組み詳細

Harvard Innovation Lab
Cambridge Innovation Center

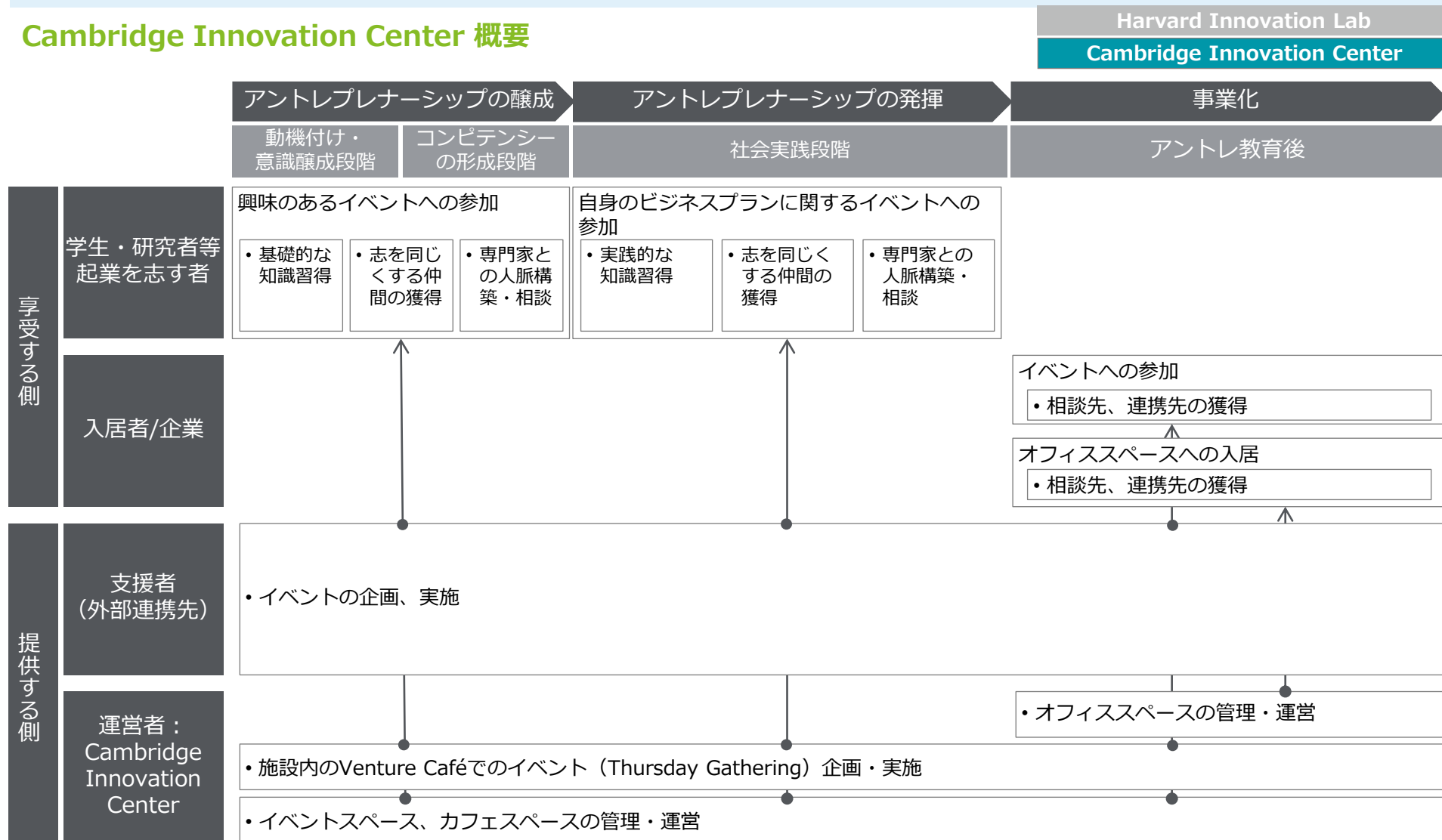
	アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮
	動機付け・意識醸成段階	コンピテンシーの形成段階	社会実践段階
	Start IT Track ・新しいアイデアを持つ学生が対象		Build IT Track ・市場の需要を見据え、より実践を志向する学生が対象
知識習得のためのワークショップの提供	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識習得に向けたワークショップを提供 <ul style="list-style-type: none"> - ウェブサイト構築、デザイン思考、顧客調査のためのインタビュー設計等 		<ul style="list-style-type: none"> 実践的な知識習得に向けたワークショップを提供 <ul style="list-style-type: none"> - ピッチ資料の作成、資金調達、法務、組織構築等 - 必要に応じて、Start IT Trackのワークショップも受講可能
学生間のコミュニティ形成の促進	<ul style="list-style-type: none"> Venture Program参加者等と関係性を深めるための機会を提供 <ul style="list-style-type: none"> - Venture Program参加者で親睦を深めるためのゲームイベント、ハーバード中の起業家と知り合いになるためのソーシャルイベント、事業に関連するトピックについて話し合う場、ピッチ練習等 		
専門家リソースの提供	<ul style="list-style-type: none"> 起業家、弁護士、資金提供者等、約80名の外部連携先を確保 <ul style="list-style-type: none"> - 上記専門家との人脈構築、1対1で実際の経験に根ざしたアドバイス獲得の機会を提供 インキュベーション施設所属の専門家7名を配し、それぞれの専門領域※に応じたアドバイスを提供 		
	<ul style="list-style-type: none"> ピッチを練習しフィードバックを得る機会を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 学生のゴールやニーズに応じたメンターとペアを組成 	

※ 社会的課題、ヘルスケア、ライフサイエンス、消費財・サービス、テクノロジー・B2B

出所：Harvard Innovation Labサイト

✓ 不動産事業者であるCambridge Innovation Centerは、コワーキングスペースの貸出と共に、月100回以上のイベントを開催することで、多くの人々を呼び込み、コミュニティの形成、強化に寄与している

Cambridge Innovation Center 概要



※ ボストンエリアのCIC CambridgeおよびCIC Bostonについて記載
 出所：Cambridge Innovation Centerサイト、各種2次サイト

- ✓ イベント開催や、ネットワークを創出・強化する仕掛けが施されたコワーキングオフィス提供により、コミュニティの形成に寄与している

Cambridge Innovation Center 取組み詳細

Harvard Innovation Lab

Cambridge Innovation Center

事業化

アントレ教育後

産業界ネットワーク
の提供

Thursday
Gathering

- CICの姉妹組織であり、非営利組織のVenture Café Foundationによって運営
- 無料で様々なイベント・セミナーが開催され、CIC入居者以外にも公開
 - 起業に関心のある研究者、VC、大企業在籍者など様々な立場から参加
 - イベント例
 - RegTech (金融規制に対応するための技術) をテーマとし銀行やスタートアップからの発表、連続起業家による講演
 - 小売り・サプライチェーン・食品産業をテーマとするパネルセッション、スポンサー企業との個別面談、スタートアップのピッチ

場 (ハコ) の提供

グローバル
な産官機関
が入居する
コワーキン
グスペース

- 1名から100名程度まで規模に応じたオフィススペースを用意
- 各フロアのキッチンに置く食材を変え、別フロアの入居者と知り合うきっかけとする
- Thursday Gatheringが開催されるフロアには、個室の会議室もあり、イベントで知り合った相手とタイミングを逃さず商談が可能
- スタートアップに加え、スタートアップと協業を模索する大企業、VC、法律専門家、アクセラレータープログラム運営者、行政機関、外国領事館等が入居しており、建物から出ることなく事業を成長させることが可能
 - 在ボストン日本国総領事館もサテライト・オフィスを開設 (2018年)

※ 出所 : Cambridge Innovation Centerサイト、各種2次サイト

ボストン・シンガポール・オースティン・オウル

➤ 都市の概要

- ・人口、GDP、スタートアップ数等の定量情報、エコシステムの主たるプレイヤーの概要
- ・物理的地理的に見た都市の全体地図
- ・インキュ施設を軸にしたアントレ教育エコシステム全体像

➤ 都市の詳細情報

- ・代表的なインキュ施設の概要と各フェーズでの主な活動
- ・具体的なインキュ施設の各フェーズでの主な活動及び特徴的な取組

✓ 小国かつ資源がないため、新しいテクノロジーを開発し技術の資源化を狙う政策により、大学での起業奨励が進んでいる

シンガポール 都市の概要

都市の特徴

人口	545万人 (2021年)
名目GDP※1	37.5兆円 (2020年)
スタートアップ業界での主力産業	Eコマース等のB2C、DeepTech

スタートアップ数※2	219 (2021年)
アカデミア発スタートアップ数※3	約350 (2002年から2019年の累積)
IPO数	17 (2018年)

主要大学※4の学生数	41,548人 (2021年)
主要大学※4の教員数	2,600人 (2021年)

インキュベーター・アクセラレーターとして登録している企業数	206 (2021年)
-------------------------------	----------------

アーリー段階の資金調達総額※5	2,220億円 (2020年)
-----------------	--------------------

エコシステムの主たる顔ぶれ

大学 (学生・教職員)	<ul style="list-style-type: none"> ■ シンガポール国立大学 (NUS) 等は、インキュベーションやメンター制度等の教育プログラムを設けており、起業を奨励する運営を実施 <ul style="list-style-type: none"> - 小国かつ資源がないため、新しいテクノロジーを開発し技術の資源化を狙う政策によるもの
スタートアップ (インキュベーション施設入居企業)	<ul style="list-style-type: none"> ■ EコマースやFintechといったB2C 領域が主流 <ul style="list-style-type: none"> - Carousel (NUS発。C2C向けEコマース) - Grab (マレーシア発だが、東南アジア全域への展開に向けシンガポールに本社移転) ■ 知的財産や研究開発技術の活用につながるDeepTech領域の振興政策により、同領域のスタートアップも出現しつつある
インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 政府とNUSが主導して設立した東南アジア最大のインキュベーション施設Block 71を皮切りに、同一区画に集積 <ul style="list-style-type: none"> - シンガポールに分散していた起業家コミュニティの統合が目的
支援者 (外部連携先)	<ul style="list-style-type: none"> ■ Google や Facebook 等のグローバルな IT 企業のアジア拠点 (ヘッドクォーター) が存在 ■ 米国系VCが早くから進出していたが、近年はシンガポールに拠点を置く中国系VCも投資を活発化

※1 1シンガポールドル=80円で換算 ※2 STARTUP SGのDBで創業1年以下で検索 (21年12月時点)

※3 NUS学生によるスタートアップ数 ※4 対象：シンガポール国立大学(NUS)

※5 The Global StartupEcosystem Report GSER 2021をもとに1ドル=110円換算で作成

出所：シンガポール統計局、経済産業省委託事業報告書、大学サイト等

- ✓ インキュベーション施設はビジネス街に立地する他、シンガポールに分散していた起業家コミュニティの統合を目的に、政府主導で大学周辺にも集約されている

シンガポールのエコシステムマップ



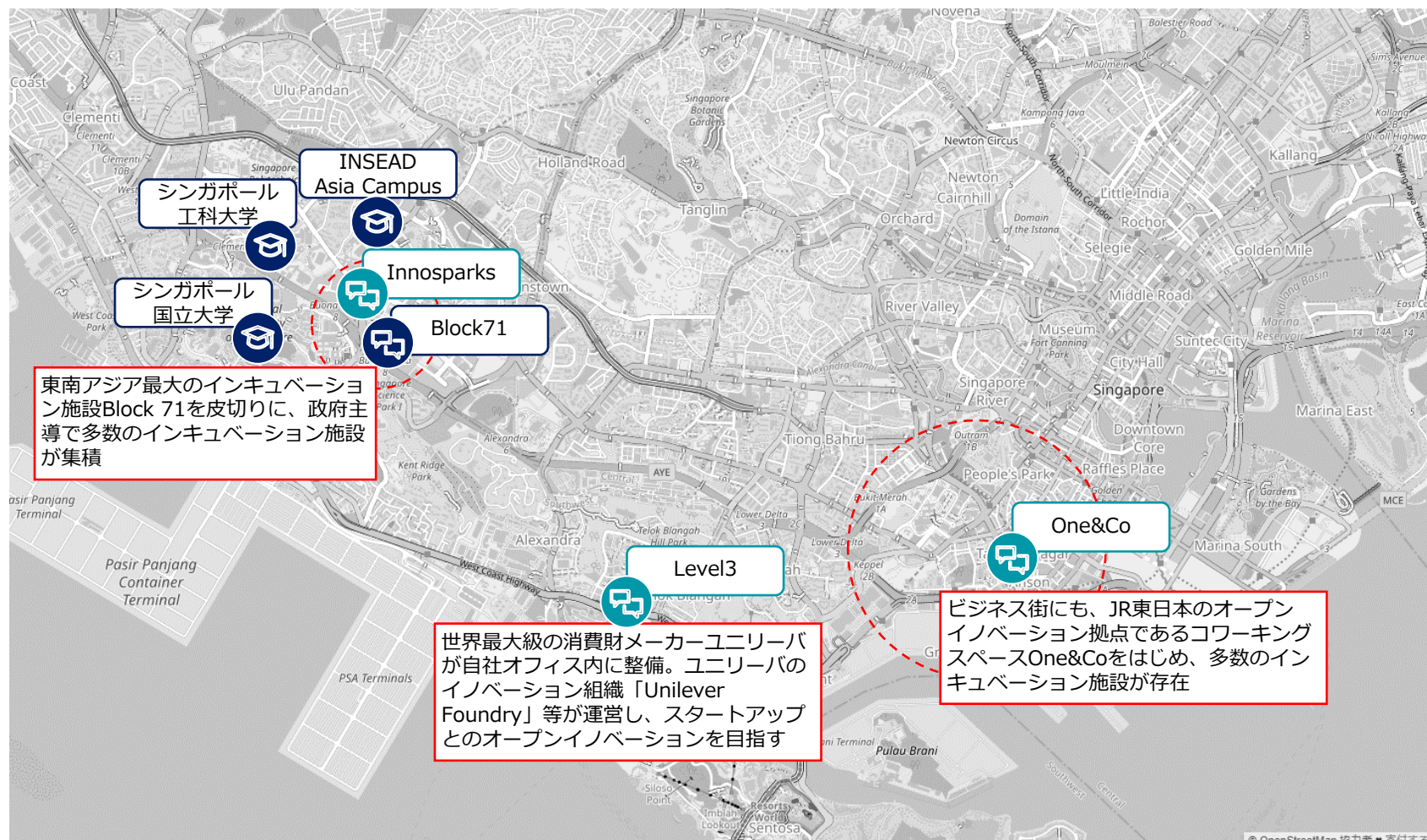
大学



大学インキュベーション施設



民間インキュベーション施設等

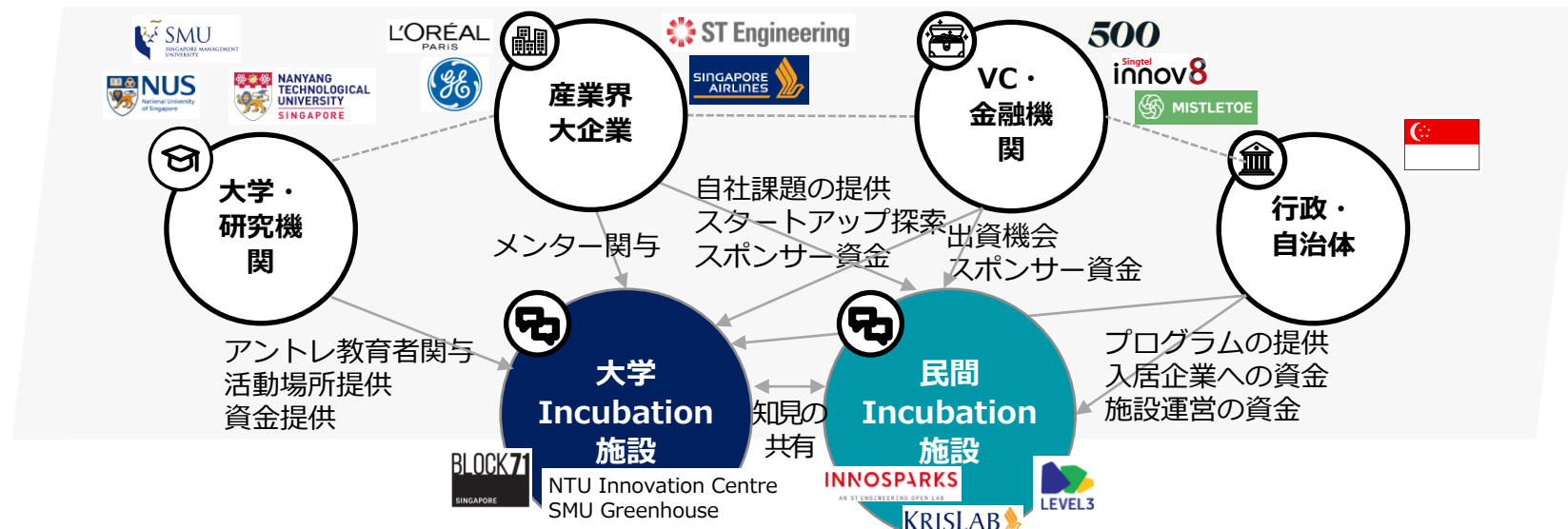


1km

※ 出所：OpenStreetMapを当法人にて加工

✓ シンガポールでは、大学周辺区画へのインキュベーション施設の集積やインキュベーション施設への経費補助等、政府主導でエコシステムの形成が進展している

シンガポールのエコシステム



起業ワークショップ

- 自学生へのアントレ教育

学生コミュニティ

- 起業家（学生・OB）とのネットワーキング

資金提供

- 政府資金の窓口（大学はメンターとして関与）
- 大学独自の資金

オフィス提供

- 政府主導により、特定区画にインキュベーション施設が集積
- エンジニアリングラボ等、スタートアップが独力で確保することは難しい機材の提供

産業界マッチング

- インキュベーション施設への専属人材の配置、自社データの提供等により連携先を探索
- 大学と共同でアクセラレーションプログラムを開発



アントレプレナーシップの醸成

アントレプレナーシップの発揮

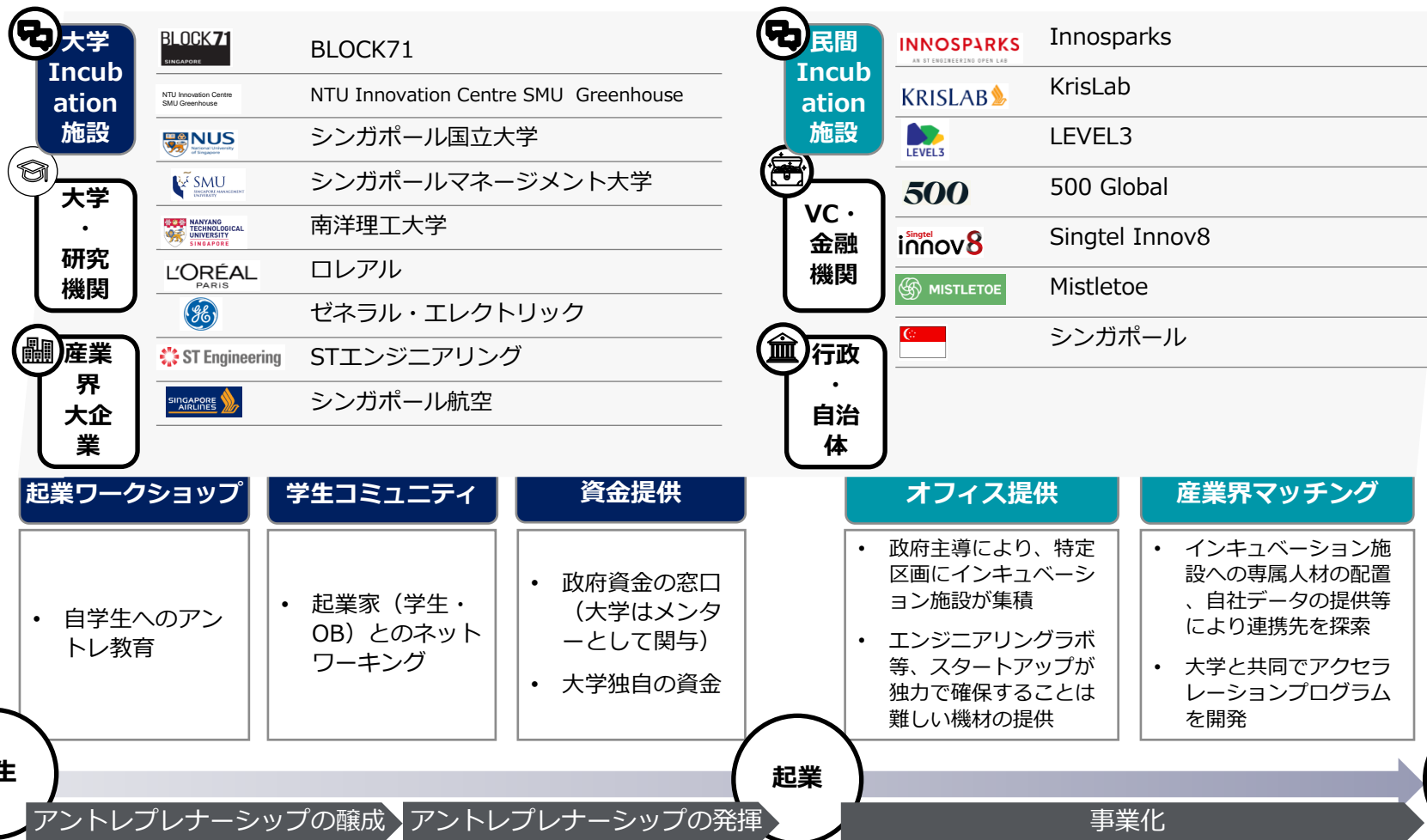


事業化



- ✓ シンガポールでは、大学周辺区画へのインキュベーション施設の集積やインキュベーション施設への経費補助等、政府主導でエコシステムの形成が進展している

シンガポールのエコシステム



ボストン・シンガポール・オースティン・オウル

➤ 都市の概要

- ・人口、GDP、スタートアップ数等の定量情報、エコシステムの主たるプレイヤーの概要
- ・物理的地理的に見た都市の全体地図
- ・インキュ施設を軸にしたアントレ教育エコシステム全体像

➤ 都市の詳細情報

- ・代表的なインキュ施設の概要と各フェーズでの主な活動
- ・具体的なインキュ施設の各フェーズでの主な活動及び特徴的な取組

- ✓ 大学インキュベーション施設に政府機関が協力する他、VCやアクセラレーターも入居。民間インキュベーション施設では、大学とプログラムを共同開発し知見を共有すると共に、自社の社員教育の場としても活用

シンガポール 代表的な施設の総括

大学インキュベーション施設 Hangar・Block71		
施設概要	Block 71	<ul style="list-style-type: none"> シンガポール国立大学 (NUS) のアントレ教育部門であるNUS Enterpriseが運営 「NUS Overseas Colleges」(学部生がシリコンバレー等のスタートアップでインターン経験)を終えた学生が起業するようになり、受け皿として設立され、現在の利用はインターン修了生に限らない
	Hangar	<ul style="list-style-type: none"> NUS Enterpriseによる運営 学生・卒業生が利用するシェアオフィス+起業活動コミュニティ
特徴	Block 71	<ul style="list-style-type: none"> アールステージ以降を対象とした施設 年間300件以上のイベントを実施。また、国内でも特に関心の高い領域については独立したアクセラレーションプログラムを設立し政府機関とも協力して実施 250社を超えるスタートアップに加え、30社以上のVCやアクセラレーターが入居
	Hangar	<ul style="list-style-type: none"> アールステージを対象にした施設で、ワークスペースやオフィススペースの提供、メンター相談に加え、VCや企業や政府機関等のネットワーク機会に繋がるイベント等を実施



▲Hangar



▲Block71

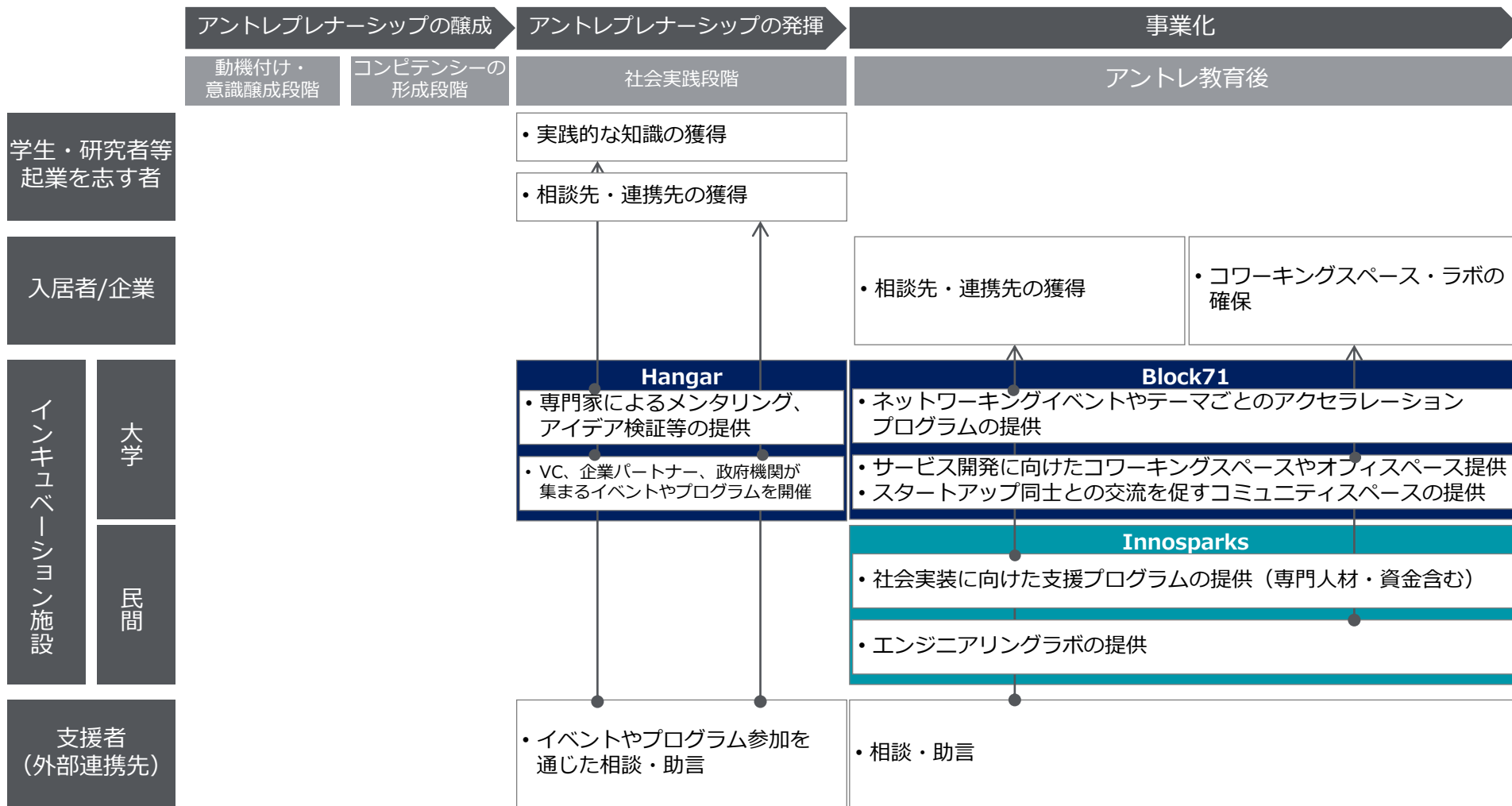
民間インキュベーション施設 Innosparks	
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> 重工業企業であるSTエンジニアリングが運営するエンジニアリングに特化した施設 Block71に隣接しており、NUS Industry Liaison OfficeとMOUを締結し、NUS大学院生やNUSスピンオフ企業へのアクセラレーションプログラムを共同開発する取組みも実施
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 専門エンジニアやラボを具備し、スタートアップとのオープンイノベーションにより、プロトタイプ開発を支援 デザイン思考やアジャイル開発等イノベーションを中心としたスキルを学ぶ、自社の社員教育の場としても活用されている



✓ 大学では、事業化の前後によって異なるインキュベーション施設が用意されている。民間インキュベーション施設においては、施設運営者と共に社会実装を目指すプログラムが提供されている

シンガポール 代表的な施設の総括

シンガポール-6 シンガポール-8 のページをもとに作成

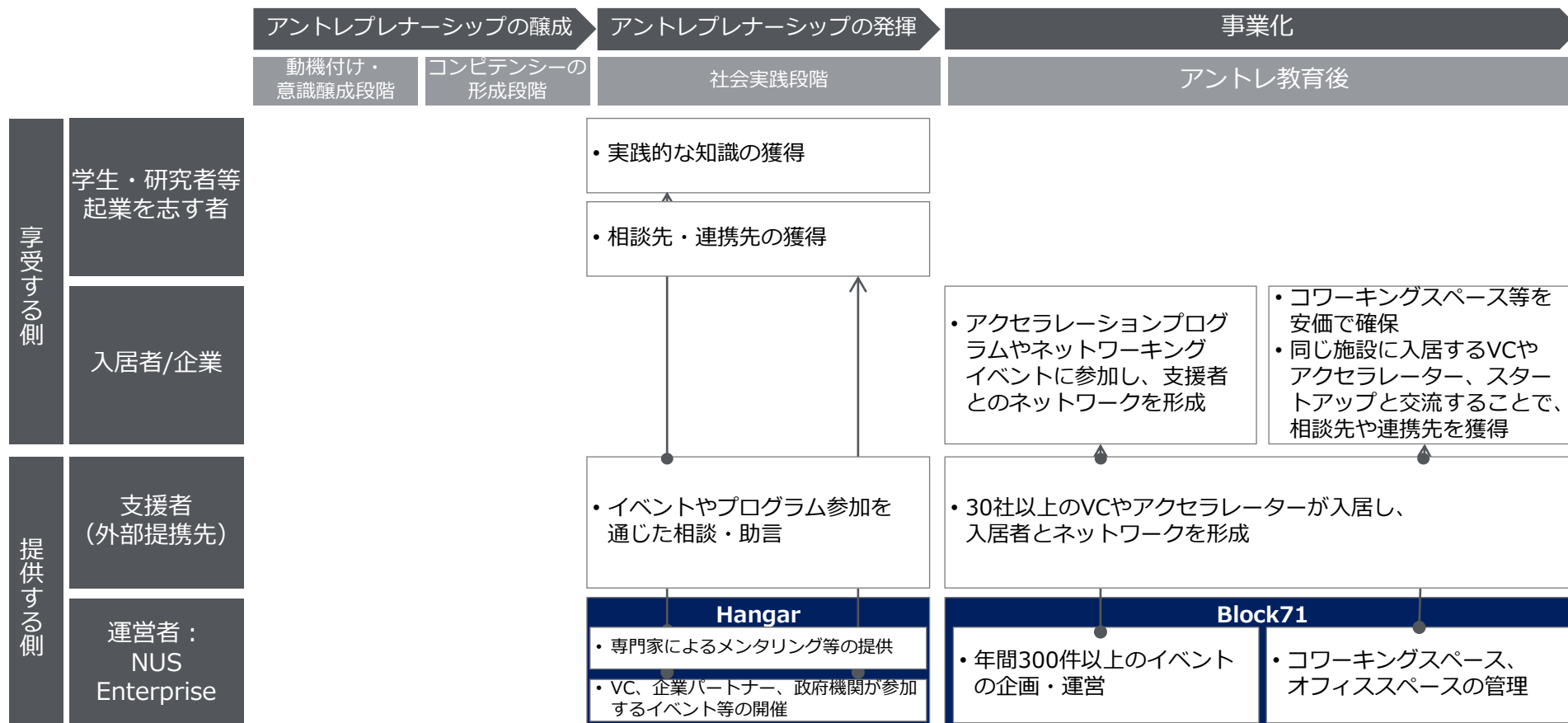


- ✓ アントレプレナーシップの発揮・事業化の双方の段階において、インキュベーション施設を通じネットワークが提供されているが、事業化の方がより重点を置いた支援となっている

NUS HangarおよびBlock71概要

NUS HangarおよびBlock71

Innospark



学部、大学院にはアントレ教育に特化したコースは見当たらない
 NUS EnterpriseによるNUS Overseas Collegesプログラムがある
 学部3年生をシリコンバレー等に派遣し、現地のスタートアップでインターンシップを経験させるもの
 なお、NUS Enterpriseはいわゆる学部ではなく、提供プログラムを修了したからといって学位を取得できるわけではない

※ 出所：NUS Enterpriseサイト、Block71サイト、経済産業省委託事業報告書等

- ✓ 年間300件以上のイベントを開催し、入居者間のネットワークを促進する他、テーマごとのアクセラレーションプログラムを設立し、スタートアップと大企業の協業を図るという効率的な取組みが実施されている

NUS Block71 取組み詳細

NUS HangarおよびBlock71

Innosparks

事業化

アントレ教育後

産業界ネットワーク
の提供テーマごとの
アクセラ
レーション
プログラム

- 年間300件以上のピッチイベントやネットワーキングイベントを実施
- シンガポールの中でも特に関心の高い領域については独立したアクセラレーションプログラムを設立
 - 対象領域は、海上関連事業（海運、水産資源開発）やサイバーセキュリティ等
 - 例えば、海運事業では、シンガポール海事港湾庁およびNUS Enterpriseが主催者となり、市場検証および顧客発見プログラムを提供
 - スタートアップに試作品開発のための助成金応募資格を付与する他、賞金も用意
 - シンガポールに限らず世界中のスタートアップが応募可能であり、メンターとペアになり、海事企業、投資家等とのネットワークを形成

場（ハコ）の提供

VC等も
入居する
コワーキン
グスペース

- 起業家が様々なアイデアを持ち寄って製品・サービスの開発を行うためのコワーキングスペースや、独立するまでの簡易なオフィススペースを提供
- 30社以上の VC やアクセラレーターも入居し、常に満室の状態
- 共有飲食スペースでは、入居しているスタートアップによるフードトラックが営業

※ 出所：Block71サイト、各種2次サイト

- ✓ Block71に隣接するInnosparkは重工業企業が運営しており、スタートアップが独自に整備することが難しいラボを提供する他、社会実装に向けた支援を行うプログラム、資金提供、専門エンジニアによるアドバイスといったサポートを提供している

Innospark 概要

NUS HangarおよびBlock71

Innospark



享受する側

学生・研究者等
起業を志す者

入居者/企業

提供する側

支援者
(外部提携先)運営者：
STエンジニアリング※

- NUS Industry Liaison OfficeとMOUを締結し、NUS大学院生やNUSスピンオフ企業へのアクセラレーションプログラムを共同開発
- STエンジニアリングは産業に関する知識やネットワークを、NUSはR&Dノウハウや起業家精神に富んだ人材を提供しあう

- ラボにより、スタートアップに不足しがちなハードウェア面での加工技術や設備へのアクセスを確保
- 上記に加え、市場参入のサポート、商業的なスケールアップのための資金へのアクセス、常駐する専門エンジニアからの技術的なアドバイス等、全面的なサポートを受けることが可能

- プロダクトの企画から社会実装までを18ヶ月で行うプログラムを提供
- 最大50万ドルの資金提供
- 専門エンジニアが常駐

- プラスチックの3Dプリンターや金属の工作機械を備えたラボを整備

※ 1967年設立のシンガポールの重工業企業
出所：Innospark、各種2次サイト

- ✓ インキュベーション施設を運営する企業の狙いは、スタートアップとのオープンイノベーションにより、自社のみでは難しい画期的なソリューション・製品を生み出すことにある

Innospark 取組み詳細

NUS HangarおよびBlock71

Innospark

事業化

アントレ教育後

社会実装に向けた支援プログラムの提供

専門人材・資金提供も備えたプログラム

- プロダクトの企画から社会実装までを18ヶ月で行うプログラムを提供
 - エンジニアリングラボの利用、常駐エンジニアによる技術的アドバイス、
 - 最大50万ドルの資金提供
 - 市場参入のサポート 等
- STエンジニアリングは、Innosparkを通じて、同じ考えを持つ同志を集め、画期的なソリューション・製品を生み出すことを狙う
- 参加するスタートアップには、大企業であるSTエンジニアリングとコネクションを持つことで、社会的な信頼を高めるメリットがある

場 (ハコ) の提供

各種機器を備えたエンジニアリングラボ

- 分野として、機械・制御、電子・電気、材料・化学、ソフトウェア (組み込みシステム、ウェブ)、デザインをカバー
- 機器として、プラスチックの3Dプリンターや金属の工作機械を具備
- 本施設では、STエンジニアリングの従業員を対象としたワークショップも開催
 - 様々な部門のエンジニアが集まり、デザイン思考やアジャイル開発等イノベーションを中心としたスキルを身につけ、自部門に持ち帰る

※ 出所：Innosparkサイト、各種2次サイト

ボストン・シンガポール・オースティン・オウル

➤ 都市の概要

- ・人口、GDP、スタートアップ数等の定量情報、エコシステムの主たるプレイヤーの概要
- ・物理的地理的に見た都市の全体地図
- ・インキュ施設を軸にしたアントレ教育エコシステム全体像

➤ 都市の詳細情報

- ・代表的なインキュ施設の概要と各フェーズでの主な活動
- ・具体的なインキュ施設の各フェーズでの主な活動及び特徴的な取組

✓ ハイテク産業の集積、豊富なテック系人材プールを背景に、カリフォルニア州やマサチューセッツ州に次ぐスタートアップ都市として、注目されている

オースティン 都市の概要

都市の特徴

人口	96万人 (2020年)
実質GDP※1	1,503億円 (2020年)
スタートアップ業界での主力産業	クリーンテック、 AI・ビッグデータ等

スタートアップ数	4,259 (時期不明)
アカデミア発スタートアップ数	(不明)
IPO数	(不明)

主要大学※2の学生数	51,832人 (2018年)
主要大学※2の教員数	3,113人 (2021年)

インキュベーター・アクセラレーター・コワーキングスペース数	100件 (2020年)
-------------------------------	-----------------

アーリー段階の資金調達総額※3	2,090億円 (2020年)
-----------------	--------------------

※1 オースティン都市圏の値。1ドル=110円で換算 ※2 テキサス大学オースティン校の値
 ※3 The Global Startup Ecosystem Report GSER 2021をもとに1ドル=110円換算で作成
 出所：アメリカ商務省センサス局、大学サイト、各種2次サイト等

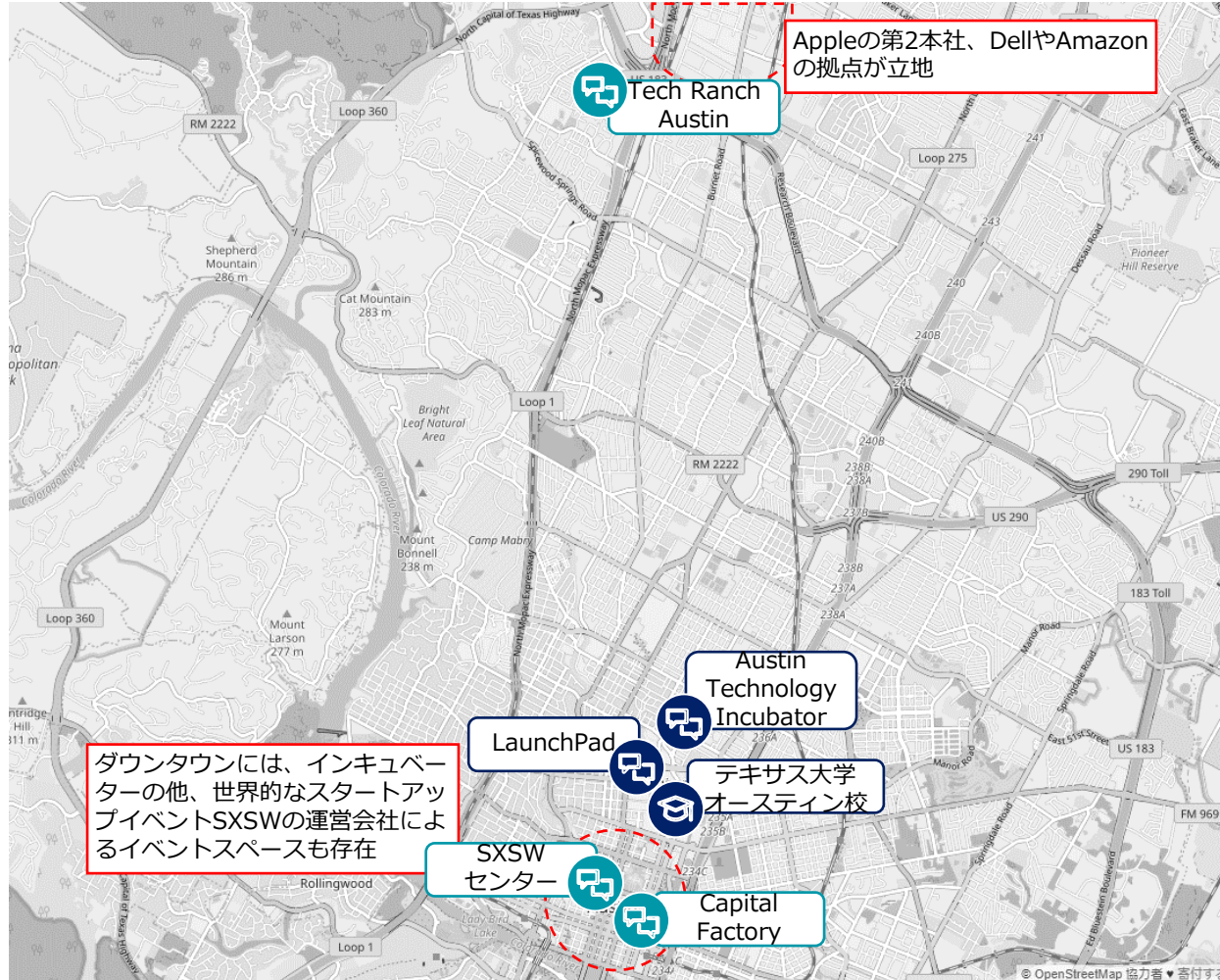
エコシステムの主たる顔ぶれ

大学 (学生・教職員)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主要大学であるテキサス大学オースティン校は学生数5万人を擁するマンモス校。全校を上げて起業家の育成や技術の商品化、地元のスタートアップ・コミュニティと連携を強化 <ul style="list-style-type: none"> - 同大学が設置するインキュベーション施設 ATIは全米で最も歴史がある
スタートアップ (インキュベーション施設入居企業)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハイテク産業の集積を素地とし、クリーンテック、AI・ビッグデータ、サイバーセキュリティ等の分野が主流 <ul style="list-style-type: none"> - Guadalupe (テキサス大学工学部発。イーロンマスクが提唱したハイパールーフを開発するため技術者で組成)
インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ オースティン中心部に複数の施設が存在 <ul style="list-style-type: none"> - Capital Factory - Tech Ranch Austin
支援者 (外部連携先)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 10億ドル規模の新キャンパス開設予定のAppleをはじめ、Google、Amazon社も拠点拡大を決定。ハイテク産業の新拠点として注目 ■ VC投資はカリフォルニア州等と比べて低い代わりに、全米屈指の個人投資家ネットワーク Central Texas Angel Networkが存在

✓ 主要大学であるテキサス大学オースティン校は、ダウンタウンに隣接しており、大学・民間インキュベーション施設もその周辺に密集している

オースティンのエコシステムマップ

🎓 大学
 🏢 大学インキュベーション施設
 🏠 民間インキュベーション施設等

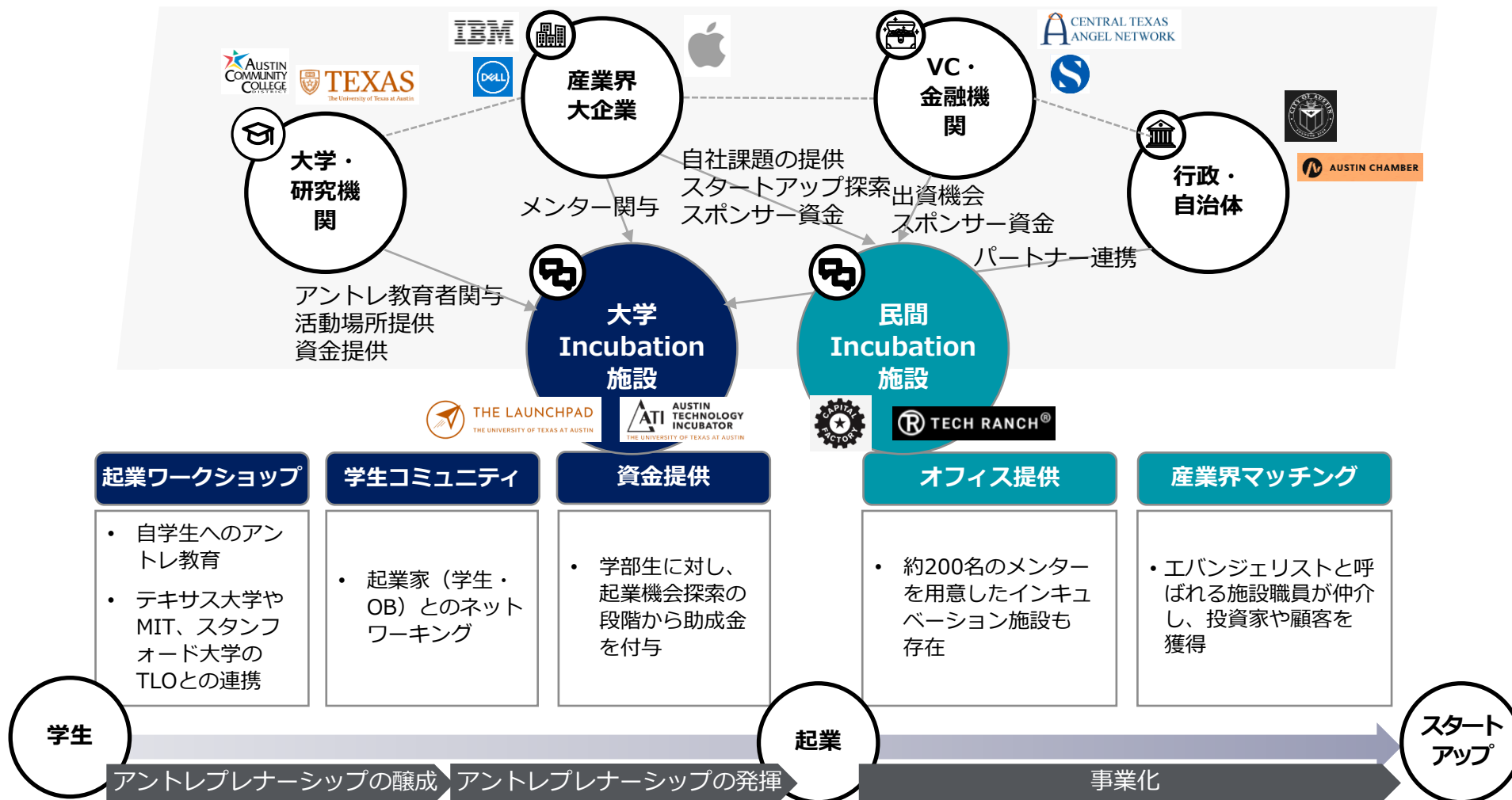


1km

※ 出所：OpenStreetMapを当法人にて加工

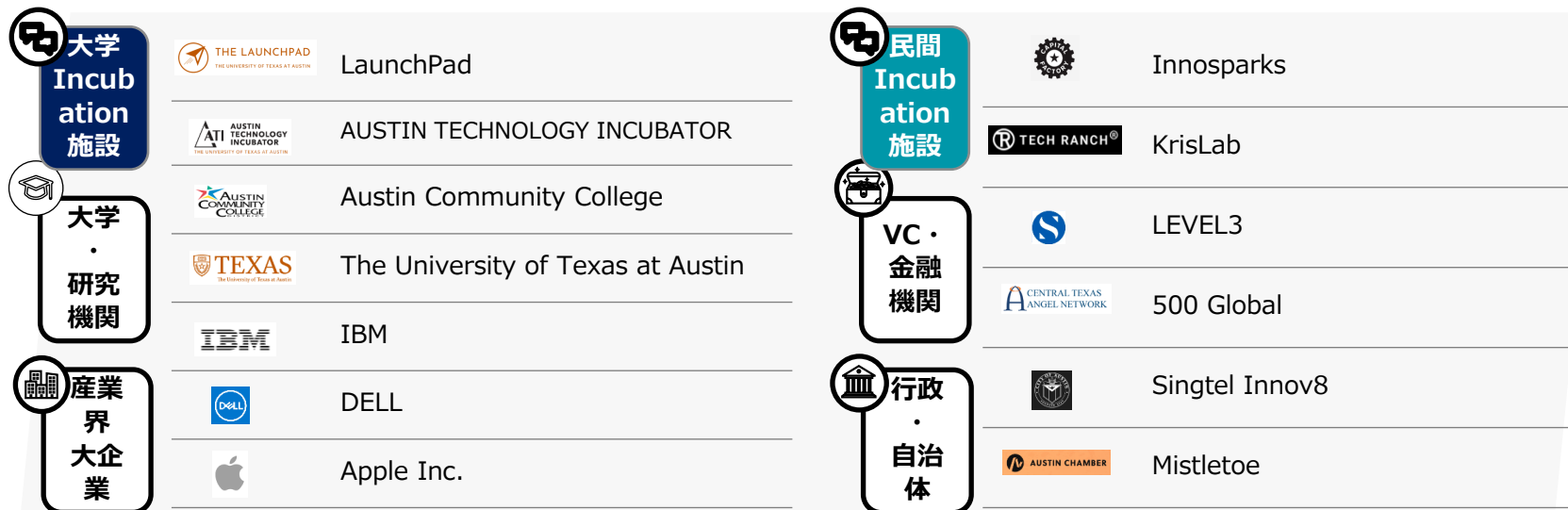
✓ 資金提供は行わず、ネットワーキング提供に注力するインキュベーション施設も存在する等、連携先の層が厚いことが特徴である

オースティンのエコシステム



✓ 資金提供は行わず、ネットワーキング提供に注力するインキュベーション施設も存在する等、連携先の層が厚いことが特徴である

オースティンのエコシステム



起業ワークショップ

- ・ 自学生へのアントレ教育
- ・ テキサス大学やMIT、スタンフォード大学のTLOとの連携

学生コミュニティ

- ・ 起業家（学生・OB）とのネットワーキング

資金提供

- ・ 学部生に対し、起業機会探索の段階から助成金を付与

オフィス提供

- ・ 約200名のメンターを用意したインキュベーション施設も存在

産業界マッチング

- ・ エバンジェリストと呼ばれる施設職員が仲介し、投資家や顧客を獲得

学生

起業

スタートアップ

アントレプレナーシップの醸成

アントレプレナーシップの発揮

事業化

ボストン・シンガポール・オースティン・オウル

➤ 都市の概要

- ・人口、GDP、スタートアップ数等の定量情報、エコシステムの主たるプレイヤーの概要
- ・物理的地理的に見た都市の全体地図
- ・インキュ施設を軸にしたアントレ教育エコシステム全体像

➤ 都市の詳細情報

- ・代表的なインキュ施設の概要と各フェーズでの主な活動
- ・具体的なインキュ施設の各フェーズでの主な活動及び特徴的な取組

✓ 大学インキュベーション施設および民間インキュベーション施設ともに、ネットワーキングの機会の提供に注力している

オースティン 代表的な施設の総括

大学インキュベーション施設 LaunchPad・Austin Technology Incubator (ATI)		
施設概要	LaunchPad	<ul style="list-style-type: none"> 学部生、大学院生を対象にした施設として、イベントやメンタリング、アクセラレーションプログラムの提供の他、起業に関連する情報発信を行う
	ATI	<ul style="list-style-type: none"> テキサス大学オースティン校インキュベーション施設 1989年に設立され、全米の大学インキュベーション組織のうち最も歴史がある老舗。大学と企業の触媒となり、大学の人材や技術と企業のビジネスを結び付ける役割を果たす
特徴	LaunchPad	<ul style="list-style-type: none"> 当施設の設置には、米国投資ファンド運用会社 (blackstone) が関与しており、他にも20以上の大学に対し、各大学の特長を踏まえたインキュベーション施設を設置している
	ATI	<ul style="list-style-type: none"> 学生の起業家やスタートアップに専門知識、大学や投資家等のビジネスパートナーとのマッチング、ネットワークを提供 これまで300社を超える卒業企業を輩出。10社以上が新規株式公開、50社以上が合併または買収・合併によりエグジット (2019年時点)

民間インキュベーション施設 Capital Factory	
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> 2009年に地元のシリアルアントレプレナーら20名が10万ドルを拠出して設立 オースティンのダウンタウン中心部に位置しており、VCや金融機関等にも近い
特徴	<ul style="list-style-type: none"> メンタリングやCapital Factory Universityという教育セミナー等を提供 Google主催のStartup weekend等、連日イベントが開催され、ほとんどが一般市民に開かれている

▼LaunchPad



▼Austin Technology Incubator



※ 出所：各施設サイト、各種2次サイト

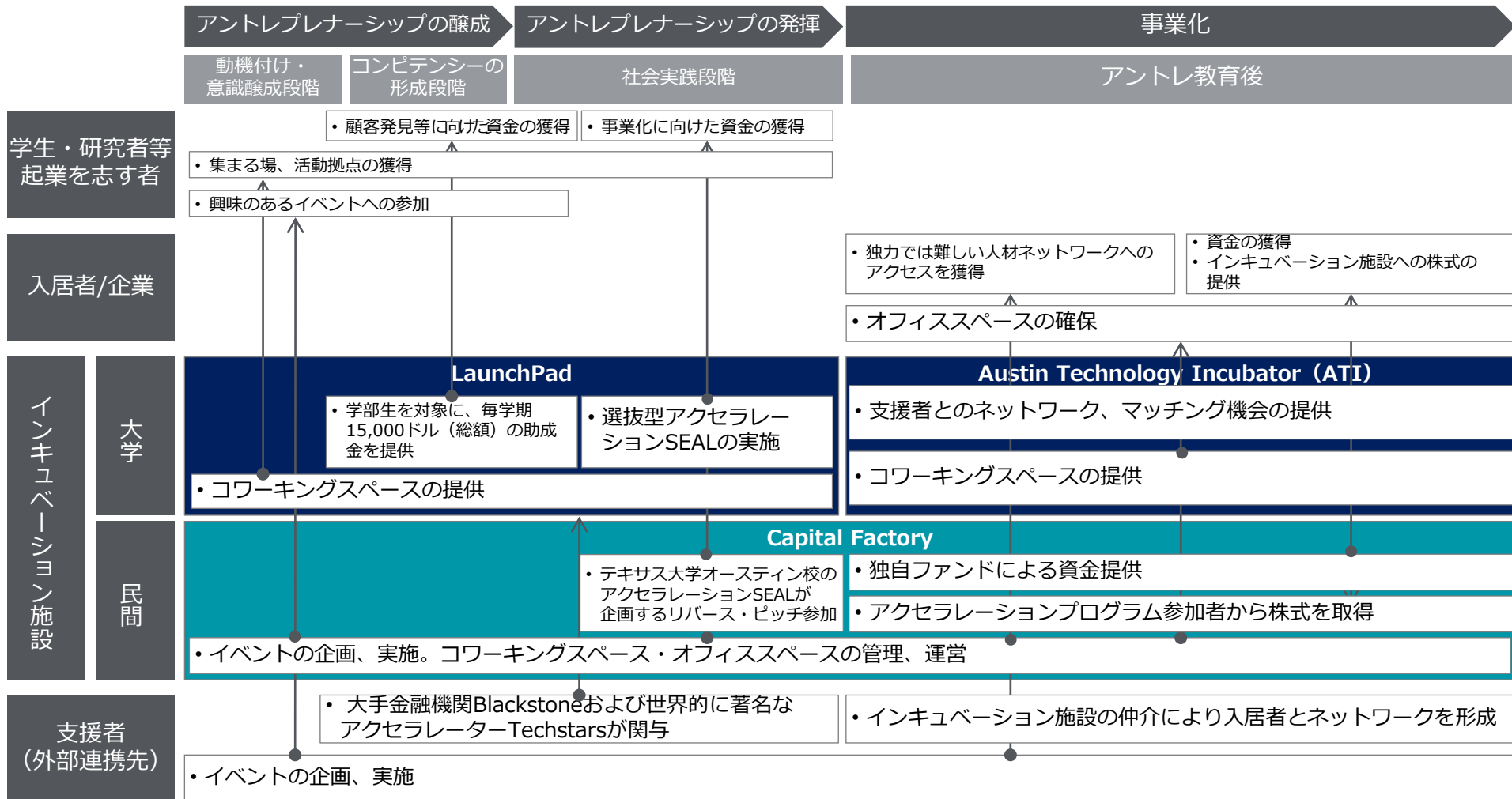
✓ 醸成段階では大学インキュベーション施設が、事業化段階では民間インキュベーション施設が資金を提供している

オースティン 代表的な施設の総括

オースティン-6

オースティン-8

のページをもとに作成



✓ 直接的な資金提供は行わないが、ネットワークを提供すると共に、循環型社会等の専門インキュベータを用意し、スタートアップの成長を促している

LaunchPad 及び Austin Technology Incubator (ATI) 概要

LaunchPadおよびATI
Capital Factory



1
早期のスクリーニング

選抜型アクセラレーションプログラム

LaunchPad

- 9週間で開催される選抜型アクセラプログラムで、事業の推進もしくは転換、撤退いずれかの判断を下すことを目的に実施
- 先輩起業家や専門家がワークショップを担当し、スケーラブルなビジネスを構築するためのノウハウを提供
- 事業内容を踏まえた最適な選任メンターを数名配置するとともに、今後の成長を見据え起業家や投資家とのネットワーキング支援を実施
- プログラムの最後にはデモデイ（事業発表会等のプレゼン）を実施せず、これまへの取組や専門家のフィードバックを踏まえ、事業の推進、転換、撤退を判断する

2
産業界ネットワークの提供

テーマごとのインキュベーションプログラム

入居時の厳しい選抜

ATI

- ATIは直接に資金提供を行うことはなく、ネットワークを提供することを主眼とする
- 循環型経済、エネルギー、食品+農業技術、ヘルスケア/バイオ技術、モビリティ、水をはじめとする各専門テーマに特化したインキュベータを用意
 - 入居者/入居企業が成功するために必要な専門知識、ネットワーク、資金の獲得に向け、カスタマイズされたアプローチを用いる
 - 連携先は、地域や国内の投資家や資金提供者、専任のメンターコミュニティ、信頼できる専門家や戦略的パートナー、大学やその他のコミュニティと多岐に渡る

- 入居に向けた応募資格は「起業前も可能」「テキサス大学の技術をベースにしていなくとも、テキサス大学と何らかのつながりがなくとも可能」「オースティン外に拠点を置く企業も可能」と緩やかなもの
- 他方、合格率は8%（過去5年で1,000名の応募者のうち8%が合格）と狭き門である。選抜は大きく下記の3ステップで行われる。応募者/応募企業が達成したい目標が施設にフィットするかという観点で審査され、入居期間は1-3年となっている。
 - Step1：オンラインフォームでの申請
 - Step2：より詳細な申請書を用いたATIスタッフとの面談
 - Step3：ATIスタッフや各種専門家に対するプレゼンテーション

※ 出所：大学サイト

- ✓ 直接的な資金提供は行わないが、ネットワークを提供すると共に、循環型社会等の専門インキュベータを用意し、スタートアップの成長を促している

Austin Technology Incubator (ATI) 取組み詳細

LaunchPadおよびATI

Capital Factory

事業化

アントレ教育後

産業界ネットワークの提供

テーマごとの
インキュベーション
プログラム

- ATIは直接に資金提供を行うことはなく、ネットワークを提供することを主眼とする
- 循環型経済、エネルギー、食品+農業技術、ヘルスケア/バイオ技術、モビリティ、水をはじめとする専門インキュベータを用意
 - 入居者/入居企業が成功するために必要な専門知識、ネットワーク、資金の獲得に向け、カスタマイズされたアプローチを用いる
 - 連携先は、地域や国内の投資家や資金提供者、専任のメンターコミュニティ、信頼できる専門家や戦略的パートナー、大学やその他のコミュニティと多岐に渡る

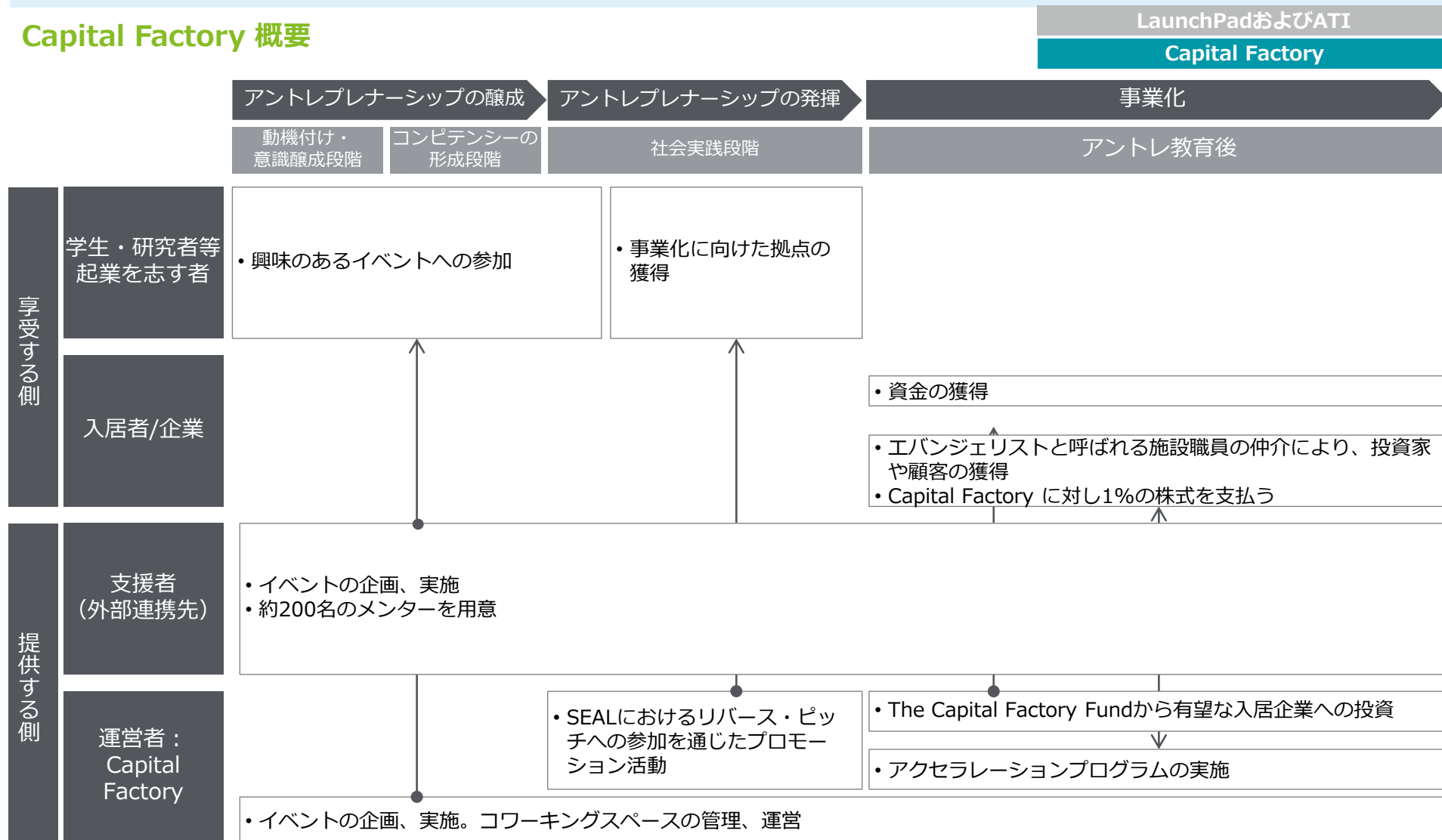
入居時の
厳しい選抜

- 入居に向けた応募資格は「起業前も可能」「テキサス大学の技術をベースにしていなくても、テキサス大学と何らかのつながりがなくとも可能」「オースティン外に拠点を置く企業も可能」と緩やかなもの
- 他方、合格率は8%と狭き門である。選抜は大きく下記の3ステップで行われる。応募者/応募企業が達成したい目標が施設にフィットするかという観点で審査される
 - Step1：オンラインフォームでの申請
 - Step2：より詳細な申請書を用いたATIスタッフとの面談
 - Step3：ATIスタッフや各種専門家に対するプレゼンテーション

※ 出所：ATIサイト

- ✓ テキサス大学オースティン校でのリバースピッチに参加し、アントレ教育から事業化への橋渡しを行う他、事業化段階では独自のファンドによる資金を提供している

Capital Factory 概要



※ 出所: Capital Factoryサイト、各種2次サイト

- ✓ 一般市民も参加可能なイベントや大学でのアントレ教育受講者への呼び込み、スタートアップへのアクセラレータープログラムの提供と、多段階に及ぶ取組みを実施している

Capital Factory 取組み詳細

LaunchPadおよびATI

Capital Factory

事業化

アントレ教育後

多様なネットワーク
の提供

学生や
一般市民も
対象とした
働きかけ

- テキサス大学オースティン校での選抜型アクセラレーションプログラム Student Entrepreneur Acceleration & Launch (SEAL) でのリバース・ピッチに参加し、アントレ教育を受けた学生の同施設への入居の呼び込み活動を実施している
- 連日イベントが開催されており、具体的には、Googleが主催するStartup weekend、ハッカソン、セミナー、ネットワーキング等である。そのほとんどが一般市民に開かれている
 - 他方、Capital Factoryに入居するためには、Capital Factoryのメンターと知り合いである等、信頼のおける人物であることが条件づけられている

アクセラレーター
プログラムの実施

スタートアップ
からの
株式取得

- 半年間のアクセラレーター・プログラムを実施。プログラムに採用されたスタートアップに対し、資金調達や顧客開発に焦点をあてた支援を行う
 - 具体的には、エバンジェリストと呼ばれる職員が、スタートアップに代わり社のアピールをし、投資家や顧客を呼び込む
 - Capital Factoryに所属するメンターが個別に指導を行う
- アクセラレータープログラムに採用されたスタートアップは、Capital Factory に対し1%のエクイティーを支払う

※ 出所：Capital Factoryサイト、各種2次サイト

ボストン・シンガポール・オースティン・オウル

➤ 都市の概要

- ・人口、GDP、スタートアップ数等の定量情報、エコシステムの主たるプレイヤーの概要
- ・物理的地理的に見た都市の全体地図
- ・インキュ施設を軸にしたアントレ教育エコシステム全体像

➤ 都市の詳細情報

- ・代表的なインキュ施設の概要と各フェーズでの主な活動
- ・具体的なインキュ施設の各フェーズでの主な活動及び特徴的な取組

✓ ノキアの城下町として知られるオウルは、同社の業績不振による大量リストラを契機に、スタートアップ育成に舵切り。オウル市、無線通信技術の人材輩出源であるオウル大学、民間企業が連携し、エコシステムを発展させている

オウル 都市の概要

都市の特徴

人口	21万人 (2020年)
1人あたりGDP※1	440万円 (時期不明)
スタートアップ業界での主力産業	無線通信技術

スタートアップ数	170社 (2014年-2016年の年平均)
アカデミア発スタートアップ数※2	71 (2020年)
IPO数	(不明)

主要大学※3の学生数	22,500人 (2020年)
主要大学※3の教員数	4,150人 (2020年)

インキュベーター・アクセラレーター・コワーキングスペース	(不明)
------------------------------	------

アーリー段階の資金調達総額	(不明)
---------------	------

エコシステムの主たる顔ぶれ

大学 (学生・教職員)	<ul style="list-style-type: none"> ■ オーロラの発生する大気の帯域「電離層」の研究が無線通信の周波数帯の研究につながり、オウル大学と企業が連携した技術開発へと発展 ■ 無線技術エンジニアの人材プールという役割を果たす
スタートアップ (インキュベーション施設入居企業)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2012年、携帯電話からスマートフォンへの移行に出遅れたノキアが大規模なリストラを敢行 ■ オウル市による起業促進策により、エンジニアによるスタートアップが次々と誕生 <ul style="list-style-type: none"> - Haltian (IoTウェアラブル開発会社。社員の多くがノキア出身者)
インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ オウル市の産業支援機関BusinessOuluが管理運営するBusinessAsemeの他、オウル中心部に複数の施設が存在。下記2社はBusinessOuluのパートナーでもある <ul style="list-style-type: none"> - Kielo Growth - Njetworking
支援者 (外部連携先)	<ul style="list-style-type: none"> ■ エコシステム牽引役の一人はノキア ■ Oulu Innovation Allianceという産学官連携アライアンスも存在。オウル市、BusinessOulu、オウル大学、オウル応用科学大学、民間企業によって組成され、4つのエコシステム構築に集中的に取組む

※1 1ドル=110円で換算 ※2 オウル大学の研究にもとづくスピノフ企業 出所：オウル市、各大学サイト、各種2次サイト等 ※3 オウル大学およびオウル応用科学大学の値

- ✓ 主要大学であるオウル大学・オウル応用科学大学は、ダウンタウンから約5km離れた場所に立地しているが、付近に民間インキュベーション施設も存在する

オウルのエコシステムマップ



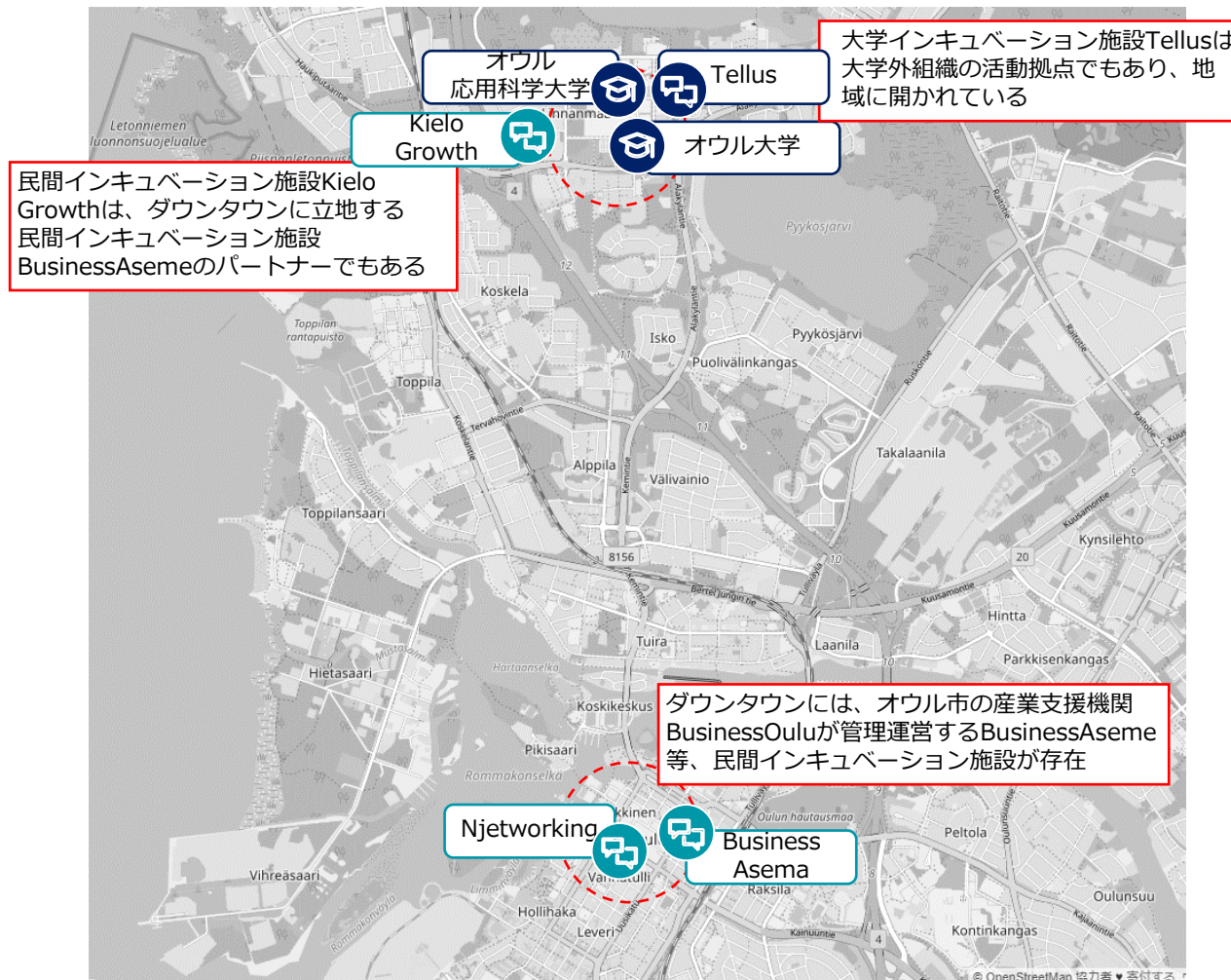
大学



大学インキュベーション施設



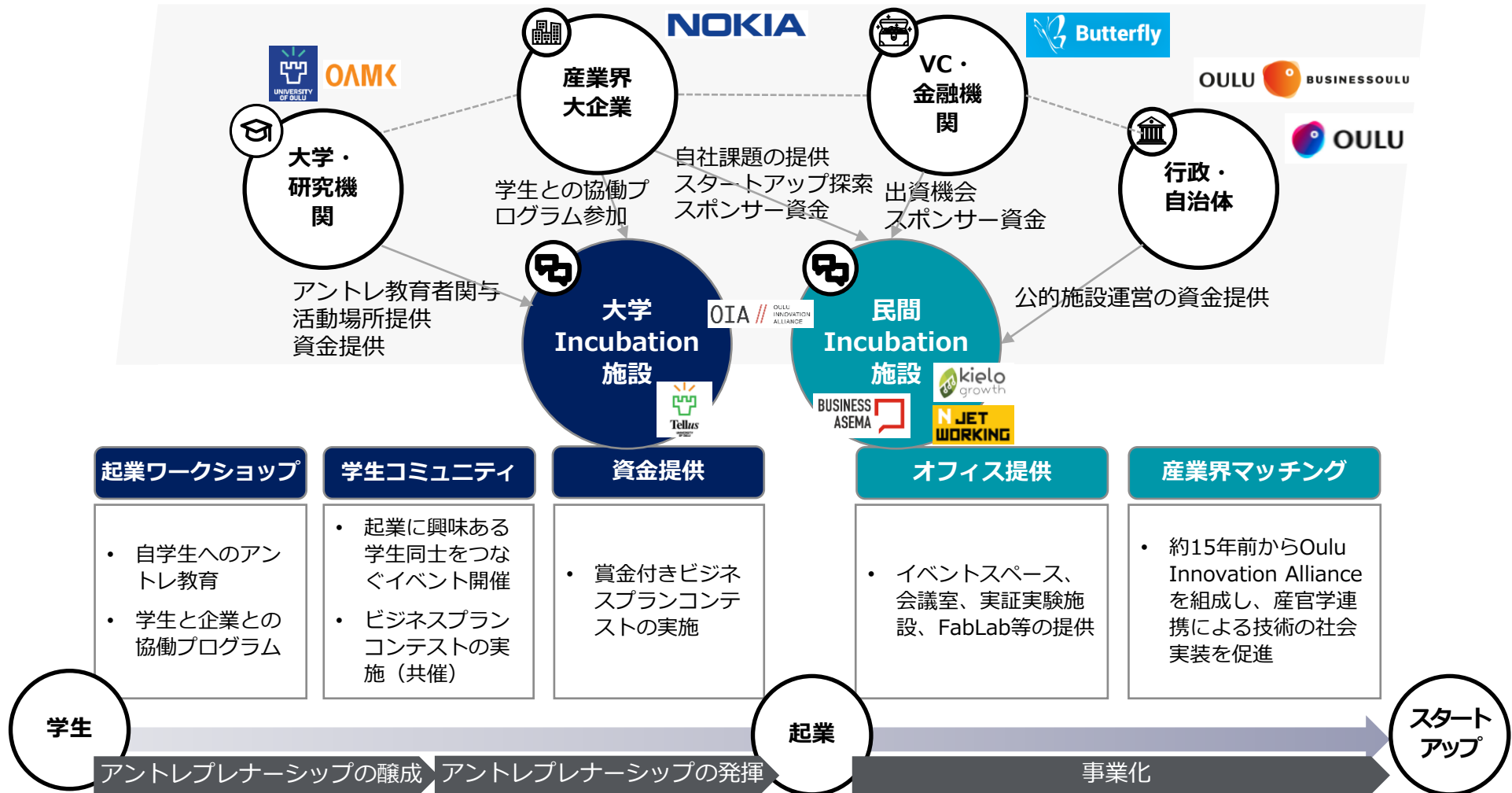
民間インキュベーション施設等



※ 出所：OpenStreetMapを当法人にて加工 1km

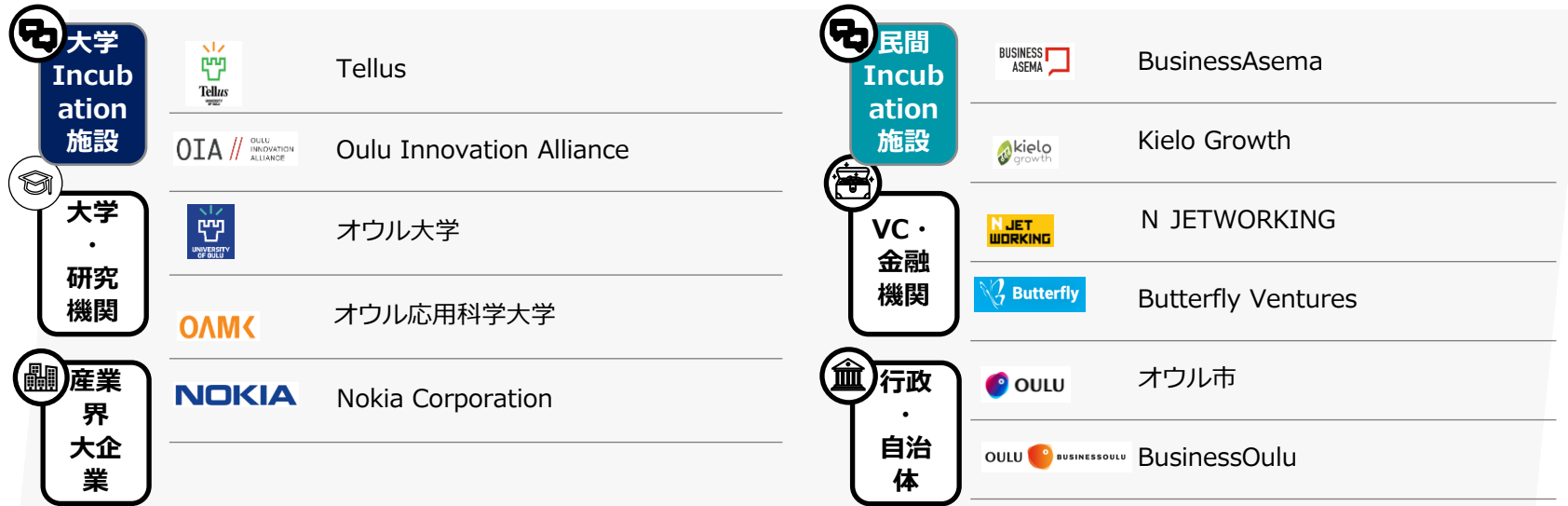
- ✓ 約15年前に組成されたOulu Innovation Allianceにより、産官学連携で技術の社会実装を進める素地があり、そのうえでスタートアップ・エコシステムが形成されている

オウルのエコシステム



- ✓ 約15年前に組成されたOulu Innovation Allianceにより、産官学連携で技術の社会実践を進める素地があり、そのうえでスタートアップ・エコシステムが形成されている

オウルのエコシステム



起業ワークショップ

- 自学生へのアントレ教育
- 学生と企業との協働プログラム

学生コミュニティ

- 起業に興味ある学生同士をつなぐイベント開催
- ビジネスプランコンテストの実施（共催）

資金提供

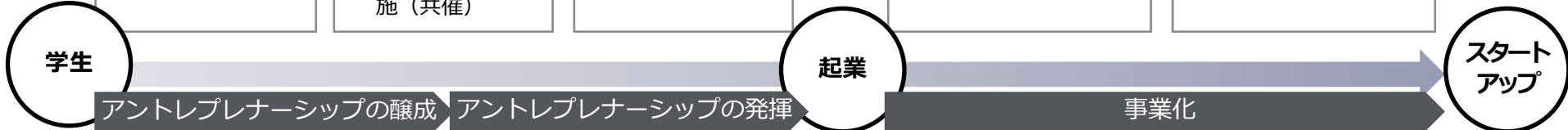
- 賞金付きビジネスプランコンテストの実施

オフィス提供

- イベントスペース、会議室、実証実験施設、FabLab等の提供

産業界マッチング

- 約15年前からOulu Innovation Allianceを組成し、産官学連携による技術の社会実践を促進



ボストン・シンガポール・オースティン・オウル

➤ 都市の概要

- ・人口、GDP、スタートアップ数等の定量情報、エコシステムの主たるプレイヤーの概要
- ・物理的地理的に見た都市の全体地図
- ・インキュ施設を軸にしたアントレ教育エコシステム全体像

➤ 都市の詳細情報

- ・代表的なインキュ施設の概要と各フェーズでの主な活動
- ・具体的なインキュ施設の各フェーズでの主な活動及び特徴的な取組

- ✓ 大学インキュベーション施設は大学のプログラム提供の場となると同時に、学生コミュニティや大学外組織の活動拠点となっている。民間インキュベーション施設は、大学入学前の10代を対象としたアントレ教育プログラムから提供

オウル 代表的な施設の総括

大学インキュベーション施設 Tellus	
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> オウル大学のインキュベーション施設 オウル大学の学生だけでなく、オウル応用科学大学の学生や社会人等、誰でも利用でき、地域に開かれた存在 同じ建物内にはFabLabもあり、誰でも利用することが可能
特徴	<ul style="list-style-type: none"> オウル大学のEntrepreneurship minor (アントレ副専攻)、オウル大学とオウル応用科学大学共同のAvanto Accelerator Programを実施 学生による起業コミュニティOulu Entrepreneurship Society、DEMOLA社 (学生と企業が協働して課題解決策を作るプログラムを提供)の活動拠点でもある

民間インキュベーション施設 BusinessAsema	
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> オウルの行政組織BusinessOuluが運営管理する施設 市内中心部に位置し、イベントスペース、会議室、実証実験場 (オウルは5Gや6G等フィンランドの無線通信技術研究開発拠点であり、最先端の通信技術での試験が可能)、FabLab等を具備
特徴	<ul style="list-style-type: none"> BusinessOuluによるIncubatorプログラム (専門メンターのアドバイスや知識インプット機会や設備利用、ネットワーキング支援等)を提供 パートナー先の民間組織を通じ、10代を対象としたアントレ教育プログラムも提供

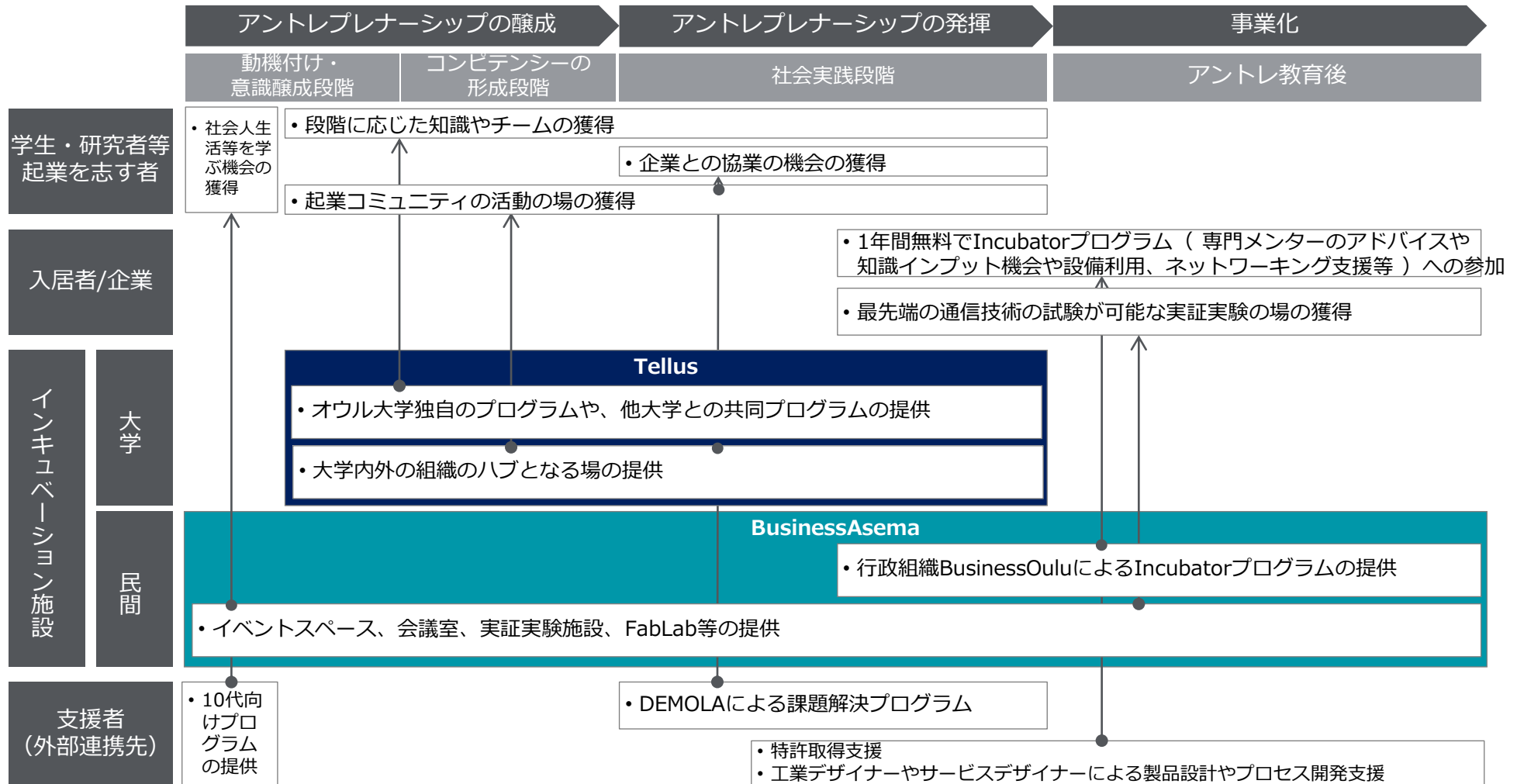


※ 出所：各施設サイト、各種2次サイト

✓ 大学インキュベーション施設だけでなく、民間インキュベーション施設も、醸成段階から関与している

オウル 代表的な施設の総括

オウル-6 オウル-8 のページをもとに作成



※ 出所：各施設サイト、各種2次サイト

- ✓ 主に醸成・発揮段階において、大学によるアントレ教育プログラムを提供する他、大学外の組織の活動拠点にもなっており、外部連携が進んでいる

オウル大学 Tellus 概要



大学のアントレ教育プログラム(Entrepreneurship minor等)の提供場所としても機能

※ 出所：オウル大学サイト、有識者ヒアリング

- ✓ 大学によるプログラムの提供場所であることに加え、学生による起業コミュニティや大学外組織の活動拠点でもあり、起業のためのハブとなっている

Tellus 取組み詳細

Tellus

BusinessAsema

アントレプレナーシップの醸成

アントレプレナーシップの発揮

動機付け・
意識醸成段階

コンピテンシーの
形成段階

社会実践段階

大学による
プログラムの
提供場所

- オウル大学によるEntrepreneurship minor (副専攻としてのアントレプレナーシッププログラム)
 - 醸成段階では、起業家精神の基本的な概念の理解、ビジネスアイデアの着想・探求といった起業に必要なものだけでなく、社会人生活で必要とされる自己啓発や適応能力も学習成果の一つと位置付けられる
 - 発揮段階では、グループワークを中心とするプログラムに加え、学生個人に応じてスケジュール・学習内容を設定するプログラムも設置
- オウル大学・オウル応用科学大学が共同で行うAvanto Accelerator Program
 - ワークショップとコーチングによる6週間のプログラム。学生はチームを組み、アイデアのテスト、MVPの試作、ウェブページの立ち上げ、投資家へのアピール方法を学ぶ

大学内外の組織の
ハブ

学生による
コミュニティ
の拠点

- 起業コミュニティOulu Entrepreneurship Society
 - オウル大学、オウル応用科学大学の学生が代表を務める
 - オウル大学、オウル応用科学大学、オウル市の産業支援機関BusinessOuluから資金提供を受け運営
 - 起業していなくても、新しいスキルを学び、ネットワークを築き、新たなことに挑戦したいという学生であれば参加可能
 - ネットワーキングイベントを実施したり、プログラムの情報を提供

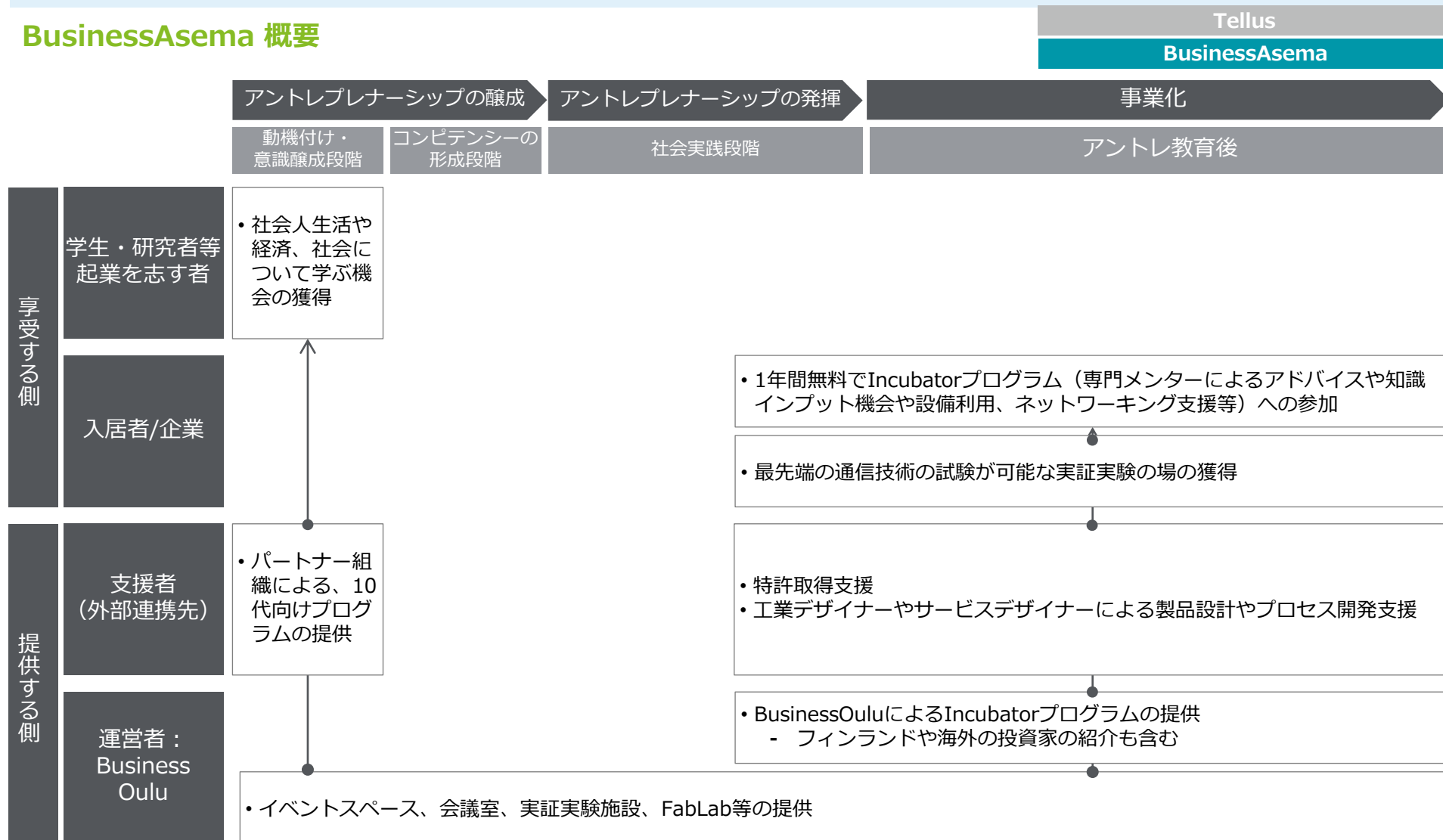
大学外組織の
活動機会
(学生と企業
共同の企業課
題解決のプロ
グラム)

- DEMOLA
 - 学生と企業が協働して、企業が有する課題の解決策を作り上げていくもの課題解決プログラムを提供
 - フィンランド国内だけでなく、国際的に展開しており、日本では北海道大学が導入

※ 出所：オウル大学サイト、BusinessOuluサイト、Oulu Entrepreneurship Societyサイト、DEMOLAサイト

- ✓ 連携先のパートナー組織を通じ、10代向けのアントレ教育プログラムを提供しており、醸成から事業化と幅広い段階を対象としていることが特徴である

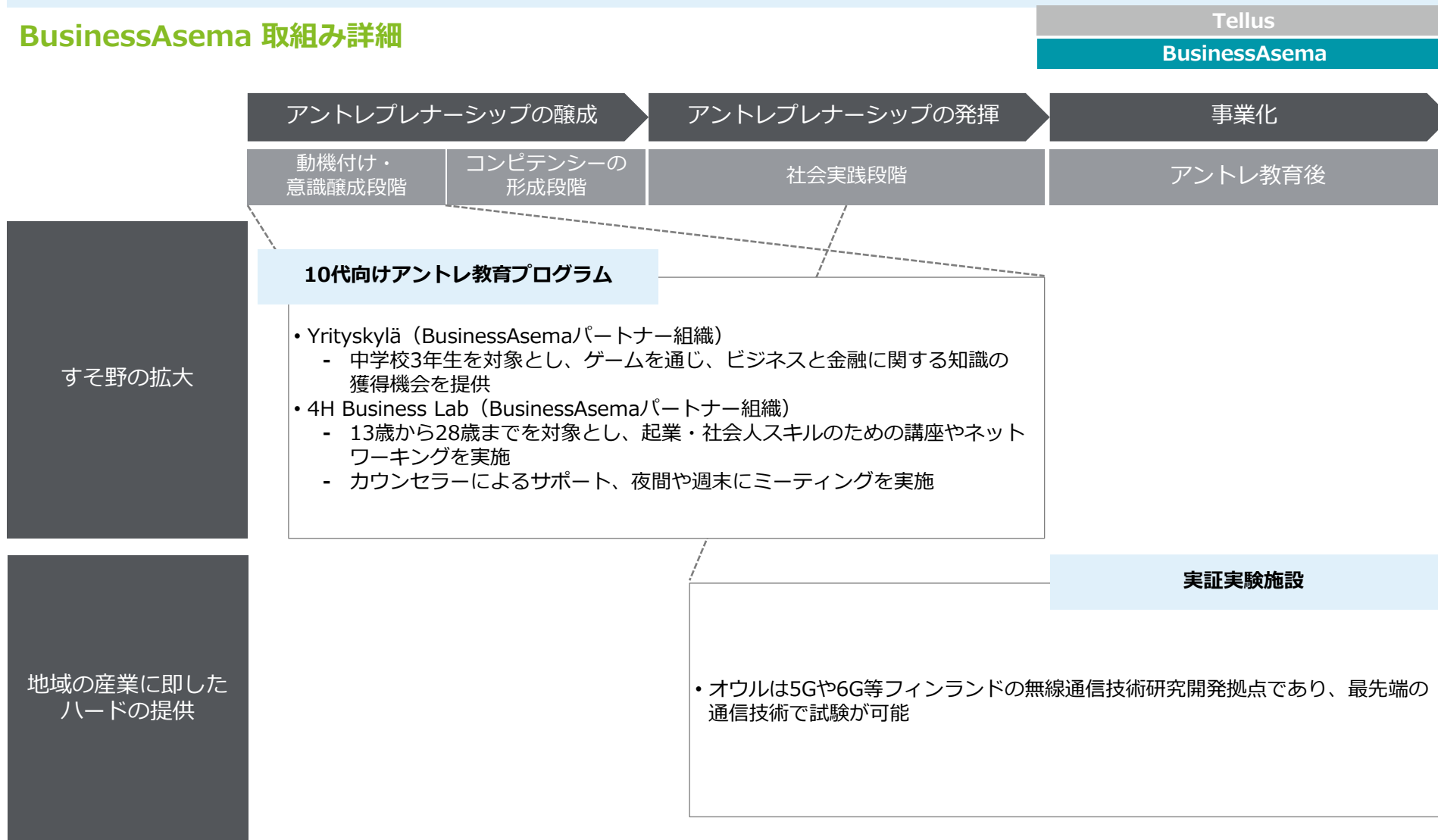
BusinessAsema 概要



※ 出所：BusinessAsemaサイト、BusinessOuluサイト、各種2次サイト

- ✓ 10代向けアントレ教育プログラムの提供により、すそ野の拡大に貢献。また、地域の主産業である無線通信技術に対応した実証実験施設を具備しており、地域のエコシステム形成に寄与している

BusinessAsema 取組み詳細



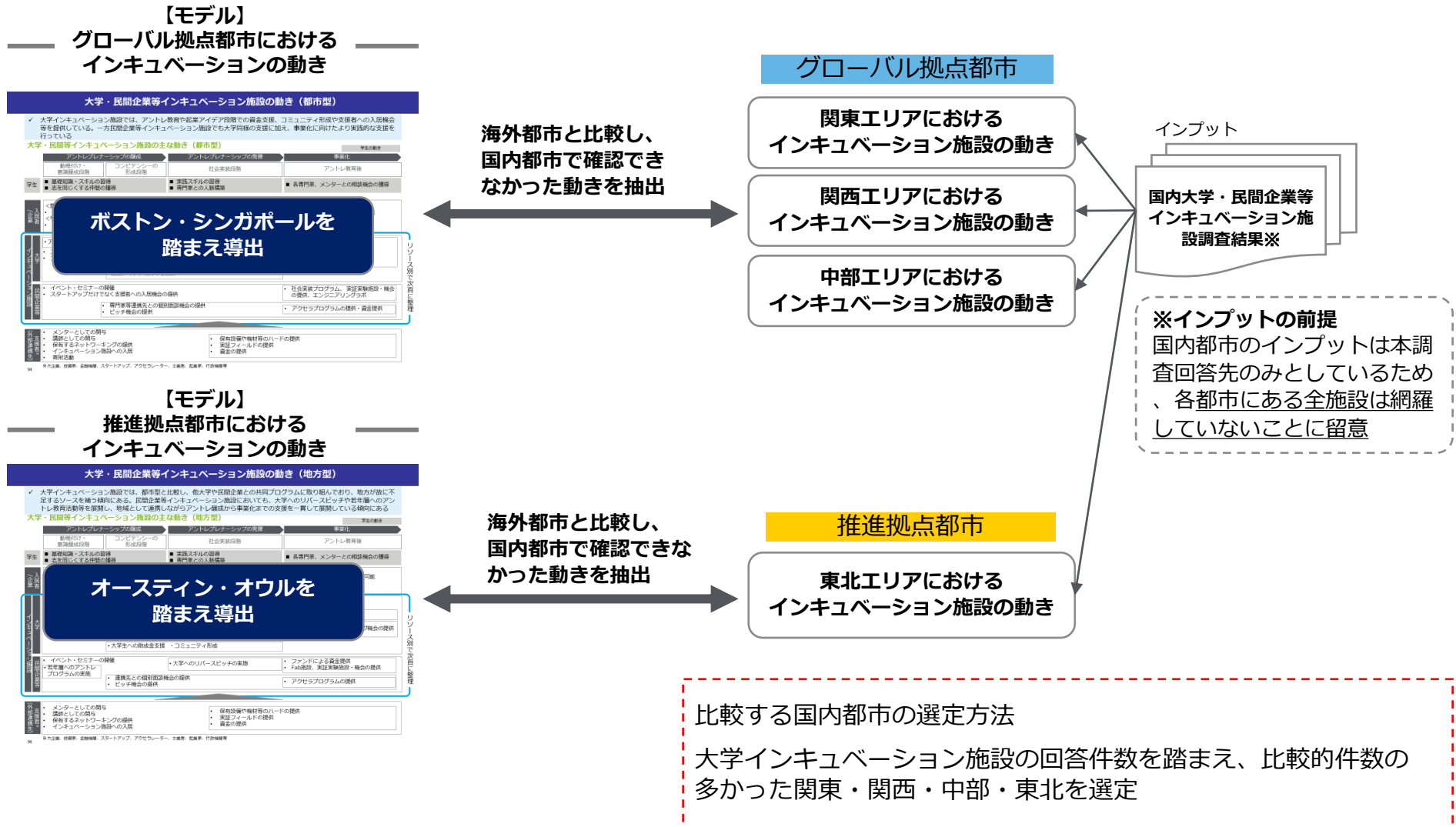
※ 出所：BusinessAsemaサイト、BusinessOuluサイト、Yrityskyläサイト、4Hサイト、各種2次サイト、有識者ヒアリング

【第4節】 国内外都市比較

国内外都市比較

- ✓ 海外調査を踏まえて導出した都市におけるインキュベーション施設の動きをモデルとし、国内都市（関東・関西・中部・東北）を比較対象とし、国内都市で取り組みが確認できなかった事項を抽出する

比較の考え方



国内外都市比較のまとめ

- ✓ グローバル拠点都市では、インキュベーション施設でのアントレ教育や支援者の施設入居があまり見られない
- ✓ 推進拠点都市では、それに加え、資金支援やファブ施設等のハード面の支援、外部とのネットワーク機会があまり見られない

比較結果

		グローバル拠点都市（関東・関西・中部を対象）と海外都市（ボストン・シンガポール）を比較	推進拠点都市（東北を対象）と海外都市（オースティン・オウル）
ヒト	大学インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、施設内に支援者も入居したり、コミュニティ形成の取組傾向にあるが、国内ではあまり見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内では、施設内に支援者が入居するケースはあまり見られない
	民間企業等インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、施設内に支援者も入居している傾向にあるが、国内では、あまり見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内では、施設内に支援者も入居しているケースはあまり見られない
モノ	大学インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、アントレ教育の取組が見られるが、国内ではあまり見られない ■ 海外では、外部とのネットワーク機会の提供が見られるが、国内ではあまり見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、アントレ教育、他大学や民間企業との共同プログラムの取組が見られるが、国内ではあまり見られない ■ 海外では、外部とのネットワーク機会の提供が見られるが、国内ではあまり見られない
	民間企業等インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外と比しても大きな差は見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、大学とのプログラム連携が見られるが、国内ではあまり見られない ■ 海外では、ファブ施設や実証実験施設または機会提供の取組が見られるが、国内ではあまり見られない
カネ	大学インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、起業アイデア段階での資金支援が見られるが、国内ではあまり見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、助成金等の資金支援が見られるが、国内ではあまり見られない
	民間企業等インキュベーション施設	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外と比しても大きな差は見られない 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、ファンド等による資金支援が見られるが、国内ではあまり見られない

- ✓ 民間企業等インキュベーション施設では、海外と大差なく取組が展開傾向にある一方、大学インキュベーション施設ではアントレ教育や起業アイデア段階での資金支援、コミュニティ形成や支援者への入居機会提供等の取組があまり確認できない

関東エリアにおける大学・民間企業等インキュベーション施設の動き※

取組があまり確認できない事項

	アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮	事業化
	動機付け・意識醸成段階	コンピテンシーの形成段階	社会実践段階	アントレ教育後
学生等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎知識・スキルの習得 ■ 志を同じくする仲間の獲得 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践スキルの習得 ■ 専門家との人脈構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各専門家、メンターとの相談機会の獲得
入居者	<p><既に起業した先輩起業家や企業や士業者等のメンター等にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有望なスタートアップ候補への早期接触 <p><学生にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動拠点の確保、相談先・ネットワーク機会の獲得、資金調達機会の獲得 			<p><起業した学生にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要リソースへのアクセスが可能 ・ 活動拠点の確保 ・ 資金調達機会の獲得
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ アントレ教育プログラムの実施 ・ スタートアップ支援者への入居機会提供 ・ コミュニティ形成 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部とのネットワーキング機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセラプログラムの提供 ・ オフィススペース提供 ・ ウェットラボ提供
	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターによるメンタリングの実施 ・ 起業アイデアに対する投資 			
民間企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント・セミナーの開催 ・ スタートアップだけでなく支援者への入居機会の提供 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家等連携先との個別面談機会の提供 ・ ピッチ機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会実践プログラム、実証実験施設・機会の提供、エンジニアリングラボ ・ アクセラプログラムの提供・資金提供 ・ ネットワーク（海外含む）支援
（外部連携先）	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターとしての関与 ・ 講師としての関与 ・ 保有するネットワーキングの提供 ・ インキュベーション施設への入居 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保有設備や機材等のハードの提供 ・ 実証フィールドの提供 ・ 資金の提供 	

※ 大学インキュベーション施設アンケート結果及び民間企業等インキュベーション施設インタビュー実施先を踏まえ作成

※ 大企業、投資家、金融機関、スタートアップ、アクセラレーター、士業者、起業家、行政機関等

出所：民間企業等インキュベーションはCIC・LICを参考

参考 地理的に見たインキュベーション施設のエリアマップ 関東

✓ 大学インキュベーション施設へのアンケート回答先、民間企業等インキュベーション施設インタビュー先を中心に地図上にプロット

東京エリアのエコシステムマップ（東京広域）



大学インキュベーション施設



民間インキュベーション施設等



10km

出所：OpenStreetMapを当法人にて加工

- ✓ 民間企業等インキュベーション施設では支援者への入居機会提供はあまり確認できず、大学インキュベーション施設では東京エリア同様、アントレ教育や起業アイデア段階での資金支援、コミュニティ形成や支援者への入居機会提供等の取組が少ない

関西エリアにおける大学・民間企業等インキュベーション施設の動き※

取組があまり確認できない事項

	アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮	事業化
	動機付け・意識醸成段階	コンピテンシーの形成段階	社会実践段階	アントレ教育後
学生等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎知識・スキルの習得 ■ 志を同じくする仲間の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践スキルの習得 ■ 専門家との人脈構築 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 各専門家、メンターとの相談機会の獲得
入居者	<p><既に起業した先輩起業家や企業や土業者等のメンター等にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有望なスタートアップ候補への早期接触 <p><学生にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動拠点の確保、相談先・ネットワーク機会の獲得、資金調達機会の獲得 			<p><起業した学生にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要リソースへのアクセスが可能 ・ 活動拠点の確保 ・ 資金調達機会の獲得
インキュベーション施設	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ アントレ教育プログラムの実施 ・ スタートアップ支援者への入居機会提供 ・ コミュニティ形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部とのネットワーキング機会の提供 ・ メンターによるメンタリングの実施 ・ 起業アイデアに対する投資 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセラプログラムの提供 ・ オフィススペース提供 ・ ウェットラボ提供
	民間企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント・セミナーの開催 ・ スタートアップだけでなく支援者への入居機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家等連携先との個別面談機会の提供 ・ ピッチ機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会実践プログラム、実証実験施設・機会の提供、エンジニアリングラボ ・ アクセラプログラムの提供・資金提供 ・ ネットワーク（海外含む）支援
（外部連携先）支援者※	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターとしての関与 ・ 講師としての関与 ・ 保有するネットワーキングの提供 ・ インキュベーション施設への入居 ・ 保有設備や機材等のハードの提供 ・ 実証フィールドの提供 ・ 資金の提供 			

※ 大学インキュベーション施設アンケート結果及び民間企業等インキュベーション施設インタビュー実施先を踏まえ作成

※ 大企業、投資家、金融機関、スタートアップ、アクセラレーター、土業者、起業家、行政機関等

出所：民間企業等インキュベーションはOIH・クリエイティブラボ神戸を参考

- ✓ 民間企業等インキュベーション施設では、支援者が入居する施設や海外へのネットワーク支援等はあまり確認できない
- ✓ 大学インキュベーション施設においては、東京・関西エリア同様の現状に加え、ウェットラボの提供はあまり確認できない

中部エリアにおける大学・民間企業等インキュベーション施設の動き※

取組があまり確認できない事項

	アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮	事業化
	動機付け・意識醸成段階	コンピテンシーの形成段階	社会実践段階	アントレ教育後
学生等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎知識・スキルの習得 ■ 志を同じくする仲間の獲得 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践スキルの習得 ■ 専門家との人脈構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各専門家、メンターとの相談機会の獲得
入居者	<p><既に起業した先輩起業家や企業や土業者等のメンター等にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有望なスタートアップ候補への早期接触 <p><学生にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動拠点の確保、相談先・ネットワーク機会の獲得、資金調達機会の獲得 			<p><起業した学生にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要リソースへのアクセスが可能 ・ 活動拠点の確保 ・ 資金調達機会の獲得
大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ アントレ教育プログラムの実施 ・ スタートアップ支援者への入居機会の提供 ・ コミュニティ形成 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部とのネットワーキング機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセラプログラムの提供 ・ オフィススペース提供 ・ ウェットラボ提供
	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターによるメンタリングの実施 ・ 起業アイデアに対する投資 			
民間企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント・セミナーの開催 ・ スタートアップだけでなく支援者への入居機会の提供 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会実践プログラム、実証実験施設・機会の提供、エンジニアリングラボ
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家等連携先との個別面談機会の提供 ・ ピッチ機会の提供 			<ul style="list-style-type: none"> ・ アクセラプログラムの提供・資金提供 ・ ネットワーク（海外含む）支援
（外部連携先）	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターとしての関与 ・ 講師としての関与 ・ 保有するネットワーキングの提供 ・ インキュベーション施設への入居 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保有設備や機材等のハードの提供 ・ 実証フィールドの提供 ・ 資金の提供 	

※ 大学インキュベーション施設アンケート結果及び民間企業等インキュベーション施設インタビュー実施先を踏まえ作成

※ 大企業、投資家、金融機関、スタートアップ、アクセラレーター、土業者、起業家、行政機関等

出所：民間企業等インキュベーションはイノベーターズガレージ・FUSEを参考

- ✓ 民間企業等インキュベーション施設では、大学との連携や資金支援、ファブ施設などの取組が余り確認できない
- ✓ 大学インキュベーション施設では、メンタリングやコワーキングスペース、オフィススペース等の取組が中心傾向にある

東北エリアにおける大学・民間企業等インキュベーション施設の動き※

取組があまり確認できない事項

	アントレプレナーシップの醸成	アントレプレナーシップの発揮	事業化
	動機付け・意識醸成段階 コンピテンシーの形成段階	社会実装段階	アントレ教育後
学生等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎知識・スキルの習得 ■ 志を同じくする仲間の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践スキルの習得 ■ 専門家との人脈構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各専門家、メンターとの相談機会の獲得
入居者 （企業）	<既に起業した先輩起業家や企業や士業者等のメンター等にとって> ・ 有望なスタートアップ候補への早期接触 <学生にとって> ・ 活動拠点の確保、相談先・ネットワーク機会の獲得、資金調達機会の獲得		<起業した学生にとって> ・ 必要リソースへのアクセスが可能 ・ 活動拠点の確保 ・ 資金調達機会の獲得
インキュベーション施設 （大学）	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターによるメンタリングや外部とのネットワーキング機会の提供 ・ コワーキングスペース・オフィススペースの提供 ・ アクセラプログラムの実施 ・ アントレ教育・他大学や民間企業との共同プログラムの実施 ・ 助成金支援 ・ コミュニティ形成 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント・セミナーの開催 ・ 若年層へのアントレプログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学とのプログラム連携 ・ 連携先との個別面談機会の提供 ・ ピッチ機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファンドによる資金提供 ・ ファブ施設、実証実験施設・機会の提供 ・ アクセラプログラムの提供
（外部連携先） 支援者※	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターとしての関与 ・ 講師としての関与 ・ 保有するネットワーキングの提供 ・ インキュベーション施設への入居 ・ 保有設備や機材等のハードの提供 ・ 実証フィールドの提供 ・ 資金の提供 		

※ 大学インキュベーション施設アンケート結果及び民間企業等インキュベーション施設インタビュー実施先を踏まえ作成

※ 大企業、投資家、金融機関、スタートアップ、アクセラレーター、士業者、起業家、行政機関等

出所：民間企業等インキュベーションはINTILAQ東北イノベーションセンターを参考

【第5節】 目指すべき姿

目指すべき姿の検討

- ✓ 大学インキュベーション施設の現状・課題感を踏まえると、外部支援人材の配置、アントレ教育やアクセラレーションプログラムの実施、そしてこれらを実現するための外部ネットワークの連携促進が必要である

国内大学インキュベーション施設の現状と課題感のまとめ※1

目指そうとしている姿

- 多くの大学インキュベーション施設では**スタートアップの成長支援を重要視**
- 一方で、『スタートアップ創設数』・『事業化件数』等を**成果指標として重視**し、事業拡大フェーズよりも**アントレ教育後の事業創出に関わるステージに注力**しており、目指す姿と実態に乖離がある

国内大学インキュベーション施設の現状・主な課題感

グローバル拠点都市

推進拠点都市

ヒト

- 学内兼務による運営で、**専門人材もあまり配置していない**
- **人材不足**に課題を感じている
- 学内人材だけで**外部リソースの紹介に対応しきれない**

モノ

- **起業・事業拡大に関するイベントはあまり実施されていない**
- **施設でのアントレ教育はほとんど実施されておらず**、実施していても**動機付け・意識醸成段階の内容が中心**である

カネ

- 利用者への資金提供について課題はないと考えている
- 外部連携先からの資金調達に課題はないと考えている

地域連携

- **地域のプレイヤーとの連携はあまりない**（その中でも、中小企業や自治体やVCとの連携は僅かに確認できる）
- 専門家・スタートアップ支援機関・大学・卒業生との連携はあまり見られない

国内大学インキュベーション施設が取組むべき事項（第4節を踏まえ検討）

① 外部支援人材の配置

グローバル拠点都市

推進拠点都市

ヒト

- 目指す姿を鑑みると、外部支援人材の配置を強化すべきである
- 大学としての外部連携は途上段階ではあるものの、大学が持つ外部ネットワークを活用し、支援人材の配置を推進すべきである※2

② アントレ教育プログラムの実施

グローバル拠点都市

推進拠点都市

モノ

- 目指す姿を鑑みると、インキュベーション施設でのアントレ教育の実施をすべきである。また、推進拠点都市ではリソース不足への対応として他大学等との連携した取組が望ましい
- 昨年度の当省の調査※2によると、既に大学では入門・応用フェーズを中心にアントレ教育を実施しているため、インキュベーション施設ではより実践フェーズでのアントレ教育の展開が望ましい

③ アクセラレーションプログラムの実施

推進拠点都市

- グローバル拠点都市では実施されており、目指す姿を鑑みてもインキュベーション施設での取組が望ましい

※3

上記を実現するために

④ 大学の外部ネットワークを活用した地域連携の強化

グローバル拠点都市

推進拠点都市

地域連携

- 実証実験支援や専門家によるメンタリング、起業・事業化に向けた実証実験等の実践的プログラムの開発や運営、アクセラレーションプログラム等、インキュベーション施設単独での実施が難しい事項に対し、適宜地域と連携し推進していくことが望ましい
- 大学の外部連携は途上段階ではあるものの、大学がもつ外部ネットワークを活用し、地域連携を進めていくことが望ましい

※1 国内大学インキュベーション施設アンケート結果より作成

※3 カネについては、海外大学及び海外の大学インキュベーション施設におけるカネの実態調査を踏まえ、検討する必要がある

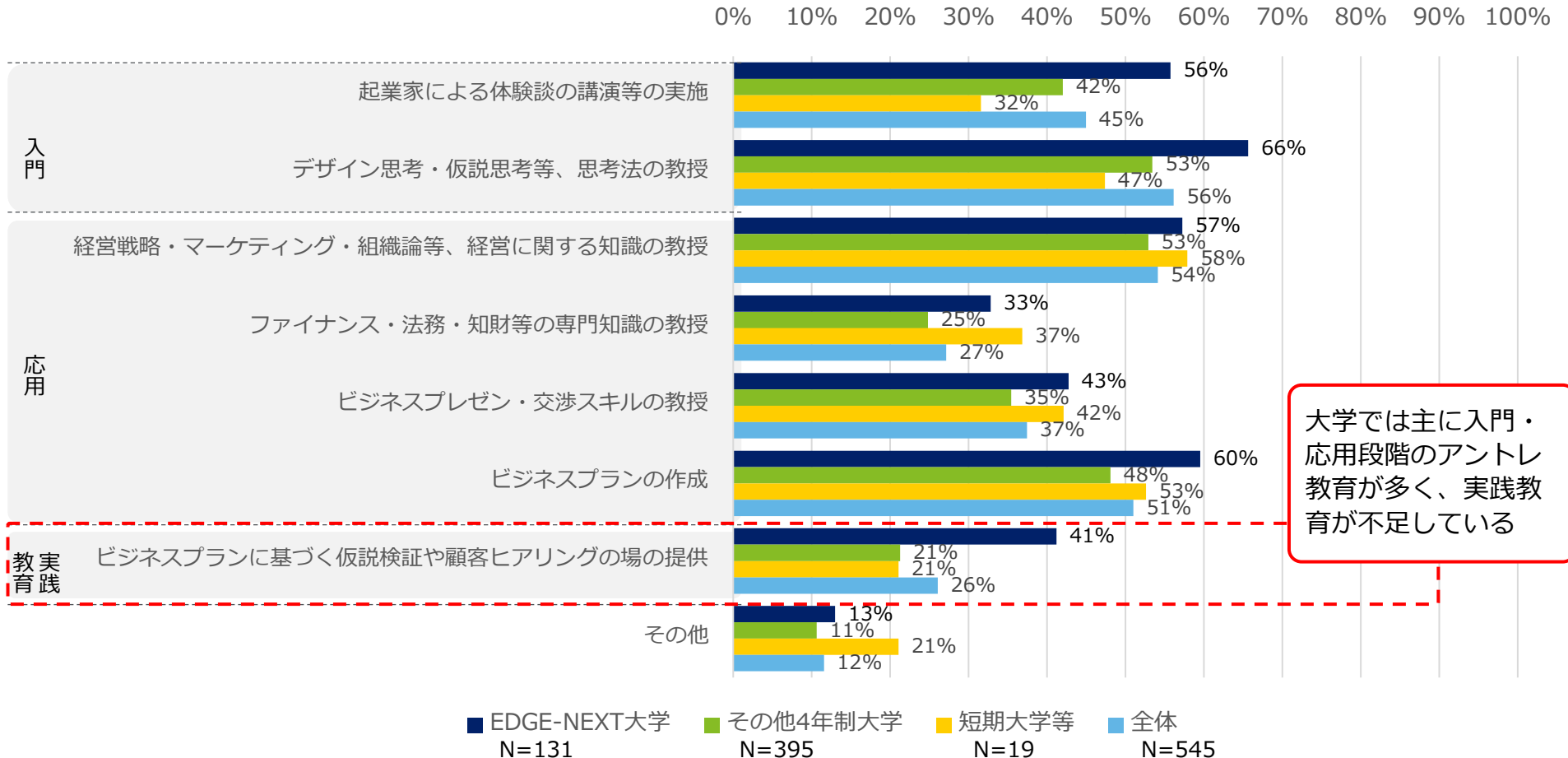
※2 次頁詳細

【参考】昨年度調査 大学で実施しているアントレ教育の内容

✓ 大学では、入門や応用段階を中心としてアントレ教育を実施している傾向にある

【昨年度調査結果※】 大学で実施しているアントレ教育の内容（複数回答可）

※昨年度調査（持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析） https://www.mext.go.jp/content/20211115-mxt_sanchi01-000018853_02.pdf



大学では主に入門・応用段階のアントレ教育が多く、実践教育が不足している

※ 入門：キャリアを考える中で起業という選択肢を知り、身近に感じさせる。起業の具体的なイメージを持たせる
 ※ 応用：想いを具現化するために必要になるスキルを習得させ、実践に臨めるようにする
 ※ 実践教育：実践的取組みを通じ、起業家精神の涵養を後押し。結果として起業に至らずとも起業家精神を習得し新たな価値を創造する

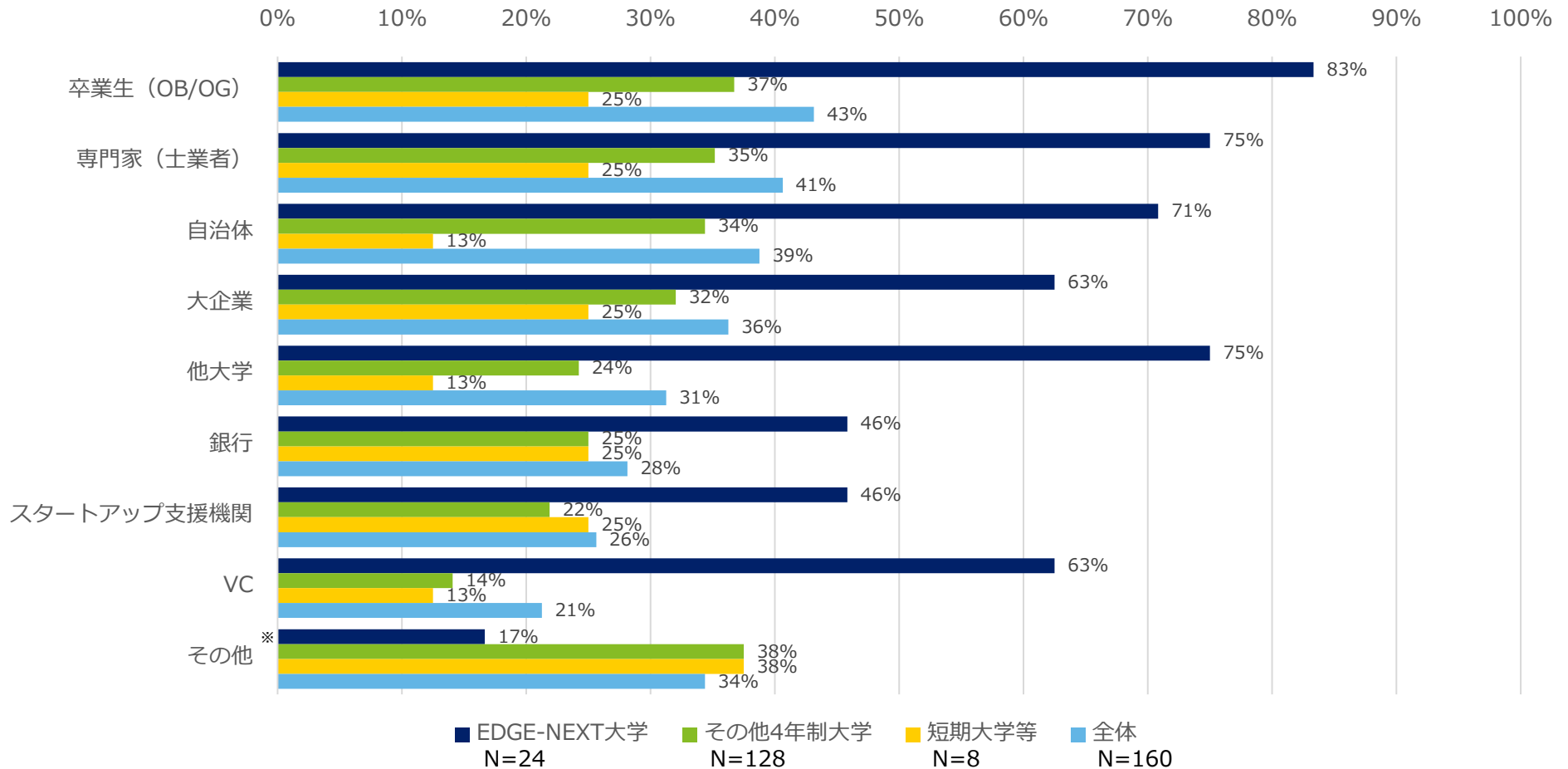
Nはプログラム数

【参考】昨年度調査 大学の外部連携

- ✓ 大学インキュベーション施設としては外部との連携はあまり見られなかったが、大学としては卒業生、専門家（士業者）、自治体、大企業等、外部との連携は途上段階ではあるものの、連携が確認できる

【昨年度調査結果※】 アントレ教育を実施する上での外部との連携について（現状の連携有無）

※昨年度調査（持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析） https://www.mext.go.jp/content/20211115-mxt_sanchi01-000018853_02.pdf



※【EDGE-NEXT大学】

✓ 医療法人、コンサル会社、証券会社、地域の中小企業経営者、海外のアントレプレナー育成支援機関 等

※【その他4年制大学】

✓ 地域の中小企業や有力企業 地域の起業家 等

Nは回答大学数

目指すべきモデルの検討（グローバル拠点都市）

- ✓ グローバル拠点都市における大学インキュベーション施設では、外部支援者によるメンタリング、大学と連携したアントレ教育や、スタートアップ支援者との交流機会の提供や外部とのネットワーク機会の提供等の強化が必要である

目指すべきモデルの検討（グローバル拠点都市）

現状・課題感を踏まえ特に取り組むべき事項

		アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮	事業化
		動機付け・意識醸成段階	コンピテンシーの形成段階	社会実装段階	アントレ教育後
学生等		<ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎知識・スキルの習得 ■ 志を同じくする仲間の獲得 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践スキルの習得 ■ 専門家との人脈構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各専門家、メンターとの相談機会の獲得
入居者	企業	<p><既に起業した先輩起業家や企業や士業者等のメンター等にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望なスタートアップ候補への早期接触 <p><学生にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動拠点の確保、相談先・ネットワーク機会の獲得、資金調達機会の獲得 			<p><起業した学生にとって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要リソースへのアクセスが可能 ・活動拠点の確保 ・資金調達機会の獲得
インキュベーション施設	大学	<ul style="list-style-type: none"> ① 外部支援者によるメンタリングの実施 ② 大学と連携したアントレ教育の実施 ④ 外部とのネットワーキング機会の提供 			<ul style="list-style-type: none"> ・アクセラプログラムの提供 ・オフィススペース提供 ・ウェットラボ提供
	民間企業等	<ul style="list-style-type: none"> ④ スタートアップ支援者との交流機会提供 ・起業家コミュニティ形成 			<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験施設や機会の提供 ・エンジニアリングラボの提供 ・アクセラプログラムの提供・資金提供 ・ネットワーク（海外含む）支援
外部連携先	支援者*	<ul style="list-style-type: none"> ・メンターとしての関与 ・講師としての関与 ・保有するネットワーキングの提供 ・インキュベーション施設への入居 			<ul style="list-style-type: none"> ・保有設備や機材等のハードの提供 ・実証フィールドの提供 ・資金の提供

※ 大企業、投資家、金融機関、スタートアップ、アクセラレーター、士業者、起業家、行政機関等

目指すべきモデルの検討（推進拠点都市）

- ✓ 推進拠点都市における大学インキュベーション施設では、外部支援者によるメンタリング、大学・他大学等と連携したアントレ教育や、スタートアップ支援者との交流機会の提供や外部とのネットワーク機会の提供等の強化が必要である

目指すべきモデルの検討（推進拠点都市）

現状・課題感を踏まえ特に取り組むべき事項

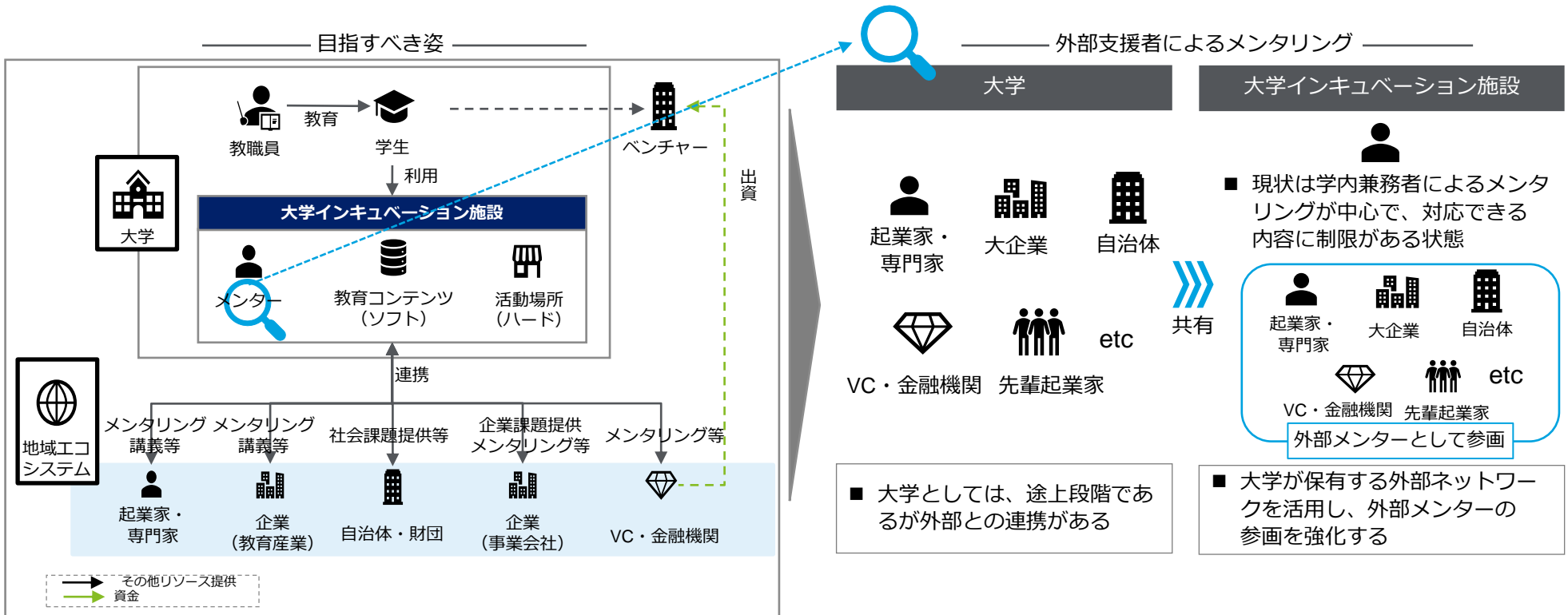
		アントレプレナーシップの醸成	アントレプレナーシップの発揮	事業化
		動機付け・意識醸成段階 コンピテンシーの形成段階	社会実装段階	アントレ教育後
学生等		<ul style="list-style-type: none"> ■ 基礎知識・スキルの習得 ■ 志を同じくする仲間の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実践スキルの習得 ■ 専門家との人脈構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各専門家、メンターとの相談機会の獲得
入居者 企業		<既に起業した先輩起業家や企業や士業者等のメンター等にとって> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有望なスタートアップ候補への早期接触 <学生にとって> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動拠点の確保、相談先・ネットワーク機会の獲得、資金調達機会の獲得 		<起業した学生にとって> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要リソースへのアクセスが可能 ・ 活動拠点の確保 ・ 資金調達機会の獲得
大学 インキュベーション施設		<ol style="list-style-type: none"> 外部支援者によるメンタリングの実施 他大学と連携したアントレ教育の実施 アクセラプログラムの実施 スタートアップ支援者との交流機会提供 外部とのネットワーキング機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ コワーキングスペース・オフィススペースの提供 ・ 起業家コミュニティ形成 		
民間企業等		<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント・セミナーの開催 ・ 若年層へのアントレプログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学とのプログラム連携 ・ 連携先との個別面談機会の提供 ・ ピッチ機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファンドによる資金提供 ・ ファブ施設、実証実験施設・機会の提供 ・ アクセラプログラムの提供
（外部連携先） 支援者※		<ul style="list-style-type: none"> ・ メンターとしての関与 ・ 講師としての関与 ・ 保有するネットワーキングの提供 ・ インキュベーション施設への入居 ・ 保有設備や機材等のハードの提供 ・ 実証フィールドの提供 ・ 資金の提供 		

※ 大企業、投資家、金融機関、スタートアップ、アクセラレーター、士業者、起業家、行政機関等

① 外部支援者によるメンタリング

✓ 大学で保有する外部ネットワークを活用し、大学インキュベーション施設における外部メンターの強化を推進すべきである

外部支援者によるメンタリング



大学インキュベーション施設として主に取り組むべきこと

- インキュベーション施設として対応が難しいテーマ（専門的技術や業界特有のルールやチャンネル等）の洗い出しと、これに対応できる大学保有の外部ネットワーク先の検討 等

国として主に取り組むべきこと

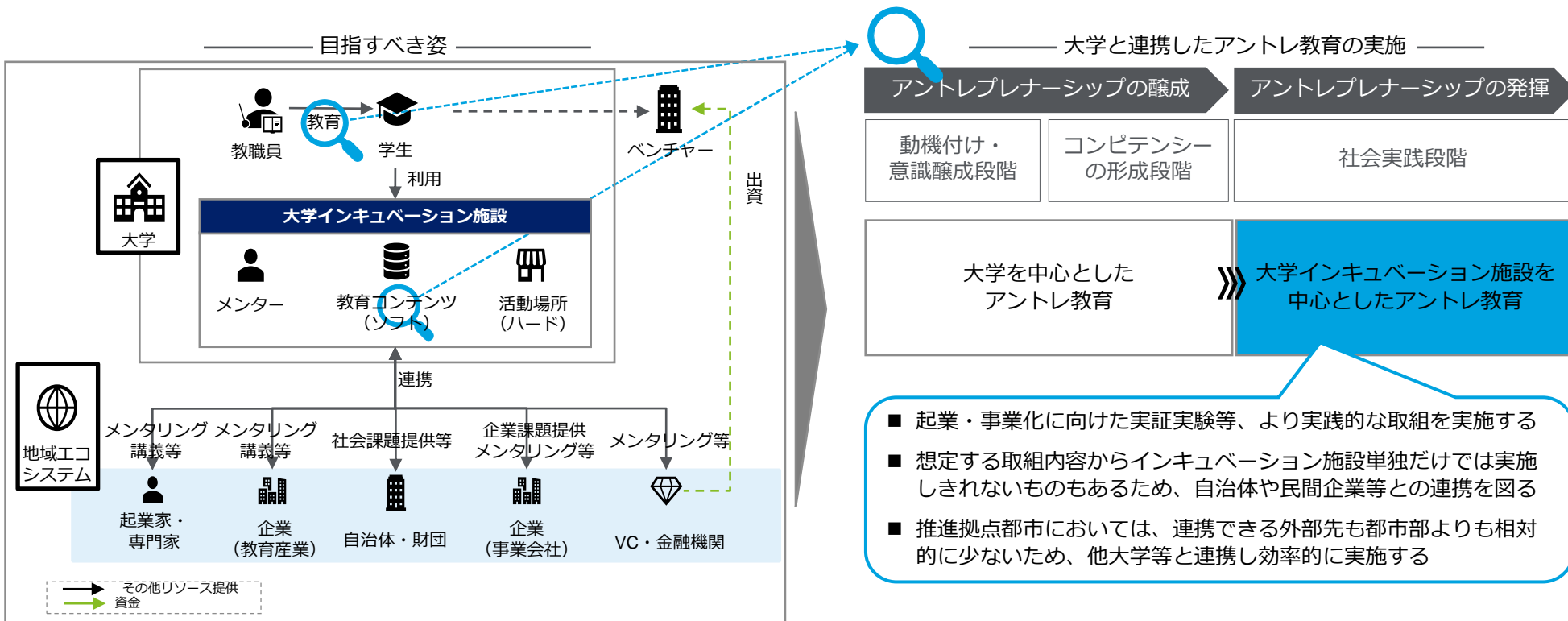
- 事業や技術等大学が対応しきれないテーマについてアドバイスができる外部支援者（専門家、団体・組織）に対し、大学インキュベーション施設と連携したくなるインセンティブ設計、海外事例の収集・発信
- 今後開発予定のアントレ教育に関わる全国教育プラットフォームでの外部支援者の巻き込み・パイロット運用 等

② 大学と連携したアントレ教育の実施

グローバル拠点都市 推進拠点都市

- ✓ 大学で実施しているアントレ教育との連携をはかり、大学インキュベーション施設では、より実践的なフェーズでの教育を実施すべきである

大学と連携したアントレ教育プログラムの実施



大学インキュベーション施設として主に取り組むべきこと

- 大学で実施するアントレ教育と大学インキュベーション施設で実施する教育フェーズの調整
- 実践フェーズで必要になるコンテンツや外部リソースの整理 等

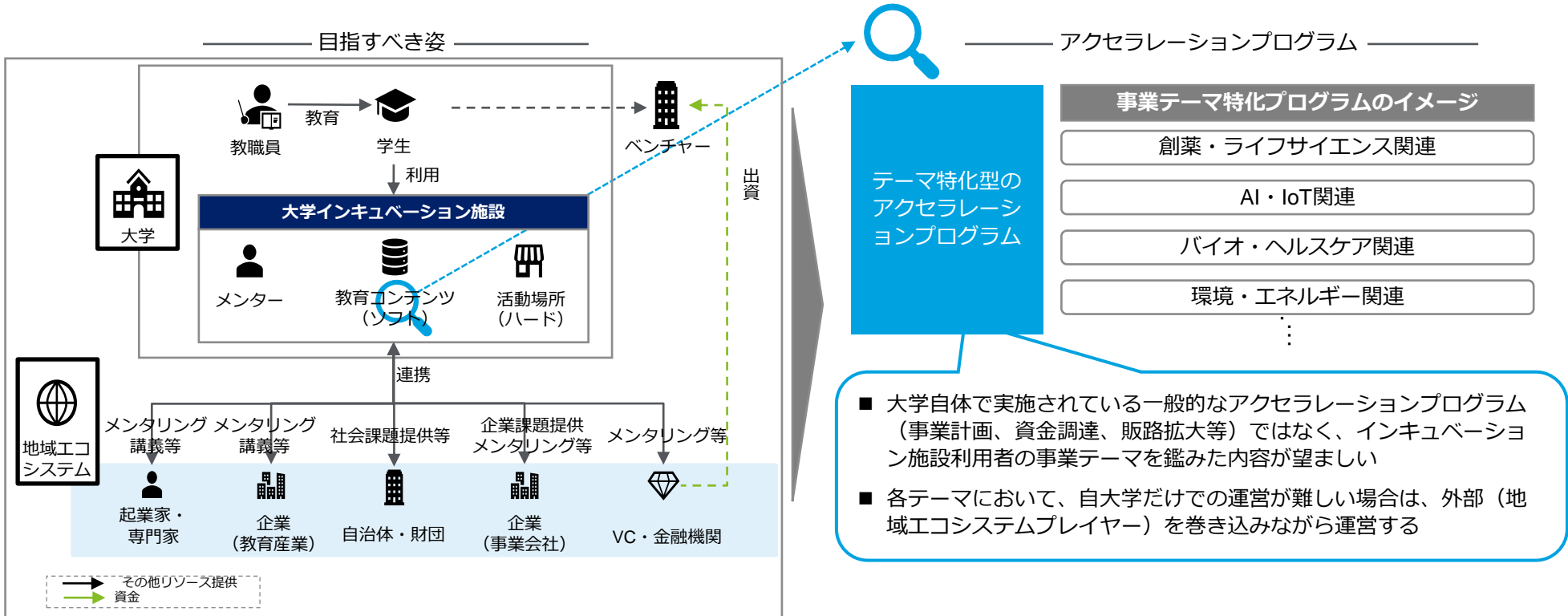
国として主に取り組むべきこと

- 民間企業と大学が連携したアントレ教育プログラムの事例調査及び効果検証の実施
- 今後開発予定のアントレ教育に関わる全国教育プラットフォームにおいて、民間企業による教育プログラムの試験運用 等

③ アクセラレーションプログラムの実施

- ✓ 大学自体で実施されている一般的なアクセラレーションプログラム（事業計画、資金調達、販路拡大等）ではなく、インキュベーション施設利用者の事業テーマを鑑みたプログラムが望ましい

アクセラレーションプログラムの実施



大学インキュベーション施設として主に取り組むべきこと

- インキュベーション施設利用者の事業テーマの把握と、それに合致する外部（地域エコシステムプレイヤー）の検討
- 外部をより巻き込みやすくするために、地域内の他大学インキュベーション施設と連携した運営の検討 等

国として主に取り組むべきこと

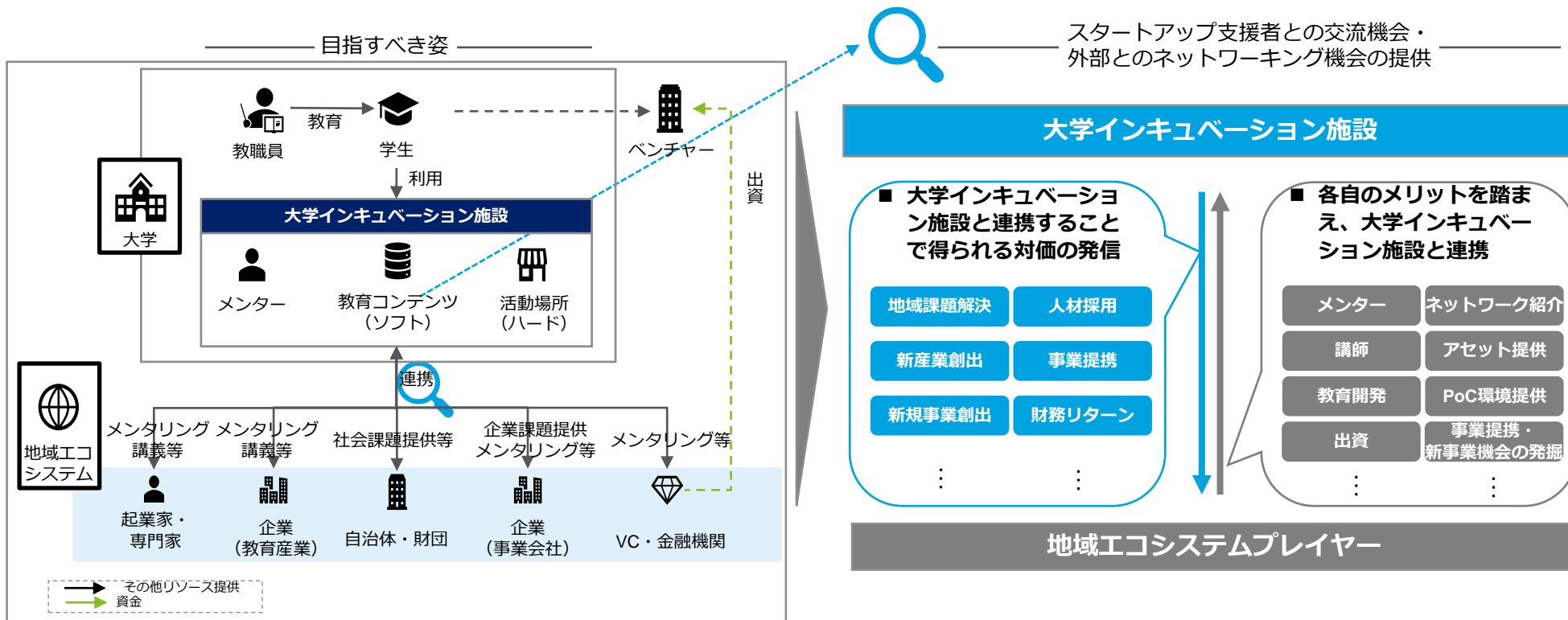
- 外部（地域エコシステムプレイヤー）の誘致活動の推進
- 地域にインキュベーション施設の事業テーマの傾向の可視化と外部への発信 等

④ スタートアップ支援者との交流機会・外部とのネットワーキング機会の提供

グローバル拠点都市 推進拠点都市

- ✓ 外部（地域エコシステムプレイヤー）との連携を推進するためには、大学インキュベーション施設との連携による対価を整理し発信し、連携先である外部も、大学インキュベーション施設との連携する重要性を理解することが重要である

スタートアップ支援者との交流機会・外部とのネットワーキング機会の提供



大学インキュベーション施設として主に取り組むべきこと

- 外部（地域エコシステムプレイヤー）との連携によるアントレ教育方針の検討
- 大学インキュベーション施設と連携することで得られるメリットの整理と情報の発信 等

国として主に取り組むべきこと

- 経済団体等への働きかけを通じた地域エコシステムプレイヤーが大学インキュベーション施設に関わる重要性の意識醸成の促進
- 国内外含めた好事例の収集と発信 等

【第3章】

エコシステムとの連携による受講者の裾野拡大： 民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査

調査テーマを踏まえた調査項目

✓ エコシステムに関する論点と全国プログラムの試行を踏まえたプラットフォーム構築に関する論点に整理し、調査を実施した

調査・分析テーマを踏まえた項目

調査・分析テーマ		具体的実施事項	
1 全国プラットフォーム構築による裾野拡大	アントレ教育の受講機会拡大に関する調査・分析	全国規模プログラムの設計と試行	有識者と綿密連携した1,000名以上が実施可能なプログラム設計 全国の学生等を対象としたプログラムの試行的実施 プログラム実施時の課題抽出・最適実施方法に関する検討
		教育効果の評価方法検討	個々の受講者に対する教育効果の測定に関する検討 プログラムの設計・運営に関する評価に関する検討
		プラットフォーム機能・運用	参画者の属性、教育ステージ備えるべき機能、持続的運用検討 教職員間の意見交換・情報提供の場を設け、運用を検討
		アントレ醸成を加速させる広報方策の調査・分析	受講者確保のための広報活動実施（SNS等） プログラムの受講者確保に向けた広報、課題整理検討 情報発信、受講者募集ホームページ運営・運用の方策検討
2 エコシステムとの連携による受講者の裾野拡大	アントレ教育に関する調査・分析	インキュベーション施設の活用方法調査	国内外の大学が運用するインキュベーション施設を対象としてアントレ醸成に資するインキュベーション施設の活用に関して調査 インキュベーション施設の機能・運用方法のアンケート等による詳細調査
		民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査	大学と民間企業等が連携したアントレ教育プログラムに関する調査 民間企業等に対する大学アントレ教育への期待・課題に関する調査

民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査

- ✓ 実践的プログラムの不足、外部連携の不足等がアントレ教育プログラムと課題となっている一方で外部と連携した取組を展開している事例も多くはないものの存在しており、これらの事例をもとに、プログラム開発・連携目的を観点に調査を実施した

アントレ教育プログラムの課題※とそれを踏まえた調査の観点

現状の課題		アントレプレナーシップの醸成		アントレプレナーシップの発揮
		動機付け・意識醸成	コンピテンシーの形成	社会実践
受講者の裾野拡大	学生に対する普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 講義以外の取組みや情報発信の不足 ✓ 学生コミュニティとの連携不足 ✓ 小中高との連携不足 		
	大学内での理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学全体としての理解・協力の不足（各学部や研究科での個別対応になっている） ✓ 単位化/必須科目化等、学び促進不足 		
	社会全体における認知	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育の重要性・必要性の理解不足 ✓ 保護者における、学生の受講に対する理解不足 ✓ 社会一般における理解不足 		
アントレ教育のリソース不足	学内リソース	ヒト	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育を指導できる人材の育成不足・実務家の採用不足 ✓ キャリア開発等の教員の巻込不足 ✓ 大学内の教育へ巻込み不足 ✓ 学術と実務双方を進める教員の育成不足 	
		モノ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コーディネート機能の未構築 ✓ 事務局機能の未構築 ✓ 教育プログラム及び共有の不足 ✓ アントレ研究に対する支援不足 ✓ 起業支援プログラムの不足 	
	カネ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 全大学共通プログラムの開発不足 ✓ 人事評価制度の未対応 		
	学外リソース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育のための予算獲得難 ✓ 学内だけでは対応しきれないヒト・モノ・カネのリソースをカバーできるような外部（OBOG・他大学・大企業・VC・自治体・スタートアップ支援機関等）との連携不足 ✓ 各地に所在するエコシステムのコミュニティとの連携不足 		アントレ教育後 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 仕組みの企画設計及び学内外を巻き込んで取り組む人材不足 ✓ アントレ教育後の展開を見据えたプログラムの未整備や外部連携の未構築
成果を生むための仕組の不足	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アントレ教育後のフェーズにおける課題（右記記載） 			
効果検証と成功事例横展開	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 他大学の取組みを知る機会の欠如 ✓ 教育効果の可視化不足 			

調査の観点

- #### プログラム開発

 - 民間企業等と連携したプログラム
 - 学内のリソースだけでは限界があり、実務や経験を踏まえた実践的プログラムが不足
 - 民間企業等と連携しどのようなプログラムを実施しているのか
- #### 外部連携

 - 民間企業等が大学と連携をする目的
 - 外部連携が課題である
 - 民間企業等はどのような目的で大学との連携を行うのか

※ 令和2年度持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析 報告書より抜粋

民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査

- ✓ 調査の観点を踏まえ、民間企業等には大学とアントレ教育を実施する目的、実施先として選ぶ大学の条件、実施における課題、今後希望する連携の在り方、プログラム内容等を調査した

調査テーマ

調査テーマ		調査目的・狙い
目的	実施目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間企業等はどのような目的で大学とアントレ教育を取り組むのか、民間企業等が大学と連携する狙いを把握する
連携上の工夫・課題	実施先	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間企業等が大学と連携する際に、大学に求めている条件は何か、民間企業等から選ばれるポイントを把握する
	教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間企業等と連携した教育プログラムの具体的な内容はどのようなものか
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間企業等が大学と連携する際に感じている課題は何か。連携の阻害要因を把握する
実施後の評価	評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間企業等と連携した結果のどのような成果があったか、取組によるインパクトを把握する
	今後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今後、民間企業等が求める連携の在り方（目的・プログラム内容）を把握する

【第1節】

民間企業等と連携したアントレ教育（海外）

GOLDMAN SACHS 10KSB

✓ ゴールドマンサックスは中小規模事業者に対して体系的なプログラムを通じた事業成長支援を提供している

GOLDMAN SACHS 10KSB : プログラム概要

プログラム概要	実施企業	■ GOLDMAN SACHS
	会社概要	■ 投資銀行業務、証券業務および投資運用業務を中心に企業、金融機関、政府機関、個人など多岐にわたり幅広い金融サービスを提供
	大学	■ バブソン大学
	プログラム名	■ GOLDMAN SACHS 10KSB Fellows (②)
	プログラム受講者	■ スタートアップ等を含む中小企業経営者
	参考URL	■ https://www.10ksbapply.com/

※ 出所：各HPより

カリキュラム概要

- ゴールドマンサックスが中小企業向けに推進する経営支援プログラム。受講者は経営に必要な知識を学ぶとともに、人材や資金面での支援を受けることが可能。
 - バブソン大学がカリキュラムの設計と教員育成を担当
 - 250人以上のプログラム教員やビジネスアドバイザーのトレーニングを実施
 - ゴールドマン・サックス財団によりプログラム参加者に、授業料と教材費をカバーできる奨学金を提供する

① GOLDMAN SACHS 10KSBプログラム

- 米国国内の中小企業やソーシャルビジネス向けの12週間の支援プログラム
- 事業計画策定や経営支援のみならず金融機関からの資金調達支援も実施する

② GOLDMAN SACHS 10KSB Fellow

- 学生向けにGoldman Sachs 10KSB参加の中小企業でのインターンシップを提供するプログラム

- ✓ ゴールドマンサックスはバブソン大学と連携し、事業実施に向けた講座から事業成長を実現するまでの体系的なプログラムを提供している

GOLDMAN SACHS とバブソン大学の連携 : GOLDMAN SACHS 10KSBプログラム詳細

プログラム概要	プログラム名	■ GOLDMAN SACHS 10KSB
	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	■ バブソン大学
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中小企業経営者が融資を受けることができていないという課題に対応するために本プログラムを設置 ■ 本プログラムを通じて中小企業に対して資金調達の機会をCDFI（アメリカの地域開発金融機関）と連携して提供する
	プログラムの運営方法・形式	■ 講義、メンタリング、事業計画策定支援、資金調達支援等

カリキュラム概要	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ゴールドマン・サックス財団によりプログラム参加者に、授業料と教材費をカバーできる奨学金を提供する ■ Goldman Sachsが主導した、米国国内の中小企業やソーシャルビジネス向けの12週間の支援プログラムであり、経営関連のカリキュラム以外、ビジネス支援、ファイナンス機関との繋がりを提供する
全国共通カリキュラム	■ 起業・事業成長のために必要な9つの実践的カリキュラムを整備
メンタリング・サポート	■ 学内外の様々な事業経営者・支援者がメンターとして事業計画に対してのコンサルティング・アドバイスをを行う
社会実践準備	■ 起業するために必要となる資金調達のために金融機関等の紹介を実施
プログラム参加の成果	

- **66%の卒業生はプログラム修了からわずか6ヶ月後に売上を向上し、47%が新しい雇用を創出した**
- **86%以上の参加者は参加者同士とビジネスを実施**

※ 出所：同社HPより

✓ ゴールドマンサックスは学生に対して就労体験の機会を提供するとともに、企業の人材不足という課題に対処している

GOLDMAN SACHS とバブソン大学の連携 : GOLDMAN SACHS 10KSB Fellowプログラム詳細

プログラム概要	プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ GOLDMAN SACHS 10KSB Fellow
	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ バブソン大学
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 優秀な大学生にインターンシップを機会を提供するとともに、人材不足に陥っている中小企業の課題解決を図る ■ インターンシップ参加の学生にはメンターが配備され、自身のキャリア形成やコンピテンシー形成の促進が図られる
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ インターンシップの実施

カリキュラム概要	
<ul style="list-style-type: none"> ■ ゴールドマン・サックス財団によりプログラム参加者に、授業料と教材費をカバーできる奨学金を提供する ■ Goldman Sachsが主導した、米国国内の中小企業やソーシャルビジネス向けの12週間の支援プログラムであり、経営関連のカリキュラム以外、ビジネス支援、ファイナンス機関との繋がりを提供する 	



意識醸成 動機付け	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規事業開発と産業分析（ベンチャー・ディベロップメントI）
コンピテンシー形成	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンターによるメンタリングを通じた、自身のキャリア形成やコンピテンシー形成に向けた示唆を得る

プログラム参加の成果	
<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム内でMcGuire New Venture Competitionを開催。学生スタートアップの19チームが革新的な新事業を発表し、優勝チームにはMicrosoft社がスポンサーとなり5,000ドルが授与された（2017年時点） ■ 優秀な学生は卒業後、Microsoftの社員として採用されている 	

※ 出所：同社HPより

- ✓ ゴールドマンサックスはプログラムを通じて、CSRとしての教育の実施、将来的な潜在クライアントとのリレーション構築、社会的インパクトの創出を図っている

GOLDMAN SACHS 10KSBとバブソン大学の連携：ステークホルダーと目的

ステークホルダー	目的
<p>大企業 (Microsoft)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 中小企業の経営支援・成長支援による社会的インパクトの創出 ② 将来の潜在的クライアント候補となりうる企業へのアクセス ③ 自社のCSR活動の一環としてのブランディング 
<p>大学 (バブソン大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生に対して将来の就職機会の提供 ② 中小企業の経営支援を通じて生み出された社会的インパクトによる知名度の向上 ③ 研究シーズの社会実践に向け、ビジネスサイドとのつながり構築 
<p>中小企業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 自社事業の成長のきっかけとなるネットワークの構築 ② 自社事業の成長につながる新しいアイデアの獲得 ③ 大学からの人材獲得 ④ 自社のあ新たな事業創出のための金融機関とのリレーション構築

- ✓ ゴールドマンサックスは中小事業者が事業成長を達成できるように意識醸成から事業拡大に至るまでの実践的なプログラムを整備している

GOLDMAN SACHS 10KSBとバブソン大学の連携：目的・実践的なプログラム内容・成果

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育
を取り組む目的

- 中小企業の経営支援・成長支援による社会的インパクトの創出
- 将来の潜在的クライアント候補となりうる企業へのアクセス
- 自社のCSR活動の一環としてのブランディング

GOLDMAN SACHS 10KSB

動機付け・
意識醸成
段階

- 講義の実施
 - You and Your business(自身のビジネスの現状と課題)
 - Growth & Opportunities (成長機会の検討)
 - You are the Leader (リーダーシップ論)
 - Being Bankable (銀行からの資金調達)

コンピテン
シーの形成
段階

- 事業計画策定に役立つ1対1およびグループコンサルティングセッションの提供
- 専任のプロフェッショナルによる戦略的かつカスタマイズされた成長計画の策定支援

社会実践
段階

- 事業拡大に向けた資金調達のための金融機関の紹介

プログラム内容

成果

- 66%の卒業生がプログラム修了から6ヶ月で売り上げを向上
- 86%以上の参加者が参加者同士でビジネスを開始
- 事業を提供するエリアを拡大し続けている

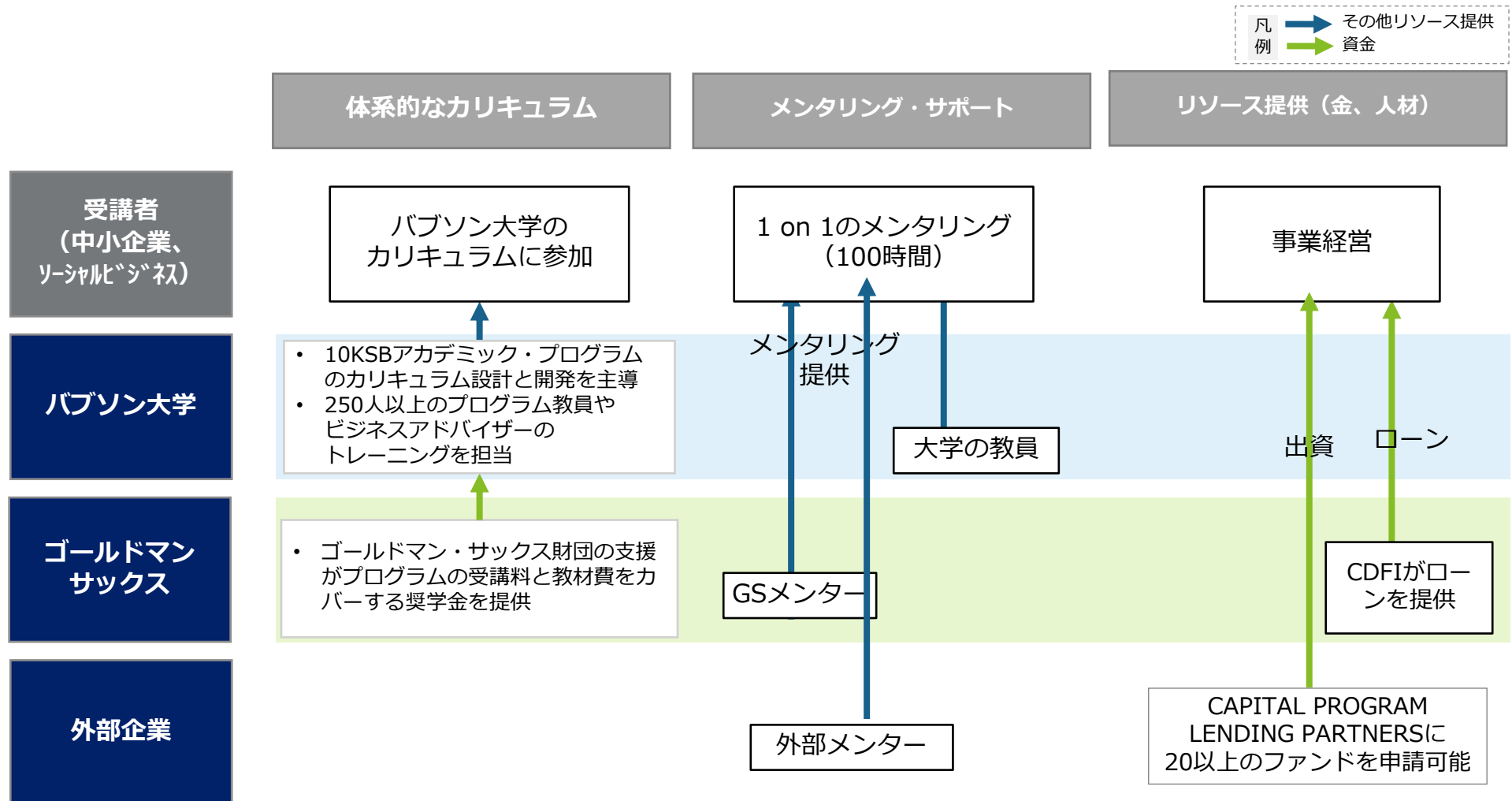
<10KSBプログラムの提供地域>



※ 出所：同社HPより

- ✓ バブソン大学がカリキュラムの設計開発とプログラム教員の育成を担当し、大規模展開の基盤を作った
- ✓ ゴールドマンサックスは受講料以外に資金提供者とのネットワークやメンター等のリソース提供、受講者の事業成長を支援

GOLDMAN SACHS 10KSBとバブソン大学の連携：エコシステム



Manage and More (Bosch、BMW等)

✓ ミュンヘン工科大学はBosch、BMWなどの企業と連携し、ビジネス等の手法を用いた実践的なプログラムを提供している

Manage and More : プログラム概要

プログラム概要	実施企業	<ul style="list-style-type: none"> ■ Bosch ■ BMW ■ E.ONなど
	会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ Bosch : エンジニアリング・テクノロジー企業 ■ BMW : 自動車および自動二輪車、エンジンメーカー ■ E.ON : 電力・ガスなどを供給する大手エネルギー会社
	大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ ミュンヘン工科大学
	プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ Manage and More
	開始時期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2005年
	プログラム受講者	<ul style="list-style-type: none"> ■ ミュンヘンに在住する大学生
	参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://study.unimelb.edu.au/finding/microcredentials/intrapreneurship-fundamentals/ ■ https://www.manageandmore.de/

※ 出所：各HPより

カリキュラム概要

- ミュンヘン工科大学のUnternehmerTUM（イノベーションセンター）は起業家精神の中心地として、大学とビジネスとの連携を体系的にサポート
- 3学期にわたり、ビジネスデザインブートキャンプ、チーム開発、プロジェクト実施、スタートアップコーチングなどを提供
- Manage and More : 18ヶ月のプログラム
 - 学際的な協働作業：イノベーションの方法、問題解決の手法、ビジネスモデルについて学習
 - イベント：ミュンヘンのさまざまなスタートアップとの出会い、交流を促進
 - ワークショップ：専門家とのチームワークを経験
 - メンタリング：有名企業の経験豊富な専門家からのアドバイス



▲ Manage and More

✓ 企業の従業員と協働作業して新規開発を行い、メンタリング・コーチングなどの実践的、体系的なプログラムを実施した

Manage and More : プログラム詳細

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同開発（プログラムはTUMが設計。イノベーションプロジェクトにおいて、受講生に対し、BMW、ボッシュ、E.ONなどの企業が新製品やサービスの構想を支援 ■ 大学教授と企業人事部門協働で、カリキュラムを開発
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学と産業界の連携をサポートし、学生や研究者がアントレプレナーシップを取得することを支援するため（BMW）
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、イノベーションプロジェクト、ワークショップ、コーチング、メンタリング、ピッチイベントへの参加等

カリキュラム概要	
<ul style="list-style-type: none"> ■ BoschやBMWの従業員が各企業のコア技術をもとにメンターとして参画し、参加者にデザインシンキングやビジネスデザインなどのイノベーションの手法、イントレプレナーシップに関するノウハウを提供 ■ 参加者に学期ごとの助成金を提供 	
セメスタープロジェクト	
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ■ デザイン思考を用いたビジネスデザイン ■ BMW、Bosch、E.ONなどの企業の新しい製品やサービスのデザイン
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 受講者自身のスタートアップのアイデアの開発、コーチングを受ける
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ■ チーム開発を通じてプログラムマネジメントを身に付け、スタートアップ初期段階を準備
プログラム要素	
指導	<ul style="list-style-type: none"> ■ コーチとの個々のセッション
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ■ ピッチイベント・スタートアップツアー・パーティーへの参加
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最大15の専属エキスパートワークショップへの参加
メンタリング	<ul style="list-style-type: none"> ■ スタートアップ、経営、イントラプレナーシップの分野から経験豊富なメンターを紹介（BMWやマッキンゼーなど）
国際オリエン	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有名な国際大学での学期への参加や海外でのインターンシップへの参加

※ 出所：同社HPより

- ✓ Bosch、BMWなどの企業はプログラムを通じて、学生からビジネスアイデアを獲得し、就職先としてのブランディングを実施
- ✓ ミュンヘン工科大学は学生に実践的な体験、雇用への機会を提供し、企業の出資を獲得

Manage and More : ステークホルダーと目的

ステークホルダー	目的
<p>大企業 (Bosch)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① アイデアの獲得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ イノベーションプロジェクトにおいて、学生とともに企業の新製品やサービス開発の構想を考案することにより、アイデアを獲得する ② 優秀な人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ➢ プログラムのメンターとして参加し、意欲ある学生にアクセスできる ➢ 企業のブランディングにつながり、将来の就職先として学生にアプローチできる
<p>大学 (ミュンヘン工科大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 実践的な体験 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企業現場の実践的なプログラムの体験（大企業と連携することによる新しい課題へのチャレンジ） ② 雇用へのアクセス <ul style="list-style-type: none"> ➢ 雇用主である大企業の人材採用基準の理解 ③ 資金提供 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企業からの出資を獲得し、受講生に資金を提供 ④ 海外スタートアップエコシステムの理解 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外の有名大学（スタンフォード大学（米国）、トンジ大学（中国）、またはマサチューセッツ工科大学（米国））などと連携した国際オリエンテーションを開催することで、海外スタートアップエコシステムに対する理解を促進
<p>海外大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① スタートアップエコシステムの形成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ グローバルスタートアップエコシステムの形成を促進し、受講生にインターンシップの機会や海外交流の機会を提供

✓ ビジネスデザインといった意識醸成段階からピッチイベントの社会実践段階までのプログラムを提供している

Bosch・BMW・E.ONとManage and Moreの連携：目的・実践的なプログラム内容・成果

大学との連携目的・実践的なプログラム内容・成果

大学とアントレ教育
を組む目的

- アイデアの獲得
- 優秀な人材の確保

実践的な
プログラム内容

動機付け・
意識醸成
段階

- ビジネスデザインブートキャンプ
- ビジネスデザインディープダイブ

コンピテン
シーの形成
段階

- スタートアッププロジェクト講習
- アジャイルチームリーダー講習
- テクノロジー講習
- コーチング講習

社会実践
段階

- ピッチイベント・スタートアップツアーへの参加

プログラム要素

- 指導（コーチング）、イベント参加、ワークショップ、メンタリング、国際オリエンテーション

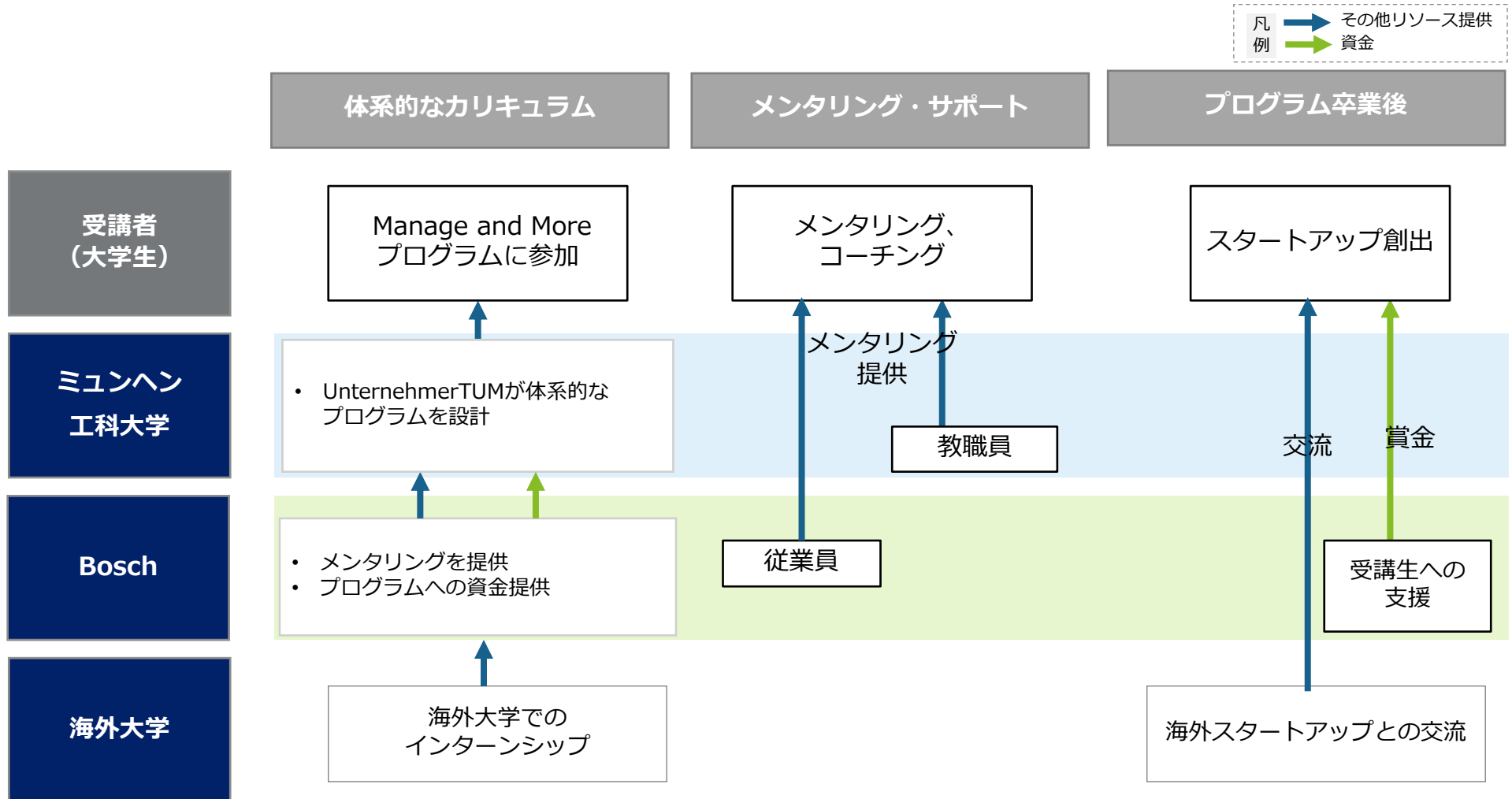
成果

- 1学期に約15のスタートアッププロジェクトを創出
- 2005年から2022年まで、約150のイノベーションプロジェクトを創出
- 650人の参加者と卒業生により、Manage and Moreファミリーを構築
- 国際オリエンテーションにおける、スタンフォード大学（米国）、トンジ大学（中国）、マサチューセッツ工科大学（米国）、Partners Partners & Co（イスラエル）との連携を実現
- 18ヶ月のプログラムに対して、1学期あたり20名に奨学金を支給、参加者を幅広く獲得

※ 出所：同社HPより

- ✓ ミュンヘン工科大学のUnternehmerTUMがプログラム開発を実施
- ✓ BoschやBMWなどの大企業が資金、メンタリング等を提供

Manage and More : エコシステム



Melbourne MicroCert Intrapreneurship Fundamentals (Telstra)

✓ メルボルン大学等の大学はTelstraと連携し、企業の従業員を中心にビジネス現場で活用できるような研修を提供している

Melbourne MicroCert Intrapreneurship Fundamentals : プログラム概要

プログラム概要

実施企業	■ Telstra Corporation
会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ オーストラリア最大の通信会社 ■ 国内と海外の顧客に電気通信および情報サービスを提供
大学	■ メルボルン大学を含めたオーストラリアにある5大学
プログラム名	■ Melbourne MicroCert Intrapreneurship Fundamentals
開始時期	■ 2021年7月
プログラム受講者	■ Telstraの従業員・その他希望者
参考URL	■ https://study.unimelb.edu.au/find/microcredentials/intrapreneurship-fundamentals/

カリキュラム概要

- Telstra Corporation（オーストラリア最大の通信会社）とメルボルン大学が共同開発した、起業家教育プログラム
 - Telstraの学習デザインチーム（人事チーム）が大学とプログラムの共同設計を実施し、製品管理、マーケティング、財務、オペレーション、ロジスティクス、IT技術に関する実践的なコンテンツを設計
 - 卒業生もプログラムに参加でき、アルムナイ割引が適用される
 - インtrapreneurshipに関心のあるチームも参加でき、チーム人数が多い場合はカスタマイズ用プログラムのリクエストが可能
- 8週間にわたる42時間の研修
 - 12時間のガイド付き学習
 - 30時間の自己学習と評価
- 受講料は1,190AUD



▲ Melbourne MicroCert Intrapreneurship Fundamentals

※ 出所：各HPより

- ✓ イントレプレナーシップに関するプログラムを提供し、アイデア開発、実行可能性検討、プラン開発といった一連のカリキュラムを実施している

Melbourne MicroCert Intrapreneurship Fundamentals : プログラム詳細

大学との連携目的・実践的なプログラム内容・成果	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同開発（革新的ソリューションを開発し、イノベーション実践プログラム、数多くのケーススタディを設計したメルボルン大学の専門家がプログラム設計に参画）
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ メルボルン大学とイントラプレナーシップ共同プログラムを提供することにより、自社のイノベーションを推進し、イントラプレナーシップスキルを自社のビジネスの中で成長させていくこと
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、自己学習、振り返り等

カリキュラム概要
実施内容 <ul style="list-style-type: none"> ■ イノベーションとイントラプレナーシップのプロセス全体を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ➢ アイデアが実現可能かどうか、実行可能かどうか、望ましいかどうかを確認することを含む主要なステップを理解するためのビジネスプランの作成及びプランの改善作業を実施する ➢ 革新的な考え方と行動の開発を促進するために、自己反省の習慣を確立する ➢ 教職員がオンラインで受講生とチームを組み、協働作業を実施
アセスメントタスク <ul style="list-style-type: none"> ■ アセスメントタスク1: イノベーション能力構築のための自己省察 [20%]* <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学習者は、組織内でイノベーション能力を構築する方法について、オンライン学習を実施 ■ アセスメントタスク2: ビジネスケース作成【80%】* <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学習者は、プロジェクトチームの一員として、選択した産業プロジェクトの主要な調査、バリュープロポジション、ステークホルダーマッピングの概要を説明する説明書を共同で作成

* 括弧内のパーセンテージは総合点に対する各評価の貢献度を示す
出所：同社HPより

- ✓ Telstraはプログラムを通じて、社内従業員研修、社内イノベーション創出、優秀な人材確保ができる
- ✓ メルボルン大学はプログラムを通じて、学生に実践的な体験、雇用の機会を提供できる

Melbourne MicroCert Intrapreneurship Fundamentals : ステークホルダーと目的

ステークホルダー	目的
<p>大企業 (Telstra)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 従業員研修 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 従業員がプログラムを受講することによる、ビジネス、イントレプレナーシップに関する理解の深化 ② 社内イノベーション創出 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 社内ベンチャー創出に関する実践的なスキルの向上 ➢ 社内におけるイントラプレナーシップの醸成 ➢ 優れた特許技術などに対する投資の実現 ③ 優秀な人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 対象大学の卒業生がプログラムに参加することにより、意欲ある学生にアクセス
<p>大学 (メルボルン大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 実践的な体験 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 大学単体の開催プログラムでは得られない、実践的なプログラムを体験 ② 雇用へのアクセス <ul style="list-style-type: none"> ➢ 大企業に就職するための機会を学生に提供 ③ 資金獲得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企業にカスタマイズプログラムを提供することにより、外部資金を獲得
<p>一般の方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① スキル向上の機会 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 製品管理、マーケティング、財務、オペレーションなど、大企業で活用できる実践的なスキルの獲得 ② コミュニティ形成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ プログラム参加を通じ、イントレプレナーシップに関心のあるメンバーによるコミュニティの形成

- ✓ Telstraが大学と連携することにより、従業員研修、社内イノベーション創出を目指し、従業員のビジネススキル向上を促進している

TelstraとMelbourne MicroCert Intrapreneurship Fundamentals連携：目的・実践的プログラム内容・成果

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育
を取組む目的

- 従業員研修
- 社内イノベーション創出
- 優秀な人材の確保

実践的な
プログラム内容

動機付け・
意識醸成
段階

- イノベーション能力構築のための自己省察（組織内でイノベーション能力を構築する方法についてオンライン学習を実施）
 - ▶ アイデアが実現可能かどうか、実行可能かどうか、望ましいかどうかを確認

コンピテン
シーの形成
段階

- ビジネスケース作成
 - ▶ プロジェクトチームの一員として、選択した産業プロジェクトの主要な調査、バリュープロポジション、ステークホルダーマッピングの概要を説明する説明書を共同で作成

社会実践
段階

- アセスメントを受け、ビジネスケース説明書のブラッシュアップを繰り返す

成果

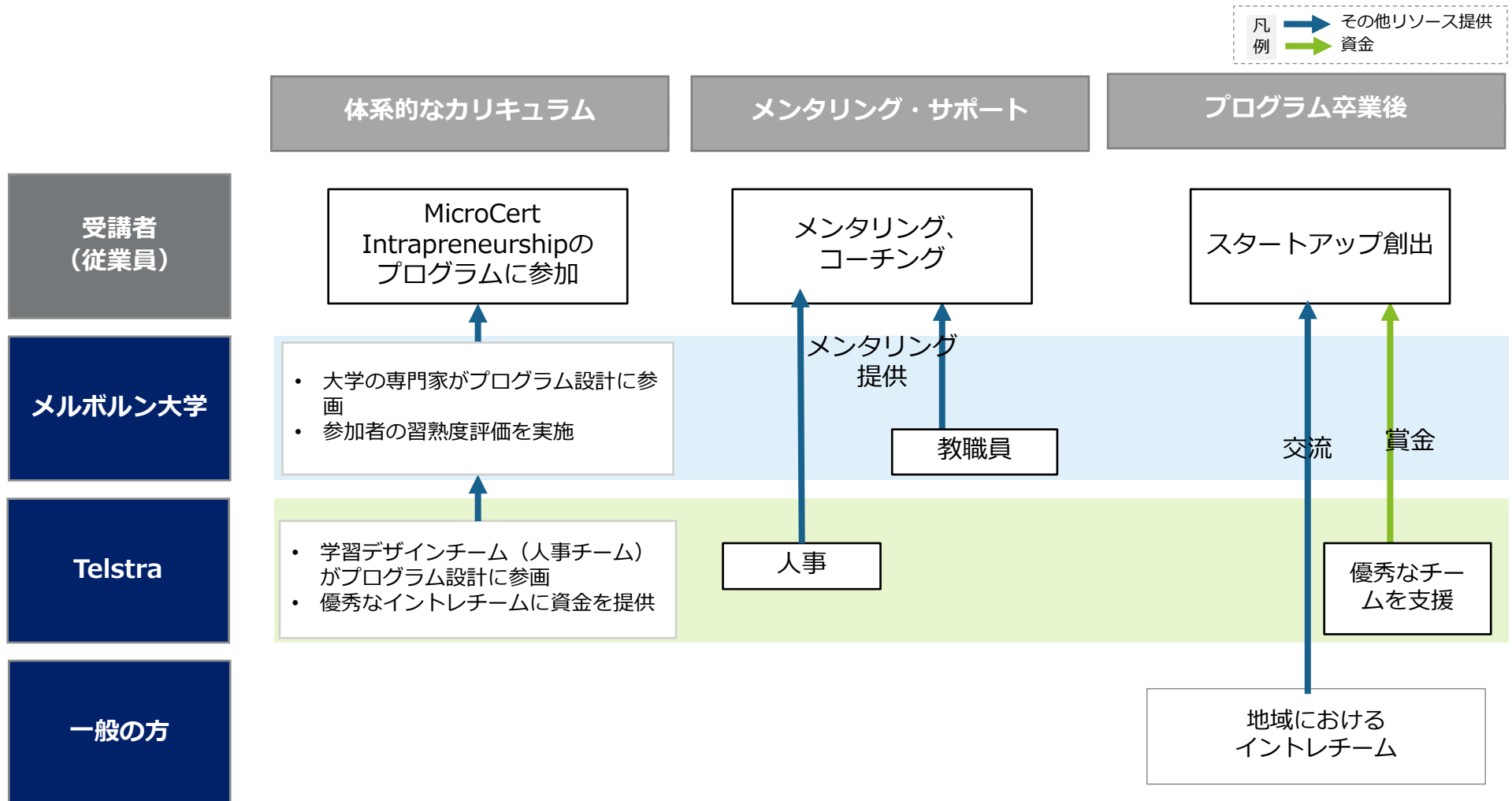
- 2021年7月開始のため、定量的な成果に関する報告はこれからとなるが、2021年8月終了のコースでは、アセスメントタスクについて70%以上の評価を受けた受講生がコースを修了した
- Telstraイノベーション&パートナーシップの責任者によると、定性的な成果として従業員は製品/市場の適合性を促進するMVPを作成することで、アイデアを成功させるための具体的なスキルを身に付けられることが挙げられている

※ 出所：同社HPより

民間企業等と連携したアントレ教育（海外）

- ✓ メルボルン大学の専門家がプログラム基盤を設計し、メンタリング、参加者評価を実施
- ✓ Telstraの人事チームもプログラム設計に参加し、実践的なコンテンツ、メンタリングを提供すると同時に、資金提供を実施

Melbourne MicroCert Intrapreneurship Fundamentals : エコシステム



Practicums and sponsored courses (Carnegie Mellon)

- ✓ Carnegie Mellonは、様々な企業のスポンサーにより、学生向けにリアルな課題解決型プロジェクトなど実践的な教育機会を提供する

Practicums and sponsored courses : プログラム概要

プログラム概要

スポンサー企業	<ul style="list-style-type: none"> ■ IBM、NASA、Origami Robotics、Microsoft、Google、Intel、Cisco、Citi等
会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ IBM：コンピュータ・情報機器メーカー、コンピュータ・ソリューション提供 ■ NASA：宇宙開発に関わる計画を担当する連邦機関
大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ カーネギメロン大学
プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ Practicums and sponsored courses
開始時期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2005年
プログラム受講者	<ul style="list-style-type: none"> ■ Carnegie Mellonの学生 ■ Bicoastal Programs (Carnegie MellonのPittsburgh校とSilicon Valley校の2校に同時通学) の受講学生
参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://www.cmu.edu/ini/academics/bicoastal/practicum.html

カリキュラム概要

- カーネギメロン大学がスポンサー企業の協力を得て学生向けに提供する、1学期の実践的プロジェクト
 - コンピューティング、セキュリティ、モバイルシステム等を含む、基礎研究からソフトウェア開発まで幅広い分野をカバーしている
 - 一つの企業課題に対し、3-5人のチームで解決
 - 教授がアドバイザー、メンタリングを提供
 - 1~1.2万ドルの資金を提供し、学生と共同で課題を解決していく
- プログラム受講者は、カーネギメロン大学の学生およびBicoastal Programs (Carnegie MellonのPittsburgh校とSilicon Valley校の2校に同時通学) の受講学生 (モバイルとIoTエンジニア (MSIT-IS)、情報セキュリティ (MSMITE) の2専攻の学生)



▲ Practicums and sponsored courses

※ 出所：各HPより

- ✓ Carnegie Mellonが企業に対してカスタマイズプロジェクトを提供し、問題分析や解決策開発など、体系的なカリキュラムを実施している

Practicums and sponsored courses : プログラム詳細

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 対象 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発（各社のコア技術に基づいてプログラムを設計）
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業側に応じたカスタマイズプロジェクトを設計し、プロジェクト実施中も指導とメンタリングを提供することで、より効率的に、確実に会社の課題解決に繋げること
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、メンタリング等

カリキュラム概要

概要

- リアルタイム講義内容
 - ソリューション開発
 - 問題分析
 - 要件や範囲の交渉
 - 顧客関係の管理など
- 学生は1人あたり週に10~20時間の作業を実施

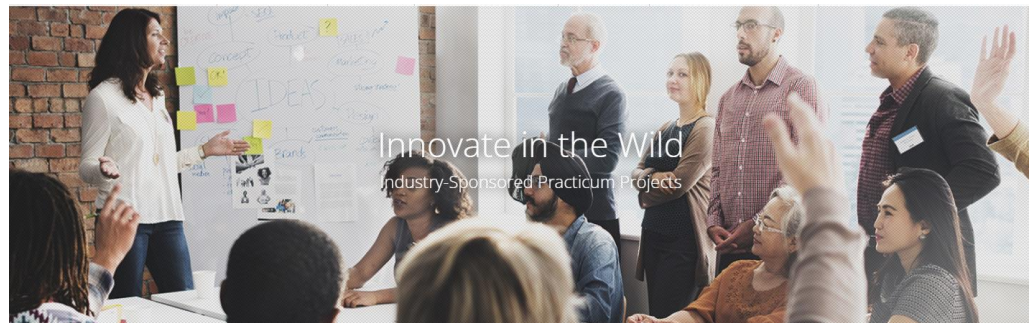
支援内容

- 2014年スポンサープログラム
 - IBM: Risk Analysis
 - NASA: TrailScribe electronic field notebook
 - Origami Robotics: RomiboWeb
 - Ford Silicon Valley Labs: Open Source iOS Application for OpenXC Platform

- ✓ スポンサー企業は優秀の学生による課題解決、優秀学生の採用、大学教授の知見獲得等のメリットがある
- ✓ 大学側は大企業と連携することにより知名度を向上させ、ブランディングと競争力を向上させるメリットがある

Practicums and sponsored courses (Carnegie Mellon) : ステークホルダーと参加メリット

ステークホルダー	目的
スポンサー企業 (NASA、 IBM等)	<ul style="list-style-type: none">① 課題解決<ul style="list-style-type: none">➢ CMUの優秀の学生のバックグラウンド、アイデア、スキルを活かして会社にイノベーティブな解決方法を提供し、会社によいインパクトを与える。（知財は会社側に所属）② 人材採用<ul style="list-style-type: none">➢ 優秀な学生を早期的に接触できる。プロジェクトのピッチから、会社のチームとの共同作業まで、スポンサー企業は学生をしっかり評価し、早い段階で採用することができる。③ 教授の知見の活用<ul style="list-style-type: none">➢ 教授が学生に指導を提供するため、間接的に教授の知見も活用できる
大学 (Carnegie Mellon大学)	<ul style="list-style-type: none">① 大学のブランディングの向上② シリコンバレーに位置する他大学（スタンフォード大学）との競争で優位に立つ



▲ Practicums and sponsored courses

- ✓ Carnegie MellonのPracticumsは企業のスポンサーにより、学生向けに実践的な課題解決プロジェクトを提供する

Carnegie MellonとPracticums and sponsored coursesの連携：目的・実践的なプログラム内容・成果

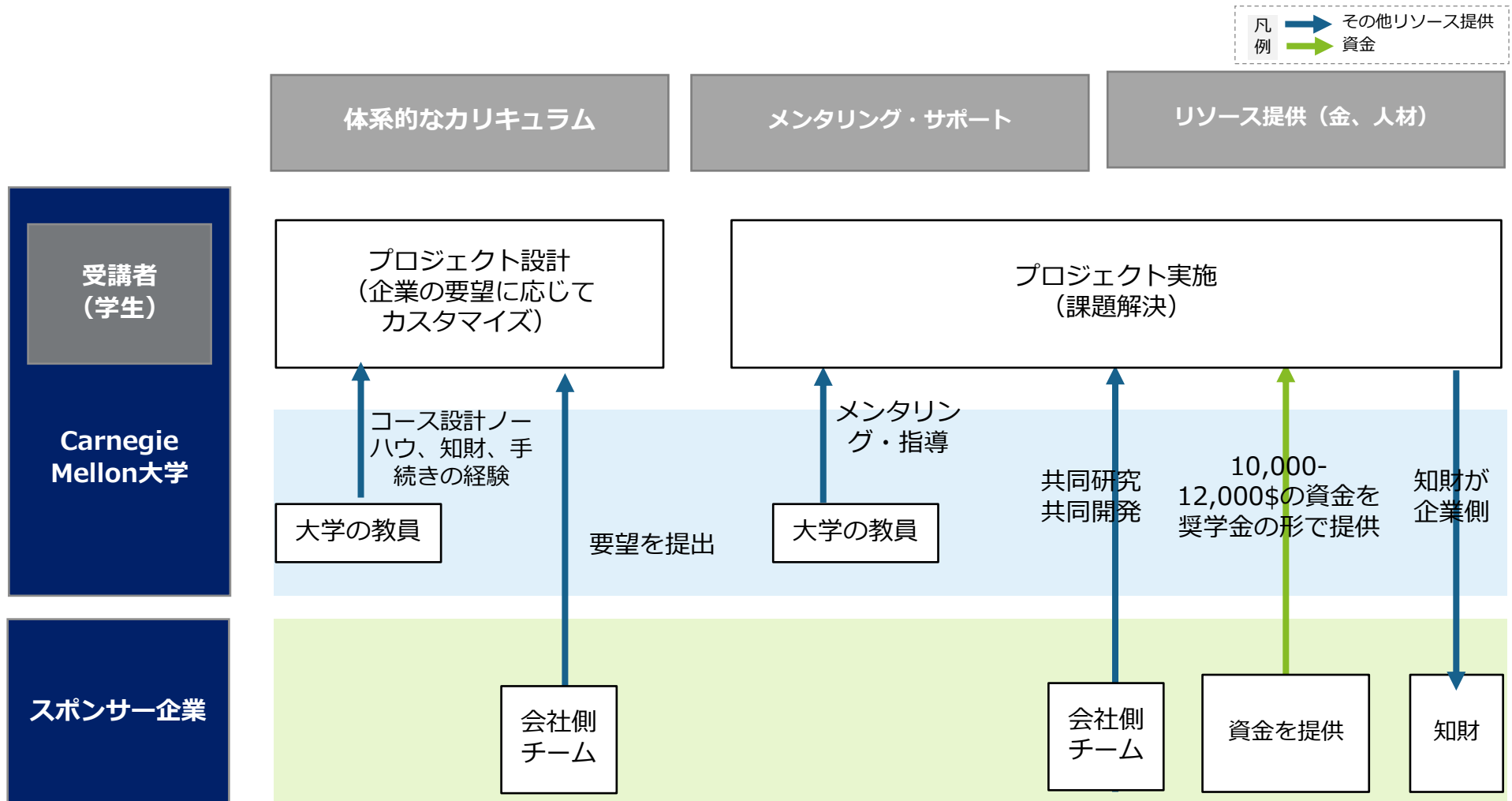
大学との連携目的・実践的なプログラム内容・成果	大学とアントレ教育 を取組む目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 課題解決・人材採用・教授の知見の活用
	実践的な プログラム内容	<p>コンピテン シーの形成 段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 講義内容 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ソリューション開発 ➢ 問題分析 ➢ 要件や範囲の交渉 ➢ 顧客関係の管理など ■ 講義分野 <ul style="list-style-type: none"> ➢ コンピューティング、セキュリティ、モバイルシステム等を含む、基礎研究からソフトウェア開発まで幅広い分野をカバー
	コースの成功要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生の自己啓発、企業への売り込みを実施している ■ 先生メンタリングがあるため、学生はサポートのある環境でチャレンジできる ■ シリコンバレーと他の大学に競争し、ブランディングに成功している
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育受講学生のアドバンテージ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 実践を通じて創意工夫のある学習ができる ➢ 良い雇用機会を得られる ➢ シリコンバレーでの長期インターンなどが体験できる ■ 2020年秋、企業によるスポンサー実習では、67名の学生が参加し、13件の実践的なプロジェクトに取り組んだ ■ 大企業からのスピンアウトに成功した学生もいる（数値は非公開）

※ 出所：同社HPより

民間企業等と連携したアントレ教育（海外）

- ✓ Carnegie Mellon大学は企業の要望に応じカスタマイズしたプロジェクトを設計、プロジェクト中も指導とメンタリング提供
- ✓ 企業側が参加チームに1~1.2万ドルの資金を提供し、学生と共同で課題を解決していく

Practicums and sponsored courses (Carnegie Melon) : エコシステム



UC Berkeley SkyDeck (Ford、Intelほか)

- ✓ UC Berkleyは自大学にとどまらず、学外の起業家に対しても事業創出・成長の機会をプログラムを通じて提供している

UC Berkleyと企業の連携：プログラム概要

プログラム概要	実施企業	<ul style="list-style-type: none"> ■ Intel、Ford、OSIsoft、KIRIN、NGK NTK、PROTÉGÉ等
	会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製造業やIT企業等複数業種の企業が参画
	大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ UC Berkeley
	プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ UC Berkeley SkyDeckアクセラレータープログラム
	プログラム受講者	<ul style="list-style-type: none"> ■ UC Berkeley在学学生及び卒業生 ■ 州内の姉妹提携校の関係者によるスタートアップや、シリコンバレーで商品やサービスをローンチしたいと考えている米国外のスタートアップ
	参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://skyportal.berkeley.edu/home

※ 出所：各HPより

カリキュラム概要

- 参加するスタートアップがシリコンバレーでの資金調達に成功していくことができるように、SkyDeck独自の6か月のプログラムを設計
- カリフォルニア大学バークレー校の起業家教育を設計しているシリアルアントレプレナー、VC等によって設計された実践的なプログラム
- プログラムでは、専門家による講義、アドバイザーからの経営アドバイス、専門家との1対1のメンタリング、カリフォルニア大学バークレー校コミュニティを通じた顧客企業紹介、投資家への紹介等が実施される

プログラム提供内容



✓ UC Berkeleyは、様々な企業の協力とリソースを活用し、学生の起業家教育、育成に成果を出している

UC Berkleyと企業の連携： UC Berkeley SkyDeck アクセラレータープログラム詳細

プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ UC Berkeley SkyDeck アクセラレータープログラム
教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ UC Berkeley
プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学と産業界の連携強化 ■ 学生に対して実学の機会を提供 ■ 参加するスタートアップがシリコンバレーのベンチャーキャピタルからの最初の投資を得るための準備を整えることが最大の目的
プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ チームビルディング、講義、事業開発、ビジネスモデル作成、投資家ピッチ等

プログラム概要

カリキュラム概要

- 参加者はバークレーのキャンパスで行われる6ヶ月間のプログラム
- SkyDeckファンドと連携し、支援したスタートアップが成長した際には、得られるファンドリターンの半分を大学に寄付するプログラム設計となっている
- プログラムは下記の3部構成となる

インプットセッション

- 6つの重要な分野での専門家主導の講義・ワークショップ
- 有名企業の創設者による経営に関する講義や体験談の共有セッション

事業計画策定支援

- Sky Advisorsと呼ばれるバークレーの関係者による事業相談
- 参画企業からのリソース提供

資金獲得支援

- バークレー SkyDeckファンドと連携した資金獲得支援

プログラム参加の成果

- 2012年から150社以上のスタートアップを創出
- バークレーの研究開発が基になっているChirp Microsystemsという高性能超音波3Dセンシングのパイオニア等の有力企業を輩出

※ 出所：同社HPより

- ✓ スポンサー企業はプログラムを通じて、優秀な学生の獲得、自社のブランディング等を実現する
- ✓ 大学はプログラムを通じて、学生に対して実践の機会を提供するとともに、産業界との連携強化を図る

UC Barkleyの企業連携：ステークホルダーと目的

ステークホルダー	目的
スポンサー企業 (Ford, Intel等)	<ul style="list-style-type: none"> ① 学生に対する企業の周知・ブランディング ② 自社のCSR活動の一環としてのブランディング ③ 将来的な起業人材の育成 ④ 優秀な人材の採用活動 
大学 (UC Berkley)	<ul style="list-style-type: none"> ① 大学と産業界の連携強化 ② 学生に対して実学の機会を提供 
参加 スタートアップ	<ul style="list-style-type: none"> ① 自社の事業拡大に必要な支援を複数のメンターから取り入れられること ② 最大10万ドルの資金提供の機会があること ③ 有能なインターン、教員、産業界のリーダーとの接点を構築できること 

- ✓ Ford等の企業がUC Barkleyと連携し、事業創出のための講義や起業家講演を提供し、アクセラレータープログラムを実施している

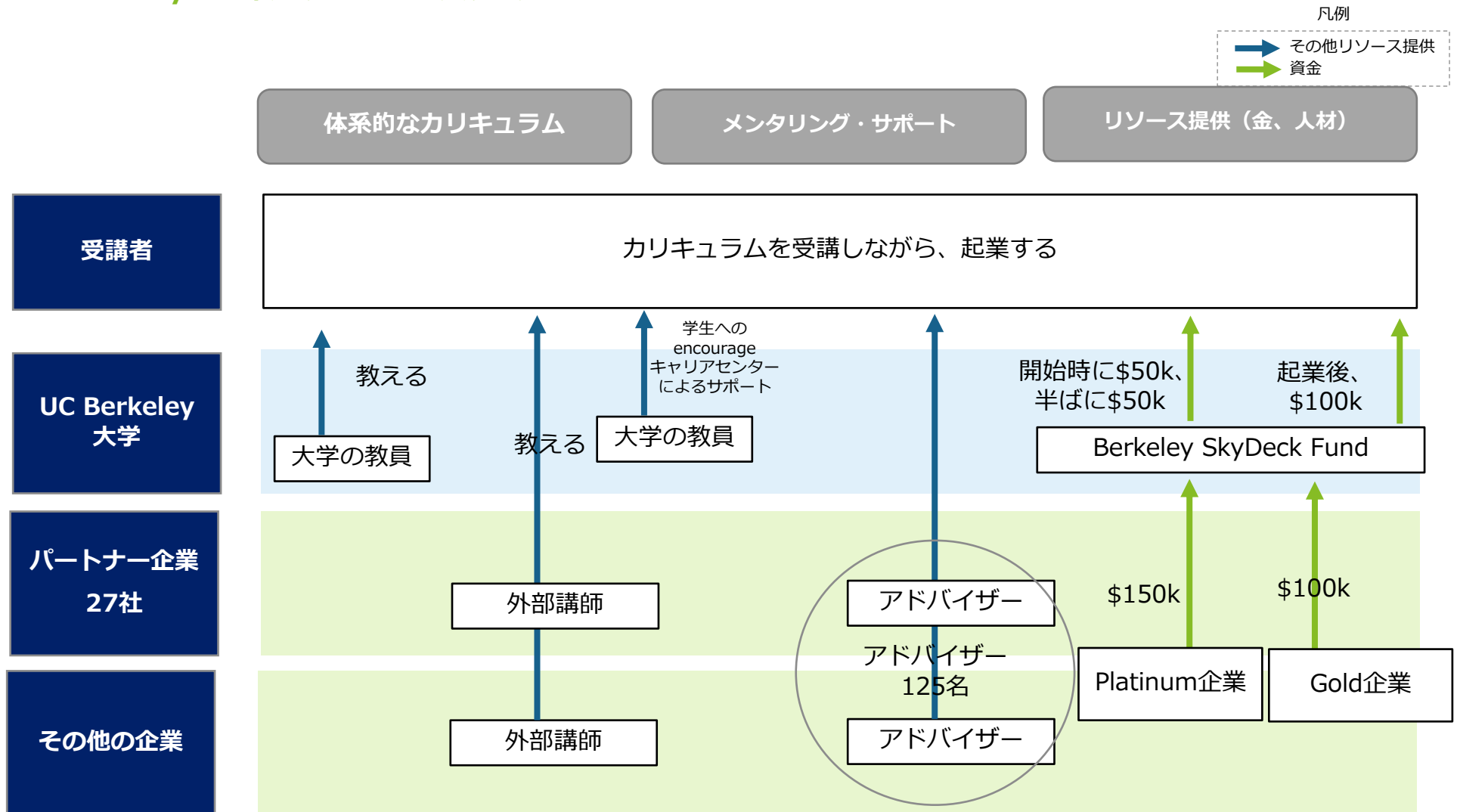
UC Barkleyの企業連携：目的・実践的なプログラム内容・成果

大学との連携目的・課題等	大学とアントレ教育 を取組む目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生に対する企業の周知・ブランディング ■ 将来的な起業人材の育成 ■ 優秀な人材の採用活動
	実践的な プログラム内容	UC Berkeley SkyDeck アクセラレータープログラム
		動機付け・意識醸成 段階
コンピテンシーの形成 段階		<ul style="list-style-type: none"> ■ Sky Advisorsと呼ばれるバークレーの関係者による事業相談 ■ 参画企業からのリソース提供
	社会実践 段階	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業創出・事業成長に必要な分野での専門家主導の講義・ワークショップ ✓ デザイン、資金調達、ビジネスモデル、チーム形成、市場変遷等 ■ バークレー 大学のVCであるSkyDeckファンドと連携した20万ドルの資金提供
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2012年から150社以上のスタートアップを創出 ■ バークレーの研究開発が基になっているChirp Microsystemsという高性能超音波3Dセンシングのパイオニア等の有力企業を輩出

※ 出所：同社HPより

- ✓ UC Berkley では参加するスタートアップがシリコンバレーでの資金調達に成功していくことができるよう体系的プログラムを通じた成長支援を実施している

UC Barkleyの企業連携：エコシステム



UA's McGuire Center for Entrepreneurship (Microsoft)

✓ Microsoftはアリゾナ大学と連携し、学部4年生に春学期・秋学期にわたり体系的・実践的なプログラムを提供している

MicrosoftとUA's McGuire Center for Entrepreneurship の連携 : プログラム概要

プログラム概要	実施企業	■ Microsoft Corporation
	会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェア開発、販売 ■ モバイル・クラウドサービスにおけるプラットフォームの提供
	大学	■ アリゾナ大学 UA's McGuire Center for Entrepreneurship
	プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ Entrepreneurship and Innovation Capstone ■ New Venture Development Program
	プログラム受講者	■ アリゾナ大学の4年生
	参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://eller.arizona.edu/departments-research/centers-labs/entrepreneurship/education/undergraduate/capstone ■ https://eller.arizona.edu/departments-research/centers-labs/entrepreneurship/education/undergraduate/certificate

※ 出所：各HPより

カリキュラム概要

- アリゾナ大学McGuire Centerはトップランクのアントレプレナーシップ教育プログラムとして有名であり、豊富な経験のもとにプログラム設計・開発を実施
 - 教職員19名が体系的なプログラム設計、メンタリングを提供
 - 体系化・標準化したプログラムのため、毎年約1,000人の学生に持続的に提供
 - 春学期では、新規事業計画策定、秋学期では新規事業開発・産業分析、マーケティング調査、資金調達のコースを提供

① Entrepreneurship and Innovation Capstone

- 市場調査を通じた顧客ニーズの特定、ビジネスモデル・キャンバスを使用したプロフォーマ・ステートメントの構築など、実践的なビジネスプランの開発を学ぶ1学期間のプログラム

② New Venture Development Program

- 初期アイデアからベンチャー立ち上げまで、イノベーションを構築するための体験を学ぶ1年間のプログラム

- ✓ 企業と大学の共同開発により、企業側が実践的なプログラムテーマや場を提供し、大学が体系的な設計と教職員による指導を提供している

MicrosoftとUA's McGuire Center for Entrepreneurship の連携： Entrepreneurship and Innovation Capstoneプログラム詳細

プログラム概要

プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ Entrepreneurship and Innovation Capstone
教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同開発（アリゾナ大学のプログラムにMicrosoftが参加）
プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国家や世界の根強い課題に積極的に対応できるイノベーターのような考え方を、すべてのビジネス学生に教える ■ 広義のイノベーションの概念と道筋、およびその実践的対応物であるアントレプレナーシップを探究する
プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ チームビルディング、講義、イノベーションプロジェクト開発、市場調査、ビジネスモデル作成、プレゼンテーション、振り返り等

カリキュラム概要

- 産業界、政策立案者、社会全体が現在関心を寄せている実社会の課題に対して、機能横断的なトレーニングを統合して適用する機会を提供
- 学生は、環境におけるニーズや問題の特定から、その実現や解決に向けた首尾一貫した実行可能なプランの開発まで、イノベーションプロセスの構成要素を学び、実行する
- スタートアップ、企業の起業家精神、ソーシャルイノベーションを1つの実践的なコースに統合

事業環境分析

- イノベーションサイクル
- イノベーション「システム」と規制環境
- 環境スキャンおよび産業構造分析の方法

コンピテンシー形成

- デザイン思考と創造性・シナリオ計画・知的財産権
- イノベーションの成功または失敗の戦略的および組織的側面の学習

社会実践準備

- 製品/サービス開発見積もり/予測/評価
- 開発とプレゼンテーション

プログラム参加の成果

- 他大学からの学生にもリーチし、毎年2,000人に達している
- McGuire Center の新入生に対して、Microsoftによる講演を実施し、学生の起業家精神に大きな影響を与えている
- Microsoftのデータセンターにおいて、社会的インパクトを与えるプロジェクトのビジネスプラン開発を実施し、ピッチを開催することで、より多くの学生の参画を促している

※ 出所：同社HPより

✓ 秋学期から春学期までの連続受講カリキュラムを通じて、事業分析から社会実践準備までの講義内容を提供している

MicrosoftとUA's McGuire Center for Entrepreneurship の連携： New Venture Development Programプログラム詳細

プログラム概要	プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ New Venture Development Program 	カリキュラム概要	
	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階 	秋学期 (Fall Semester)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規事業開発と産業分析 (ベンチャー・ディベロップメントI)
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同開発 (アリゾナ大学のプログラムにMicrosoftが参加) 	事業環境分析	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規事業開発と産業分析 (ベンチャー・ディベロップメントI)
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業家精神を学ぶことは、将来の成功への投資であるとの考えから、学際的なカリキュラムとして、あらゆる専攻分野を強化し、イノベーションの原則をあらゆるキャリアパスに適用するようプログラムを設計することで、学生の個人的な目標達成を支援することを目的とする 	コンピテンシー形成	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業家のためのマーケティングリサーチ ■ 新規事業のためのファイナンス
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、グループワーク、プレゼンテーション、振り返り等 	春学期 (Spring Semester)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規事業計画の策定 (ベンチャー・ディベロップメントII)
			プログラム参加の成果	
			<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム内でMcGuire New Venture Competitionを開催。学生スタートアップの19チームが革新的な新事業を発表し、優勝チームにはMicrosoft社がスポンサーとなり5,000ドルが授与された (2017年時点) ■ 優秀な学生は卒業後、Microsoftの社員として採用されている 	

※ 出所：同社HPより

- ✓ Microsoftはプログラムを通じて、CSRとしての教育の実施、社内従業員研修、斬新なアイデアの獲得、優秀な人材を確保
- ✓ アリゾナ大学はプログラムを通じて、学生に実践的な体験、雇用の機会を提供できる

MicrosoftとUA's McGuire Center for Entrepreneurship の連携：ステークホルダーと目的

ステークホルダー	目的
<p>大企業 (Microsoft)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① ソーシャルイノベーションの促進 <ul style="list-style-type: none"> ➢ McGuire Center for Entrepreneurshipと提携し、アリゾナ大学の学生やコミュニティ全体に優れた起業家精神とソーシャルイノベーション教育を提供し、支援すること ② 社会的責任 <ul style="list-style-type: none"> ➢ CSRの一環として、アントレプレナーシップ教育・テクノロジー教育を実施 ③ 従業員研修 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 従業員がメンターとして関与することにより、ビジネスメンタリングなどのスキル向上を実現 ④ アイデア獲得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ プロジェクトでのビジネスプランの開発において、Microsoftのデータセンターを活用することによりアイデアを獲得 ⑤ 企業のブランディング <ul style="list-style-type: none"> ➢ イベントやプログラムでのメンタリングを通じて、学生における認知度を向上させ、マイクロソフトへの関心を惹きつける ⑥ 優秀な人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ➢ プログラムで高いパフォーマンスが見られる学生、特にテクノロジー分野の学生を採用
<p>大学 (アリゾナ大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 実践的な体験：大学単体のプログラムでは得られない、実践的なプログラムが提供可能 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 創造的かつ自信を持って問題に取り組む能力を身につけられる ② 雇用へのアクセス：大企業に就職するための機会を学生に提供 <div data-bbox="1574 971 1895 1106" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">▲ New Venture Development Program</p>
<p>非営利団体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① スキル向上の機会：McGuire Center、Microsoftのサポートにより、多くの地域の非営利団体の関係者もメンターとして参加し、実践的なスキルを得ることができる ② コミュニティ形成：地域におけるソーシャル・イノベーションが促進される

- ✓ Microsoftはアリゾナ大学のアントレプレナーシップセンターと連携し、ソーシャルアントレプレナーシップに関する講義を提供し、メンタリング等の実践的な取組を支援している

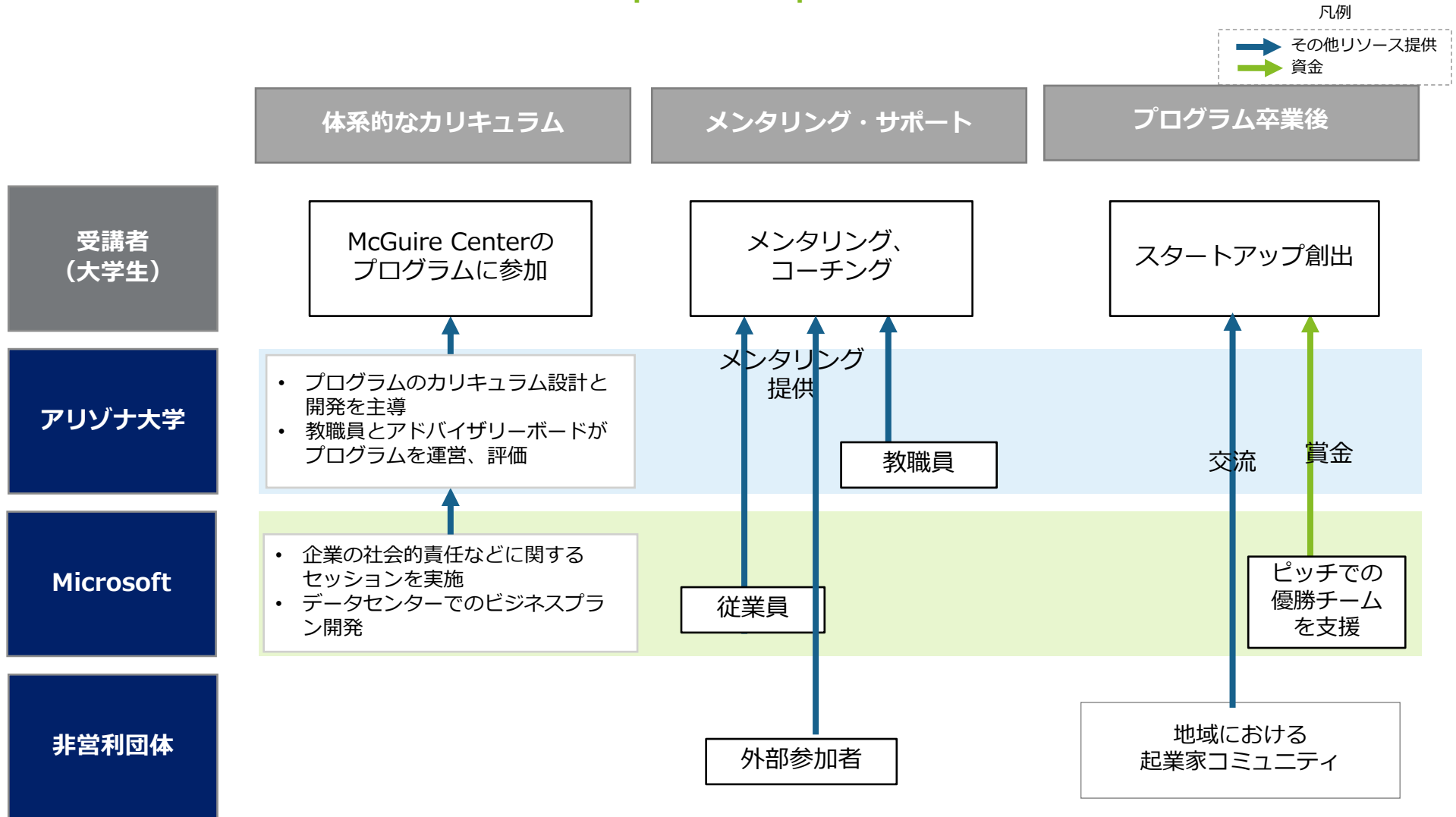
MicrosoftとUA's McGuire Center for Entrepreneurship の連携：目的・実践的なプログラム内容・成果

大学との連携目的・実践的なプログラム内容・成果	大学とアントレ教育を取組む目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソーシャルイノベーションの促進・社会的責任、企業のブランディング・従業員研修・アイデア獲得・優秀な人材の確保 						
	実践的なプログラム内容	<p>New Venture Development Program</p> <table border="1"> <tr> <td style="background-color: #ADD8E6;">動機付け・意識醸成段階</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ 講義の実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企業の社会的責任 ➢ ソーシャルアントレプレナーシップ ➢ ソーシャルイノベーション ➢ ベンチャーテクノロジー </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ADD8E6;">コンピテンシーの形成段階</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ MicrosoftとMcGuire Centerの教職員と連携し、ビジネスプラン作成、商品開発、テクノロジーに関するメンタリングを提供 ■ Microsoftのデータセンターでの社会的インパクトのプロジェクトのビジネスプラン開発を実施 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ADD8E6;">社会実践段階</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ ピッチを実施し、優勝チームには5,000ドルを提供することにより社会実践を支援 </td> </tr> </table>	動機付け・意識醸成段階	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義の実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企業の社会的責任 ➢ ソーシャルアントレプレナーシップ ➢ ソーシャルイノベーション ➢ ベンチャーテクノロジー 	コンピテンシーの形成段階	<ul style="list-style-type: none"> ■ MicrosoftとMcGuire Centerの教職員と連携し、ビジネスプラン作成、商品開発、テクノロジーに関するメンタリングを提供 ■ Microsoftのデータセンターでの社会的インパクトのプロジェクトのビジネスプラン開発を実施 	社会実践段階	<ul style="list-style-type: none"> ■ ピッチを実施し、優勝チームには5,000ドルを提供することにより社会実践を支援
	動機付け・意識醸成段階	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義の実施 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 企業の社会的責任 ➢ ソーシャルアントレプレナーシップ ➢ ソーシャルイノベーション ➢ ベンチャーテクノロジー 						
コンピテンシーの形成段階	<ul style="list-style-type: none"> ■ MicrosoftとMcGuire Centerの教職員と連携し、ビジネスプラン作成、商品開発、テクノロジーに関するメンタリングを提供 ■ Microsoftのデータセンターでの社会的インパクトのプロジェクトのビジネスプラン開発を実施 							
社会実践段階	<ul style="list-style-type: none"> ■ ピッチを実施し、優勝チームには5,000ドルを提供することにより社会実践を支援 							
成果	<ul style="list-style-type: none"> ■ Microsoft Social Innovation Pavilionの支援の下に、McGuire Innovation Expoを開催し、地域のアントレプレナーシップコミュニティを巻き込んだイベントを実施 ■ 中小企業、ベンチャーキャピタル、非営利団体、法律などの幅広いバックグラウンドと経験を持つ専門家が、プログラムに関する助言、評価を実施したことにより、プログラム参加学生は、クリティカルシンキング能力の向上がみられた ■ プログラム内でMcGuire New Venture Competitionを開催。学生スタートアップの19チームが革新的な新事業を発表し、優勝チームにはMicrosoft社がスポンサーとなり5,000ドルが授与された（2017年時点） ■ 優秀な学生は卒業後、Microsoftの社員として採用されている ■ 大学・大企業の提携により、多くのステークホルダーを巻き込むことができる 							

※ 出所：同社HPより

- ✓ アリゾナ大学がプログラム設計、開発、評価を担当し、プログラム基盤を整備
- ✓ Microsoftは実践的なノウハウ、メンターリング等のリソースを提供し、学生に実践的なプログラムを提供し、スタートアップ創出を支援

MicrosoftとUA's McGuire Center for Entrepreneurship の連携 : エコシステム



PayPal's Start Tank program (PayPal)

- ✓ PayPalはボストン地域の複数大学と連携し、作業スペースやメンタリング等を提供し、大学と連携したインキュベータープログラムを実施している

PayPal's Start Tank program : プログラム概要

実施企業	<ul style="list-style-type: none"> ■ PayPal
会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ クレジットカードや銀行口座で支払いと受け取りが簡単にできるオンライン決済サービスを提供。ebay inc.の子会社
大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ Harvard University ■ MIT ■ Boston University ■ Northeastern University ■ Babson Collegeなど
プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ PayPal's Start Tank program
開始時期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2013年
プログラム受講者	<ul style="list-style-type: none"> ■ ボストン地域の大学生、起業家
参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://study.unimelb.edu.au/find/micro-credentials/intrapreneurship-fundamentals/ ■ https://www.ebayinc.com/stories/news/paypal-helps-innovative-startups-flourish-start-tank/

プログラム概要

カリキュラム概要

- StartTankインキュベーターが無料の作業スペースを提供するとともに、ビジネス観点でのメンターシップ、ノウハウを提供
- PayPal従業員と参加者が共同で、新規ビジネス開発を実施
- 外部アドバイザーによるメンタリング
- エンジェル投資家やベンチャーキャピタリストとのネットワークによるビジネスチャンスの提供
- 大学のキャリアセンター、アントレプレナーシップセンターの教職員が学生と密接にかかわり、アカデミアの観点からの伴走支援を提供



▲ StartTank

※ 出所：各HPより

- ✓ コワーキングスペースの場の提供、従業員等によるメンタリングの提供を通じて、プログラム参加者の社会実践を支援している

PayPal's Start Tank program : プログラム詳細

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階 	対象
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同開発（PayPal従業員と参加者が共同で、新規ビジネス開発を実施） 	
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ PayPalもかつてスタートアップだったことから、初期段階のスタートアップにインキュベーション施設を提供し、支援を実施することでスタートアップの成長に寄与すること ■ 企業ブランドを向上させ、革新的な企業として開発者コミュニティの目を引き付け、採用に結びつけること 	
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンタリング、イベント（デモデー）への参加、ベンチャーキャピタリストとのビジネスコネクション構築等 	

カリキュラム概要

場所の支援

- 無料のコワーキングスペースの提供

ヒトの支援

- 定期的なPayPalボランティアからの支援
- PayPalやブレインツリー、外部の専門アドバイザーのネットワークを通じてメンターや業界リーダーにアクセスし、収益性の高い成長を促進するための意思決定を支援
- 専任のカスタマーケアチームによる支援

社会実践の支援

- 広報活動、資金調達、知的財産法などの基本に関するカジュアルランチ&ラーニングセッションの実施
- 6ヶ月間のプログラムの終わりに、スタートアップはデモデーでビジョンとビジネスモデルを発表。（Paypalはビジネスの株式を取得しない。）

- ✓ エンジェル投資家やベンチャーキャピタリストとのネットワーキングとビジネスチャンスへのアクセスを通じて、地域におけるイノベーション創出に寄与

PayPal's Start Tank program : ステークホルダーと目的

ステークホルダー	目的
<p>大企業 (PayPal)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① ビジネス機会の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ スタートアップ企業に直接投資や買収しないが、相乗効果を期待 <ul style="list-style-type: none"> ・ チーム（経験、適性、性格）とビジネスの可能性（機会、競争、リスク/ステージなど）に基づき連携を検討し、スタートアップがPayPal製品を使用することによって自社ビジネスを強化 ・ 企業のブランディングにつながることによる、イノベーションコミュニティでの評判の向上 ② 人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 優秀な人材をインターンシップ等に採用し、人材の確保につなげる ③ エコシステム構築 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 役員はスタートアップ出身が多く、起業家精神に対する理解があることから、起業家を支援をし、エコシステム構築に貢献すること ④ アイデアの獲得 <ul style="list-style-type: none"> ➢ スタートアップの新鮮なアイデアや洞察から恩恵を受けること
<p>大学 (Harvard University などの大学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① シーズの社会実践 <ul style="list-style-type: none"> ➢ スタートアップ経験の豊富な専門家からアドバイスを得て、コンピューターサイエンスのような強みを活用 ② 雇用へのアクセス <ul style="list-style-type: none"> ➢ 雇用主である大企業の人材採用基準を理解し、インターンシップの機会を得る
<p>スタートアップ 企業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① スタートアップエコシステムへの参加 <ul style="list-style-type: none"> ➢ エンジェル投資家やベンチャーキャピタリストとのネットワーキングとビジネスチャンスへのアクセスを通じて、地域におけるイノベーション創出に寄与

✓ PayPalとボストン地域にある多くの大学と連携し、スタートアップを支援するプログラムを提供

Harvard University等とPayPal's Start Tank programの連携： 目的・実践的なプログラム内容・成果

大学との連携目的・実践的なプログラム内容・成果

大学とアントレ教育
を組む目的

- ビジネス機会の獲得
- 人材の確保
- エコシステム構築
- アイデアの獲得

実践的な
プログラム内容

コンピテン
シーの形成
段階

- 広報活動、資金調達、知的財産法などの基本に関するカジュアルランチ&ラーニングセッションの実施

社会実践
段階

- 6ヶ月間のプログラムの終わりに、スタートアップはデモデーでビジョンとビジネスモデルを発表

支援

- 無料のコワーキングスペースの提供
- 定期的なPayPalボランティアからの支援
- PayPalやブレインツリー、外部のハイレベルアドバイザーのネットワークからメンターや思考リーダーにアクセスし、収益性の高い成長を促進するための意思決定を支援
- 専任のカスタマーケアチームによる支援

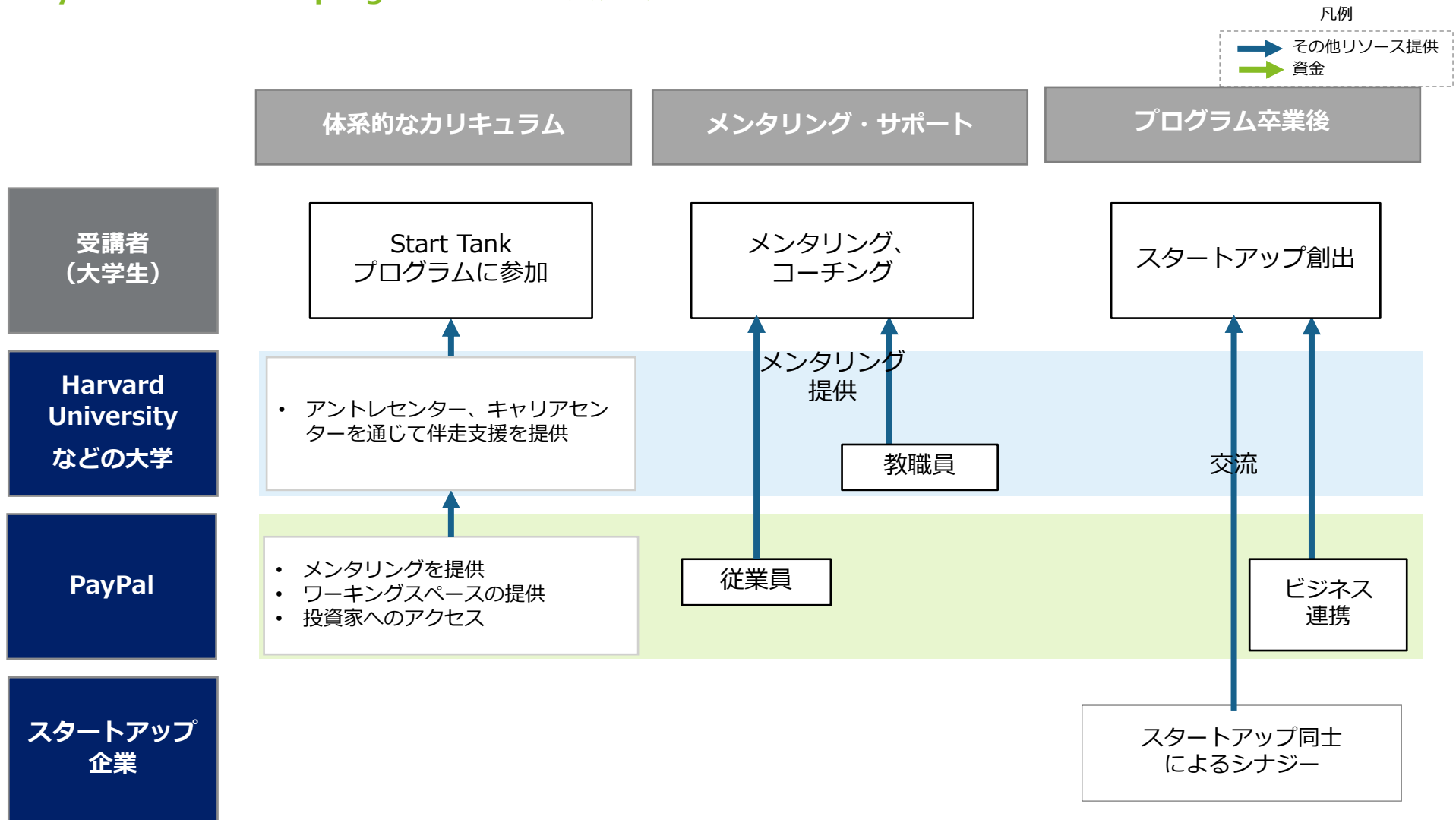
成果

- イノベーションに関心のあるメンバーがコミュニティを構成し、ボストン地域のスタートアップエコシステムを促進
- ボストン地域のみならず、ヨーロッパ、インド、中東、アフリカ地域にもプログラムを展開、海外におけるスタートアップエコシステムを支援
- 多くのスタートアップチームが参加し、交流によって多くの相乗効果を創出
- プログラムを卒業したメンバーが「PayPalボランティア」となり、定期的なビジネス知識勉強会、コワーキングセッションを実施
- Start Tankを通じて成功した企業は、利益の30%を地元の慈善団体に寄付

※ 出所：同社HPより

- ✓ Harvard Universityなどの大学はキャリアセンターなどを通じて学生に伴走
- ✓ PayPalはメンタリング、投資家へのアクセス等を提供し、ボストン地域のスタートアップエコシステムを支援

PayPal's Start Tank program : エコシステム



Data-Driven Innovation (Cisco等)

- ✓ Ciscoはエディンバラ大学傘下のアクセラレーターを通じてスタートアップを支援し、事業開発、テクニカルサポートとメンタリング、開発ツール等を提供している

Partnership on AI and data-driven innovation (Cisco) : プログラム概要

プログラム概要	実施企業	■ Cisco
	会社概要	■ コンピュータネットワーク機器開発会社
	大学	■ University of Edinburgh
	プログラム名	■ Partnership on AI and data-driven innovation
	プログラム受講者	■ エディンバラ大学アクセラレータへの参加企業
	参考URL	■ https://www.cmu.edu/ini/academic/bicoastal/practicum.html

カリキュラム概要

- 第1弾としてエディンバラ大学及び傘下のアクセラレータ The AI & Blockchain Acceleratorを通じてEdinburghと South East Scotland地域の20社スタートアップ企業を支援する
 - 3年間のプログラムで、Ciscoは採択入居スタートアップに事業開発とテクニカルサポート、メンタリング及びITツールを提供する
- 上記以外、Data-Driven Innovationの全ての領域にて、CiscoのNetworking Academy研究センターとInnovationと投資関連のチームとの連携も実施
- Ciscoのプログラム提供
 - アクセラレータのスタートアップに事業開発、テクニカルサポートとメンタリング、開発ツール等を提供
 - CiscoのNetworking Academy、研究開発センターとイノベーション・投資関連のチームとの連携も行い、研究開発、資金等のリソースを提供



▲ AI & Blockchain Accelerator DEMO DAY

※ 出所：各HPより

✓ Ciscoとエディンバラ大学が連携し、地域におけるアクセラレータプログラムを提供し、イノベーションを促進している

Partnership on AI and data-driven innovation (Cisco) : プログラム詳細

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階 	対象
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 共同開発（エディンバラ大学のアクセラレータを通じて開発対象地域の20社のスタートアップ企業を支援。シスコはアクセラレータプログラムを提供。） 	
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ エディンバラ大学とのパートナーシップを通し、エディンバラ・南東スコットランド都市圏の重要な柱であるAIとデータ駆動型イノベーションの機会について協力していくこと 	
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ コース設計ノウハウ、知財、手続きの経験、メンタリング・指導等 	

The AI & Blockchain Accelerator概要

概要


- 2018年10月に開始の、エディンバラ大学のData-Driven Innovation (DDI) Programmeとスペイン通信大手Telefónica傘下のオープンイノベーション部隊Wayra UKと提携して設立した6か月間のアクセラレータプログラム
 - Scottish Enterpriseからの支援及びCiscoからのスポンサーを受けている
 - アーリー期のスタートアップ（エンジェル投資、シード期）が対象
 - 1期あたりに10社を採択する

支援内容

- 採択スタートアップに2-3人のオフィススペースの提供
- 出張費等をカバーする給付金£7,500の提供
- 技術的専門性、ビジネス指導及び講義を通じ、採択企業のバリュープロポジションを明確し、ビジネス基盤を強化し、コア製品やサービスの開発とマーケティング、さらに大企業や投資家への紹介も支援し、大学のデジタル人材へのアクセスを提供する

- ✓ 企業は人材採用、アイデア獲得、地域イノベーション促進等のメリットがある
- ✓ 大学側は研究領域の優位性強化、グローバル人材の誘致等のメリットがある

Partnership on AI and data-driven innovation（Cisco）：ステークホルダーと目的

ステークホルダー	目的
<p style="text-align: center;">企業</p>	<p>① ITに関する人材採用・アイデアの獲得、イノベーションの促進</p> <p>② 大学のスタートアップ支援の経験・ノウハウを活かし、より効率的、効果的なプログラムが実現できる</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>AIのアプリケーションを始め、データからのインサイトは全ての産業に機会をもたらしている。我々はエジンバラ大学と提携してスコットランドにてこのようなことを実現していく。地域の経済的、包括的な成長を推進するアンビションを大いに支援したい。産業界、政府、学术界と提携してこの目標に向けて取り組んでいきたい</p> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p>Tony Gribben Country Manager Cisco Scotland</p> </div>
<p style="text-align: center;">エジンバラ大学</p>	<p>① 機械学習領域の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ エジンバラ大学は機械学習領域においてトップの大学であり、企業と提携したアクセラレータにより、継続的にイノベーションを起こし、このような強みを強化することができる <p>② 大学のイノベーションの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ スコットランド以外のEUスタートアップも参加して、グローバル人材が来ており、大学のイノベーションへポジティブの影響をもたらす
<p style="text-align: center;">その他のステークホルダー</p>	<p>① 雇用増加・グローバル人材の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ スコットランドの雇用増加に繋がる ➢ 本国のみならず、EUのスタートアップも参画し、グローバル人材の誘致とグローバルプレゼンスの向上

- ✓ PayPalとボストン地域にあるれ多くの大学と連携し、スタートアップを支援するプログラムを提供

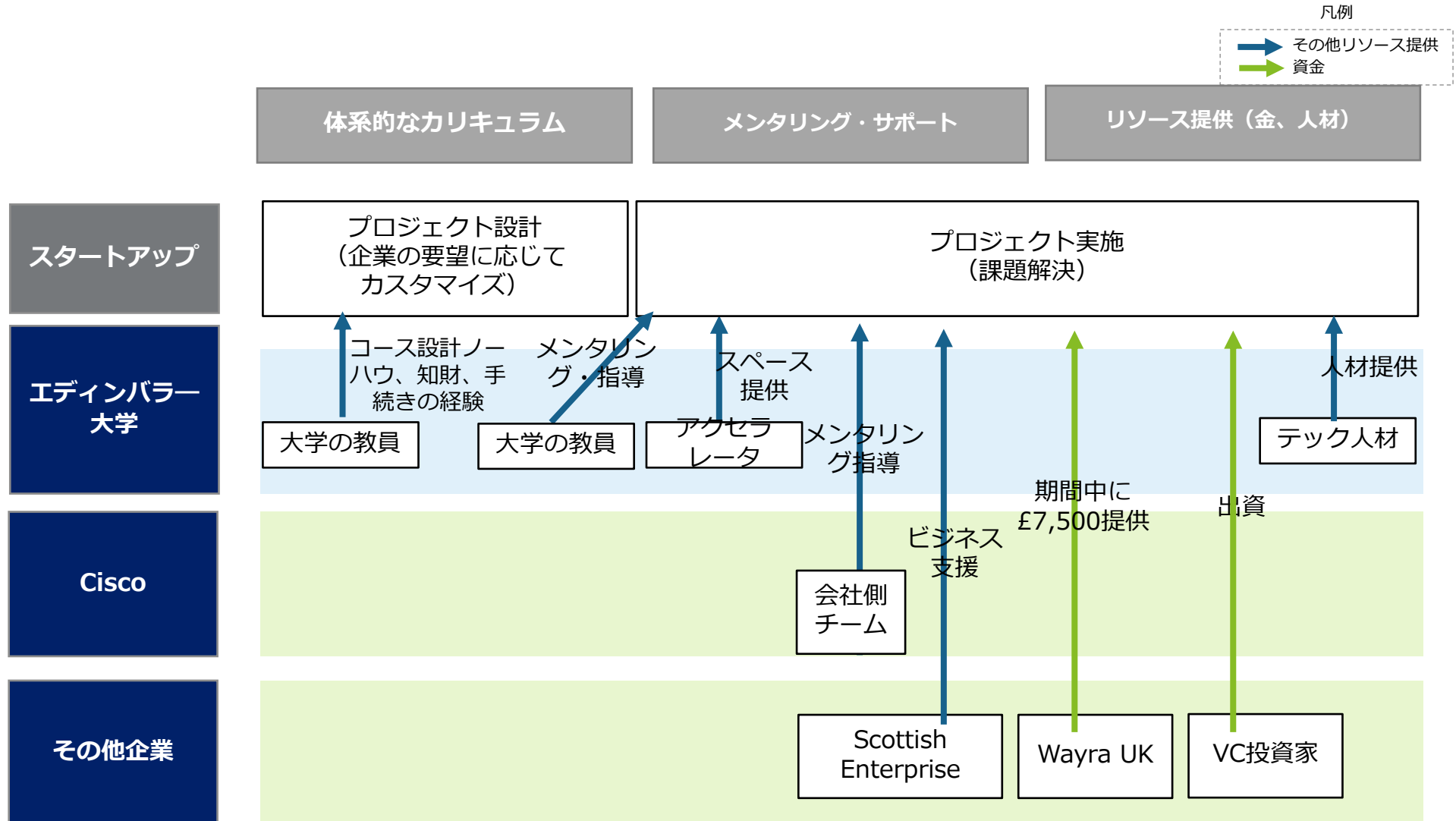
Harvard University等とPayPal's Start Tank programの連携： 目的・実践的なプログラム内容・成果

大学との連携目的・実践的なプログラム内容・成果	大学とアントレ教育 を取組む目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ ITに関する人材採用・アイデアの獲得、イノベーションの促進
	実践的な プログラム内容	<p>コンピテンシーの形成 段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 技術的専門性・ビジネス指導及び講義 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 採択企業のバリュープロポジションの明確化 ➢ ビジネス基盤の強化 ➢ コア製品やサービスの開発とマーケティング ➢ 大企業や投資家への紹介 ➢ 大学のデジタル人材へのアクセスを提供する
		<p>社会実践 段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 採択スタートアップに2-3人のオフィススペースを提供 ■ 出張費等をカバーする給付金£7,500を提供
成果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本国のみならず、EUのスタートアップも参画し、グローバル人材の誘致とグローバルプレゼンスの向上等、地域への貢献ももたらす <ul style="list-style-type: none"> ➢ プログラムを通じて30のスタートアップ企業を支援 ➢ 1期生（2018年10月~2019年4月）は参加期間中に£3.3百万、その後に£8.9百万を調達 ➢ 69人雇用 ➢ £2.2百万の売上を創出 	

※ 出所：同社HPより

- ✓ 企業側はビジネス支援を通じて、IT人材採用や新規アイデアの獲得等のメリットがある
- ✓ 大学側はカスタマイズプロジェクトを提供することにより企業へのアクセスし、イノベーション促進のメリットがある

Data-Driven Innovation (Cisco) : エコシステム



Startup Experience Workshop (Startup Experience Inc.)

- Startup Experience Inc.は、アントレ教育コンテンツとして、2日間のアントレ教育ワークショッププログラムをさまざまな大学に提供

Startup Experience Workshop (Startup Experience Inc.) : プログラム概要

プログラム概要	実施企業	■ Startup Experience Inc.
	会社概要	■ アントレ教育事業
	大学	■ ニューヨーク大学、スタンフォード大学、UCLAなど
	プログラム名	■ Startup Experience Workshop
	プログラム受講者	■ 大学生
	参考URL	■ https://www.startupexperience.com/college

カリキュラム概要

- 若者がチェンジメーカーになるための刺激となるようデザインされた大学向けの2日間のカリキュラム。起業家マインドを紹介し、インパクトのある起業の実践的なトレーニングを提供
 - ゼロから新しいベンチャーを立ち上げるために全力を尽くすという前向きな姿勢と意志のある大学生が対象
 - ワークショップでは、受講者の起業家精神に基づいた新しいスタートアップチームを結成し、成功する起業家/イノベーター/社会変革の担い手となるために必要なことを学ぶ、集中的なプロセスを指導
 - 参加者は創造力と起業家としての自信を高め、真の問題を解決するスケラブルなベンチャーを構築するスキルを身につけることが可能



▲Startup Experience Workshop

※ 出典：各HPより

- ✓ Startup Experienceは、大学の参加者の経験レベルに合わせてプログラムをカスタマイズ。独自のツールを用いてプログラムを実施し、参加学生はプログラムで作成したビジネスプランを最終的にピッチにて発表する機会を得る

Startup Experience Workshop (Startup Experience Inc.) : プログラム詳細

プログラム概要

教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 意識醸成・動機付けの段階 ■ コンピテンシーの形成の段階 ■ 社会実践
プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発（大学の参加者の経験レベルに合わせてプログラムをカスタマイズ） ■ 料金：17,500ドル（約212万円） ※ファシリテーター付き ■ 参加学生人数：20人～120人
プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次世代の社会変革の担い手であり、かつ効果的な問題解決者を育成すること。起業家的な考え方を取り入れるよう促し、大きな問題を新しいベンチャー企業の刺激的な機会に変えるために必要なツールや戦術を伝授すること
プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ チームビルディング、メンタリング、ビジネスモデル作成、ヒアリング、フィードバック、ピッチ等

カリキュラム概要

- The Startup Experienceは、未来の起業家や社会変革の担い手を育成する世界トップクラスの研修プログラム
 - 持続可能なビジネスの構築を目指し、適切なツールを用いることで、成功の可能性を飛躍的に高め、初めての起業家として遭遇する多くの落とし穴を回避することが可能となるよう設計
 - 参加者は、チームに分かれて大きな問題を特定し、それを新しいスタートアップ企業のチャンスに変えるという、起業のプロセスを経験。起業のさまざまな側面について学び、実際に実行可能なベンチャー企業を形成するために必要な、創造的な自信を身につけることが可能
- 問題の特定からビジネスピッチに至るまで、起業家のジェットコースターをシミュレート
 - ユーザーニーズの特定→関連技術のリサーチと選別→アイデアの創出と優れたソリューションの構想→ビジネスモデルの検証→プロトタイプ作成→ビジュアルコミュニケーションによるプロの審査員へのアイデア売り込み（ピッチ）、という流れでスタートアップチームに分かれて競い合うカリキュラム
- 参加者10名につき1名のメンターがサポート
 - メンターは成功したOBや地元の社会起業家・企業家・投資家



▲Startup Experience Workshop

- ✓ 企業は起業経験にもとづく起業家経験プログラムを設計し、販売先として大学に提供
- ✓ 大学側は起業家プログラムを外注することで、より実践的なプログラムを学生に提供

Startup Experience Workshop（Startup Experience Inc.）：ステークホルダーと目的

ステークホルダー	目的
<p>企業 (Startup Experience Inc.)</p>	<p>① シリコンバレー出身の経験豊富な創業者たちによって運営。起業家による起業家のためのプログラムを提供することにより、若者たちがより起業家的なアプローチを採用するよう指導することを目的としている</p>
<p>大学</p>	<p>① 大学にアントレ教育のノウハウがない場合に、実践的な起業家プログラムを提供すること ② 大学の従来のアントレ教育に追加して、より実践的な起業家プログラムを提供すること ③ 参加者の経験レベルに合わせてプログラムがカスタマイズされることにより、学生のレベルに合わせた実用的な体験を提供すること</p>
<p>学生</p>	<p>① 大学のアントレ教育以外に、外部の実践的なアントレ教育を受講すること</p>



▲これまで受講した大学の一覧

✓ Startup Experienceは、意識醸成の講義からピッチイベントを通じた社会実践までの実践的なプログラムを提供

Startup Experience Workshop (Startup Experience Inc.) の連携： 目的・実践的なプログラム内容・成果

大学との連携目的・実践的なプログラム内容・成果

大学とアントレ教育
を取組む目的

- 自社の起業経験・ノウハウをもとにアントレ教育を事業化し、提供先としてアントレ教育に熱意のある大学及びアントレ教育に興味のある大学生をターゲットとしている
- プログラムを大学に提供することで、キャンパス内の起業家精神を高め、社会問題を解決することを最終的な目的としている

実践的な
プログラム内容

動機付け・
意識醸成
段階

- 起業家精神を身に付けるためのマインドセット

コンピテン
シーの形成
段階

- ユーザー理解
 - ユーザーセグメントの特定
 - 問題点の把握
 - 顧客データの分析
 - 問題仮説の検証
- アイデア発想と想デザイン思考
 - 問題点の把握
 - クリエイティブ・チーム・ダイナミクス
 - クリエイティブな自信
 - 効果的なブレインストーミング

社会実践
段階

- ビジネスモデル・イノベーション
 - LEANスタートアップ・メソッド
 - 最小限の製品・プロトタイプング
 - ビジネスモデル・キャンパス
 - アイデア検証・顧客ヒヤリング
- シリコンバレー流ピッチング
 - プレゼンテーションテクニック
 - ボディランゲージ
 - 完璧なピッチデッキ・ピッチングテクニック
 - パワーネットワーキング

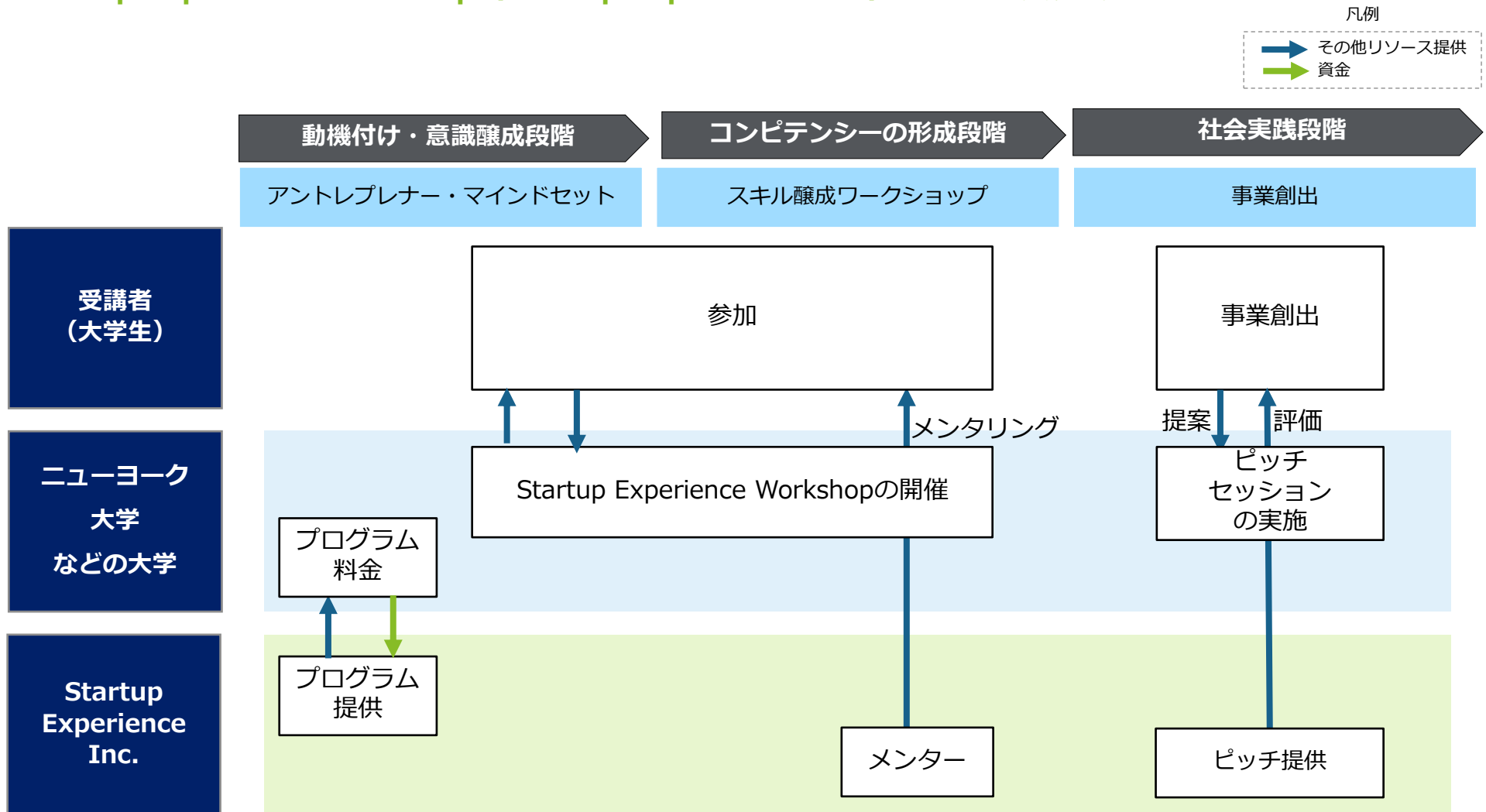
成果

- 世界25カ国以上のトップクラスの大学、単科大学、高校で実施され、高い評価を得ている
- 参加した学生からは、プログラムのファシリテーターによるインタラクティブな授業に対する評価が高く、起業に対してポジティブな影響を与えている

※ 出典：同社HPより

- ✓ 大学は対価を払い、アントレ教育として意識醸成から社会実践までのプログラムを学生に提供
- ✓ Startup Experienceはコンテンツとして起業家経験ワークショップ及びメンタリングサービスを提供

Startup Experience Workshop（Startup Experience Inc.）：エコシステム



【第2節】

民間企業等と連携したアントレ教育（国内）

民間企業等と連携したアントレ教育事例

✓ アントレ教育の各段階において大学が抱える課題の一部をカバーする形で、民間企業のプログラムは実施されている

民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査まとめ

アントレ教育の各段階において大学が抱える課題※1		事例No.	民間企業名	プログラム内容
動機付け・意識醸成	■ 学内だけでは対応しきれないヒトのリソースの不足	1-1, 1-2	ソニー(株)	■ 自社メンターの提供
	■ アントレ教育を指導できる実務家の採用不足	7	(株)CroMen	■ 個人のキャリア感の醸成を支援する多くの社会人メンターを束ね、学生に提供
	■ 受講者の裾野拡大に向けた、小中高との連携不足	2	KDDI(株)	■ KDDI DIGITAL GATE (自社の既存取組み) の活用
コンピテンシーの形成	■ 学内だけでは対応しきれないモノのリソースの不足	9	野村ホールディングス(株)	■ 中学生・高校生向けのプログラムの提供
		5	(株)富山村田製作所	■ インターンとして学生を受け入れ、仮説検証の機会を提供
	■ アントレ教育を指導できる実務家の採用不足	8	デジタルハリウッド(株)	■ 自社のプログラミングノウハウを活用した学習機会の提供
		3	(株)MAKOTO	■ ワークショップ形式を中心とし、座学ではなく体験を重視
社会実践	■ 起業支援プログラムの不足	4	本田技研工業(株)	■ 講義スピーカーとして自社社員をアレンジ
		6	(株)リバネス	■ 講演会スピーカーとして地域にゆかりのある起業家をアレンジ
	■ 学内だけでは対応しきれないカネのリソースの不足	10	(株)ウィルフ	■ プログラムに3回もの事業立ち上げを組み込む
		11	(株)FFGベンチャービジネスパートナーズ	■ ビジネスモデル開発に加え、投資検討まで実施
		12	DEMOLA GLOBAL	■ 学生と企業との協働で生まれたアイデアに対しライセンス料獲得の機会提供

※1 「令和2年度持続的・発展的なアントレプレナーシップ教育の実現に向けた教育ネットワークや基盤的教育プログラム等のプラットフォーム形成に係る調査・分析報告書」より抽出

事例紹介1-1

- ソニー株式会社
- 東京大学・東京藝術大学

- ✓ 東京大学および東京藝術大学はソニーと連携し、技術と芸術の混成チームを組成し、アイデアの社会実践に挑戦するプログラムを実施している

ソニー株式会社と東京大学等の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要	実施企業	■ ソニー株式会社
	会社概要	■ エレクトロニクス・プロダクツ&ソリューション（ホームエンタテインメント&サウンド/イメージング・プロダクツ&ソリューション/モバイル・コミュニケーションおよびその他の事業）
	大学	■ 東京大学・東京藝術大学
	プログラム名	■ ソニー東大藝大社会連携講座
	プログラム受講者	■ 東京大学・東京藝術大学の学生であれば全学年・全学科が参加可能
	参考URL	■ https://ignite-your-ambition.com/

イメージ図



<https://ignite-your-ambition.com/news/2021%e5%b9%b4%e5%ba%a6%e3%82%a8%e3%83%b3%e3%83%88%e3%83%aa%e3%83%bc%e9%96%8b%e5%a7%8b/>

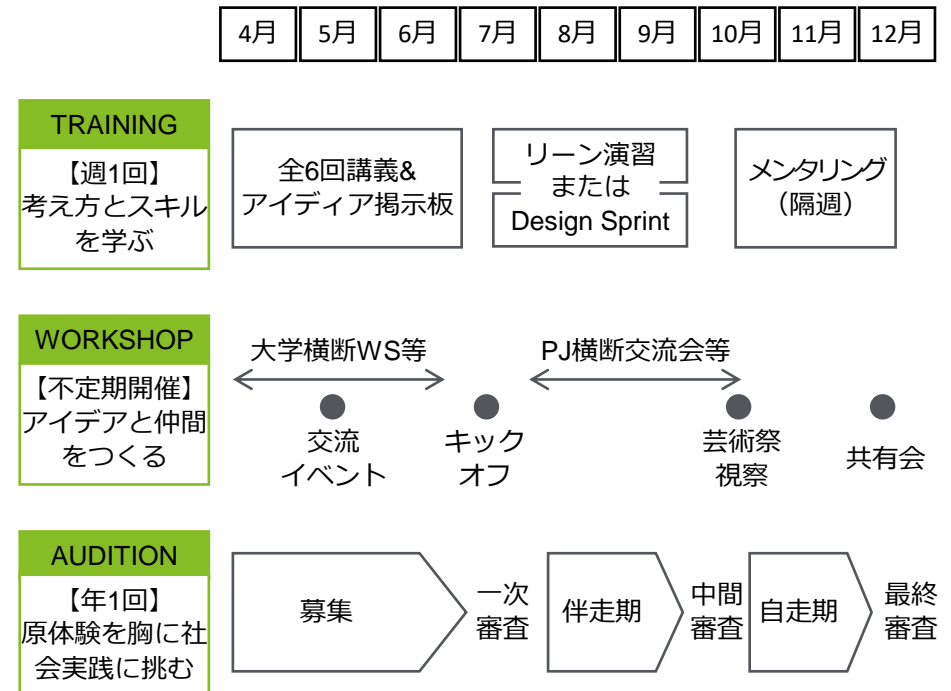
※ HP公開情報を確認の上作成

- ✓ ソニーは自社のノウハウをもとに、応募学生の選定、ワークショップ開催、知識インプットの講義・演習、メンタリングを実施する

ソニー株式会社と東京大学等の連携：プログラム概要（2/2）

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東大生と藝大生の創発的な遊びと学びを社会実践に結びつける ■ 技術と芸術の混成チームで野心的なアイデアを生み出し、起業家精神をもってソニーと共に世に出すことで、日本の文化をより豊かにする
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、メンタリング、イベント参加、コーチング、事業計画発表・フィードバック等

——— プログラムのイメージ※1 ———

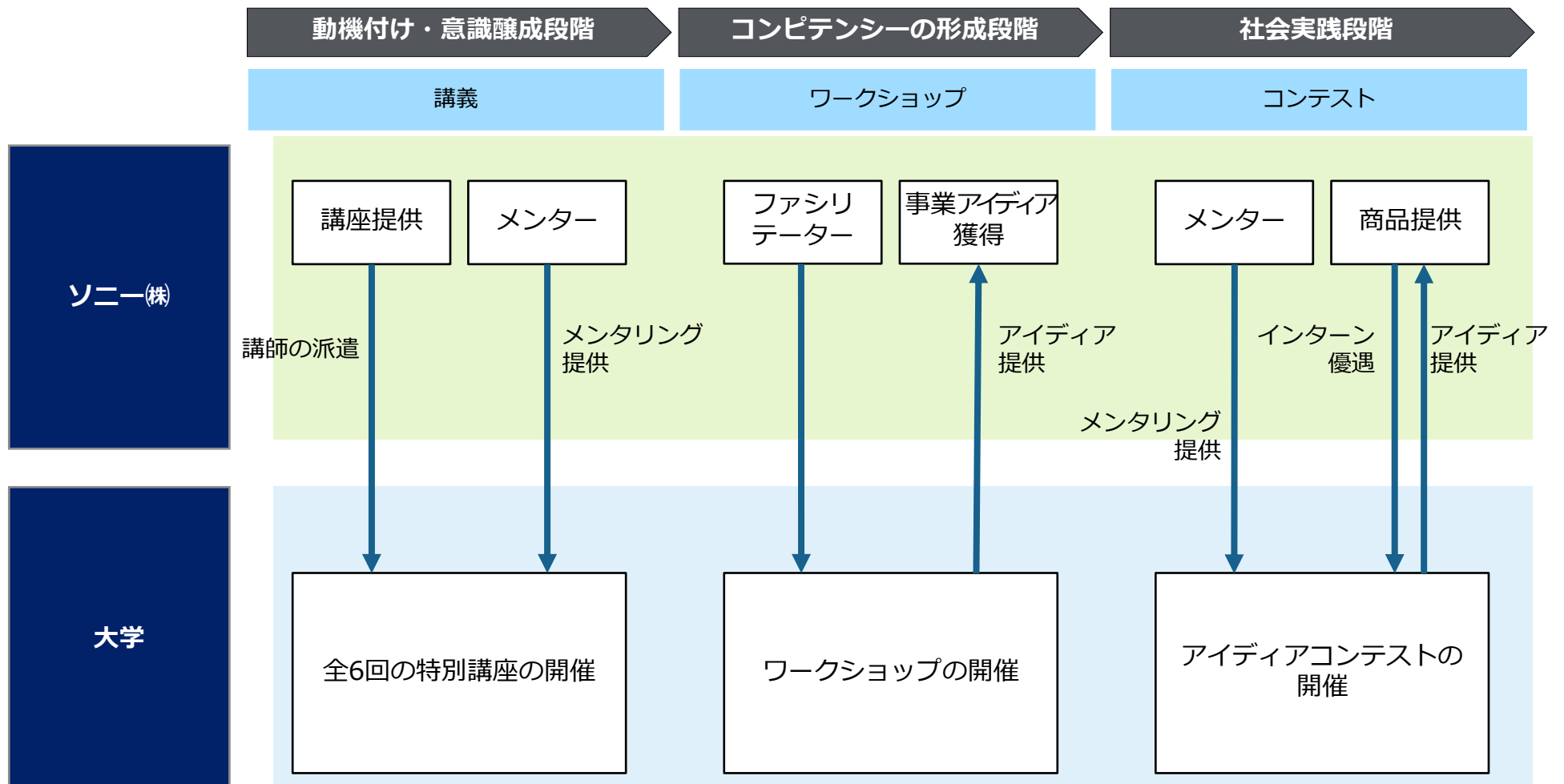
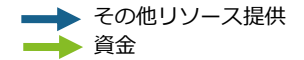


※ HP公開情報を確認の上作成 ※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

- ✓ 座学で学んだ知識をワークショップ、アイデアコンテストで実践として生かすことができるようプログラム設計がなされている

ソニー株式会社と東京大学等の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 講座を通じて創出されたアイデアを、ソニーと共に社会実践することを目的とする
- ✓ 参加者数は増加傾向にあり、今後社会実践という成果につながることを期待されている

ソニー株式会社と東京大学等の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育
を取組む目的

- ソニー東大藝大社会連携講座から出たアイデアをソニーと共に世に出すこと
- スタートアップ創出と事業運営の経験・ノウハウと、大学の若い起業家人材と世界最先端の科学技術知見を生かし、日本での「産学協創エコシステム」を充実させることで、若い世代の起業精神を持った人材の育成と、日本のスタートアップの発展に貢献する

連携の際の大学に
求める条件

- デザインの視点から生まれるアイデアをビジネスに社会実践したいと考える学生がいる大学
- 技術の視点から生まれるアイデアをビジネスに社会実践したいと考える学生がいる大学

アントレ教育の
各フェーズごとの
目的・内容動機付け・意
識醸成段階

- TRAINING（考え方とスキルを学ぶ）
 - マッチング期：全6回のスタートアップ特別講義・アイデア掲示板ワークショップ・専門家プレスト会
 - 伴走期：オンライン・キックオフイベント・通過PJを事例としたオンライン・セッション
 - 自走期：演習を活かして各PJで自走・でメンターが個別相談・コンセプトメイクやモノづくり

コンピテンシ
ーの形成段階

- WORKSHOP（アイデアと仲間をつくる）
 - テーマに関する予備知識を共有
 - 4,5名のグループに分かれアイデア発想のグループワーク実施
 - チーム毎に発表し、全員で投票し、優勝アイデアを決定

社会実践段階

- AUDITION（原体験を胸に社会実践に挑む） ※一次審査
 - 隔週でメンターと対面orオンラインで相談
 - プロトタイプ：疑似体験できるモノを軽く早く開発
 - 顧客インタビュー：想定顧客を探し出し、共に磨く
 - 最終審査：12月上旬にピッチ&デモのイベント開催

アントレ教育に
対する評価・成果

- 参加人数は、Workshopに約500名、Trainingに約250名。Auditionには約100件のエントリーがあり、いずれも昨年比約1.5倍の増加となった
- 優勝チームは活動を続けており、チームのアイデアが社会実践され課題解決に繋がっていくことが期待できる

今後の大学と連携
したアントレ教育の
考え方

- リアリティと実践を重視し、社会を変えたいという意欲のある方々が速やかに社会実践できるような環境を提供していき、持続的に社会課題の解決を実践していける人材を着実に増やしていきたい
- 社会連携講座の枠を活用しながら、既存の概念に捕らわれず、時代の要請に合った人材育成を産業界と共に実践していきたい

※ HP公開情報を確認の上作成

事例紹介1-2

- ソニー株式会社 等
- 立命館大学

✓ 学校法人立命館は、ソニー等と連携し、小学校から大学までと幅広い人材を対象として、アントレ教育を実施している

ソニー株式会社等と立命館大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要

実施企業	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソニー株式会社 ■ コモンズ投信株式会社 ■ 株式会社ジャフコ ■ READYFOR株式会社 ■ 株式会社マネーフォワード ■ 一般社団法人インパクトラボ
会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムを提供しているソニー株式会社の会社概要：エレクトロニクス・プロダクツ&ソリューションの提供
大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ 立命館大学
プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ 立命館・社会起業家支援プラットフォームRIMIX(Ritsumeikan Impact-Makers InterX(cross))
プログラム受講者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 立命館小中高大院の生徒・学生
参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://r-rimix.com/about/

イメージ図



<https://r-rimix.com/programs/>



<https://r-rimix.com/>

※ 出典：大学HPより
※ HP公開情報を確認の上作成

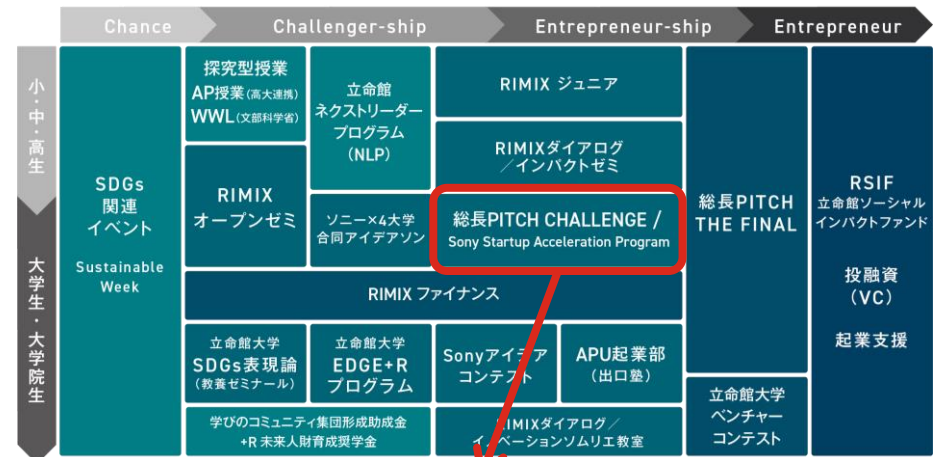
✓ ソニーは自社プログラムパッケージをアレンジし、立命館における総長PITCH CHALLENGEに対して支援を実施している

ソニー株式会社等と立命館大学の連携：プログラム概要（2/2）

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソニー自社開発 自社プログラムパッケージを基に、立命館版にアレンジ
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ SDGsに代表される人類共通の課題に対する問題意識、そこから生まれるチャレンジ精神を起点に、挑戦から起業までをシームレスに支援し、初等・中等教育段階から社会課題を積極的に解決する人材、《社会起業家：Impact-Makers》の養成を目指す
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、グループワーク、事業計画発表・フィードバック、ファンディング、事業立ち上げ、振り返り等

プログラムのイメージ

立命館・社会起業家支援プラットフォームRIMIXのプログラム全体像



- 学校法人立命館に所属するすべての学生・生徒・児童が対象
- 参加予定数は120名程度

インプット

- 社会にインパクトを起こすアイデアを育て、事業化する手法を知り、事業化するためには何をすればよいかについて考え抜くレクチャープログラム
【全5回】（講義とチームでのワークショップ形式）

オーディション

- オーディションを勝ち抜いたチームはファイナリストとして最終成果発表となるピッチイベント「総長PITCH THE FINAL 2021」への出場権を獲得

ブラッシュアップ

- Sony Startup Acceleration Programのアクセラレーターによるマンツーマンのコーチング【2か月】

※ HP公開情報を確認の上作成

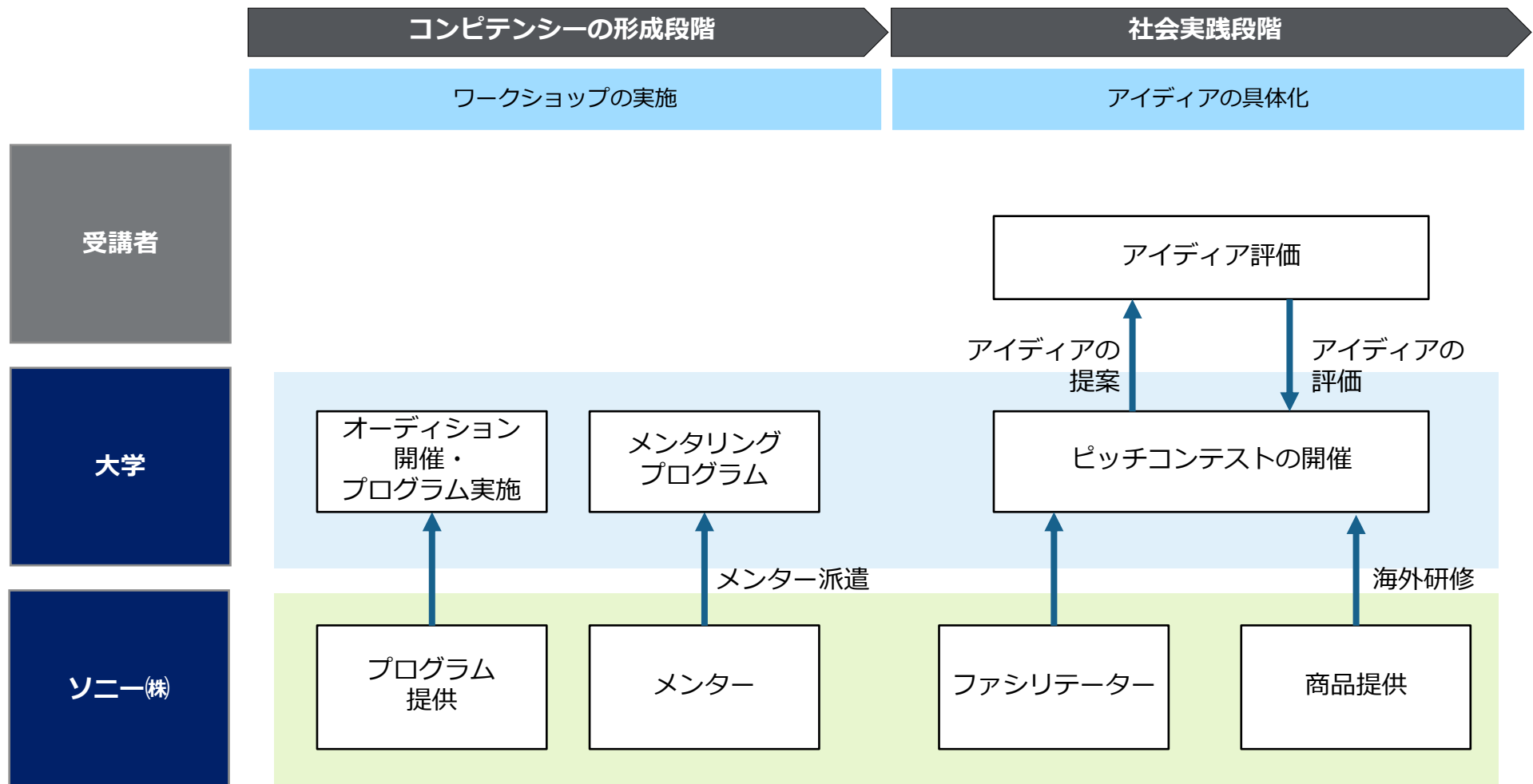
✓ 小学生から大学生までを対象とし、事業アイデア創出に至るための手法を体系的に学ぶようプログラムを設計している

ソニー株式会社等と立命館大学の連携：スキーム

※総長PITCH CHALLENGEおよび総長PITCH THE FINALについて記載

凡例

→ その他リソース提供
→ 資金



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 2019年度は参加した15チームのうち約4チームが起業、20年度は前年度比2.5倍に起業数が急増といった成果を上げている

ソニー株式会社等と立命館大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育
を取組む目的

- ソニーのSony Startup Acceleration Programは、社内起業の仕組みとしてスタートし、5年かけて仕組みを整備。アイデア創出から商品化、事業運営、販売・事業拡大まで一気通貫で支援する仕組み・ノウハウについて、立命館大学をはじめ、大学向けの支援サービスとして提供

連携の際の大学に
求める条件

- SDGsにひも付けて社会課題の解決を目指す社会起業家の育成を実施している大学
- ビジネスを通じて社会課題の解決を考えており、ある程度アイデアがある学生のいる大学

アントレ教育の
各フェーズごとの
目的・内容動機付け・意
識醸成段階

- CHANCE – 自身にとっての社会課題を発掘し、問題意識を高める
 - RIMIXオープンゼミ
 - SDGs表現論

コンピテンシ
ーの形成段階

- CHALLENGER-SHIP – 一人ひとりの社会課題解決アイデアを形作り、ビジネスマインドを育成
 - 総長PITCH CHALLENGE、立命館大学EDGE+Rプログラム、イノベーションソムリエ教室、立命館ネクストリーダープログラム、READYFOR Challenge助成金、立命館大学 学びのコミュニティ 集団形成助成金、+R校友会未来人財育成奨学金

社会実践段階

- ENTREPRENEUR-SHIP – アイデアをプロジェクトとしてブラッシュアップし、発信し、評価を得る
 - 総長PITCH THE FINAL
 - 立命館大学 学生ベンチャーコンテスト
 - APU起業部（通称 出口塾）

アントレ教育に
対する評価・成果

- RIMIXのソニーの新規事業支援プログラム「Sony Startup Acceleration Program (SSAP)」を立命館版にアレンジした支援を通じ、社会起業家が誕生（2019年度は参加した15チームのうち約4チームが起業）
- 20年度に前年度比2.5倍と起業数が急増

今後の大学と連携
したアントレ教育の
考え方

- ソニーの「Sony Startup Acceleration Program (SSAP)」を通じ、学生のアイデアのブラッシュアップ、事業化への課題検証等を支援し、社会起業家を目指す学生の起業を更に促進していく

※ HP公開情報を確認の上作成

事例紹介2

- **KDDI株式会社**
- **東北大学**

- ✓ 東北大学はKDDIと大学発ベンチャー企業などの創出・成長支援を通じた地域の人づくりに関する連携協定を締結し、アントレ教育に活用している

KDDI株式会社と東北大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要

実施企業	■ KDDI株式会社
会社概要	■ 総合通信大手。携帯・光回線を展開。物販など非通信部門の充実により、ライフデザイン企業を目指す
大学	■ 東北大学
プログラム名	■ 大学発ベンチャー企業などの創出・成長支援を通じた地域の人づくりに関する連携協定
プログラム受講者	■ 東北大学の学生
参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2020/10/08/4712.html ■ https://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/pressimg/tohoku-univ-press20201008_01_KDDI%20-web.pdf

イメージ図

- 東北大学が有する支援基盤に、同社が有する5G・AI・IoTなどの先端技術や長年のベンチャー企業支援ノウハウを提供



<https://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2020/10/08/4712.html>

- 東北大学が主催するプログラム・イベントやKDDIの共創パートナー企業と連携を図り、学生の起業マインド醸成から起業時の各種サポート、起業後の各種成長を支援

※ HP公開情報を確認の上作成

- ✓ KDDIは自社技術や事業開発ノウハウの提供、パートナー企業へのつなぎ込み等の役割を担うことを想定している
- ✓ 座学での知識インプットから、パートナー企業と連携した資金調達支援まで多岐に渡る取組みを検討している

KDDI株式会社と東北大学の連携：プログラム概要 2/2

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発 <ul style="list-style-type: none"> ▶ KDDI DIGITAL GATEによるデザイン思考をベースとしたアジャイル開発コーチングの開催など
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東北大学の大学発ベンチャー企業などの支援基盤に、KDDIの5G・AI・IoTなどの先端技術やベンチャー企業支援の経験を掛け合わせ、東北大学主催のプログラム・イベントやKDDIの共創パートナー企業と連携を図りながら、学生の起業マインド醸成から起業時の各種サポート、起業後の各種成長支援を実施すること
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、コーチング、イベント、事業計画発表・フィードバック、共同実証、事業立ち上げ、振り返り等

※ HP公開情報を確認の上作成

————— プログラムのイメージ※1 —————

アントレプレナーシップ教育を通じた起業マインドの醸成

- KDDIによるDX、5G、AIなどに関する特別講義の実施
- KDDI DIGITAL GATEによるデザイン思考をベースとしたアジャイル開発コーチングの開催
- パートナー企業との連携による起業のためのオンラインコンテンツ配信

大学発ベンチャー企業などの創出支援

- TUSGと連携し、5Gを活用した起業家育成オンラインイベントの共同開催
- 東北大学ビジネスプランコンテストの開催支援
- KDDIのテクノロジーを活用した共同実証の実施

大学発ベンチャー企業などの成長支援

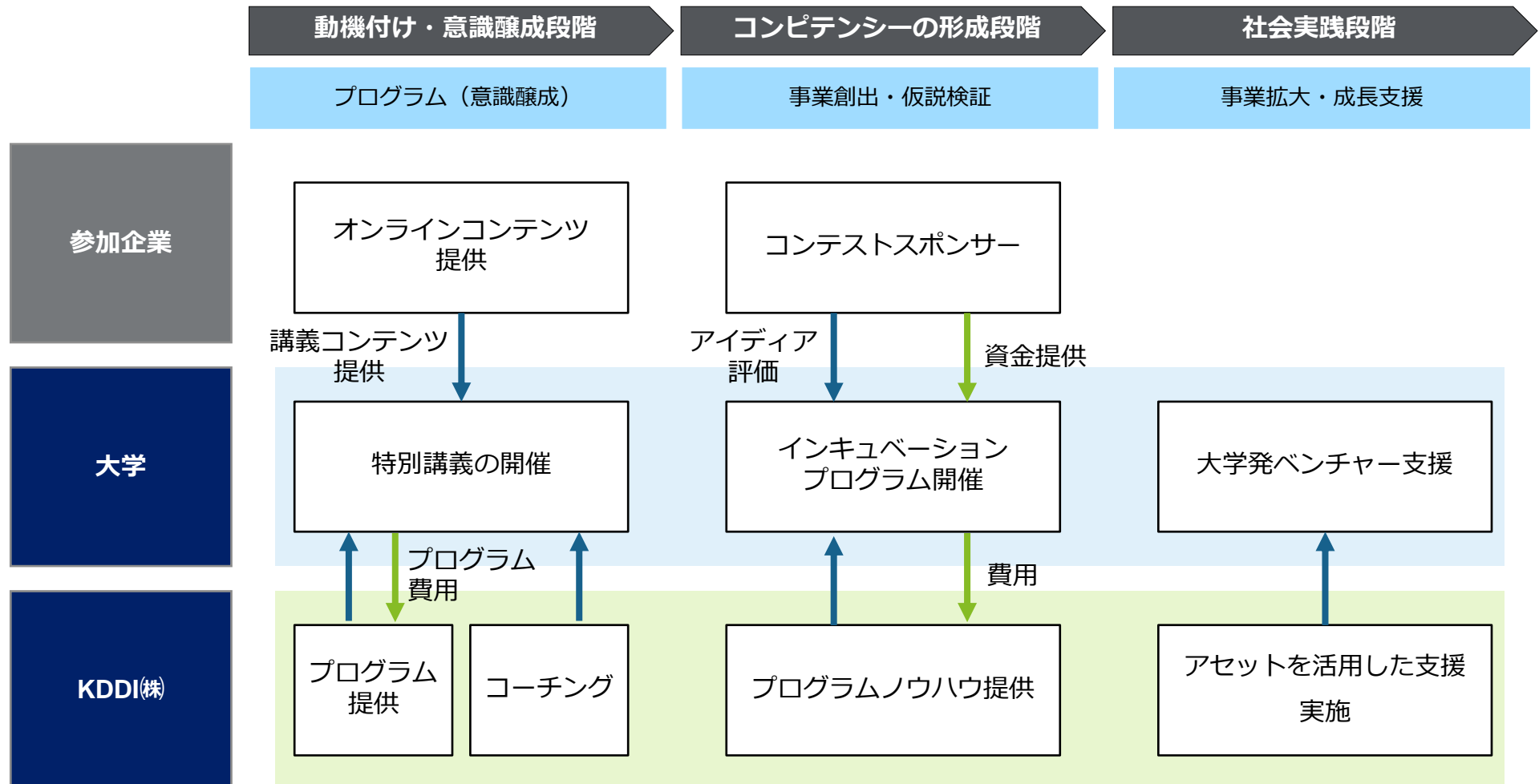
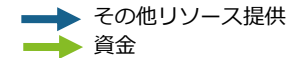
- KDDI∞LABOなどのKDDIが企画する事業共創イベントへの参加
- ビッグデータを活用したマーケティング事例紹介などKDDIアセットを活用した支援
- パートナー企業と連携した資金調達支援

※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成
東北大学とKDDIの連携締結日（2020年10月8日）時点での情報であり「検討事項」が含まれる点に留意

- ✓ 意識醸成から事業創出までのプロセスの支援に加え、ベンチャーの成長支援までを組み込んだプログラム設計がなされている

KDDI株式会社と東北大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ KDDIの目的は、東北地域のベンチャー企業や起業家の支援を通じて、地方創生に資する地域の人づくりに取り組むことにある

KDDI株式会社と東北大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育 を取組む目的

- 仙台だけではなく東北地域のベンチャー企業や起業家の支援を通じて、地方創生に資する地域の人づくりに取り組む（KDDIのSDGs「KDDI Sustainable Action～私たちの『つなぐチカラ』は、未来のためにある～」を策定している

連携の際の大学に 求める条件

- KDDIが有する5G・AI・IoTなどの先端技術や長年のベンチャー企業支援の経験を掛け合わせることが可能な、大学発ベンチャー企業などの支援基盤があること

アントレ教育の 各フェーズごとの 目的・内容

動機付け・意 識醸成段階

- アントレプレナーシップ教育を通じた起業マインドの醸成
 - KDDIによるDX、5G、AIなどに関する特別講義の実施
 - KDDI DIGITAL GATEによるデザイン思考をベースとしたアジャイル開発コーチングの開催
 - パートナー企業との連携による起業のためのオンラインコンテンツ配信

コンピテンシ ーの形成段階

- 大学発ベンチャー企業などの創出支援
 - TUSGと連携し、5Gを活用した起業家育成オンラインイベントの共同開催
 - 東北大学ビジネスプランコンテストの開催支援
 - KDDIのテクノロジーを活用した共同実証の実施

社会実践段階

- 大学発ベンチャー企業などの成長支援
 - KDDI∞LABOなどのKDDIが企画する事業共創イベントへの参加
 - ビッグデータを活用したマーケティング事例紹介などKDDIアセットを活用した支援
 - パートナー企業と連携した資金調達支援

アントレ教育に 対する評価・成果

- 連携協定に基づき、東北大学の学生をはじめ、宮城県内外の社会人など、多様な人財の活躍推進と起業マインドの醸成を目的として「東北大学-KDDIスペシャルセミナー」にて「女性と起業」をテーマとした講演を実施、幅広い年齢層から約80名が参加

今後の大学と連携 したアントレ教育の 考え方

- 大学発ベンチャー企業などの支援基盤に、KDDIが有する5G・AI・IoTなどの先端技術や長年のベンチャー企業支援の経験を掛け合わせることで、付加価値を生み出していきたい。

※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

事例紹介3

- 株式会社MAKOTO
- 東北大学・会津大学

- ✓ 東北大学、会津大学が株式会社MAKOTOと取り組んだ事例であり、動機付け・意識醸成段階から社会実践段階までの一気通貫のフェーズで取り組んでいる

株式会社MAKOTOと東北大学等の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要

実施企業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 株式会社MAKOTO
会社概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『人が幸せに生きられる社会を作る』をミッションに、主に東北で志を持って活躍している起業家の支援を実施
大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東北大学 ■ 会津大学
プログラム名	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東北大学スタートアップガレッジ ■ 地域ベンチャー創成支援財団（会津大発ベンチャー育成）
プログラム受講者	<ul style="list-style-type: none"> ■ メインは大学1～2年生、一部大学院生や高校生が参加実績も有り
参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://www.tusg.jp/ ■ https://aizu-startups-foundation.com/#top

イメージ図



<https://www.projectdesign.jp/202104/area-miyagi/009202.php>

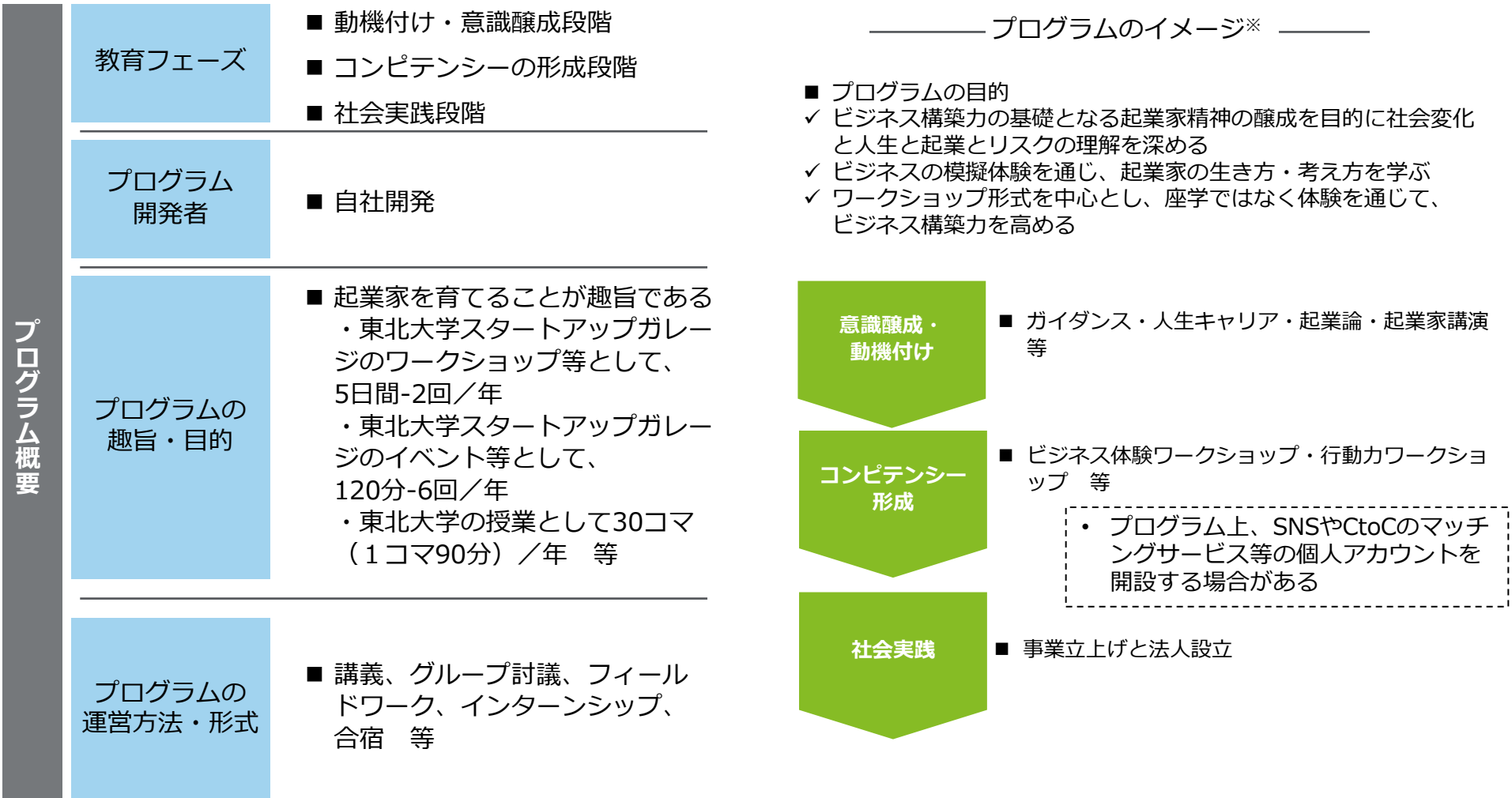


<https://www.facebook.com/TUSG.jp/photos/pcb.2378969502343901/2378972562343595/>

※ 株式会社MAKOTOに確認の上作成

- ✓ SNSやCtoCのマッチングサービス等の個人アカウントを活用したワークショップ形式を中心とし、座学ではない体験を通じて、ビジネス構築力を高めるような取組を実施している

株式会社MAKOTOと東北大学等の連携：プログラム概要（2/2）

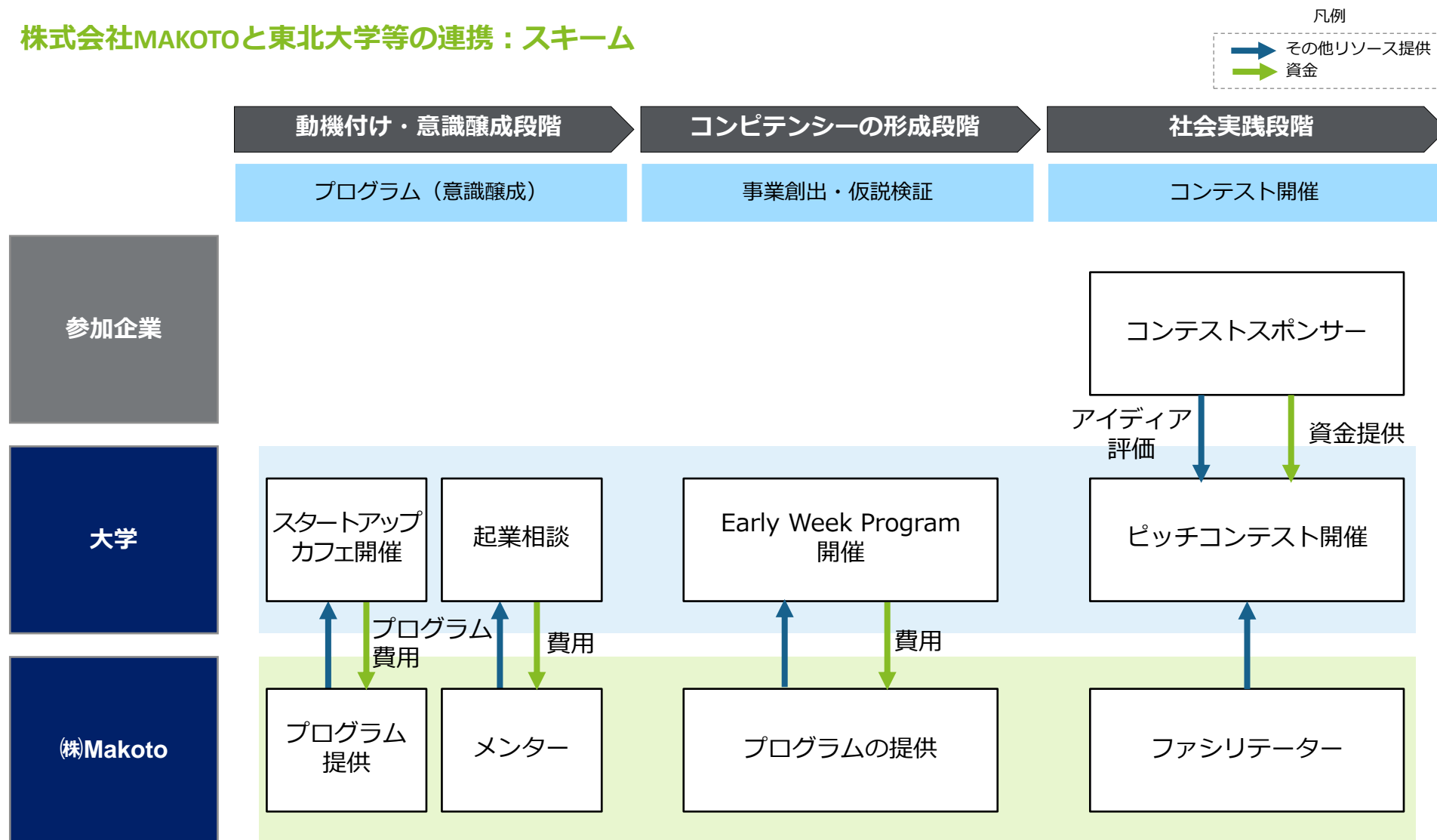


※ 公開情報（東北大学で実施されている授業内容アントレプレナー入門塾）をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

※ 株式会社MAKOTOに確認の上作成

- ✓ 意識醸成のための講座の提供からアイデアの実装に至るためのコンテストまで体系的なプログラム設計を行っている

株式会社MAKOTOと東北大学等の連携：スキーム



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 同社は、VCファンドを保有しており、将来的な投資先の育成も見据え、大学との連携を行っている
- ✓ 大学との連携にあたっては、予算や大学とのプログラムの進め方等で課題を感じている

株式会社MAKOTOと東北大学等の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育
を取組む目的

- 自社の事業戦略を推進するため
VCファンドを持ち投資活動も行っているが、投資に資するスタートアップは一部であり、継続的に起業家を育てる活動が事業のサステナビリティには必須

連携の際の大学に
求める条件

- 起業家を育てる活動は、短期収益が得られない地道な活動なため、大学がアントレ教育に対し予算をもっている事

アントレ教育を
取組む際の課題

準備段階

- 大学と当社で、目的が合わないこと。当社は、地味でも実質的に起業家が育つ施策を実施したいと考えているが、大学は対外アピールを目的に見栄えの良い施策を希望するため、クライアントファーストの観点から大学側の意見を優先せざるを得ないことがある

実施段階

- 組織文化の違い。当社はスタートアップ文化であり、アジャイル的に企画して運営する方法を採用し、走りながら考え、イベント前日でも良かれと思う方向に計画を変更することもあるのに対し、大学側は行政機関の文化なので、ウォーターフォール型であり、事前に計画を固めて運営したいという意向が強い。2, 3カ月前から内容を決定し、内容変更は認めないというようなプレッシャーを受けることもある

実施後段階

- 報告書作成業務が負担であること
- 次年度予算の継続性が担保されないこと

アントレ教育に対する
評価・成果

- 学生による起業（8件起業済）
- 学生による起業部への入部等を通じた継続的な起業準備

今後の大学と連携
したアントレ教育の
考え方

- Eラーニングやイベントや個別支援の提供

※ 株式会社MAKOTOに確認の上作成

事例紹介4

- **本田技研工業株式会社**
- **早稲田大学**

- ✓ 早稲田大学は本田技研工業と連携し、自大学だけでなく他大学の学生等も対象として、アントレ教育を実施している

本田技研工業株式会社と早稲田大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要	実施企業	■ 本田技研工業株式会社
	会社概要	■ 二輪車、四輪車、パワープロダクツの製造・販売
	大学	■ 早稲田大学
	プログラム名	■ HondaイノベーションTokyo教育研究プログラム（Hondaアカデミー）
	プログラム受講者	■ 早稲田大学の学生・ポスドク ■ 他大学の学生・ポスドク・社会人
	参考URL	■ https://waseda-innovation-edu.jp/honda

イメージ図



http://waseda-innovation-edu.jp/honda/curriculum/2019/inno-tech/application-a_voice

- ✓ 自社プログラムをベースに大学との打ち合わせを踏まえ設計し、担当する内容は、自社の事業領域に関係の深い分野を中心に具体的な事例を踏まえた教育を実施している

本田技研工業株式会社と早稲田大学の連携：プログラム概要（2/2）

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階 	対象
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発 自社プログラムパッケージを基に、大学側の方針・意見等を踏まえて設計 	
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 産学連携・文理融合により、「人間尊重」HONDAの「三つの喜び（作って喜び、売って喜び、買って喜び）」を理解し、地球規模の環境問題、複雑化する国際情勢に対して、アントレプレナーまたはイントレプレナーとして課題の解決に寄与できる人材を教育・研究を通して育成する 	
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、グループワーク、事業計画発表・フィードバック振り返り等 	

プログラムのイメージ※1

□：本田技研社員が登壇

	2019年度 Hondaアカデミー講座名	特徴
前期	人工知能・先端ロボットテクノロジー・バイオテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ	ゲスト登壇
	イノベーションリーダーシップ	グループディスカッション
	ロジカルコミュニケーション	グループディスカッション
後期	イノベーションとテクノロジー実践：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践	ゲスト登壇
	産業イノベーションとキャリアデザイン	ゲスト登壇
	CSRマネジメント実践	企業訪問
	グローバルビジネスコミュニケーション	-
	イノバイティブ ビジネスクリエーション	ゲスト登壇
	ビッグデータ・AIを活用したビジネス創出実践	グループワーク
	ビジネスモデル仮説検証	顧客インタビューの実習

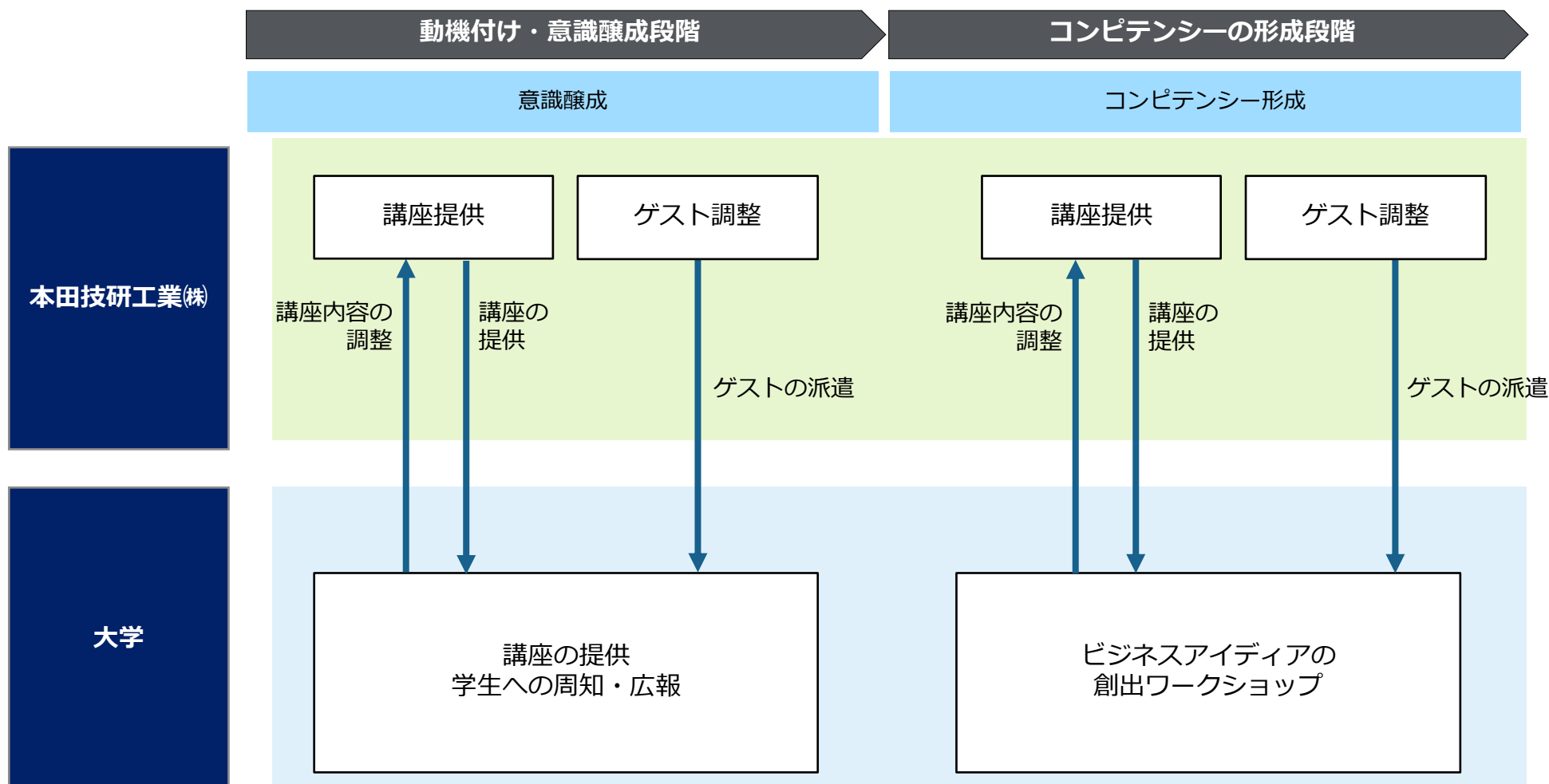
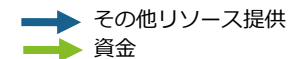
※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

- ✓ 意識醸成およびコンピテンシー形成に至る、単位制の講座を複数提供している
- ✓ 座学だけでなく実習とゲスト講義を織り交ぜたプログラムを設計している

本田技研工業株式会社と早稲田大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 人工知能、ロボットテクノロジー等の自社の事業領域に関係の深い分野の講義を提供している
- ✓ ビジネスモデル仮説検証等、事業に関するものに加えキャリアデザインやコミュニケーションに関する講座も備えている

本田技研工業株式会社と早稲田大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育 を取組む目的

- 地球規模の環境問題、複雑化する国際情勢に対して、アントレプレナーまたはイントレプレナーとして、課題の解決に寄与できる人材を教育・研究を通して育成することをミッションとする

連携の際の大学に 求める条件

- 人工知能、ロボットテクノロジー、医療テクノロジーとの融合の分野でスタートアップに興味のある学生がいる大学
- ビジネスや研究成果の事業化への関心が低かった、もしくはそれらキャリアにハードルを感じて諦めていた学生や若手研究者がいる大学

アントレ教育の 各フェーズごとの 目的・内容

動機付け・意 識醸成段階

- 人工知能・先端ロボットテクノロジー・バイオテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ

コンピテンシ ーの形成段階

- イノベーションとテクノロジー実践：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践
- イノベーションリーダーシップ、産業イノベーションとキャリアデザイン、ロジカル・コミュニケーション、CSRマネジメント実践、グローバルビジネスコミュニケーション
- イノバイティブ ビジネスクリエーション：ビッグデータ・AIを活用したビジネス創出実践
- ビジネスモデル仮説検証

アントレ教育に対す る評価・成果

- グローバルな課題への洞察、異文化・歴史への理解、進歩する科学技術への知識を備え、新しいビジネスを構築し、リーダーシップを発揮しながら、周囲を巻き込んで実践できる人材の育成に貢献

今後の大学と連携 したアントレ教育の 考え方

- 海外での活動経験を得て、積極的に英語や異文化でのコミュニケーションを取り、多様性社会において新しい領域・分野を先導できる人材を育成していく

※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

事例紹介5

- 株式会社富山村田製作所
- 早稲田大学

✓ 早稲田大学が、富山県内の企業と連携した事例であり、地元企業へのインターンシップを実施している

株式会社富山村田製作所と早稲田大学の連携：プログラム概要 (1/2)

プログラム概要

実施企業	■ 株式会社富山村田製作所
会社概要	■ 圧電セラミックスをベースとした電子部品 (圧電セラミックス応用製品) の開発・設計・生産
大学	■ 早稲田大学
プログラム名	■ 富山県新規事業創造インターンシッププログラム
プログラム受講者	■ 学部生、大学院生 (博士・修士)
参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://waseda-edge.jp/event_report_2018?id=20180820 ■ https://waseda-edge.jp/event_detail_2018?id=20180820 ■ https://waseda-edge.jp/htdocs_for_next/pdf/event_20180820.pdf

イメージ図



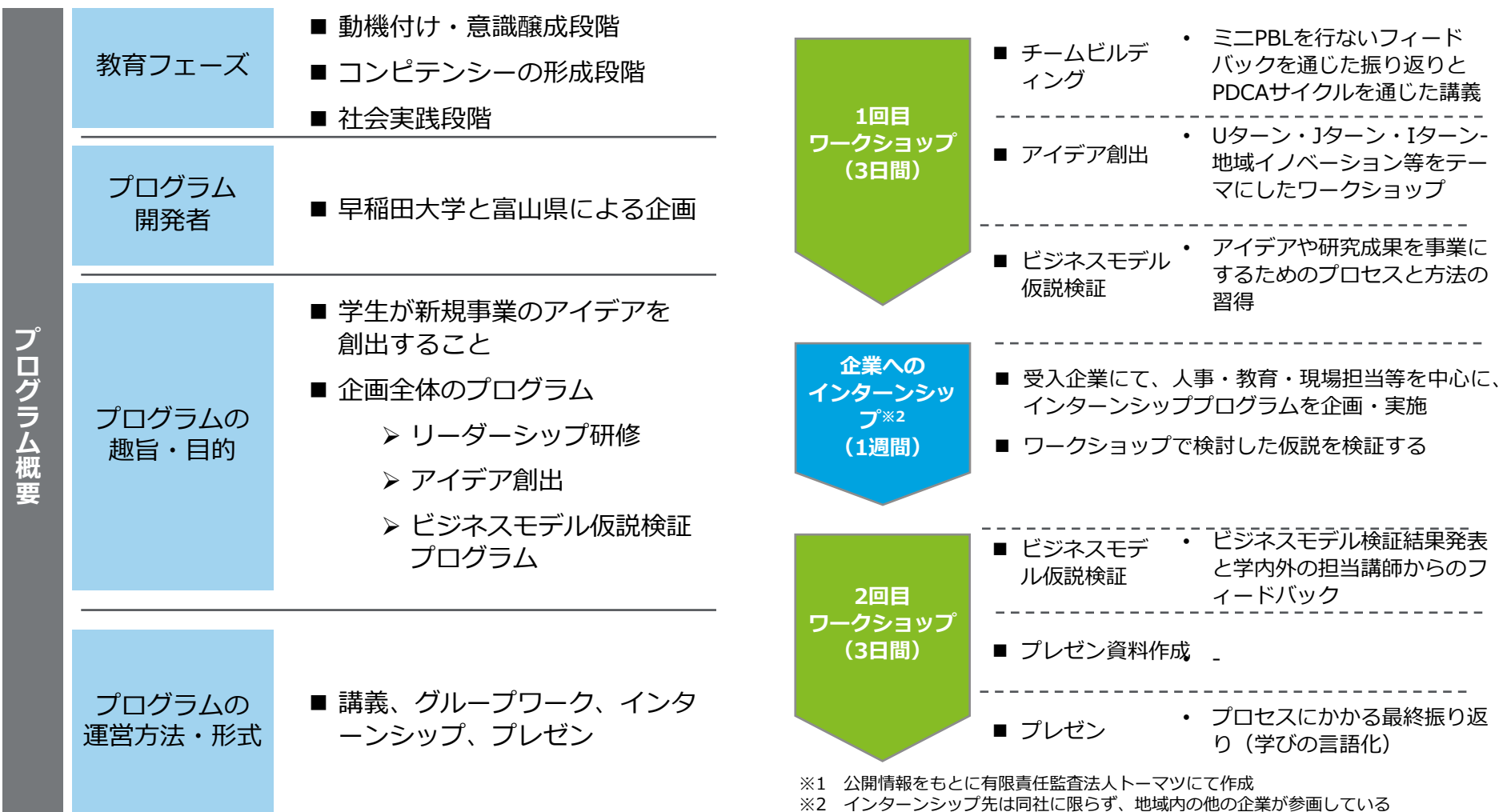
https://waseda-edge.jp/htdocs_for_next/pdf/event_20180820.pdf

※ 株式会社富山村田製作所に確認の上作成

- ✓ 企業へのインターンシップ前にワークショップにて仮説設定を行い、検証方法を学ぶ。その後、企業でのインターンシップを通じ仮説検証を行っている

株式会社富山村田製作所と早稲田大学の連携：プログラム概要（2/2）

プログラムのイメージ※1



※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

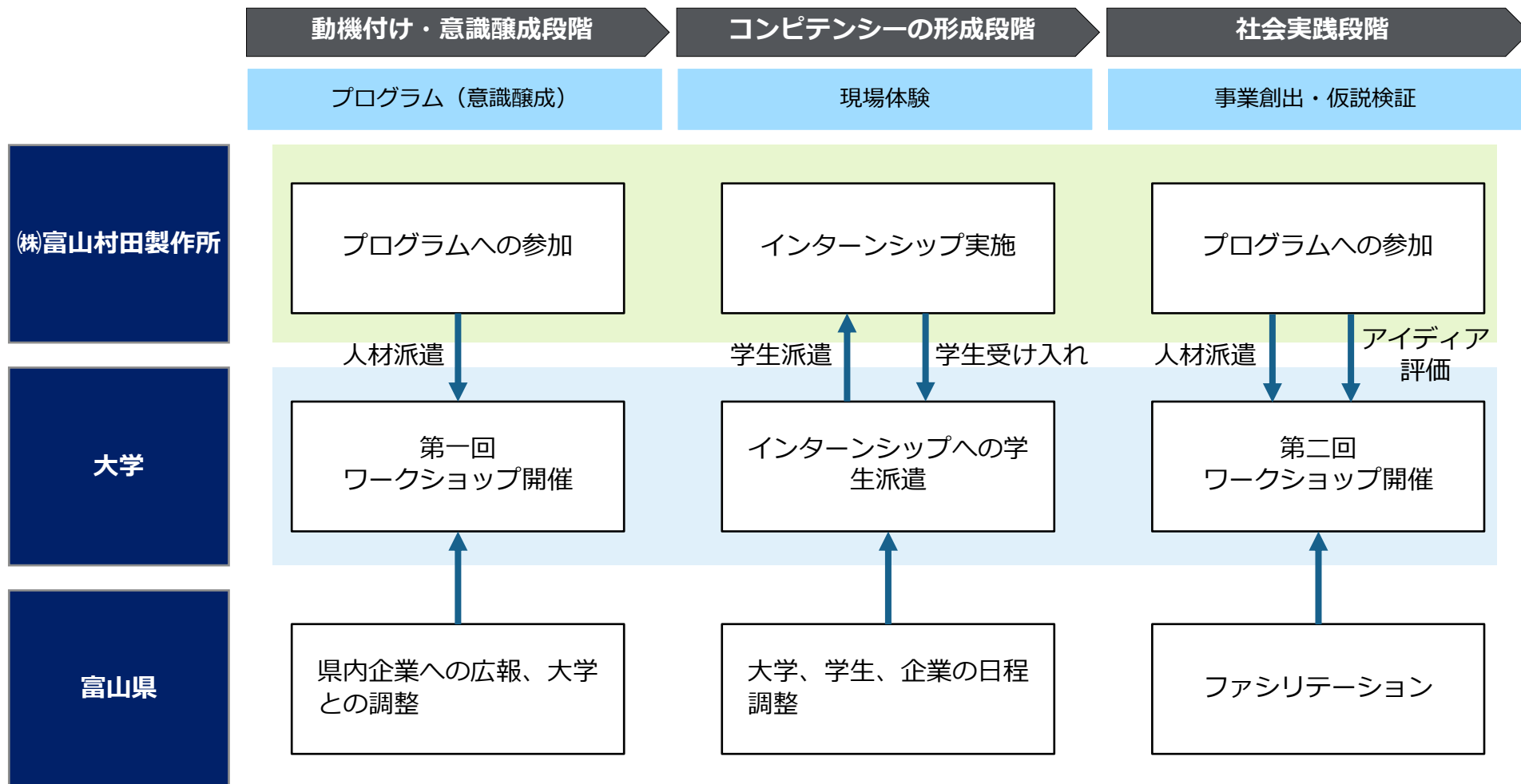
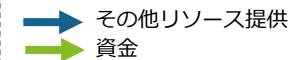
※2 インターンシップ先は同社に限らず、地域内の他の企業が参画している

※ 株式会社富山村田製作所に確認の上作成

- ✓ ワークショップとインターンシップを組み合わせ、学生と参加企業双方が効果的にアイデア創出を学ぶことができるようプログラムを設計している

株式会社富山村田製作所と早稲田大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理
 ※ 県と大学の役割分担が不明のため仮置き

- ✓ 優秀な学生の採用や社会貢献活動等を目的に大学との連携を実施した
- ✓ インターンシップ内容の検討や当該取り組みへの社員の対応負担等で課題を感じている

株式会社富山村田製作所と早稲田大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育 を取組む目的

- 連携する大学から優秀な人材を採用するため（Uターン・Iターン学生の採用への繋がりを期待）
- 社会貢献・CSR活動のため
- 自社の知名度向上のため

連携の際の大学に 求める条件

- 理系学生によるインターンシップへの参加（県による取組であるため、直接的な大学の選定は行っていない）

アントレ教育を 取組む際の課題

準備段階

- テーマ選定やインターンシップ内容の検討、大学との調整

実施段階

- 学生への機会提供であり、将来への投資ではあるが、対応する従業員の時間が拘束されること

実施後段階

- -

アントレ教育に対する 評価・成果

- インターンシップにきた学生が県内出身ではなく、文系学生であり、採用に対しての期待にはつながらなかった

今後の大学と連携 したアントレ教育の 考え方

- 単独での実施は現時点では考えていない。県の取り組み等で依頼がきた際には趣旨を踏まえ、協力していきたいと考える

※ 株式会社富山村田製作所に確認の上作成

事例紹介6

- 株式会社リバネス
- 静岡大学

- ✓ 静岡大学はリバネスを起用し、起業に興味がある人、自分のアイデアを形にしたい人、社会の課題に本気で取り組みたい人向けの講座を実施している

株式会社リバネスと静岡大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要

実施企業	■ 株式会社リバネス
会社概要	■ 科学技術分野における教育、人材育成、研究、創業に関する企画・研究・コンサルティング業務など
大学	■ 静岡大学
プログラム名	■ 起業・ビジネス人材育成ゼミ
プログラム受講者	■ 静岡大学の学生・研究者（教員・ポスドク等）
参考URL	■ https://www.oisc.shizuoka.ac.jp/edgenext/shizudaipro/2021pro/2021entry/

※ HP公開情報を確認の上作成

イメージ図

文部科学省 次世代アントレプレナー育成事業 (EDGE-NEXT) 最終年度
参加費: 無料

起業に興味がある人、自分のアイデアを形にしたい人、
社会の課題に本気で取り組みたい人 募集!!

ビジネスプラン作り
ビジネスコンテストにチャレンジ!

**静岡大学EDGE-NEXT
オンライン＆合宿講座
～起業・ビジネス人材育成ゼミ（アイザワゼミ）～**

オンライン講座が中心ですが、6/19(土)～20(日)にはグランドホテル浜松にて1泊2日の合宿講座を行います(交通費と宿泊費は大学が負担)。

合宿講座ではビジネスプランを検討するチーム作りと、何をビジネスとして検討するかテーマを決めて、ビジネスコンテストに向けてビジネスプランを作り上げていきます。

社会の課題を捉え様々なリソースを活用してビジネスの可能性を追求するプロセスは社会に出てからも必ず役に立つものと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

★開講スケジュール★

【基礎編】
・6月3日(木)～7月15日(木) オンライン4回講座 水曜14:30～16:00
・6月19日(土)20日(日) 1泊2日 合宿@グランドホテル浜松
・7月24日(土) テックプラングランプリ(ビジネスコンテスト)で中間発表

【発展編】
・直休み メンタリング(オンライン)
・8月末 浜松いわた信用金庫主催のビジネスプランコンテストへ応募
・10月2日(土) 静岡市 B-nest にて1日研修
・10月 静岡市B-nest主催のビジネスプランコンテストへ応募

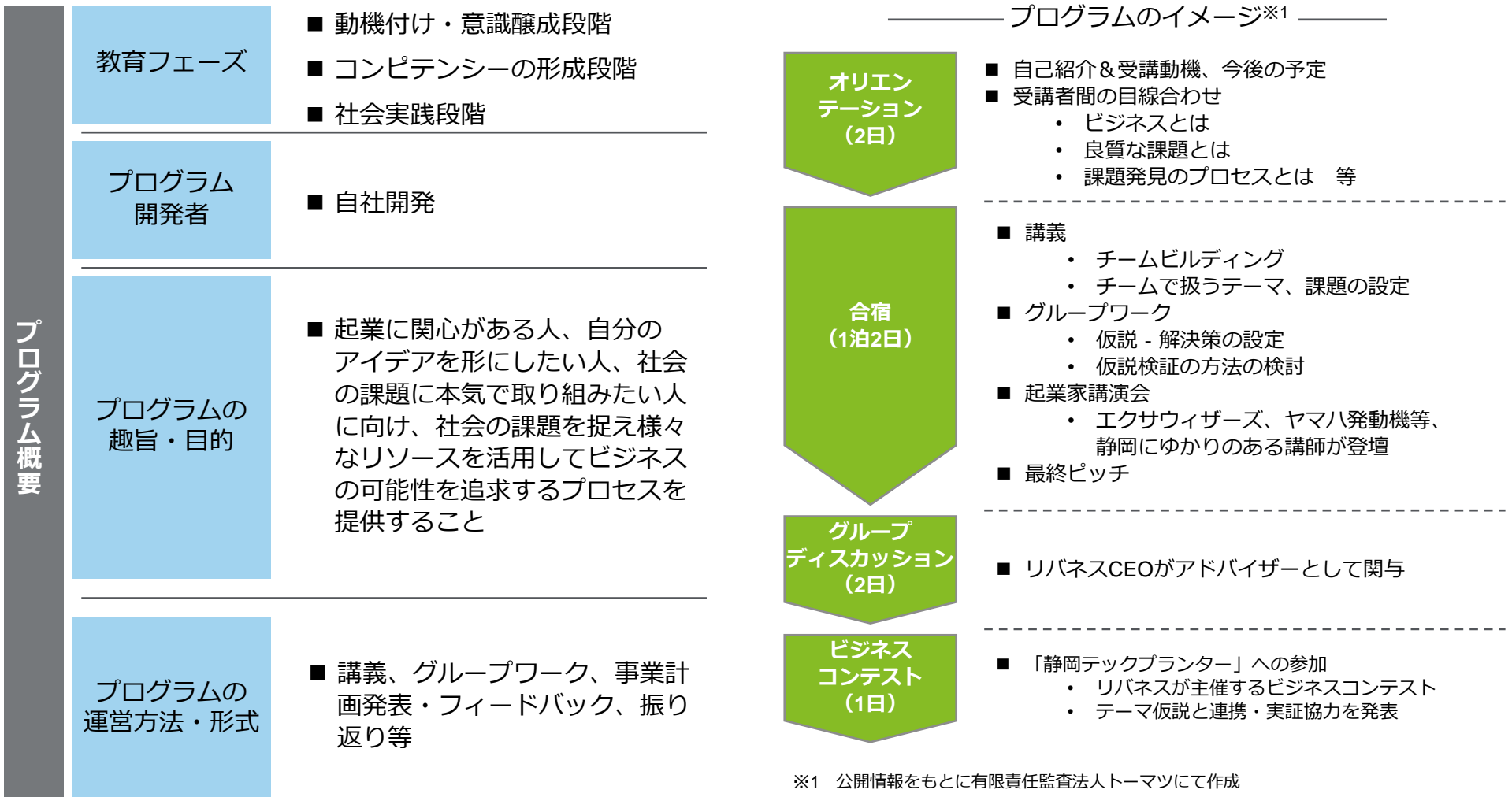
詳細・申込はこちら
よくある質問

詳細 / <http://oisc.shizuoka.ac.jp/edgenext/>
問合せ先 / 静岡大学EDGE-NEXT事務局 (イノベーション社会連携機構内) edge@cir.shizuoka.ac.jp
協力 / アイザワ証券

<https://www.oisc.shizuoka.ac.jp/media/2021NO5.pdf>

✓ リバネスは講師やアドバイザーの提供元となる他、自社が主催するビジネスコンテストをプログラム最終日に組み込んでいる

株式会社リバネスと静岡大学の連携：プログラム概要（2/2）



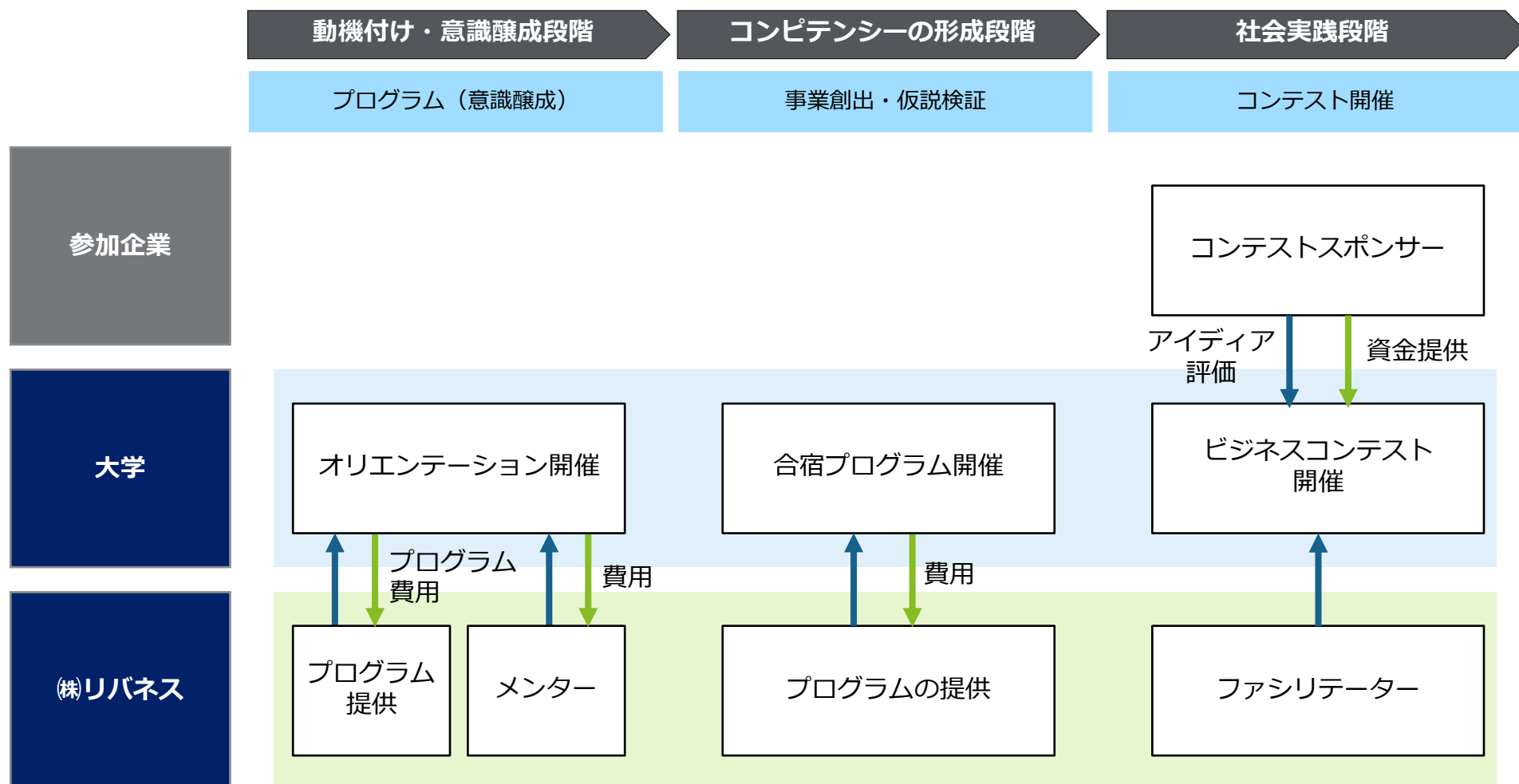
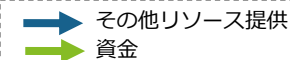
※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

- ✓ 合宿プログラムの前後に意識醸成のためのオリエンテーションと実践への接続としてのコンテストへの参加をプログラムに組み込む設計を行っている

株式会社リバネスと静岡大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 地域発の研究開発型ベンチャーの創業を支援する自社の事業を推進することが目的である
- ✓ 事業を始める学生を2年連続で輩出するという成果を上げている

株式会社リバネスと静岡大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育 を取組む目的

- 「起業・ビジネス人材育成ゼミ」のプログラムに自社が開発するビジネスプランコンテスト「静岡テックプランター」での発表を組み込み、地域発の研究開発型ベンチャーの創業を支援する自社の事業を推進

連携の際の大学に 求める条件

- 事業化への気づきをもたらすことで起業に導くための支援の実施が可能な、潜在的なビジネス性のある研究シーズを抱える教員や学生がいる大学であること

アントレ教育の 各フェーズごとの 目的・内容

動機付け・ 意識醸成段階

- 新しいことを興すQPMI（Question、Passion、Mission、Innovation）の実施
- 課題発見のプロセスの実施

コンピテンシ ーの形成段階

- 自分の興味ある社会課題について、仮説-解決策を設定
- 課題解決の仮説について発表
- 最終ピッチ：テーマ（どんな課題に注目したか）、めざす世界、検証すること

社会実践段階

- 調査・連携先を見つける
- 情報交換会の実施

アントレ教育に対する 評価・成果

- 本受講者の起業への関心は年々高まっており、事業を始める学生を2年連続で輩出

今後の大学と連携 したアントレ教育の 考え方

- 起業に向けては「ビジネスモデル」や「事業計画」に焦点があたりがちだが、本授業では「起業の社会的意義を考えるビジョンの構築」や「強固な組織を作る仲間づくり」に着目し、議論をすることで、起業後に持続し、成長する組織作りのために必要な考え方を受講者に共有する授業を実施することを志向

※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

事例紹介7

- 株式会社CroMen
- 近畿大学アカデミックシアター

✓ 近畿大学が株式会社CroMenとキャリア形成支援をテーマに連携した事例

株式会社CroMenと近畿大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要	実施企業	■ 株式会社CroMen
	会社概要	■ 学校法人、企業向けに「キャリア教育プログラムの企画運営」 「若年層マーケティング支援」
	大学	■ 近畿大学アカデミックシアター
	プログラム名	■ キャリア形成支援プログラム 「Cross Mentorship in近大」
	プログラム受講者	■ 近畿地方の大学に通う大学生・大学院生
	参考URL	■ https://act.kindai.ac.jp/ ■ http://cromen.net/ ■ http://cromen.net/news/kindai_1st/

※ 出典：各HPより
※ 株式会社CroMenに確認の上作成

イメージ図



Cross Mentorship in 近大 募集開始

Cross Mentorshipとは…

選ばれた大学生を対象にした「社会で挑戦するためのビジョンや行動計画の解像度を上げ、自走する力を身につける」プログラム。

応募資格

【近畿地方】(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・滋賀県・和歌山県・三重県)に属する大学生、大学院生であること

開催日



参加費

5,000円

応募締切

4/22



CroMen

✓ 学生が自らのミッション・ビジョンを明確化し、実現に向けた活動を加速させることを目的に実施

株式会社CroMenと近畿大学の連携：プログラム概要（2/2）

プログラム概要

教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階 	対象
プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発（CroMen社） 	
プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生が自身のビジョン・ミッションを明確化し、実現に向けた活動を加速させることを目的に、漠然とした思いを持つ大学生に対して、内省ワークと社会人との1対1の対話の機会を提供。これにより手段に捉われず、情熱に根ざした行動を起こすことを狙いとしている 	
プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークシート記入、講義、グループワーク、学生同士1on1対話、社会人1on1対話、プレゼンテーション、実践形式のプロジェクト 等 	

プログラムのイメージ

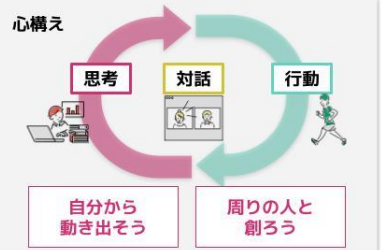
プログラムのゴールとその達成に必要なコト



プログラムの構成



心構え

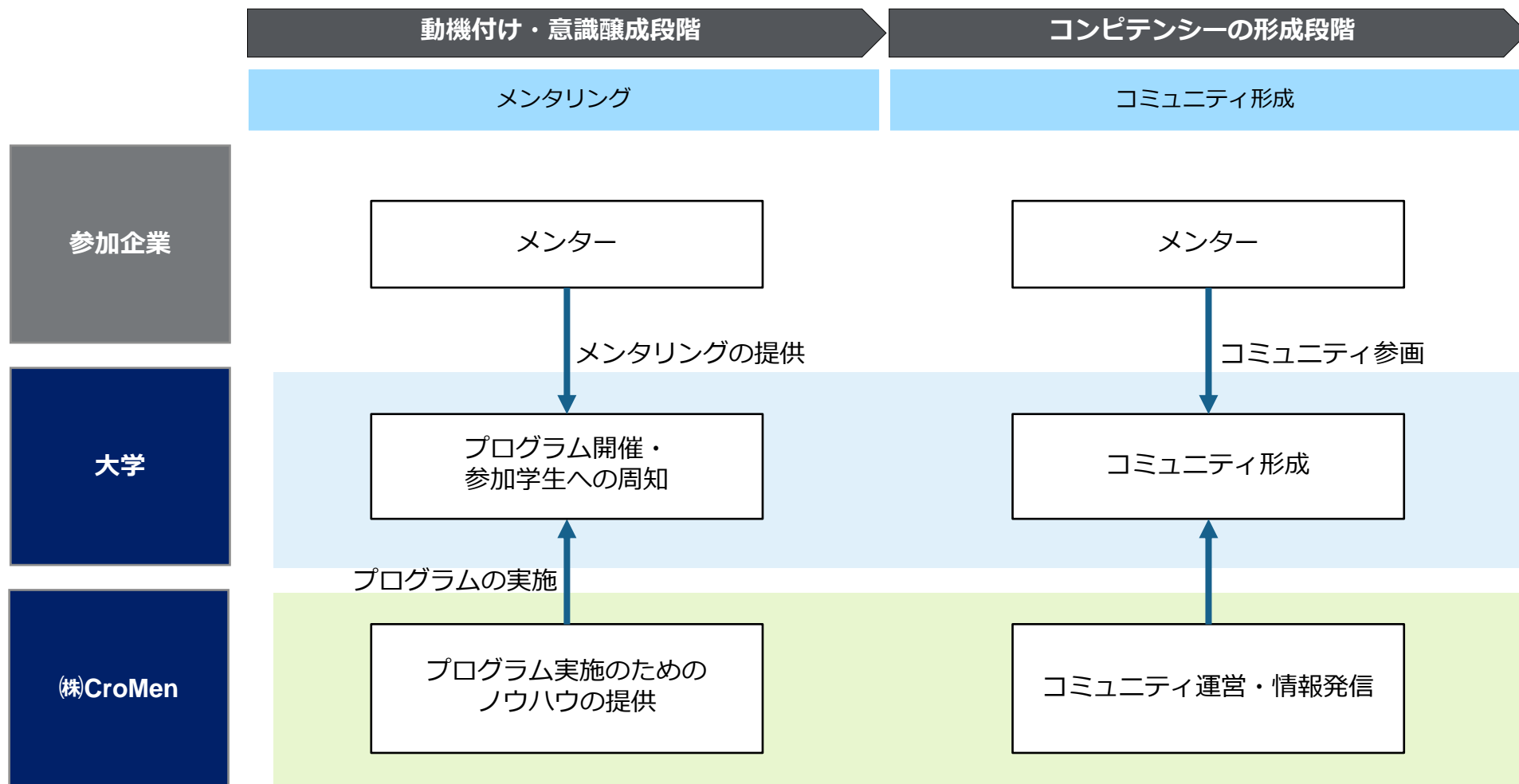
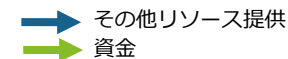


※ 出典：同社HPより
※ 株式会社CroMenに確認の上作成

- ✓ プログラムによるメンタリングにとどまらず、プログラム実施後にメンターと参加学生がつながることができる場づくりを行っている

株式会社CroMenと近畿大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 同社は教育産業の企業であり、自社の事業戦略を推進することを主な目的に大学との連携を行っている
- ✓ 大学の方針として事業家人材育成を支援していることを、大学との連携条件としている

株式会社CroMenと近畿大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育
を取組む目的

- 自社の事業戦略を推進するため
- 自社のキャリア形成支援プログラムの運営ノウハウを事業化するため

連携の際の大学に
求める条件

- 大学の方針として事業家人材育成を支援している

アントレ教育を
取組む際の課題

準備段階

- 参加者のマインドセットの醸成（真剣に取り組んでもらうための目的と意義づけ）
- 学生スタッフが主体となって運営するためそのチームビルディングとプログラム理解促進

実施段階

- プログラム内での受講者の行動量に差がある

実施後段階

- コミュニティに移行しないなど、一部受講者に期待した行動が現れない

アントレ教育に対する
評価・成果

- 学生団体や起業、インターンシップに参加する学生がいた。継続的に社会人との交流を行っている学生がいた
- 自社のプログラムの改善点を発見することが出来た

今後の大学と連携
したアントレ教育の
考え方

- 企業課題に対する学生による解決提案

事例紹介8

- デジタルハリウッド株式会社
- 近畿大学

✓ 近畿大学はデジタルハリウッドと連携し、プログラミングの基礎も習得できるアントレ教育を実施している

デジタルハリウッド株式会社と近畿大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要

実施企業	■ デジタルハリウッド株式会社
会社概要	■ 専門スクールデジタルハリウッド、デジタルハリウッド大学、ジーズアカデミーなどデジタルクリエイティブ関連の教育事業会社。教育と学びのDXを推進
大学	■ 近畿大学
プログラム名	■ G's CAMP KINDAI
プログラム受講者	■ 近畿大学在学学生
参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://gsacademy.jp/camp/kindai/ ■ https://www.kindai.ac.jp/news-pr/news-release/2019/05/016619.html

イメージ図



説明会概要	<p>日時 6月9日 12:15~13:15</p> <p>場所 オンラインライブ (ZOOMミーティング) で開催</p> <p>参加資格 近畿大学在学学生で以下 (1)~(3) のいずれか1つの要件を満たす方 (1) 独自のサービスを創り上げて在学中の起業をしたい方 (2) IT企業への就職を強く希望している方 (3) 将来、起業を考えている方 <small>*ノートPCの所持、Wi-Fiと電源の準備は必須です</small></p>
本講座概要	<p>3日間集中プログラミングCAMP</p> <p>日時 6月26日 16:15~18:30 6月27日 10:00~20:00 6月28日 10:30~18:30</p> <p>場所 オンラインライブ (ZOOMミーティング) で開催</p> <p>参加資格 近畿大学在学学生で以下 (1)~(3) のいずれか1つの要件を満たす方 (1) 独自のサービスを創り上げて在学中の起業をしたい方 (2) IT企業への就職を強く希望している方 (3) 将来、起業を考えている方 <small>*ノートPCの所持、Wi-Fiと電源の準備は必須です</small></p> <p>入学審査 エントリーフォームでの書類選考</p> <p>学費 無料 (近畿大学からのサポートです)</p> <p>応募締切 6月17日 (木) 参加通知 6月22日 (月)</p>

申し込みは、こちらから [説明会QR](#) [本講座QR](#)

問い合わせ先 ACT 推進室 (アカデミックシスター内) TEL: 06-6730-5880 (内線: 6522) MAIL: act@ml.kindai.ac.jp

https://act.kindai.ac.jp/act_activity/events/5a73ee32c47b664b434c31902f7ad489d0997ea5.html

※ HP公開情報を確認の上作成

✓ デジタルハリウッドは、自社プログラムパッケージを近畿大学の方針・意見等を踏まえアレンジして提供している

デジタルハリウッド株式会社と近畿大学の連携：プログラム概要（2/2）

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階 	対象
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発 自社プログラムパッケージを基に、大学側の方針・意見等を踏まえて設計 	
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業を志す学生が、簡単なプロダクト開発を通して幅広い分野で活用できるプログラミング技術を習得するための支援する 	
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3日間のオンライン集中講座 	

※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

プログラムのイメージ※1

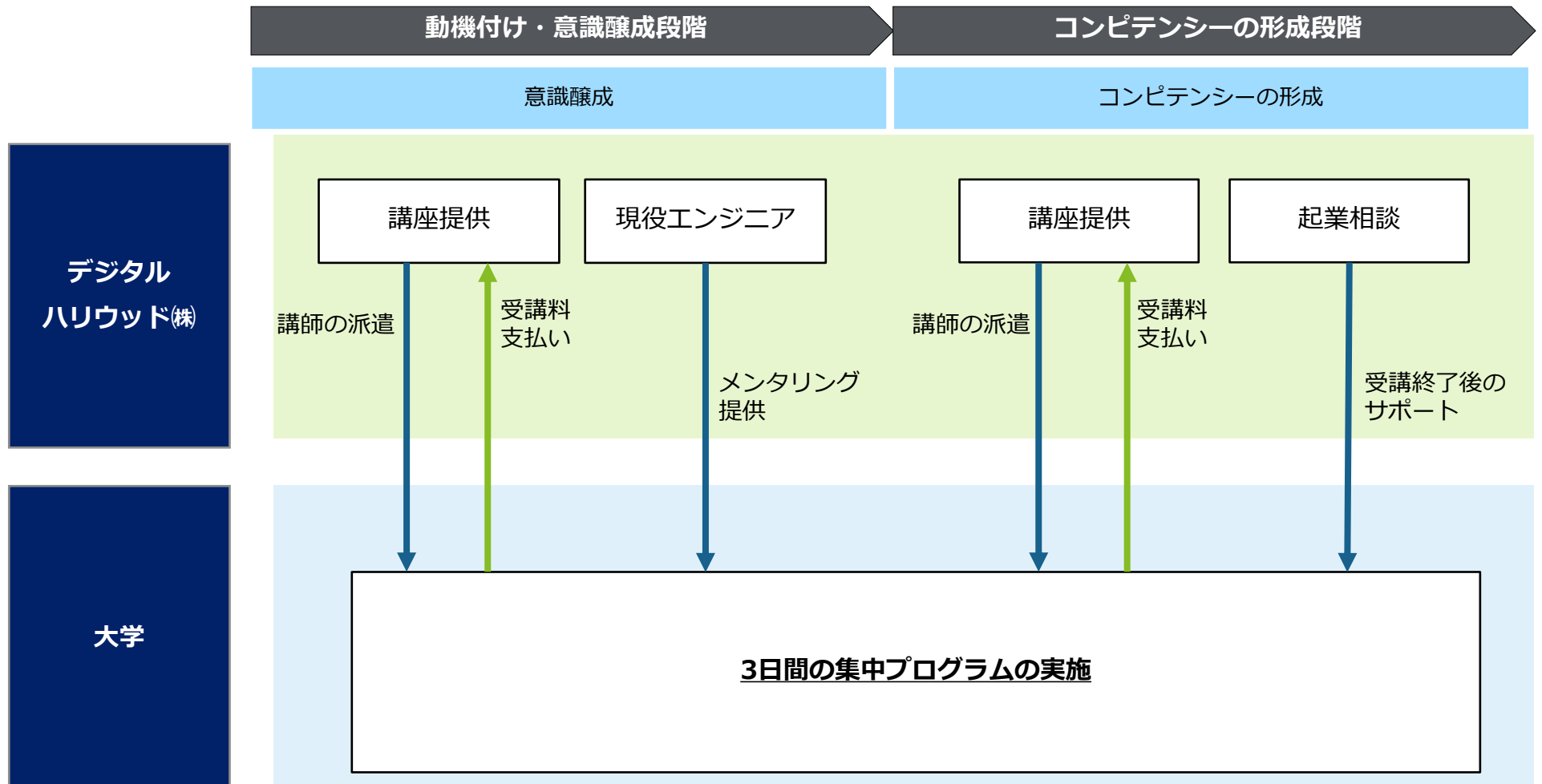
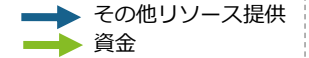
	時間	内容
DAY 0	2.5	ガイダンス、プログラミング環境設定等
DAY 1	0.5	ガイダンス&自己紹介
	2	授業（1）HTMLとCSS基礎 P2Pラーニング①
	1.5	授業（2）JavaScript：関数・変数・条件分岐
	1	授業（3）JavaScript：ゲームアプリ制作 課題（A）出題：じゃんけんゲーム
	1	授業（4）：創業のススメ
	1	P2Pラーニング②
	1	課題制作：P2Pワーク（I）（グループ学習）
DAY 2	2	課題（A）出題：じゃんけんゲーム発表会&講評
	1	授業（5）APIプログラミング 課題（A）出題：APIを使ったオリジナルアプリ
	2.5	P2Pラーニング③企画発表

※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

- ✓ 短期集中のオンラインプログラムの実施を通じコンピテンシーを確立した後も、実践への接続として起業相談を通じ企業を支援するプログラム設計となっている

デジタルハリウッド株式会社と近畿大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 参加者による自発的なプログラミング学習サークルも生まれ、今後起業家の誕生も期待されている

デジタルハリウッド株式会社と近畿大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育 を取組む目的

- 若い起業家の最大の弱点である「商品を持っていないこと」を克服して、「大学生だから見える社会課題の解決に自らの手で生んだプロダクトの具体的なチカラで挑戦する」状態を実現すること

連携の際の大学に 求める条件

- 「セカイを変えるサービスを生み出す」という強いモチベーションを持つ学生がいる大学（理系・文系不問）
- テクノロジーによる第4次産業革命の中でもサバイバルできる人材を育成しようとする意志を持ち、プログラミング教育を単発の教養講座ではなく継続的な活動にすることに積極的な大学であること

アントレ教育の 各フェーズごとの 目的・内容

動機付け・意 識醸成段階

- PC基礎
- プログラミング環境設定

コンピテンシ ーの形成段階

- 講義：HTML/CSS、JavaScript、APIプログラミング
- 講義：創業のススメ
- ゲームアプリ制作実習：課題「じゃんけんゲーム」
- P2Pラーニング

アントレ教育に対す る評価・成果

- 自分の意志で面白いものを創ることを目指すことにより、プログラミングが身近になり、プロダクトの仕組みを考える「コンピューショナルシンキング」を習得できた
- 起業講座を導入することで、テクノロジーの可能性を理解し、起業に対する意欲が創出された

今後の大学と連携 したアントレ教育の 考え方

- 先輩参加者の有志によって「近もく会」（きんもくかい）というプログラミング学習サークルも生まれ、「自走」も始まっており、仲間を得て自走することにより起業家が誕生することを目指していく

※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

事例紹介9

- 野村ホールディングス株式会社
- 大阪府立大学

✓ 大阪府立大学は野村ホールディングスと連携し、中学生・高校生を対象としたアントレ教育を実施している

野村ホールディングス株式会社と大阪府立大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要

実施企業	■ 野村ホールディングス株式会社
会社概要	■ 投資銀行・証券持株会社であり、グローバルに拠点をもつ
大学	■ 大阪府立大学
プログラム名	① 高校生起業家教育講座 ② 出張授業「Nomuraビジネス・チャレンジ」
プログラム受講者	① 高校生 ② 中学生・高校生全学年
参考URL	■ https://www.osakafu-u.ac.jp/event/evt20210802/ ■ https://www.nomuraholdings.com/jp/sustainability/news/news68.html/

※ HP公開情報を確認の上作成

イメージ図

第7回 大阪府立大学 Fledge+
「高校生起業家教育講座」

大阪府立大学 大阪府 SoftBank 日本政策金融公庫 JPX NOMURA

未来社会を変革する
イノベーションを起こせ!

オンライン
受講生募集
詳細は裏面をご覧ください▶▶

DAY 1	ブレイクスルーを起こす ビジネスアイデアを創出しよう!	2021年 8/2(月)
DAY 2	社会的課題やマーケットを知り、 ビジネスアイデアをブラッシュアップしよう!	8/3(火)
DAY 3	ビジネスプランをデザインし、発表しよう!	8/6(金)

定員 40名 (定員になり次第締切) 全日程とも9:30-12:00・13:00-16:30
*3日間全プログラムの参加が必須です。

対象 大阪府内の高校、高等専門学校に在籍の生徒

受講料 無料

主催：大阪府立大学
共催：大阪府、ソフトバンク株式会社、株式会社日本政策金融公庫、株式会社日本取引所グループ（東京証券取引所）、野村ホールディングス株式会社
協力：一般社団法人関西ニュービジネス協議会
特別協力：株式会社甲南アセット
後援：近畿経済産業局、公益財団法人大阪産業局、大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム、大阪商工会議所、公益社団法人関西経済連合会、一般社団法人関西経済同友会、日本証券業協会大阪地区協会

<https://www.osakafu-u.ac.jp/osakafu-content/uploads/sites/428/evt20210802.pdf>

- ✓ 野村ホールディングスは、大阪府立大学とプログラム開発の段階から連携し、双方のノウハウを盛り込んだプログラムを提供している

野村ホールディングス株式会社と大阪府立大学の連携：プログラム概要（2/2）

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階 	対象
	プログラム開発者	<ol style="list-style-type: none"> ① 自社開発（大阪府立大学と企業、金融・証券機関等が持つ起業家教育プログラムのノウハウを盛り込んだ総合プログラム） ② 自社開発 	
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身近なところから課題を設定し、課題を元に人々に提供する価値を考えてビジネスアイデアにする思考プロセスを学ぶ ■ 多様性を生かしたアイデア創出から効果的なプレゼンテーションを行うための一連のスキルまで、起業家に必要な知識と起業家精神を学ぶ 	
	プログラムの運営方法・形式	<ol style="list-style-type: none"> ① 講義、グループワーク、事業計画発表・フィードバック ② 講義、イノベーション・ワークショップ 	

——— プログラムのイメージ※1 ———

2021年度高校生起業家教育講座

- 定員40名
- 3-5名のグループワークが中心

	時間	テーマ
1日目	2.5	チームで交流を深めよう！
	3.5	ビジネスアイデア創出を学ぼう①
2日目	2.5	ビジネスアイデア創出を学ぼう②
	2	ビジネスの社会的責任について学ぼう！
	1.5	市場と起業について学ぼう！
3日目	2.5	プレゼンテーションのコツを学ぼう！
	2.5	ビジネスアイデアを実際に発表しよう
	1	3日間の活動を振り返り、皆で交流しよう！

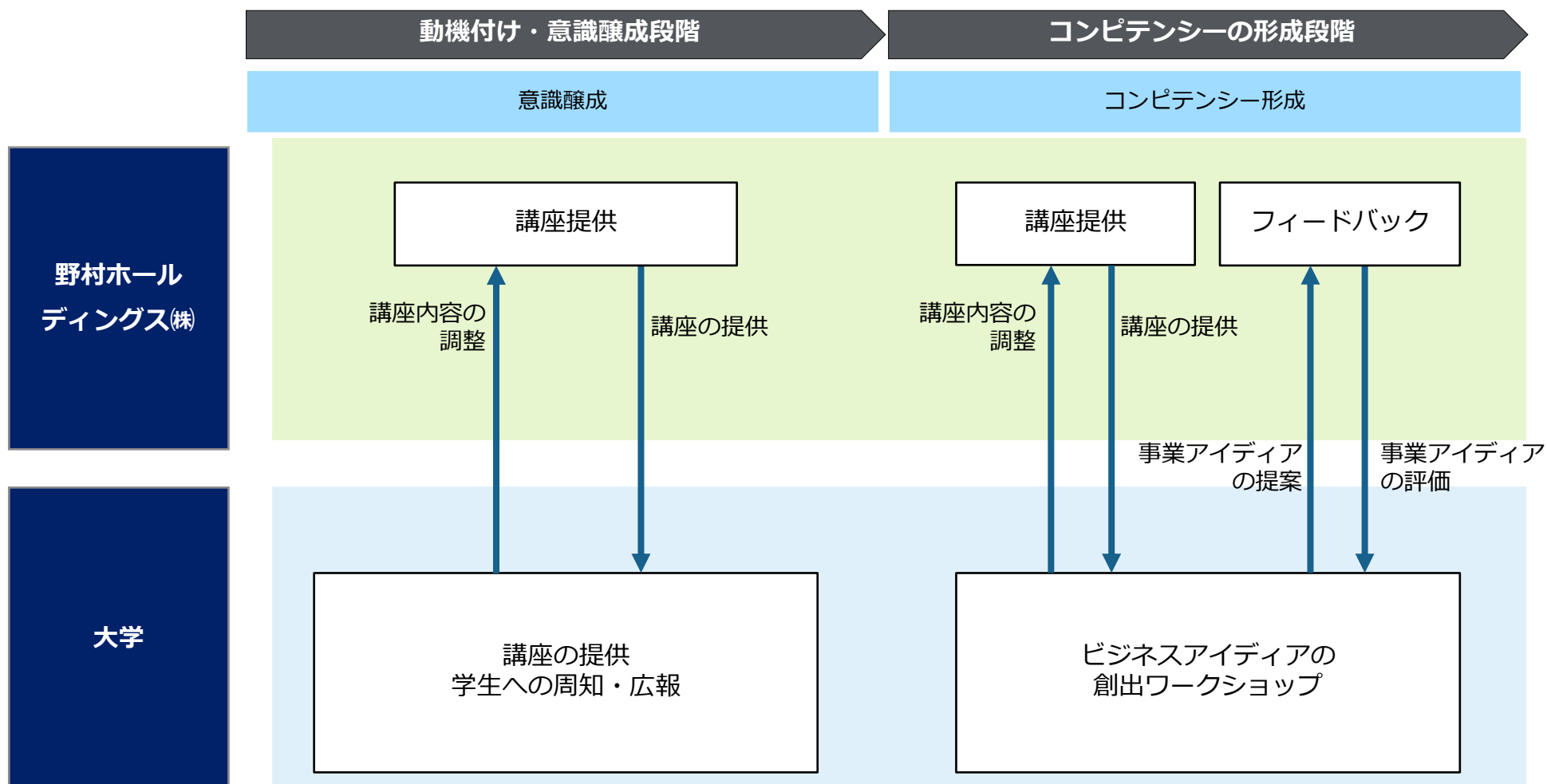
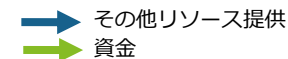
※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

- ✓ 中学生・高校生を対象とし座学と実践を組み合わせビジネス創出が体系的に理解できるプログラム設計がなされている

野村ホールディングス株式会社と大阪府立大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 野村ホールディングスには、中学生・高校生に対し、起業のみでなく、金融・経済について学ぶ機会を提供するという考え方が根底にある

野村ホールディングス株式会社と大阪府立大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育を取組む目的

- ① 中学生・高校生に起業やイノベーションの大切さを伝え、課題を自ら発見し他者と協働しながら新しい価値を創造する力を育むため

連携の際の大学に求める条件

- ① 起業家養成プログラムを実施している大学（大阪府立大学の社会人・大学生向けの本学の起業家養成プログラム「Fledge」をベースに高校生向けの起業家教育プログラムを作成）

アントレ教育を取組む際の課題

動機付け・意識醸成段階

- ① ブレイクスルーを起こすビジネスアイデアを創出
- ② 起業家、イノベーションとは何か、過去の例や現在活躍する2人の若手起業家の映像を見て考える

コンピテンシーの形成段階

- ① 社会的課題やマーケットを知り、ビジネスアイデアをブラッシュアップ
ビジネスプランをデザインし、発表
- ② イノベーションが生まれるしくみを解説
イノベーション・ワークショップ：身の回りにある問題点から、最も解決したいものをグループで選び、それを解決するためのビジネスアイデアを考える
グループで考えたアイデアをより具体化し、プレゼンテーションシートにまとめて発表

アントレ教育に対する評価・成果

- ① 参加校数が2018年度9校から2019年度には18校に増加、2019年度は44名の高校生が参加した
- ② ビジネスとして成功するためには身の回りにある細かな問題点を1つずつ解決していく必要があることに気づき、イノベーションを生み出すことの難しさや楽しさを学ぶことができた

今後の大学と連携したアントレ教育の考え方

- 中等教育向け起業・金融リテラシー活動における独自のプログラムを通して、今後も金融・経済について学ぶ機会を提供していく

※ HP情報、その他公開情報を確認の上作成

事例紹介10

- 株式会社ウィルフ
- 関西学院大学

- ✓ 関西学院大学等が株式会社ウィルフと取り組んだ事例であり、動機付け・意識醸成段階から社会実践段階までの一気通貫のフェーズで取り組んでいる

株式会社ウィルフと関西学院大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要

実施企業	■ 株式会社ウィルフ
会社概要	■ 大学生と小中学生を対象とした起業家教育スクール業・大学キャリアセンターコンサルティング・キャリアカウンセリングサービスを展開
大学	■ 関西学院大学
プログラム名	■ Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY
プログラム受講者	■ 関西学院大学の学生
参考URL	■ https://www.kwansei.ac.jp/shakairenkei/shakairenkei_016819.html

イメージ図



<p>PROJECT 1 インターネット事業</p>  <p>インターネットを使って、事業を立ち上げます。学んだ経営スキルを使って考えついたビジネスアイデアについて、インターネットを使って実際に立ち上げることができます。（プロダクト開発スキル等一切学習せず）</p>	<p>PROJECT 2 対面販売事業</p>  <p>2つ目の起業体験は、対面販売形式の事業。相手は、法人でも個人でもOKです。ビジネスの原則は、人と人の信頼関係。心から信頼関係を構築し、商品を販売。お客様との繋がりが生まれる。個人で取り扱う商品を企画できたときの喜びは、絶頂です。</p>	<p>PROJECT 3 トライアル事業</p>  <p>3つ目の起業体験は、自分ごとを含み出すトライアル事業。1つ目と2つ目の事業は、販路方法が限られています。ただ、最後は、得意の決まりごとはなく、やりたい事業を自ら自由に考え、事業計画に取り組みすることで、卒業後の成功体験を積み重ねます。</p>
---	--	--

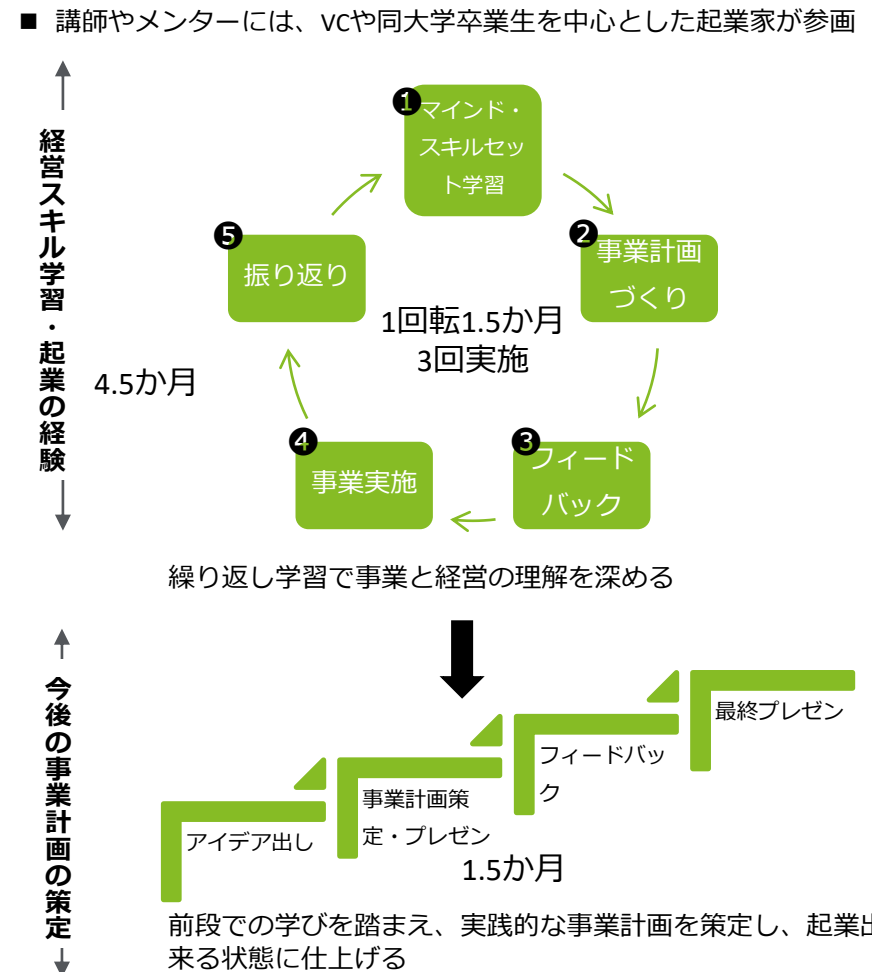
※ 出典：大学HPより
※ 株式会社ウィルフに確認の上作成

- ✓ 自社の事業戦略の推進（自社の事業ビジョン実現の加速化）、社会貢献・CSR活動を目的に、意識醸成・動機付け、コンピテンシーの形成、社会実装フェーズで、大学との連携を図っている

株式会社ウィルフと関西学院大学の連携：プログラム概要（2/2）

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発 自社プログラムパッケージを基に、大学側の方針・意見等を踏まえて設計
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業の一步を踏み出すこと。「起業したい」という意志と「拡張性ある事業を伸ばしていく」間を繋ぐ役割を担う場。起業に踏み出すプロセスを伝授し、授業内で、実際に事業立ち上げに一步踏み出し、拡張性ある事業創りの試行錯誤を行う
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講義、グループワーク、事業計画発表・フィードバック、事業立ち上げ、振り返り等

——— プログラムのイメージ※ ———

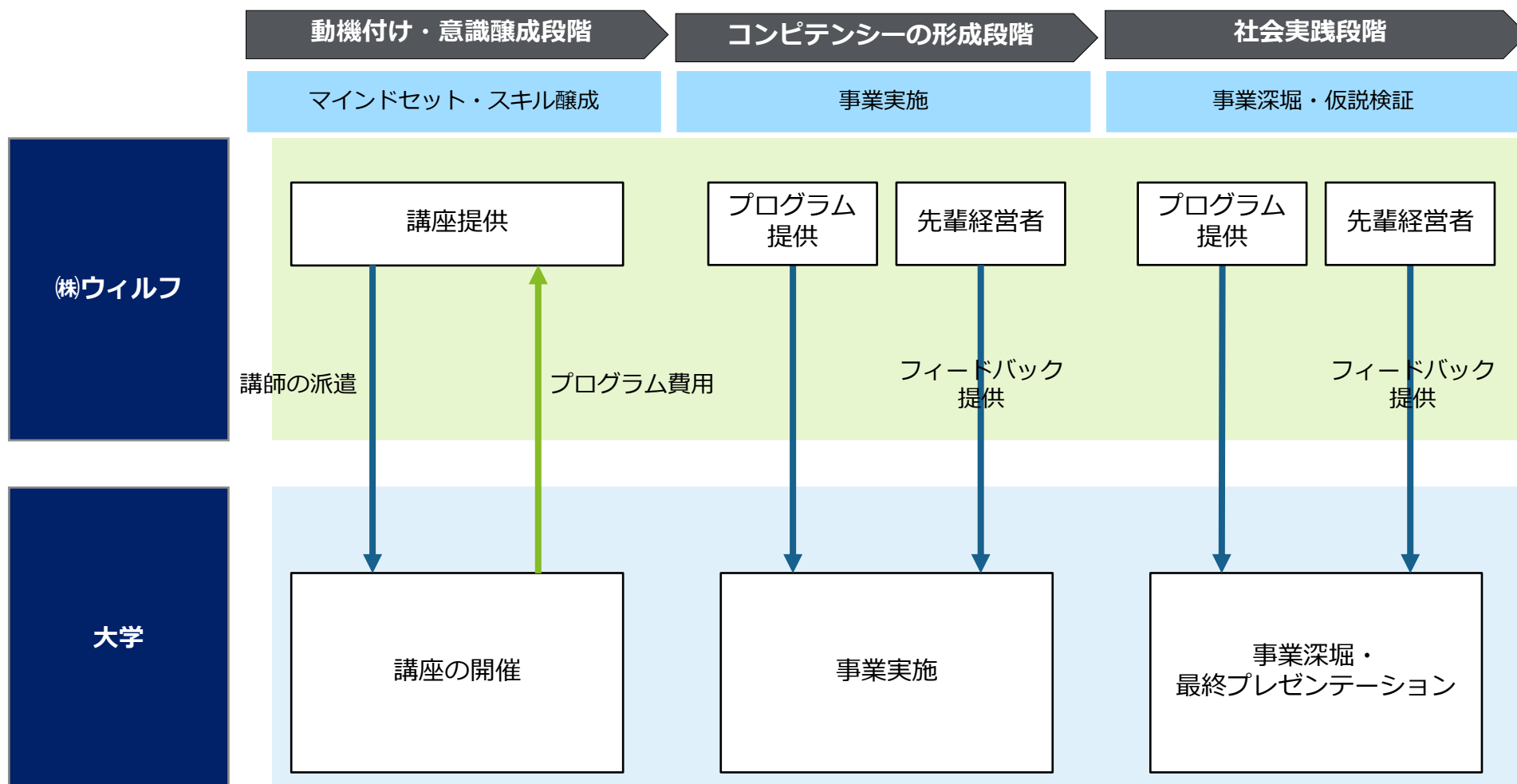
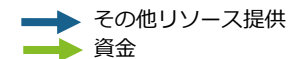


※ 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成
 ※ 株式会社ウィルフに確認の上作成

- ✓ 一連のプログラムの中で複数回にわたる先輩経営者からのフィードバックを受けて事業アイデアをブラッシュアップすることができるプログラム設計がなされている

株式会社ウィルフと関西学院大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 同社は教育産業の企業であり、自社の事業戦略を推進することを主な目的に大学との連携を行っている
- ✓ 大学と連携する際には、予算、期待値の調整等に課題を抱えている

株式会社ウィルフと関西学院大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育
を取組む目的

- 自社の事業戦略を推進、社会貢献・CSR活動のため
自社単体でビジネススクールを運営していたが、それだけではミッション・ビジョン実現の道りが遠く、一人でも多くの方に機会を提供するため、大学と連携した取組を開始した

連携の際の大学に
求める条件

- 当社のプログラムは、起業家講演などのように受け身でも受講できるものや、ビジコンなどのように机上の空論でも成り立つものではなく、実際に事業を立ち上げて収益化まで実現するプログラムである。従って受講生にも負荷が高く、大学にも受講生が立ち上げた事業を通じてクレームが入る可能性がある。その前提で、そのリスクをとってでも、机上の空論の取り組みではなく、本当に起業家を増やしていこうという意志を持った大学とのみ提携している

アントレ教育を
取組む際の課題

準備段階

- 「起業支援」という総合大学からするとニッチなテーマに対して、学内で一定規模の予算確保

実施段階

- 受講生が立ち上げる事業が必ずしも成功するわけではない中で、学内の期待値（そもそもの目的・ゴール・位置付け）をすり合わせ続けること
- 事業立ち上げにおいて収益が生まれること、受講生が「収益が生まれた」という成功体験を積むことにこだわるため、事業の新規性・拡張性・継続性が弱い事業になることが多い。その中で、「こんな事業をやって意味があるのか」という批判を調整し続けること

実施後段階

- 学生時代の起業経験が、即座の起業につながるわけではないはずなのに、プログラムに投資をする以上は短期的な起業実績の成果を期待されてしまいがちな状態への期待値（そもそもの目的・ゴール・位置付け）をすり合わせること

アントレ教育に
対する評価・成果

- 卒業生から、資金調達が決まる学生やM&Aが決まった学生、年商1億円を超える学生が誕生し、想定以上に素晴らしい実績が生まれた

今後の大学と連携
したアントレ教育の
考え方

- ビジネスプランコンテストや起業家講演のような、机上の空論・意識だけの醸成だけに終わらず、実際に起業する学生を再現性高く生み出したい大学があれば、学生が実際に起業へ一歩踏み出す場作りをお手伝いしたい

※ 株式会社ウィルフに確認の上作成

事例紹介11

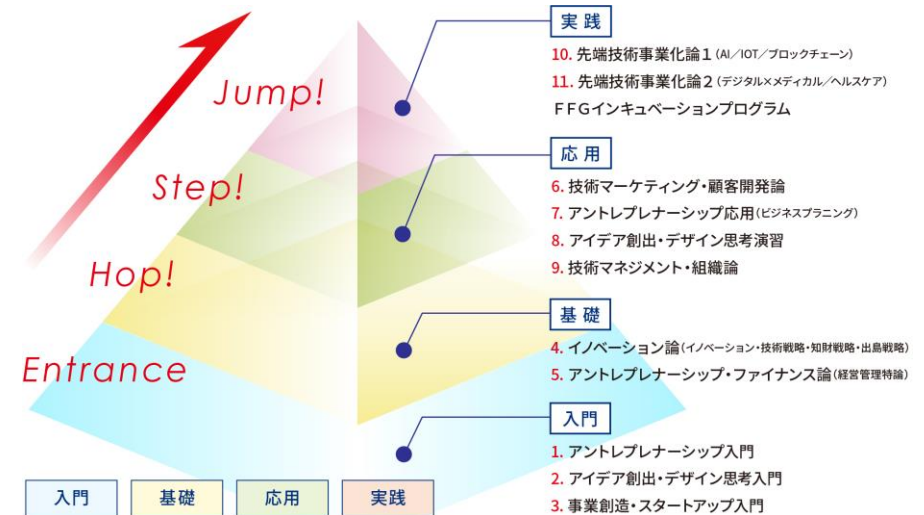
- 株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ
- 長崎大学

- ✓ 福岡県内の金融機関ふくおかフィナンシャルグループの100%子会社のベンチャーキャピタル（株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ）が長崎大学との連携を行っている

株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズと長崎大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要	実施企業	■ 株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ
	会社概要	■ 株式会社ふくおかフィナンシャルグループの投資専門子会社として、FinTechを中心に新興企業の支援・育成を実施
	大学	■ 長崎大学
	プログラム名	■ NFECプログラム・FFGインキュベーションプログラム
	プログラム受講者	■ 長崎大学大学院生・学部生（主に1、2年生） ■ 社会人学生
	参考URL	■ http://www.nfec.nagasaki-u.ac.jp/program ■ http://www.nfec.nagasaki-u.ac.jp/wp-content/themes/nfec/assets/data/study_guidance_2021.pdf

イメージ図

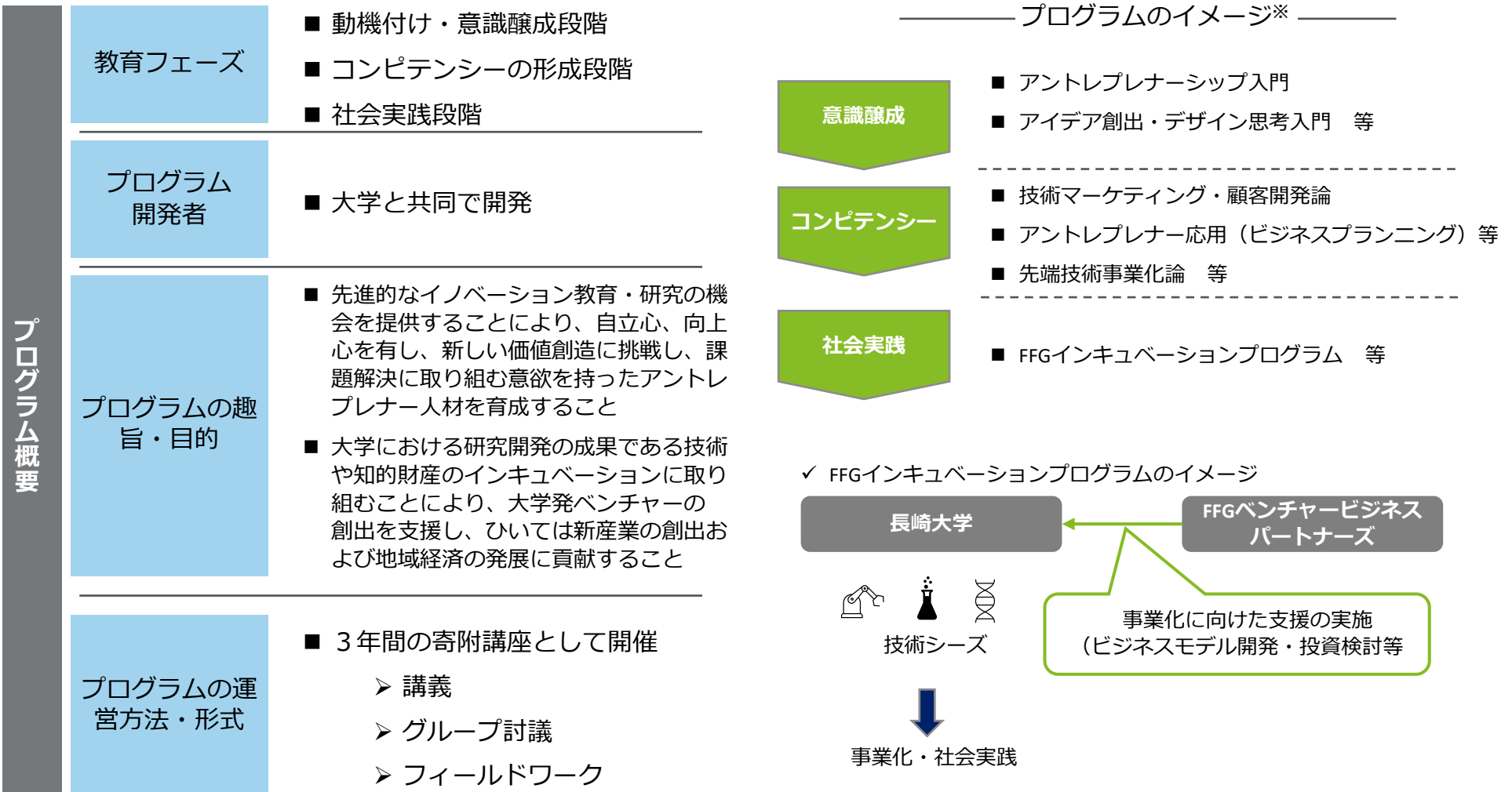


https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/event/include/file/article/images/2019/12/20191203_15.pdf

※ 株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズに確認の上作成

- ✓ プログラムへの講師としての関与の他、社会実践フェーズにて技術シーズの事業化・社会実践支援として、ビジネスモデル開発や投資検討を行っている

株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズと長崎大学の連携：プログラム概要（2/2）



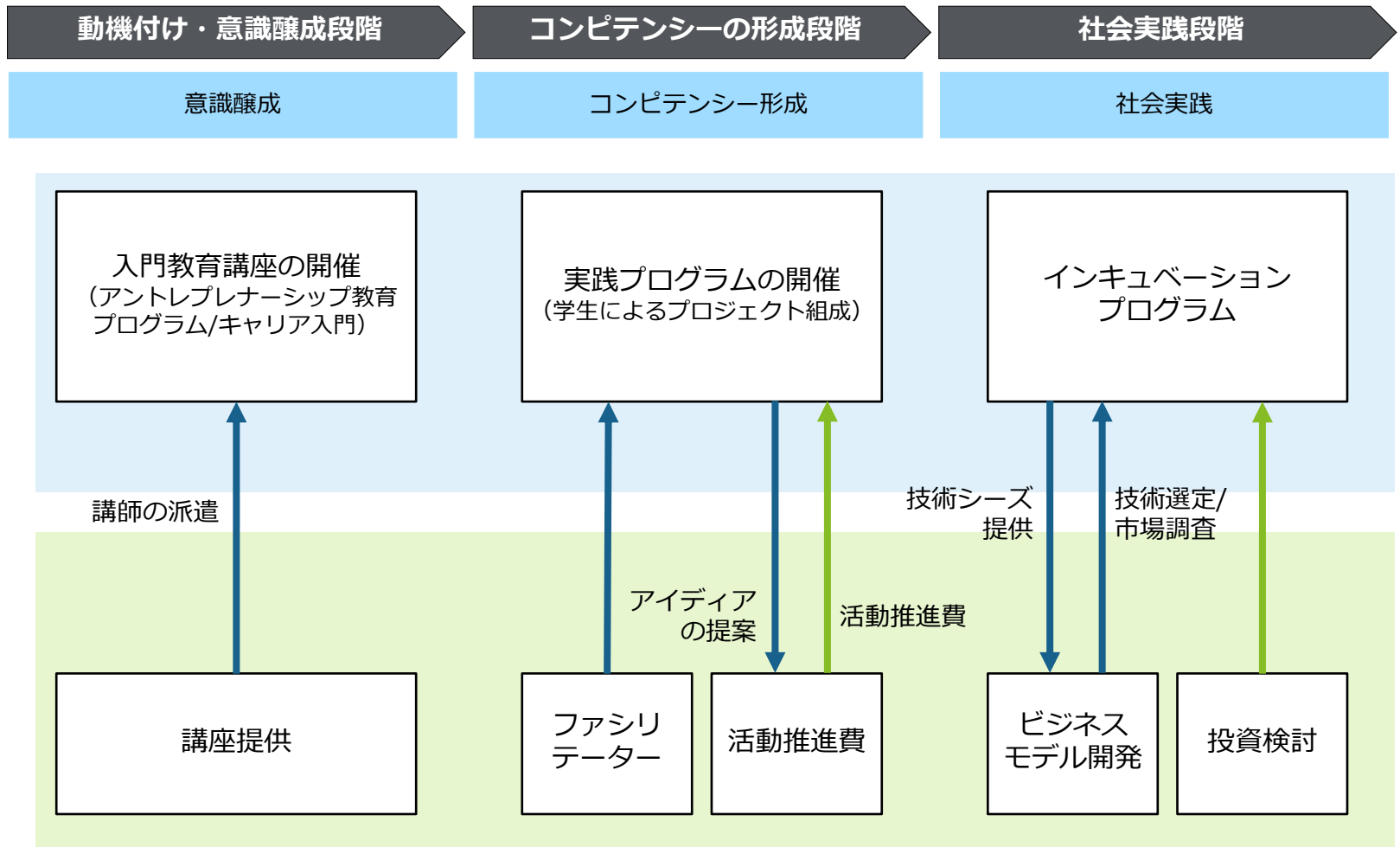
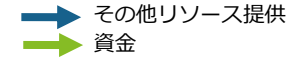
※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

※ 株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズに確認の上作成

- ✓ 学内全体で起業家教育の機運醸成を行うことで、有望技術シーズを増加させ投資へとつなげられるようプログラム設計がなされている

株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズと長崎大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ 地域経済の発展、新産業創出等を目的に、有望な研究を行っている大学を連携先として求めている
- ✓ 大学の内情の理解、受講者の募集、予算等で課題を感じている

株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズと長崎大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育
を取組む目的

- 地域経済の発展に貢献するため（地元のアントレ人材育成など）
- 新産業創出、大学発ベンチャー支援のため
- 地域内でのプレゼンス向上のため

連携の際の大学に
求める条件

- 自社の事業拠点エリアに位置する大学のうち、特に有望な研究を行っている研究室が多く見込まれる国立大学（優秀な学生が多いエリアで一番の大学）

アントレ教育を
取組む際の課題

準備段階

- 大学側の協力（事務面・プログラムの策定・人材・資金）
- 大学のことがわかっている人材が自社にいない（大学のルール、予算執行ルール）

実施段階

- 社会人学生の募集
- 大学のシーズ探索の連携・協力
- 本来のアントレ教育以外の大学業務にリソースを割かれる

実施後段階

- 大学側からの資金獲得（寄付講座を継続していくための資金負担）
- 大学が自主的（自立的に）にアントレ教育を継続するか

アントレ教育に対する
評価・成果

- 地域におけるプレゼンスの向上、起業に関する相談の増加、起業・新規事業に関する情報収集
- アントレ教育をおこなっていることの認知の高まりによるベンチャー支援機関との連携の増加
- 自社社員をプログラムへ参加させることによる、アントレプレナーシップ・マインドの向上

今後の大学と連携した
アントレ教育の考え方

- 既存のプログラムを他エリアの大学へ横展開すること。
- 第2創業、企業内スタートアップ（イントレプレナー）育成

※ 株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズに確認の上作成

事例紹介12

- **DEMOLA GLOBAL**
- **北海道大学**

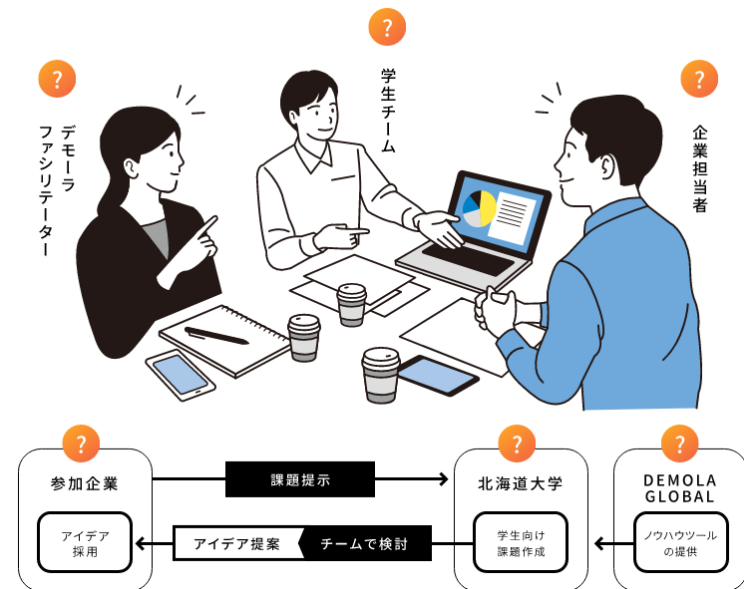
- ✓ 北海道大学ではフィンランド発祥のDEMOLA GLOBAL社と連携し、企業と学生が協働して課題解決に取り組むプログラムを実施している

DEMOLA GLOBALと北海道大学の連携：プログラム概要（1/2）

プログラム概要

実施企業	■ DEMOLA GLOBAL社（フィンランド）
会社概要	■ 国際的な企業課題解決ネットワークを構築。世界18カ国、60以上の大学が参加
大学	■ 北海道大学
プログラム名	■ Demolaプログラム
プログラム受講者	■ 大学生・大学院生（北海道大学の学生がメインだが、北海道大学以外の大学生・大学院生も参加可能）
参考URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ https://demola-hokudai.jp/ ■ https://www.hokkaido-edge.jp/program/prg-demola

イメージ図

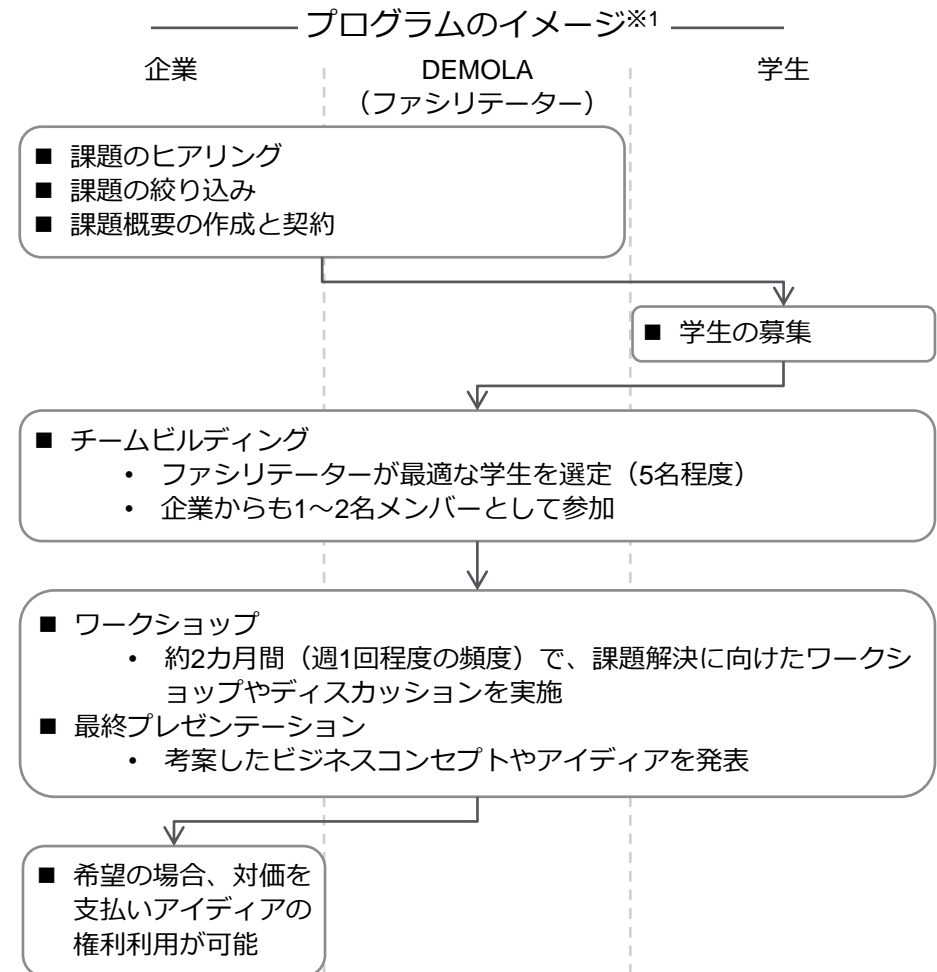


<https://www.hokkaido-edge.jp/program/prg-demola>

- ✓ 企業課題の特定、学生の募集、企業と学生の双方からなるチーム組成、ワークショップのファシリテーション等をDELOMAが担う

DEMOLA GLOBALと北海道大学の連携：プログラム概要（2/2）

プログラム概要	教育フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 動機付け・意識醸成段階 ■ コンピテンシーの形成段階 ■ 社会実践段階
	プログラム開発者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社開発 自社プログラムパッケージを基に、企業側の課題を踏まえて設計
	プログラムの趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業と学生を結びつけるイノベーションプラットフォームを構築することにより、企業と学生と一緒に未来を探求し、イノベーションアイデアを創造していくこと
	プログラムの運営方法・形式	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワークショップ、ディスカッション、事業計画発表・フィードバック、ネットワーク構築等



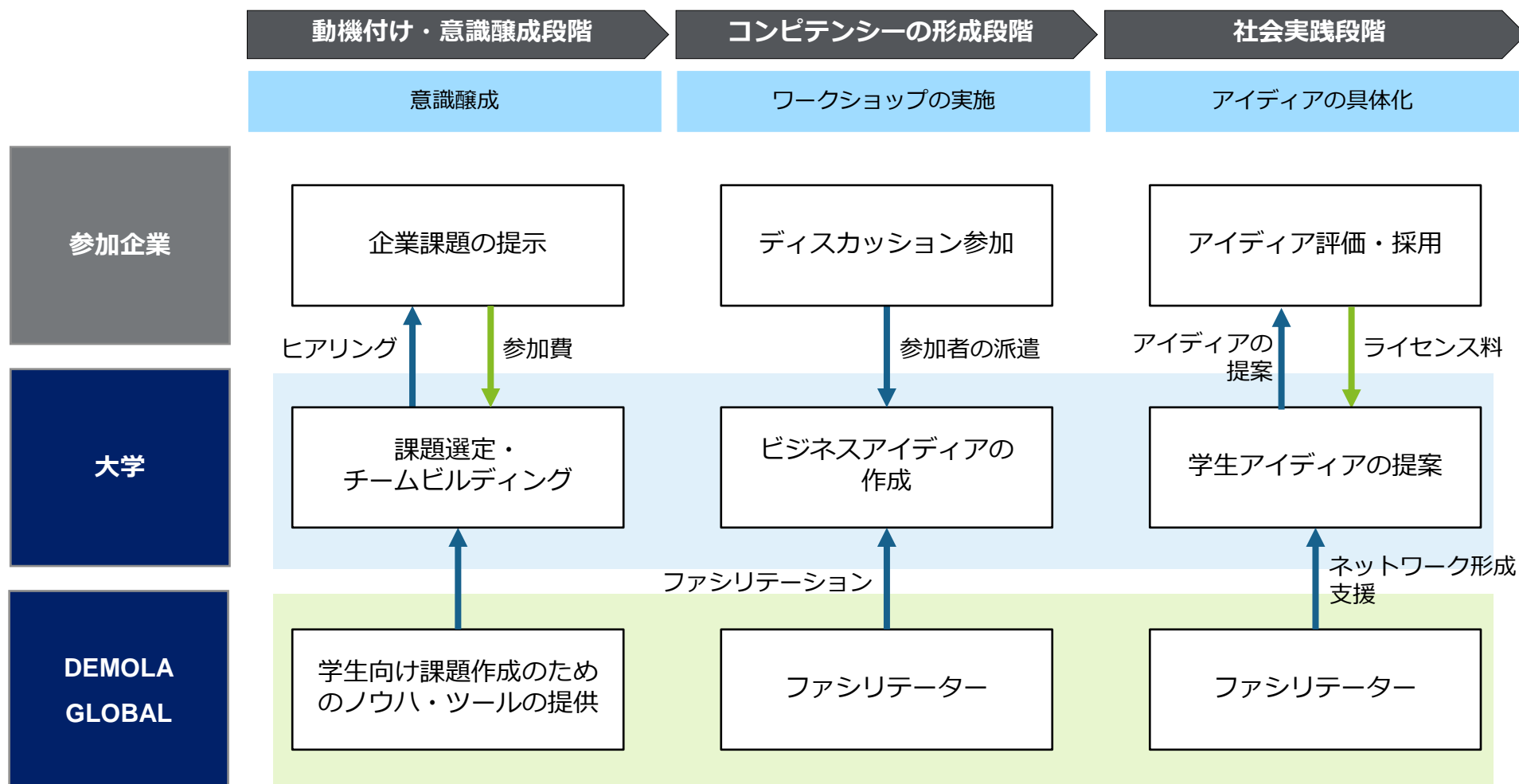
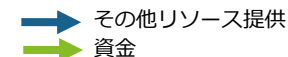
※1 公開情報をもとに有限責任監査法人トーマツにて作成

※ HP公開情報を確認の上作成

- ✓ ワークショップで学生が創出したアイデアに対して、参加企業がライセンス料を支払うというプログラム設計がなされている

DEMOLA GLOBALと北海道大学の連携：スキーム

凡例



※ 本調査踏まえ有限責任監査法人トーマツにて整理

- ✓ これまでに27社が課題を提示して参加しており、学生に実践的な体験を提供している
- ✓ 参加企業にとって、課題解決に資する他、イントレプレナー研修にもなるというメリットがある

DEMOLA GLOBALと北海道大学の連携：連携目的・課題等

大学との連携目的・課題等

大学とアントレ教育 を取組む目的

- 学生のアイデアを自社の事業に活用する
- チームメンバーに入る担当者にとってのイントレプレナーとしての研修にもなる

連携の際の大学に 求める条件

- 未来のアナリストとしての学生がいる大学
- 参加企業と多様性のあるチームが組める学生がいる大学

アントレ教育の 各フェーズごとの 目的・内容

動機付け・意 識醸成段階

- 課題選定（課題をヒアリング・課題を絞り込む・課題概要の作成と契約・学生を募集）

コンピテンシ ーの形成段階

- チームビルディング（経歴・スキル・熱意を判断材料に、学生から5名、企業から1~2名が入ってチームを結成）
- ワークショップ（課題解決に向けたワークショップやディスカッションを実施）
- 最終プレゼンテーション（考案したビジネスコンセプトやアイデアを発表）

社会実践段階

- ライセンス（ライセンスを希望する場合は対価を支払うことでアイデアの権利を利用）
- 学生と企業のネットワーク構築

アントレ教育に 対する評価・成果

- 27社が課題を提示して参加。学生側は実践的な体験を通して、優れたアイデア考案のプロセス、交渉力・チーム力・契約・知財などのビジネスに必要な知識やノウハウ、ビジネスアイデアをデザインする力を身につけられた
- 参加した学生にはヨーロッパ共通単位（ECTS）が付与された

今後の大学と連携 したアントレ教育の 考え方

- 多様性のあるチームを学生と参加企業パートナーと一緒に組むことで、様々な価値観から未来を洞察し、未来のビジョンに基づいた解決策とサービスを生み出していく

※ HP公開情報を確認の上作成

【第3節】
民間企業等が実施する
アントレ教育プログラム調査まとめ

民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査（国内）

- ✓ 大学側の学生及び職員のアントレ家教育プログラムに対する理解が途上であるがために、プログラム設計や予算・人材等のリソース確保等で課題を感じている

民間企業等が大学と連携する上で感じている主な課題感

ヒト

- 参加者の志向や属性に応じたプログラム設計
- **大学の意思決定の仕組み（大学のルールや内情）を把握している人材の不在** 等

モノ

- 大学との調整（事務面のやり取り、教育内容の打合せ、大学側の担当者確保等）
- 大学との期待値調整（**企業と大学でプログラムへの目標や目線が合わない**場合がある）
- 組織文化の違い（企業と大学では、組織の風土が異なることから調整やプログラム設計でずれが生じてしまう）
- 担当する自社社員の時間拘束
- **プログラム受講者の募集におけるリソースの不足** 等

カネ

- 学内での予算確保（大学に予算がないと関与が難しい）
 - **アントレ教育への理解が得られないと予算獲得が難しい**
- 事業立ち上げができて、事業の継続性や拡張性に課題が生じてしまう場合が多い 等

※ リソース提供型については、スポンサーシップ型と同様と想定し、まとめて記載

民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査

- ✓ 民間企業等との連携はリソース提供型の事例が多く、新規事業やCSR活動等を目的とした連携が多い。大学には予算、事業化志向を目指す学生や有望なシーズ、支援基盤の整備等を連携条件として求めており、また大学との調整や大学特有の仕組みの理解、募集活動等で課題を感じており、これらへ対応が民間企業等と更なる連携を促進することができると考えられる

調査まとめ

		教育産業企業による コンテンツ提供型	民間企業（事業会社）による大学の アントレ教育へのリソース提供型	学生と協働した課題解決型プログラムへの スポンサーシップ型
大学との連携目的		<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育産業界による連携事例が主であり、企業側のサービス活動自体が目的であり、事業戦略の推進が主な目的 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育産業以外の事業会社の多くが該当 ■ 将来の投資先や新規事業開発、認知向上等、事業戦略や広報活動が主な目的 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事例としては少ないが、人材採用や新産業創出等が主な目的
大学と連携するための主な工夫	民間企業等が求める大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ人材の育成に対し、大学として強い意志や理解があること 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の予算があること ■ ビジネス性のあるシーズがある、優秀な学生や社会実践、社会課題解決を目指す学生がいること ■ 大学発ベンチャーの支援基盤があること 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 優秀な学生や有望な研究を行っている大学であること
	主なプログラムの内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業体験の提供 ■ 先輩起業家・投資家等の現場経験者等とのネットワークを活用した交流機会やアドバイスの実施 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業体験の提供 ■ 自社のアセットを活用した事業検討や、自社課題を題材にした課題解決案の検討等、ビジネス現場の実例活用 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮説検証を行うための現場体験（企業内インターンシップ） ■ 現場経験者による実経験を踏まえた教育や研究開発型への必要に応じた資金支援 等
アントレ教育で得られた成果・効果		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生の起業や事業の成長 ■ 自社の改善点の把握 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生の起業や起業に対する関心の高まり 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域にける自社知名度の向上や、引き合い・相談件数等の増加 ■ ベンチャー支援機関との連携の増加 ■ 自社社員のアントレマインドの向上 等

民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査（まとめ）

- ✓ 海外の事例では国内と比較して、連携目的において実社会への裨益を念頭に置いているため、プログラムではアイデア実装機会の提供までが考慮された設計がなされている

調査まとめ（コンテンツ提供型）

		海外まとめ	国内まとめ	国内外の比較差異・国内における主な課題
該当企業		<ul style="list-style-type: none"> ■ Startup Experience Inc. 	<ul style="list-style-type: none"> ■ CroMen、ウィルフ 	
大学との連携目的		<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムを大学に提供することで、大学の起業家精神を高める ■ プログラムの提供を通じて社会問題を解決する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育産業界による連携事例が主であり、企業側のサービス活動自体が目的であり、事業戦略の推進が主な目的 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自社の事業戦略は共通の前提としてありつつも、プログラムを通じた実社会への価値の提供を目的としたプログラム設計を行うことが必要
大学と連携するための主な工夫	民間企業等が求める大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ 提供先として大学のアントレ教育に対する熱意があること ■ アントレ教育に興味のある学生がいること 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ人材の育成に対し、大学として強い意志や理解があること 	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム提供先の大学及び学生の熱意や理解が重要である点は共通
	主なプログラムの内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 座学による起業講座の提供 ■ ピッチコンテストによるアイデアの実装機会の提供 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業体験の提供 ■ 先輩起業家・投資家等の現場経験者等とのネットワークを活用した交流機会やアドバイスの実施 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ パッケージ化された起業プログラムを提供している点は共通であるが、実社会への裨益を考慮したアイデア実装機会を提供していくことが必要

民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査（まとめ）

- ✓ 海外の事例では国内と比較して、自社の広報・優秀な学生の採用の観点が強くと反映されており人事部門等の積極的な関与の元、プログラムに対して資金だけではないリソース提供を推進する

調査まとめ（リソース提供型）

		海外まとめ	国内まとめ	国内外の比較差異・国内における主な課題
該当企業		<ul style="list-style-type: none"> ■ Pfizer、Ford、PayPal、Microsoft 	<ul style="list-style-type: none"> ■ SONY、KDDI、野村ホールディングス、アイザワ証券、リバネス、本田技研工業、デジタルハリウッド、MAKOTO、DEMOLA 	
大学との連携目的		<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学に対する自社の活動の周知（企業ブランド力の向上）又は優秀な人材の囲い込みを図ることが主な目的 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育産業以外の事業会社の多くが該当 ■ 将来の投資先や新規事業開発、認知向上等、事業戦略や広報活動が主な目的 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学に対する自社の活動の周知（企業ブランド力の向上）又は優秀な人材の採用を目的とする点が国内海外共通する
大学と連携するための主な工夫	民間企業等が求める大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ アカデミアとビジネスとの連携に積極的であること ■ 大学がアントレ教育プログラム設計のノウハウ・知見を有していること 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アントレ教育の予算があること ■ ビジネス性のあるシーズがある、優秀な学生や社会実践、社会課題解決を目指す学生がいること ■ 大学発ベンチャーの支援基盤があること 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外の場合、企業が事業戦略の一環として明確な目的をもってプログラムを提供しているため、大学における予算の問題等が少ない
	主なプログラムの内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラムの運営資金を提供 ■ 自社のワーキングスペースを提供 ■ ピッチイベントやデモデイ等で事業提案の機会までを組み込んだプログラムの提供 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業体験の提供 ■ 自社のアセットを活用した事業検討や、自社課題を題材にした課題解決案の検討等、ビジネス現場の実例活用 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、企業がプログラム実施にあたって、十分なリソースを提供 ■ 国内においても、企業の積極的な関与促すために学内におけるアントレ教育プログラムの認識向上、起業へ提供可能な価値を整理する必要がある

民間企業等が実施するアントレ教育プログラム調査（まとめ）

- ✓ 海外の事例では国内と比較して、優秀な学生のアイデアを自社事業戦略へ生かすという観点から新規事業部門等が積極的にプログラムへ関与し、社会実践までを視野に入れたプログラム設計が行われている

調査まとめ（スポンサーシップ型）

		海外まとめ	国内まとめ	国内外の比較差異・国内における主な課題
該当企業		<ul style="list-style-type: none"> ■ IBM、Cisco、Bosch 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 富山村田製作所、FFGベンチャービジネスパートナーズ 	
大学との連携目的		<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業戦略の一環として、優秀な学生によるアイデアの獲得、自社の人材育成手法への転換、または企業ブランド力の向上を図ることを目的とし、新規事業部門等がプログラムに積極的に関与 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事例としては少ないが、人材採用や新産業創出等が主な目的 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 優秀な学生によるアイデアの獲得や企業ブランド力の向上を図ることを目的とするため点は共通するものの、国内は事例が少ない
大学と連携するための主な工夫	民間企業等が求める大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ アカデミアとビジネスとの連携に積極的であること ■ 企業の研究ニーズとマッチするようなシーズを持っていること ■ 自社事業とシナジーを有する専攻の学生がいること 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 優秀な学生や有望な研究を行っている大学であること 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 研究シーズや優秀な学生の存在に加え、スポンサーシップ型企業は大学が企業との連携に積極的であることを求めている
	主なプログラムの内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門家との協働作業、メンタリング・コーチングの提供 ■ スポンサー企業への事業提案からアイデア実装までを組み込んだプログラムの提供 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮説検証を行うための現場体験（企業内インターンシップ） ■ 現場経験者による実経験を踏まえた教育プログラム 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外では、学生のアイデアやプログラムから生まれる知的財産を価値として認識しているため、学生のアイデアを実装化に至るまで踏み込み資金提供を行うことが可能 等